

厚生労働省委託事業

全国ボランティア活動者実態調査 報告書

社会福祉法人 全国社会福祉協議会

目 次

I. 調査の概要	1
1. 調査の目的	1
2. 調査主体と調査実施団体	1
3. 調査概要	1
(1) 調査の構成	1
(2) 調査対象の選定方法	1
(3) 調査の実施方法	2
(4) 調査項目	2
(5) 調査時点	3
(6) 調査実施期間	3
(7) 回収結果	3
4. 前回調査について	3
II. 調査結果の概要	5
1. 団体向け調査結果の概要	6
2. 個人向け調査結果の概要	14
III. ボランティア団体・グループ向け調査結果	23
1. 回答団体・グループのプロフィール	23
(1) 活動の目的	23
(2) 活動年数	29
(3) 活動メンバー	29
(4) 代表者のプロフィール	31
(5) 情報技術の利用状況	39
2. メンバー構成	40
(1) 主要メンバー層	40
(2) 活動している地域とメンバーの居住地	41
(3) メンバー数の増減	43
3. 団体の立ち上げ時期について	46
(1) 立ち上げメンバー	46
(2) 立ち上げ時の苦勞	47
(3) 活動の中断	50
4. 現在の活動について	52
(1) 活動内容	52
(2) 活動形態	70
(3) 活動プログラム	70
(4) 活動頻度と時間帯	74
(5) メンバーの活動のしかた	78
5. 資金について	83
(1) 予算規模	83
(2) 収入源	85

(3) 資金の充足感	87
(4) 有償の活動の動向	87
6. 活動による社会的な効果	89
7. 今後の課題と活動の方向性	90
(1) 活動の課題	90
(2) 今後の活動の方向性	96
(3) 法人格取得意向	96
8. 支援機関の利用意向と要望	98
(1) 利用している支援サービス	100
(2) 役立っている支援サービス	103
(3) 最も期待している支援サービス	104
IV. ボランティア活動を行っている個人向け調査結果	105
1. 回答者のプロフィール	105
(1) 性別	105
(2) 年齢	105
(3) 職業	106
(4) 活動年数	109
(5) これまでの活動歴	110
(6) 現在の活動の形態	110
2. ボランティア活動を始めるにあたって	113
(1) 開始時	113
(2) 活動の中断	115
3. 現在のボランティア活動について	119
(1) 活動内容	119
(2) 活動のしかた	130
(3) 活動の時間帯	132
(4) 活動場所	136
(5) 活動のコスト	139
(6) 活動に参加した理由	142
(7) ボランティアセンターの利用状況	149
4. 現在の活動の問題点と今後の活動予定	151
(1) 活動を行ううえで困っていること	151
(2) 今後の活動予定	155
5. 活動の効果・よかったこと	157
6. 社会的支援への要望	164
V. 資料編	169
1. 団体・グループ向けアンケート調査票	169
2. 個人向けアンケート調査票	180

I. 調査の概要

I. 調査の概要

1. 調査の目的

2001(平成 13)年、国連による「ボランティア国際年(IYV)」が日本の提唱により実施され、わが国でもボランティアに関わる多彩な活動が展開されるなど、わが国におけるボランティア活動への関心・評価は高まっている。こうした中、ボランティア活動発展・推進のため、市民・民間・行政のそれぞれの立場で、ボランティア活動に対する多様な支援が求められている。

本調査は、ボランティア活動を行っている団体・個人の多様な活動内容、活動形態等を調査・把握し、その分析を行うことにより、ボランティア活動推進のための課題を探ることを主な目的として実施した。

実施にあたっては、前回(平成8年3月)調査をふまえ、設問等を一層充実し、平成13年12月31日現在の状況について調査を行った。なお、実施にあたっては、厚生労働省が全国社会福祉協議会に委託し、実施したものである。

2. 調査主体と調査実施団体

調査主体 : 厚生労働省

調査実施団体 : 社会福祉法人 全国社会福祉協議会

3. 調査概要

(1) 調査の構成

「ボランティア団体・グループ向け調査」および「ボランティア活動を行っている個人向け調査」の2種類を実施した。

(2) 調査対象の選定方法

平成13年4月1日現在で全国各地の社会福祉協議会(以下、社協)に登録しているボランティア団体・グループ数およびボランティア活動者数を基数とし、ボランティア団体・グループ 3,000 団体とボランティア活動者 3,000 人を無作為抽出にて選定した。

なお、ボランティア団体・グループから 3,000 団体を選定するにあたっては、「ボランティア活動を主目的としている団体・グループ」と「ボランティア活動を主目的としていない団体・グループ」の割合に応じたサンプリングを行った。ボランティア活動を行っている個人から 3,000 人を選定するにあたっては、「ボランティア活動を主目的としている団体・グループに所属しているボランティア」、「ボランティア活動を主目的としていない団体・グループに所属しているボランティア」、「団体・グループに所属せず個人で活動しているボランティア」の割合に応じたサンプリングを行った。

図表 I - 1 調査対象の選定

調査名	基数(社会福祉協議会への登録数)	発送数
ボランティア団体・グループ向け調査	65,320 団体 (「ボランティア活動を主目的としている団体・グループ」49,983、「ボランティア活動を主目的としていない団体・グループ」15,337)	3,000
ボランティア活動を行っている個人向け調査	3,538,958 人 (「ボランティア活動を主目的としている団体・グループに所属するボランティア」1,666,608 人、「ボランティア活動を主目的としていない団体・グループに所属するボランティア」1,615,608 人、「団体・グループに所属せず個人で活動しているボランティア」256,742 人)	3,000

(3) 調査の実施方法

市区町村社会福祉協議会(以下、市区町村社協)を通じて、調査対象者に調査票を配布し実施した。回収は、調査対象者が直接、全国社会福祉協議会(以下、全社協)へ返送する方法によった。

(4) 調査項目

<ボランティア団体・グループ向け調査>

- ①団体の目的、ボランティア活動が主目的でない団体がボランティア活動を始めた経緯や活動形態
- ②活動年数
- ③活動のメンバー数、主なメンバー層、メンバーの居住地域と活動地域の関係、メンバー数の増減とその理由
- ④代表者の属性(年齢、性別、職業、代表者としての年数)
- ⑤ボランティア活動が主目的の団体の設立の経緯
- ⑥活動内容(活動類型、活動対象者、活動内容)
- ⑦活動拠点、活動の方法(メンバーとの関係)
- ⑧活動頻度(年間活動時間、活動時間帯)
- ⑨年間予算規模、予算規模の過不足感
- ⑩有償活動の有無、実施の理由
- ⑪インターネットの活用状況
- ⑫活動開始にあたって苦勞したこと、活動をやめようと思った経験・時期・理由
- ⑬活動の社会的な効果についての自己評価
- ⑭活動の問題点、利用している支援機関のサービス、今後の活動意向

<ボランティア活動を行っている個人向け調査>

- ①これまでのボランティア活動年数
- ②ボランティア開始時に苦労したこと
- ③現在のボランティア活動の形態、これまでのボランティア活動歴、これまでに活動をやめたいと思ったことの有無と理由
- ④活動の形態、グループでの活動の方法、受け入れ先の状況
- ⑤活動内容(活動類型、活動対象者、活動内容)
- ⑥活動に参加した理由
- ⑦活動する時間帯、活動時間数、活動する場所、活動する場所までの距離、ボランティア活動の費用
- ⑧活動するうえで困っていること、受け入れ側の問題点
- ⑨活動を通じて得ていること・よかったこと、充実した活動を行うために必要な社会的環境、今後の活動意向
- ⑩回答者属性(性別、年齢、職業)

(5) 調査時点

平成13年12月31日現在

(6) 調査実施期間

平成14年4月1日～平成14年4月15日

(7) 回収結果

調査名	発送数	有効回収数	有効回収率
ボランティア団体・グループ向け調査	3,000	1,539	51.3%
ボランティア活動を行っている個人向け調査	3,000	1,390	46.3%

4. 前回調査について

今回調査と同様の調査対象選定方法にて、平成7年度「全国ボランティア活動者実態調査」を実施した(調査時点:平成8年3月1日現在/調査期間:平成8年3月1日～3月15日)。調査項目については、今回調査と異なる項目が多いが、共通する項目については、以下の調査結果の分析において適宜比較を行うこととする。

なお、前回の個人向け調査は、「団体に所属している個人(n=3,193)」と「団体に所属していない個人(n=848)」に分類して集計を行った。両者の間に大きな差異が認められなかったため、今回調査ではこの分類を行わなかった。個人向け調査結果について前回調査と今回調査を比較する場合には、前回調査結果のうちサンプル数の多かった「団体に所属している個人」の結果と比較することとする。

【本報告書の見方について】

- (1) 調査結果の数値は、回答率（％）で示している。％の母数は、その設問項目に該当する回答者総数あるいは分類別の回答者数である。母数はグラフ中に N で示している。
- (2) 百分率は小数点第2位で四捨五入して、小数点第1位までを表示している。このため、回答を一つだけ選択する単一回答の設問では、回答率の合計が100.0%にならない場合がある。
- (3) 回答を2つ以上選択する複数回答の設問の場合には、回答率の合計が100.0%を超える場合がある。
- (4) 分類別の回答数（母数）が50を下回る場合は誤差が大きくなるため、分析を控えている。

Ⅱ. 調査結果の概要

II. 調査結果の概要

今回のボランティア活動者実態調査は、ボランティア活動を行っている団体・グループ向けの調査と、ボランティア個人向けの2種類の調査を実施した。

団体・グループ向け調査からは、活動メンバー数が「10～20人」、年間予算規模が「20万円未満」の団体が多いなどの基本的な属性のほか、「代表者の就任年数が長期にわたっている」、「メンバーに関する困りごとが多い」、「活動資金が十分でない」などの問題点がうかびあがってきた。「社会的な支援サービスを利用している」団体・グループが多く、「活動費等の助成」、「事務所や活動拠点の提供」、「相談、研修機会」、「備品・機器の貸与」など幅広い支援サービスが利用されている。

個人向け調査では、「主婦」や「定年退職者」が主力であるといった基本属性のほか、女性には「交流、遊び、コミュニケーション系の活動」、男性には「支援・指導」、「企画・運営」、「労力提供」といった活動内容が多いという特徴がうかびあがった。月間の活動時間をみると、「10～20時間」の活動を行っている人が多く、回答者一人あたりの平均月間活動時間は21.7時間となった。これは、アメリカやイギリスのボランティア活動者一人あたりの平均活動時間よりも4～6時間程度多くなっている。また、ボランティア活動を始める動機には、「社会や他者のためになることがしたい」という動機とともに、「自分自身の向上を目指す」動機もみられた。これは、アメリカやイギリスのボランティア活動者と同様の傾向であった。「自分自身の向上を目指す」動機は、若い世代に多くなっている。社会的支援への要望として、「活動に必要な知識や技術の研修」や「活動者同士の交流機会」などが求められており、特に、若い世代や企業・官公庁・自治体に勤務する人の間で、「ボランティア活動の経験が社会的な資格取得につながる」ことへの要望が高くなっている。

なお、今回のボランティア活動者実態調査では、前回調査と比較して、新しく活動を始めた団体・グループやボランティアの割合が減少している結果となった。また、「今後は現在の活動を続けていく」現状維持派が団体・グループおよびボランティアの双方に多くなっており、「活動を拡充していきたい」と答えた団体・グループおよびボランティアの割合は前回調査よりも減少している。

このように、社協に登録している団体・グループおよびボランティアにおける新規団体や新しい活動者の増加および今後の活動の拡充に関しては一息ついた状況になっているものの、実際に活動している団体・グループやボランティアは、活動を通じて、多くのことを得ていることがわかった。

団体・グループでは、「活動に関わる人達の絆が深まって地域への愛着が生まれた」、「活動で取り組んだ問題に社会的な関心を集めることができた」、「自分達の活動が刺激となって行政等による新しいサービスが開始されたり、既存のサービスが改善されたなどの社会的な効果があった」との自己評価がなされている。また、活動者のほとんどが「活動を通じて得たことやよかったことがある」と答えており、「多くの仲間や地域とのつながりができた」こと、「自身の人格や能力の向上」、「社会や他者の役に立っているという実感」、「生きがいづくり」のほか、「活動自体が楽しい」という声も多くなっている。

1. 団体向け調査結果の概要

(1) 団体・グループのプロフィール

- ◆「ボランティア活動を主目的とした団体・グループ」が 71.5%、「親団体の活動の一環としてボランティア活動を行っている団体・グループ」が 24.4%。
- ◆活動年数では、「5年未満」の割合が前回調査よりも低くなっており、新しい団体が減ってきている。
- ◆活動メンバー数は、「10～20人未満」が多い。

<活動の一環型団体・グループ>¹

- ・「活動の一環型団体・グループ」の親団体では、「趣味の会・グループ」が 21.9%、「婦人会・地域婦人団体」が 13.1%。
- ・ボランティア活動を開始した理由は、「親団体として地域に貢献する活動をするため」が 29.0%、「学んだことの成果を活かすため」が 24.8%。
- ・活動のしかたでは、まず、一斉行事といった活動タイプがあり、さらに、活動プログラムの形態によって若干の多様性がみられる。「他の機関から要請されて活動する団体・グループ」（「要請対応型」と呼ぶ）では、ローテーションを組んで全員で活動を分担するという、やや活動を強制する色彩の強いタイプがみられる。一方、「活動プログラムを自主企画する団体・グループ」（「自主企画型」と呼ぶ）では、有志によるサブグループでの活動といった、自主性や自由度の高い活動タイプがみられる。

<活動年数>

- ・「5～10年未満」が 23.8%、「10～15年未満」が 20.9%、「5年未満」が 17.9%、「15～20年未満」が 12.7%。前回調査では「5年未満」の団体・グループが 36.7%であったのに対し、今回調査ではその割合は 17.9%に減少している。

<活動メンバー数>

- ・「10～20人未満」が 26.4%、「20～30人未満」が 19.5%、「30～50人未満」が 17.0%。

¹ 活動の一環型団体・グループ

「ボランティア活動が主目的ではないが、活動の一環として行っている」団体・グループを総称して「活動の一環としてボランティア活動を行っている」団体・グループ（以下、「活動の一環型団体・グループ」としている）

(2) 代表者のプロフィール

- ◆代表者には、「60代以上」、「女性」が多い。
- ◆「主婦」や「定年退職後」の人が多い。「主婦」のなかでは、これまでにフルタイムで働いた職業経験のある女性が多くなっている。
- ◆代表者の就任年数が長期化している。「5年以上活動している団体・グループ」のうち、「5～10年未満」の活動年数の団体・グループでは54.0%が現代表の長期継続型²となっている。

<代表者の年齢>

- ・「60代以上」が49.0%、「50代」が26.3%。「要請対応型団体・グループ」の代表者は「60代以上」が53.4%と最も多い。
- ・一方、「自主企画型団体・グループ」では、「60代以上」の代表者が38.8%と最も多いものの、その割合は「要請対応型」団体・グループと比較して低い。代わって、「自主企画型団体・グループ」では、「30代」、「40代」、「50代」の代表者の割合が「要請対応型」団体・グループよりも高く、代表者の年齢が若い様子がうかがえる。

<代表者の性別>

- ・「女性」の代表者が69.1%、「男性」の代表者は23.6%。
- ・「テーマ・オリエンテッド型³」の活動を行っている団体・グループの代表は、「男性」が37.4%と高くなっている。
- ・50万円以上の予算規模の団体・グループでは、「男性」の代表者の割合が多くなっている。

<代表者の職業>

- ・「主婦(これまでにフルタイムで働いた経験がある)」が22.5%、「定年退職後」の人が18.5%、「主婦(これまでにフルタイムで働いた経験はない)」が13.9%。
- ・100人以上のメンバー規模の団体・グループでは、「定年退職後」の代表者の割合が34.8%と高く、代わって、「主婦((これまでにフルタイムで働いた経験はない))」の代表者が3.7%と低い。

<代表者の就任年数>

- ・「5～10年未満」が23.6%、「3～5年未満」が18.6%、「2年未満」が18.1%。一方、「10～15年未満」が12.0%、「15年以上」が8.0%となっており、合計で20.0%の団体・グループで代表者の就任年数が10年以上の長期にわたっている。前回調査の代表者の就任年数は大半が10年未満であり、代表者の就任年数が長期にわたっている。

² 活動年数の70%以上の年数にわたって、現在の代表者が代表をつとめている団体・グループを「長期継続型団体」とした。

³ 特定の人々を対象とするよりは、テーマにそった活動をしている団体・グループ

・団体・グループの活動年数の70%以上の長期にわたって現在の代表者が代表を勤めている「長期継続型の団体」の割合は、「5～10年未満」の活動年数の団体・グループで54.0%、「10～15年未満」の団体・グループで43.3%。15年以上の活動年数の団体・グループでは、「長期継続型の団体」の割合は減少していく傾向にあり、「25年以上」の団体・グループでは14.2%。

(3) メンバーについて

- ◆立ち上げ時には、「ボランティア活動の推進機関や受入れ機関の呼びかけで集まった人達」や、「研修や講座で学んだ仲間」がメンバーである場合が多い。
- ◆「子どもの手が離れた主婦」と「60代以上の女性」が主力。
- ◆「1年前と比較してメンバー数が増えている」団体・グループが27.0%。この割合は前回調査から大幅に減少している。

<立ち上げ時のメンバー>

・団体・グループを立ち上げたメンバーの共通点は、「ボランティア活動を推進、受け入れる機関の呼びかけで集まった人達」が24.8%、「ある研修や講座で一緒に学んだ仲間」が22.4%。

<現在の主要メンバー>

・「子どもの手が離れた主婦」が58.0%、「60代以上の女性」が56.8%。

<メンバー数の増減>

・1年前と比較して、メンバー数は「変わらない」と答えた団体・グループが48.3%、「増えている」が27.0%、「減っている」が19.8%。前回調査では1年前より「増えている」と答えた団体が40.1%に達しており、今回調査ではメンバー数を増やしている団体が減少している。

(4) 活動内容について

- ◆「対人直接サービス」「交流」「支援活動」「テーマ・オリエンテッド」およびこれらの混合型の類型を設定して活動内容をみたところ、「テーマ・オリエンテッドの活動と、対人直接サービス・交流・支援活動のうちいずれかを行っている」団体・グループが多くなっている。「対人直接サービス」「交流」「支援活動」「テーマ・オリエンテッド」の各々を単独で行っている団体・グループと、複数の活動を行っている混合型の団体・グループはほぼ同じ割合であった。
- ◆テーマ・オリエンテッド型では、まちづくり、環境保全・自然保護、伝統文化の継承や芸術の普及をテーマに活動している団体・グループが多い。
- ◆活動対象では、「高齢者や介護者」「障害児・障害者やその家族」が多い。
- ◆具体的な活動内容は、「交流・遊び」、「話し相手」、「配食・会食サービス」、「趣味・レクリエーション活動への支援・指導」、「手話・点訳・朗読等のコミュニケーションの支援」が多くなっている。

<活動内容>

	類型	活動内容の選択肢(問7)	割合
単一の活動内容の場合	対人直接サービス型	人に対して直接サービスを提供している	13.3%
	交流型	人との交流を行っている	9.7%
	支援活動型	社会的に不利な立場におかれた人々への支援活動	14.0%
	テーマ・オリエンテッド型	特定の人々を対象とするよりは、テーマにそった活動を行っている	10.1%
複数の活動内容の場合	混合型(対人直接サービスと交流型)	人に対して直接サービスを提供している、および、人との交流を行っている	6.4%
	混合型(対人直接サービスと支援活動型)	人に対して直接サービスを提供している、および、社会的に不利な立場におかれた人々への支援活動	4.4%
	混合型(交流型と支援活動型)	人との交流を行っている、および、社会的に不利な立場におかれた人々への支援活動	5.3%
	混合型(対人直接サービスと交流型と支援活動型)	人に対して直接サービスを提供している、人との交流を行っている、社会的に不利な立場におかれた人々への支援活動のすべてを行っている	8.3%
	混合型(テーマオリエンテッド型と対人・交流・支援活動型)	特定の人々を対象とするよりはテーマにそった活動を行っている、および、人に対して直接サービスを提供・人との交流・社会的に不利な立場におかれた人々への支援活動のうちいずれかを行っている	25.2%

<テーマ・オリエンテッド型団体・グループのテーマ>

・「まちづくり」が 20.8%、「環境保全・自然保護」が 15.1%、「伝統文化の継承や芸術の普及」が 12.0%。

<活動対象者>

・「高齢者や介護者」が 55.2%、「障害児・障害者やその家族」が 52.5%、「子ども」が 18.8%。

<具体的な活動内容>

・「交流・遊び」が 46.2%、「話し相手」が 37.2%、「配食・会食サービス」および「趣味・レクリエーション活動への支援・指導」が各々 26.4%、「手話・点訳・朗読等のコミュニケーションの支援」が 25.1%、「掃除や作業の手伝い」が 18.8%、「外出の手伝い、移送サービス」が 18.5%。

(5) 活動のしかたについて

- ◆「他の機関・団体から要請されて活動している」団体・グループが6割、「自主的に活動プログラムを企画している」団体・グループは3割。
- ◆「要請対応型」の団体・グループが多いが、大半の団体・グループは定期的な活動を行っている。
- ◆活動頻度は、「月2～3日」が多い。活動時間帯は、「平日型」が半数を占める。
- ◆活動のしかたには、「全員で集まって活動」したり、「メンバー間でローテーションを組んで活動」したりと一定のルールがみられる。「全員で集まって活動」するのは「自主企画型」に多く、「ローテーションを組んで活動」するのは「要請対応型」に多い。

<活動プログラムの形態>

- ・「ある機関や団体のプログラムや要請にそって活動している(要請対応型)」団体・グループが 63.5%、「自分たちで活動を企画している(自主企画型)」団体・グループは 32.2%。

<活動の周期性>

- ・「団体・グループとしての活動を定期的に行っている」団体・グループが 80.5%と大半を占めており、「要請がある都度活動を行うなど、定期的な活動ではない」団体・グループは 13.1%。ある機関や団体のプログラムや要請にそって活動している団体・グループが過半数を超えているものの、団体・グループとしての活動には独自の周期性があるところが多い。

<活動頻度と時間帯>

- ・「月2～3日」活動している団体・グループが 28.1%、「週1日」が 16.5%、「月1日」が 15.3%、「週2～3日」が 10.5%。
- ・「平日に活動している(平日型)」団体・グループが 51.9%、「平日・土日祝日を特に関係なく日頃活動している(常時型)」が 29.7%、「土日祝日に活動している(週末祝日型)」が 10.5%。

<活動のしかた>

- ・「なるべくメンバー全員が集まって活動するようにしている」が 39.6%、「メンバー間でローテーションを組んで活動している」が 32.2%、「団体・グループとしてのルールはなく、メンバーに任せられている」が 17.3%。メンバーの活動のしかたに一定のルールがある団体・グループが多くなっていることがわかる。
- ・「要請対応型」では「メンバー間でローテーションを組んで活動している」団体・グループの割合が 38.9%、「自主企画型」では「なるべくメンバー全員が集まって活動するようにしている」団体・グループの割合が 47.7%と高くなっている。

(6) 予算について

- ◆年間予算規模が「20万円未満」の団体が6割と、小規模な予算規模の団体が多い。
- ◆主な収入源は、「毎年決まって交付される助成金・補助金」と「会費」。「ボランティア活動を主目的とした団体・グループ」では、「毎年決まって交付される助成金・補助金」が主な収入源である割合が高く、「活動の一環型団体・グループ」では「会費」の割合が多い。
- ◆現在の年間予算額は、「現在の活動にとって十分な額である」と考えている団体は約半数であり、「やや不足している」、あるいは「かなり不足している」と考えている団体も半数となっている。

<年間予算規模>

- ・「5万円未満」が 26.4%、「5～10万円未満」が 17.5%、「10～20万円未満」が 15.5%となっており、

年間予算が小規模な団体・グループが多い。なお、「特に予算規模は把握していない」と答えた団体・グループは10.3%。

<主な収入源>

・「毎年決まって交付される助成金・補助金」が37.8%、「会費」が29.2%。

<年間予算額の過不足感>

・「現在の活動にとって十分な額であり、不足感はない」と答えた団体・グループが45.6%、「現在の活動を行うには資金がやや不足している」が34.8%、「現在の活動を行うには資金がかなり不足している」が11.2%。

(7) 有償の活動について

- ◆「過去も現在も有償の活動を行っていない」団体が大半。
- ◆大半の団体・グループが今後有償の活動を採り入れることを「全く考えていない」。

<有償の活動の実施状況>

・ここ3年間のうちに、有償の活動を採り入れたかどうかについてきいたところ、「以前も有償の活動を行っていなかったし、現在でも行っていない」団体・グループが74.3%。「以前は有償活動を行っていなかったが、ここ3年間に採り入れた」団体・グループは3.9%、「以前から有償活動を行っており、現在も行っている」団体・グループが8.5%となっており、現在有償の活動を行っているのは合計で12.4%。なお、「以前は有償活動を行っていたが、現在は行っていない」団体・グループは1.8%。

<今後の採用予定>

・現在有償活動を行っていない団体・グループに今後有償活動を採り入れていくかどうかについてきいたところ、「全く考えていない」と答えた団体・グループが78.4%と大半を占めた。「今後有償活動を行うことを考えている」団体・グループは3.4%、「メンバーの間に話題になっているが、まだ具体化する段階ではない」が14.0%。

(8) 活動による社会的な効果について

- ◆「活動に関わる人達の間で絆が深まって地域への愛着が生まれた」、「自分達の活動が対象としている問題について社会の関心を集めることができた」、「今まで活動に参加しなかった人の参加を促すことができた」、「自分達の活動が刺激となって、行政や社協等による新しいサービスが開始、あるいは既存サービスの内容が改善された」といった多様な効果があげられている。

・団体・グループが行っているボランティア活動が社会的にどのような効果を生んでいるかについて自己評価を行ってもらったところ、「活動に関わる人達の間で絆が深まって地域への愛着が生まれた」が 63.5%、「自分達の活動が対象としている問題について、社会の関心を集めることができた」が 43.7%、「今まで活動に参加しなかった人の参加を促すことができた」が 43.1%、「自分達の活動が刺激となって、行政や社協等による新しいサービスが開始された」が 20.9%、「自分達の活動が刺激となって、行政や社協等によるサービスの内容が改善された」が 17.6%。

(9) 今後の課題と活動の方向性

- ◆「活動を行ううえで困っていることがある」団体・グループが7割。
- ◆困っていることは、「メンバーの高齢化」、「新しいメンバーが確保できない」、「中心となるメンバーが不足」などのメンバーに関する困りごとが多い。
- ◆今後の活動は、「現状維持派」が大半。「活動の範囲を広げたり、現在の活動の頻度を上げたりして活動の拡充を図る予定」の団体・グループは2割程度であり、前回よりも割合が低下している。
- ◆「法人格取得を考えている」団体・グループは1割程度で、大半は「考えていない」。

<活動を行ううえで困っていること>

- ・「現在活動を行ううえで困っていることがある」団体・グループが 69.7%と過半数を占めており、「困っていない」団体・グループは 26.4%。
- ・困っていることは、「メンバーが高齢化している」を挙げた団体・グループが 54.3%、「新しいメンバーが集まらない」が 47.2%、「中心となるメンバーが不足している」が 31.3%、「活動資金が不足している」が 24.3%となっており、メンバーに関する困りごとが多い。

<今後の活動予定>

- ・「現在の活動を続けていく」と答えた団体・グループが 71.3%と最も多くなっており、現状維持の方向性であるところが多い。「現在の活動の範囲を広げていきたい」とした団体・グループは 17.3%、「現在の活動の頻度を上げていく」は 4.4%。「活動をやめる」と答えた団体・グループはなく、「活動を一時休止する」も 0.3%と低い割合。前回調査と比較すると、現状維持を志向する団体・グループが若干多くなっている⁴。

<法人格取得>

- ・「法人格取得を考えている」団体・グループは 9.6%にとどまり、「法人格取得は考えていない」団体・グループが 85.6%と大半を占めている。

⁴ 前回調査では、「現在の活動を続けたい」が66.7%、「現在の活動の回数を増やしていきたい」が7.5%、「現在の活動に加えて、新たな分野の活動にも取り組みたい」が21.9%などの結果であった。

(10) 支援機関の利用

- ◆「ボランティア活動支援機関のサービスを利用している」団体・グループが多い。
- ◆利用している支援サービスは、「活動費等の助成」、「事務所や活動拠点の提供」、「相談、研修機会」、「備品・機器の貸与・提供」、「ボランティア募集への協力」、「助成金に関する情報提供」など幅広い。これらの支援サービスの提供元では、「社協」が多い。
- ◆役立っている支援サービスでは、「活動費等の助成」、「事務所や活動拠点の提供」、「備品や機器の貸与・提供」が挙げられているが、その割合は高くない。
- ◆最も期待されている支援サービスは、「活動費等の助成」。

<ボランティア活動支援機関のサービスの利用状況>

- ・ボランティア活動を支援する機関を「利用している」団体・グループが 75.0%、「利用していない」団体・グループが 22.2%。
- ・「活動費等の助成を受けている」が 59.0%、「事務所や活動拠点の提供」が 44.8%、「活動に関する相談」が 44.5%、「活動に関連する研修機会の提供」が 44.2%、「活動に必要な備品や機器の貸与・提供」が 43.1%、「ボランティア募集への協力」が 38.4%、「助成金に関する情報提供」が 22.9%となっており、幅広い支援サービスが利用されている。
- ・これらの支援サービスの提供機関では、「社会福祉協議会」が 88.6%、「行政機関のボランティア活動支援部署」が 13.7%、「ボランティア協会」が 10.9%。

<役立っている支援サービス>

- ・「活動費等の助成を受けている」ことが 19.7%、「事務所や活動拠点の提供」が 16.9%、「活動に必要な備品や機器の貸与・提供」が 13.4%。

<期待する支援サービス>

- ・「活動費等の助成」が 20.6%、「事務所や活動拠点の提供」が 12.0%、「活動に関する相談」が 11.7%、「活動に関連する研修機会の提供」が 11.4%。

2. 個人向け調査結果の概要

(1) 活動者プロフィール

- ◆「仕事をもっていない主婦」や「定年退職者」が主力。
- ◆活動年数が長期化しており、新規参加者がかつてより減っている。
- ◆同じ活動を継続して行っている人が多い。

<性別と職業>

- ・「主婦(仕事をもっていない方)」が 38.1%、「定年退職後の方」が 24.5%

<活動年数>

- ・「5～10年未満」が 30.5%、「10～15年未満」が 18.1%、「20年以上」が 13.8%、「3～5年未満」が 13.1%、「3年未満」が 11.7%、「15～20年未満」が 11.8%。前回調査では「5年未満」が 35.6%であったが、今回調査では 24.8%と減少している。「5～10年未満」については、前回調査が 25.5%、今回調査が 30.5%となっており、若干増加している。「10年以上」の長期間活動している人についてみると、前回調査では 38.8%であったが、今回調査では 43.7%と若干増加している。社会福祉協議会に登録しているボランティアの活動年数は長期化の傾向にあり、新しく活動を始めた人や活動年数の浅い人が少なくなっている。

<活動歴>

- ・「現在行っている活動をずっと続けてきた」と答えた人が 64.5%、「現在行っている活動以外にも、これまでいろいろな活動をしてきた」人が 31.9%。ボランティア活動者の多くは同じ活動を継続しているが、いろいろな活動を経験してきた人も一定割合いる。
- ・「複数の分野、あるいは複数の機関・団体で活動を行っている」と答えた人が 44.5%、「ある特定の分野、あるいは特定の機関・団体で、一つの活動を行っている」は 29.2%、「属している団体・グループや活動先は1か所だが、そこでいろいろな活動を行っている」は 23.6%。一つの活動だけでなく、複数のボランティア活動を行っている人が多い。

(2) 活動の内容について

- ◆活動内容は「対人直接サービス型」や「人との交流型」が多く、活動対象は「高齢者や介護者」、「障害児・障害者やその家族」を対象とした活動が多い。
- ◆女性は「交流、遊び、コミュニケーション系の活動」、男性は「支援や指導」、「企画・運営」、もしくは「労力提供系」の活動が多い。

<活動内容>

- ・「人に対して直接サービスを提供している」(以下、対人直接サービス型)が 53.7%、「人との交流を行っている」(以下、交流型)が 51.2%、「社会的に不利な立場におかれた人々への支援活動」(以下、支援活動型)が 39.9%、「特定の人を対象とするよりは、テーマにそった活動を行っている」(以下、テーマ・オリエンテッド型)が 29.2%。

<テーマ・オリエンテッド型のテーマ>

- ・「環境保全・自然保護」が 20.2%、「まちづくり」が 15.0%、「伝統文化の継承や芸術の普及」が 13.1%。

<活動対象>

- ・「高齢者や介護者」が 63.8%、「障害児・障害者やその家族」が 52.9%、「子ども」が 22.2%。
- ・活動者の職業別にみると、「高齢者や介護者」を対象とした活動を行っているのは、「定年退職後の方」で 71.2%、「主婦(仕事を持っていない方)」で 66.8%、および「自営業」の人で 65.5%。「障害児・障害者やその家族」を対象とした活動は、「企業・官公庁・自治体の事務職・一般職」の人で 67.0%、「パート・アルバイト」の人で 61.4%、「企業・官公庁・自治体の管理職・専門職」で 58.0%。「子ども」を対象とした活動を行っている人の割合が、「企業・官公庁・自治体の管理職・専門職」の人で 34.1%と高い。

<具体的な活動内容>

- ・「話相手になる等の交流、遊び、レクリエーション活動」が 48.6%、「身近や外出介助等の直接ケアをする活動」が 31.2%、「団体・グループの運営、イベントや事業等の企画」が 30.9%。
- ・交流、遊び、レクリエーション、コミュニケーションなどを対象者と同じ視点で行う活動(「話相手になる等の交流、遊び、レクリエーション活動」、「手話・点訳・朗読等のコミュニケーションの支援」)は女性のほうが多く、男性では、支援や指導、企画・運営といった内容の活動(「スポーツ、趣味、学習活動への支援・指導」「団体・グループの運営、イベントや事業等の企画」)か、あるいは、労力の提供といった活動(「草むしり等の労力や、調理等の生活技術を提供する活動」)が多い。

(3) 活動のしかたについて

- ◆「だれと活動しているか」については、「ボランティア活動を行うグループのメンバー」が最も多い。
- ◆「平日活動型」あるいは「曜日に関係なく日頃活動型」の人が多い。

<だれと活動しているか>

・「ボランティア活動を行うグループのメンバーとして活動している」人が 78.9%、「社協やボランティアを受け入れる施設等の活動に個人として参加している」人が 29.3%、「社協やボランティアを受け入れる施設等の活動に個人として参加しているが、受け入れ側の事情で自動的にグループに所属していることになっている」が 15.1%、「全くの個人として自分で活動の機会をみつけて活動している」人が 8.6%。

<活動のルール>

・「ローテーションや役割分担で、順番が回ってきたときに活動している」が 31.5%、「自分のペースで自由に活動している」が 31.2%、「受け入れ先の施設や団体から要請があった都度、活動している」が 30.4%。

<活動時間帯>

・「平日・土日祝日を特に関係なく日頃活動している」人が 38.3%、「平日に活動している」人が 37.4%と多くなっている。「特に活動の時間帯は決めていない」人は 13.4%。

<活動場所>

・「どこか公共的な場所(施設、機関、公園等)に集まって活動している」が 76.9%、「個人宅への訪問と、公共的な場所に集まったの活動の両方」を行っているが 23.5%。

<活動場所と自宅の関係>

・「車やバス、電車に乗っていくところ」が 57.9%、「自宅の周辺、あるいは、徒歩や自転車で行けるところ」が 46.0%、「徒歩や自転車で行ける距離であるが、近所に住んでいる人々の日常生活範囲ではないところ」で活動を行っている人が 25.6%。自宅周辺の日常生活範囲で活動を行っている人が半数近くいるが、日常生活範囲ではないところで活動を行っている人も多くなっている。

(4) 活動に要するコスト

- ◆1カ月の活動に要する支出は「1,000～3,000 円未満」が多い。
- ◆1カ月の活動時間は「10～20 時間」の人が多い。「20 時間未満」までで活動時間の過半数を占める。
- ◆回答者一人あたりの月間平均活動時間は「21.7 時間」。アメリカやイギリスと比較して多い。

<ボランティア活動に関する月間の支出額>

- ・「1,000～3,000 円未満」が 28.1%。

<月間活動時間>

- ・「10～20 時間未満」活動すると答えた人が 23.8%、「5～10 時間未満」が 18.8%、「20～30 時間未満」が 15.9%、「5時間未満」が 13.5%。
- ・平均の月間活動時間は、回答者一人あたり 21.7 時間。

<参考：ボランティア活動時間に関する国際比較>

米英の調査データを参考に、ボランティア活動時間に関する比較検討を試みた。

- ・アメリカの月間平均活動時間(2000 年)は 15.4 時間、イギリスの月間平均活動時間(1997 年)は 17.4 時間であり、本調査において、社協に登録しているボランティアの活動時間のほうが多くなっている。

図表Ⅱ－1 月間平均ボランティア活動時間の国際比較

国名	一人あたり月間平均活動時間数	調査時点
アメリカ(注1)	15.4 時間	2000 年
イギリス(注2)	17.4 時間	1997 年
日本(本調査)	21.7 時間	2001 年

注1:アメリカのインディペンデント・セクター(Independent Sector)の“Giving and Volunteering in the United States 2001”⁵によると、2000 年の1週間あたりの平均ボランティア活動時間は 3.6 時間である。これを月間に修正⁶すると、15.4 時間となる。

注2:イギリスの英国ボランティア協会(National Centre for Volunteering)が実施した“1997 National Survey of Volunteering in the UK”⁷によると、1997 年の1週間あたりの平均ボランティア活動時間は 4.05 時間である。これを月間に修正⁸すると、17.4 時間となる。

【参考】図表Ⅱ－2 アメリカのボランティア一人あたりの活動時間の推移

	1987 年	1989 年	1991 年	1993 年	1995 年	1998 年	2000 年
週平均活動時間	4.7	4.0	4.2	4.2	4.2	3.5	3.6
年間平均活動時間	244.4	208.0	217.6	218.4	218.4	182.0	N/A

注：2000 年調査は 21 歳以上の成人を対象にしており、それ以前の調査は 18 歳以上を対象としている。

資料:Independent Sector “Giving and Volunteering in the United States 2001”

⁵ 全国の21歳以上の国民4,216人に電話によるインタビュー調査を、2001年5～7月に実施。インタビューでは、調査時点に先立つ1年間のボランティア活動の状況を聞き取っている。

⁶ 3.6時間/週÷7日×30日=15.4時間。

⁷ 全国の18歳以上の国民3,000人超を無作為に抽出し、1997年6～8月に実施。有効回収数1,486サンプル。

⁸ 4.05時間/週÷7日×30日=17.4時間。

(5) 現在の活動に参加した理由

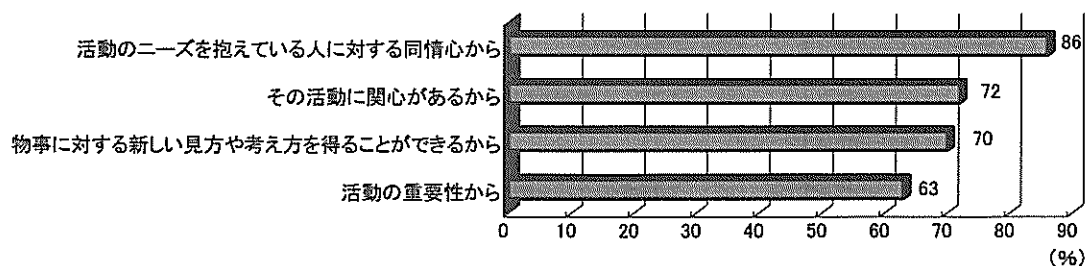
- ◆「社会や他者のためになることがしたい」という動機と「自分自身の向上を目指す」動機が主。これは、アメリカやイギリスの調査結果とほぼ同様の傾向となっている。
- ◆若い世代には「自分自身の向上を目指す」動機のほうが強く、40代以上では「社会や他者のためになることがしたい」という動機のほうが強い。30代は、「困っている人を助けたい」という動機が最も強い。

- ・「社会やお世話になったことに対する恩返しをしたかった」が40.8%、「困っている人を助けたいと思った」が34.5%、「自分の人格形成や成長につながることをしたかった」が32.9%、「地域や社会を知りたかった」が30.1%。
- ・年代別にみると、20代では、「自分の能力向上に関すること」が主要な動機となっている一方、「楽しいことをしたかったや仲間づくりをしたかった」という理由も多くなっている。30代では、「困っている人を助けたいと思った」ことが最も高い動機となっている。40代、50代、60代以上では、「社会やお世話になったことに対する恩返しをしたかった」ことが最も大きな動機となっている。

<参考：アメリカの活動への参加理由>

- ・インディペンデントセクター“Giving and Volunteering in the United States – Findings from a National Survey 1999 Edition”によると、アメリカにおけるボランティア活動を行う主な理由では、「活動の対象者への同情」や「活動自体への関心」とともに、「物事に対する新しい見方や考え方」といった活動の結果得られることへの期待が多くなっている。
- ・アメリカにおいても、「他者のためと自分自身の向上のため」の両方の理由が重要視されている。

【参考】図表Ⅱ－3 <アメリカ> ボランティア活動を行う主な理由

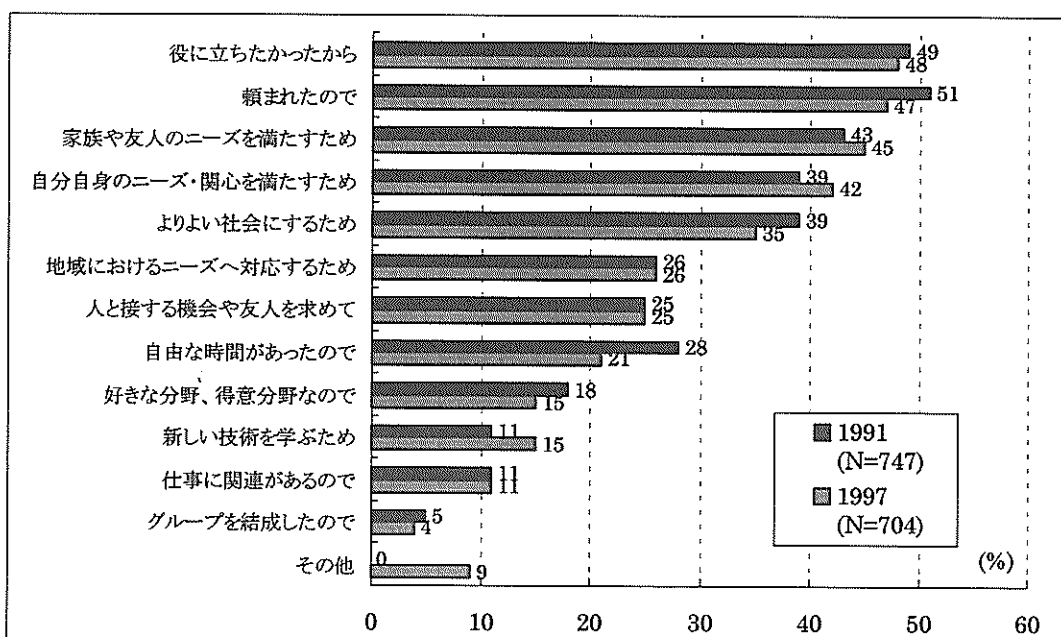


資料:Independent Sector "Giving and Volunteering in the United States – Findings from a National Survey 1999 Edition" 1999 より作成

<参考：イギリスの活動への参加理由>

- ・英国ボランティア協会の1997年調査では、「役に立ちたかったから」「頼まれたから」「家族や友人のニーズを満たすため」「自分自身のニーズ・関心を満たすため」、「地域におけるニーズへ対応するため」「新しい技術を学ぶため」などが挙げられている。
- ・イギリスにおいても、「他者や地域社会のため」といった理由と、「個人的なメリットや興味を満たす」といった理由の両方が主要な動機となっている。
- ・また、高齢者層は「自由な時間があるため」を動機として多く挙げており、若年層は「新しい技術を学ぶため」を多く挙げているという結果が得られている。本調査でも若い世代に「自分自身の向上を目指す」動機が多くなっていることから、日英の若い世代に同様の傾向がみられるものと考えられる。

【参考】図表Ⅱ－４ <イギリス> ボランティア活動をする動機



資料: National Center for Volunteering “National Survey of Volunteering in the UK” 1997 より作成

(6) 活動の問題点と今後の活動予定

- ◆「活動を行ううえで困っていることがある人」は、年代では30代や40代で多く、職業別では企業・官公庁・自治体に勤務している人に多い。
- ◆「現在の活動を続けていく」という現状維持派が大多数。前回調査よりも、現状維持派が多くなっている。

<活動を行ううえで困っていること>

- ・「活動を行ううえで困っていることがある人」が35.0%、「ない人」が59.9%。「困っていることがある

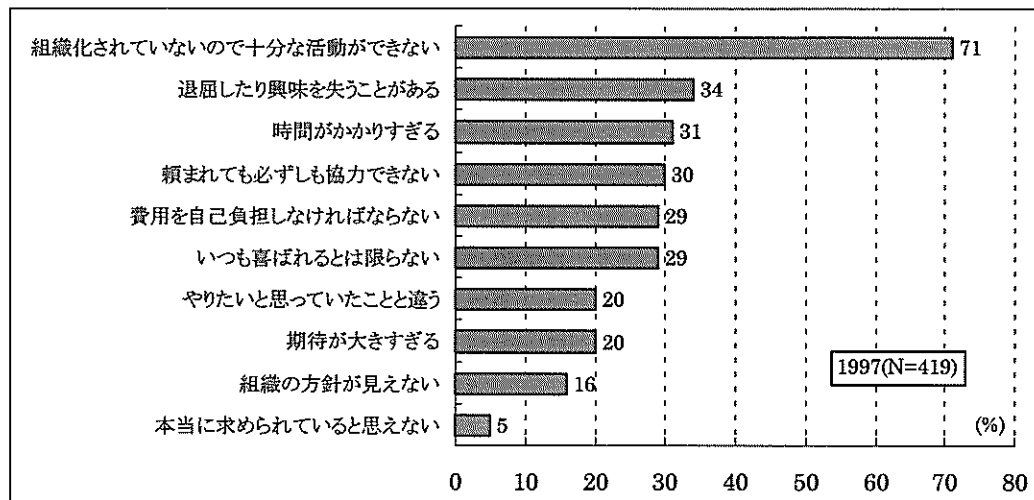
人」は、30代や40代で多くなっている。職業別にみると、企業・官公庁・自治体の管理職・専門職および事務職・一般職で割合が高くなっている。

- ・困っていることの内容は、「活動と仕事、家事、学校等との時間調整が難しい」が35.6%、「活動に求められる技術や知識が不足している」が35.2%。

<参考：イギリスの活動の障害>

- ・英国ボランティア協会の1997年調査では、ボランティア活動の障害となることについて、「組織化されていないので十分な活動ができない」ことを挙げた人がもっとも多くなっている。回答の選択肢が異なるため、調査結果を安易に比較することはできないが、「組織化されていないので十分な活動ができない」に比較的近い本調査の回答項目は、「受入れ体制が悪い」と考えられる。なお、本調査で「受入れ体制が悪い」と回答した人は16.5%であり、イギリスほど高くはない。
- ・また、イギリスの調査結果で2番目に多くなっている「退屈したり興味を失うことがある」に近いのは、本調査では「活動に飽きてしまった」であり、0.4%と低い割合にとどまっている。

【参考】 図表Ⅱ－5 <イギリス> ボランティア活動の障害



資料: National Center for Volunteering “National Survey of Volunteering in the UK” 1997 より作成

<今後の活動予定>

- ・「現在の活動を続けていく」と答えた人が74.0%と最も多くなっており、大半が現状維持の予定である。「現在の活動の回数を増やした」と答えた人は2.4%、「活動の範囲を広げたい」が11.1%となっており、活動を拡充する予定の人は13.5%。「活動を一時休止したい」人は1.3%、「活動をやめたい」人は0.8%。前回調査と比較すると、今回調査では、現状維持の予定の人の割合が増加し、活動を拡充する予定の人の割合が減少している。
- ・「活動の範囲を広げたい」と答えた人の割合が、「男性」で15.6%、「女性」で9.4%。「現在の活動の回数を増やしたい」と答えた人も、「男性」が4.5%、「女性」が1.7%。男性には、今後活動を拡充していく意欲が若干高い。

(7) 活動の自己評価

- ◆活動者のほとんどが、活動を通じて得たことやよかったことが「ある」。
- ◆「多くの仲間や地域とのつながりができた」、「自分の人格や能力の向上」、「社会や他者の役に立っているという実感」、「生きがい」のほか、「活動自体が楽しい」など、得たことやよかったことは多様。
- ◆現在の活動に参加した動機は概ね達成されており、活動に対する満足度の高さがうかがえる。

<得たことやよかったことの有無>

- ・98.3%が活動を通じて得たことやよかったことが「ある」。

<具体的な内容>

- ・得たことやよかったことでは、「多くの仲間ができた」が 71.3%、「活動自体が楽しい」が 57.6%、「自分の人格形成や成長にプラスになっている」が 55.9%、「地域社会とのつながりをつくることができた」が 52.8%、「新しい知識や技術を習得できた」が 49.0%、「社会に対する見方が広がった」が 44.0%、「自分が社会や他の人の役に立っていることを実感できた」が 43.6%、「生きがいを得ることができた」が 42.2%。「20代」では、「自分の人格形成や成長にプラスになっている」ことが最も高くなっているが、30代以上では、「多くの仲間ができた」ことが最も高くなっている。

<活動への参加理由別の得たこと・よかったこと>

- ・現在の活動に参加した理由別に、活動を通じて得たことや活動していてよかったことをみた。参加した理由として最も高くなっている「社会やお世話になったことに対する恩返しをしたかった」と答えた人では、「自分が社会や他の人に役立っていることを実感することができた」をよかったこととして挙げている人が多くなっている。
- ・「困っている人を助けたい」という動機で現在の活動に参加した人でも、「自分が社会や他の人に役立っていることを実感することができた」をよかったこととして挙げている人が多くなっている。
- ・「自分の人格形成や成長につながることをしたかった」ことが動機であった人では、活動を通じて「自分の人格形成や成長にプラスになっている」と答えた人の割合が高くなっている。さらに、「新しい知識や技術を習得できた」、「自分が社会や他の人に役立っていることを実感することができた」も高くなっており、この動機が達成されている様子がうかがえる。
- ・「地域や社会を知りたかった」ことが動機であった人のなかには、活動を通じて「多くの仲間ができた」、「地域社会とのつながりをつくることができた」、「社会に対する見方が広がった」と答えた人が多くなっている。
- ・「生きがいになるものがほしかった」人では、活動を通じて「生きがいを得ることができた」、「多くの仲間ができた」、「地域社会とのつながりをつくることができた」、「自分が社会や他の人に役立っていることを実感できた」、「心身ともに健康であり続けることができていく」人が多くなっている。

・現在活動を行っている人の多くは、現在の活動に参加した動機を多方面で達成できており、それに対して自分自身がよかったこととして評価していることがわかる。

(8) 社会的支援への要望

- ◆「活動に必要な知識や技術の研修」、「活動者同士の交流機会」、「活動や研修に必要な経費の援助」、「活動に対する社会的な理解」が求められている。
- ◆「活動の経験が社会的な資格取得につながること」への要望は、20代や30代の若い世代や、企業・官公庁・自治体に勤務する人に多くなっている。

<要望する社会的支援>

・「活動に必要な知識や技術を研修できる機会があること」が 43.7%、「活動者同士の交流機会」が 40.2%、「活動や研修に必要な経費の援助」が 35.3%、「活動に対する社会的な理解」が 33.5%。

<年代別・職業別の要望>

・「活動の経験が社会的な資格取得につながること」を望む人は、「20代」や「30代」で他の世代よりも高くなっている。同様に、「活動の経験が、進学・就職時に評価されること」を望む人も「20代」で高くなっている。若い世代では、ボランティア活動の経験が、今後の自分の進路にとってなんらかの役に立つことを望んでいる。

・また、「活動の経験が社会的な資格取得につながること」を望む人は、「企業・官公庁・自治体の管理職・専門職」や「企業・官公庁・自治体の事務職・一般職」で他の職業よりも高くなっている。同様に、「ボランティア休暇等の創設・拡大」も、「企業・官公庁・自治体の管理職・専門職」や「企業・官公庁・自治体の事務職・一般職」で他の職業よりも高くなっており、特に管理職・専門職の人に要望が高い。

Ⅲ. ボランティア団体・ グループ向け調査結果

Ⅲ. ボランティア団体・グループ向け調査結果

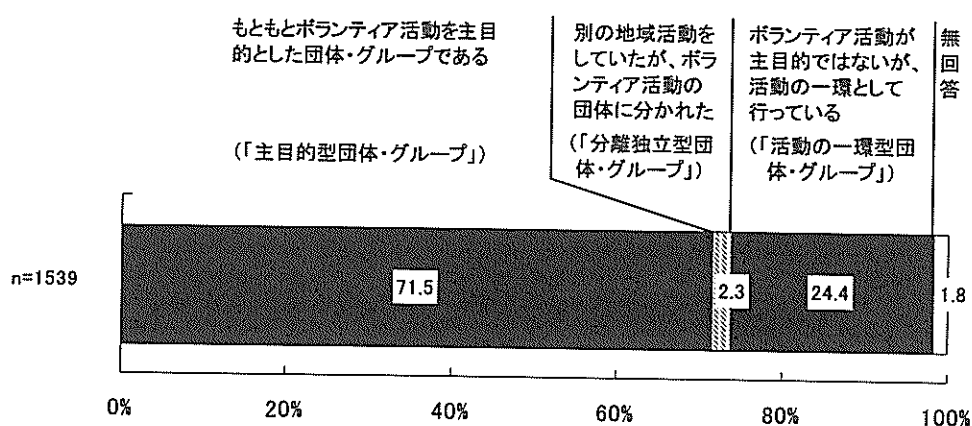
1. 回答団体・グループのプロフィール

(1) 活動の目的

「ボランティア活動を主目的とした団体・グループ(以下、「主目的型団体・グループ」)」が 71.5% となっている。「別の地域活動をしていたが、ボランティア活動の団体に分かれた」団体・グループ(以下、「分離独立型団体・グループ」)が 2.3%であり、「ボランティア活動が主目的ではないが、活動の一環として行っている」団体・グループ(以下、「活動の一環型団体・グループ」)が 24.4%となっている。

これは前回調査と同水準である¹⁾。

図表Ⅲ－ 1 活動の目的別の団体・グループの種類(問1)



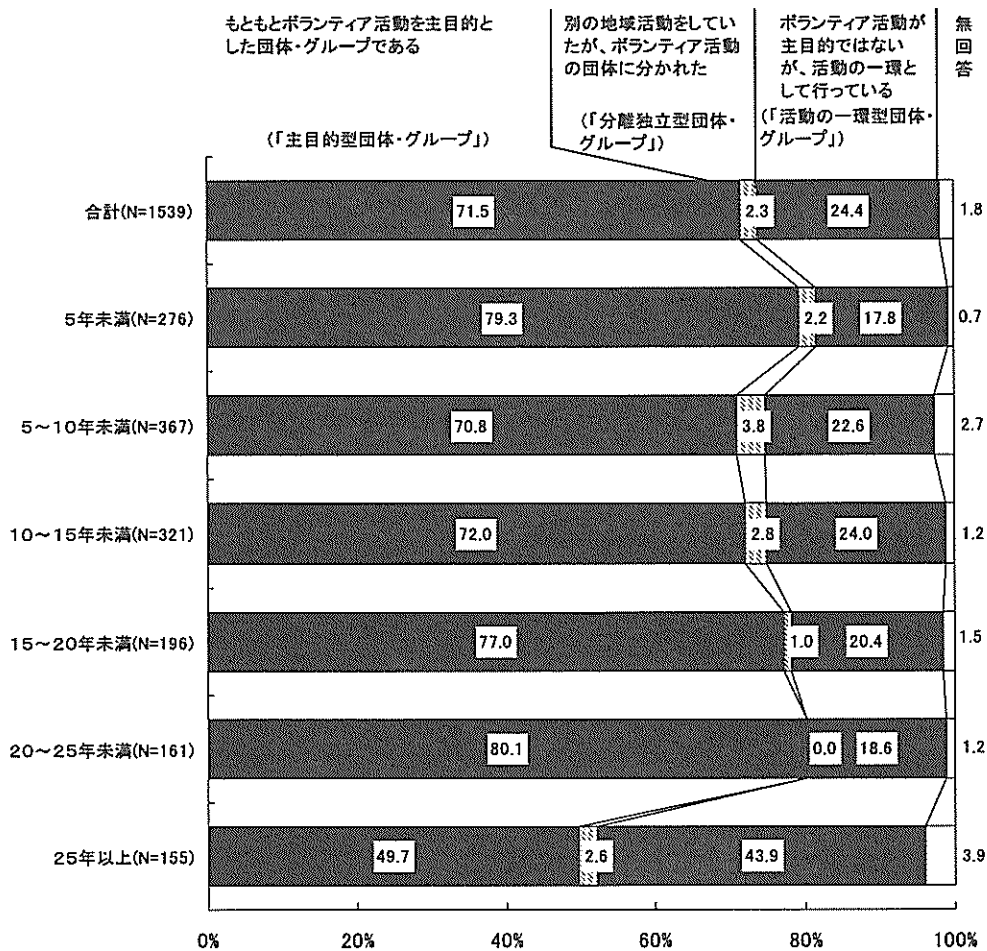
¹⁾ 前回調査では、「ボランティア活動を主目的とする団体・グループ」が73.5%、「ボランティア活動を主たる目的としていないが、活動の一環としてボランティア活動を行うこともある団体・グループ」が25.2%であった。

<活動年数別>

活動年数別にみると、「25年以上」の団体・グループでは、「活動の一環型団体・グループ」の割合が43.9%と多くなっている。

また、「20～25年未満」および「5年未満」の活動年数の団体・グループで、「主目的型団体・グループ」の割合が各々80.1%、79.3%と若干高くなっている。

図表Ⅲ-2 <活動年数別>活動の目的別の団体・グループの種類(問1)

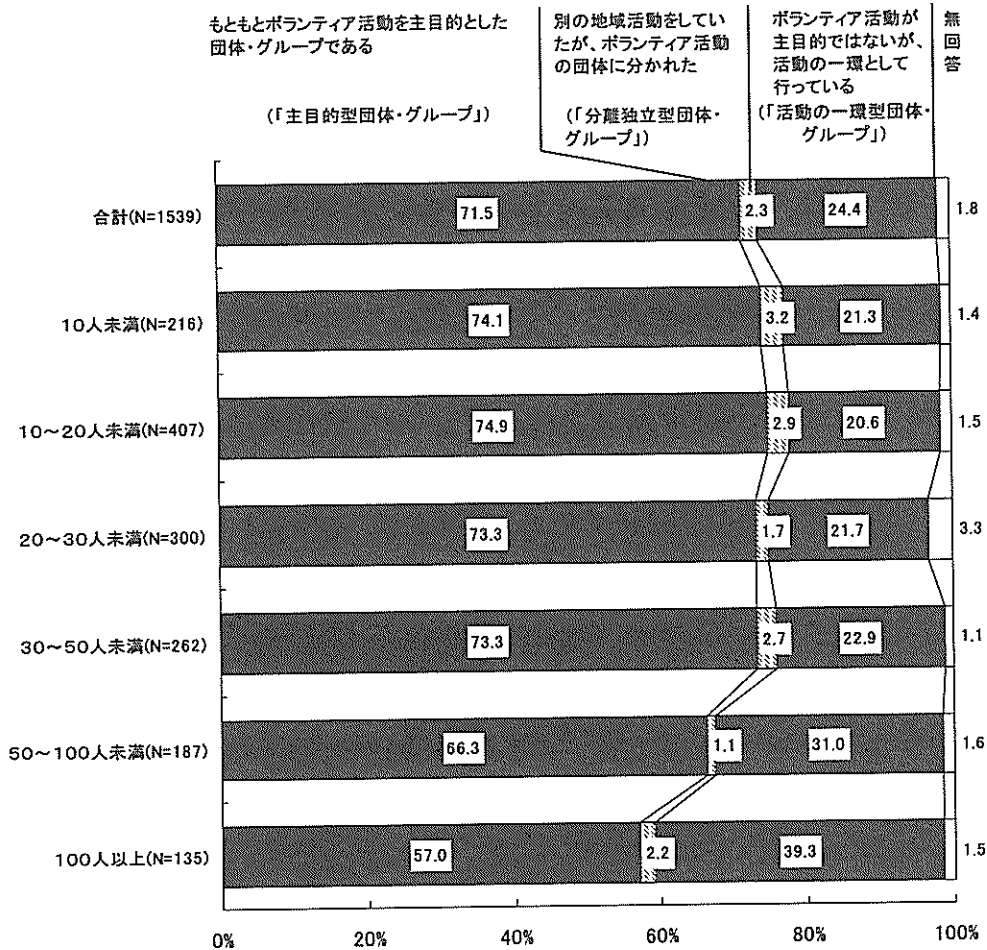


＜メンバー数の規模別＞

団体・グループのメンバー数の規模別にみると、「50～100人未満」および「100人以上」の団体・グループで、「活動の一環型団体・グループ」の割合が各々31.0%、39.3%と高くなっている。

このことから、メンバー数の規模が大きい団体・グループでは、「活動の一環型団体・グループ」の割合が高い傾向があることがわかる。

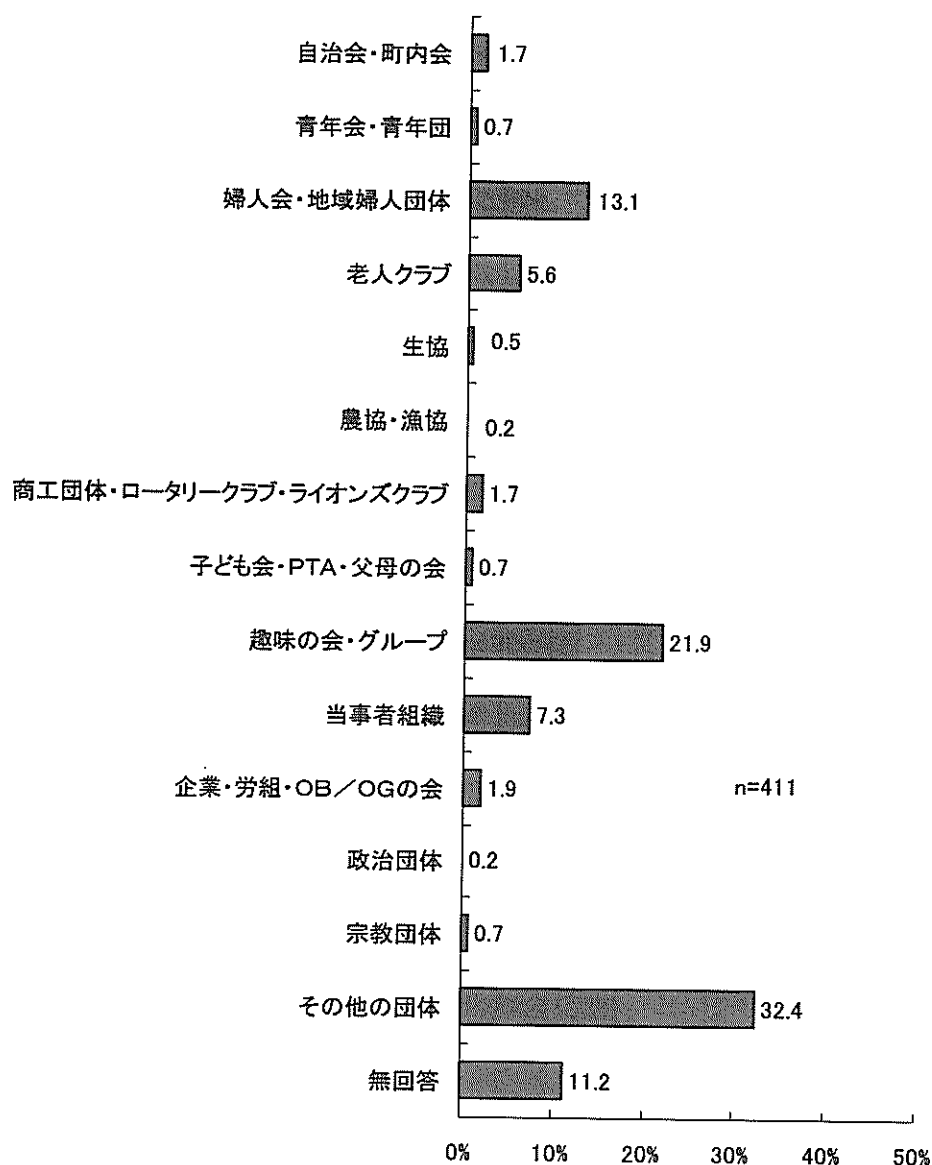
図表Ⅲ－ 3 ＜メンバー数の規模別＞活動の目的別の団体・グループの種類(問1)



①「活動の一環型団体・グループ」の親団体

「趣味の会・グループ」が親団体となっている割合が 21.9%と高くなっている。「その他の団体」も 32.4%であった。また、「婦人会・地域婦人団体」が 13.1%となっており、ボランティア活動者に主婦層が多い²ことの背景となっている。

図表Ⅲ－ 4 【活動の一環型団体・グループ】の親団体(問1付問1)



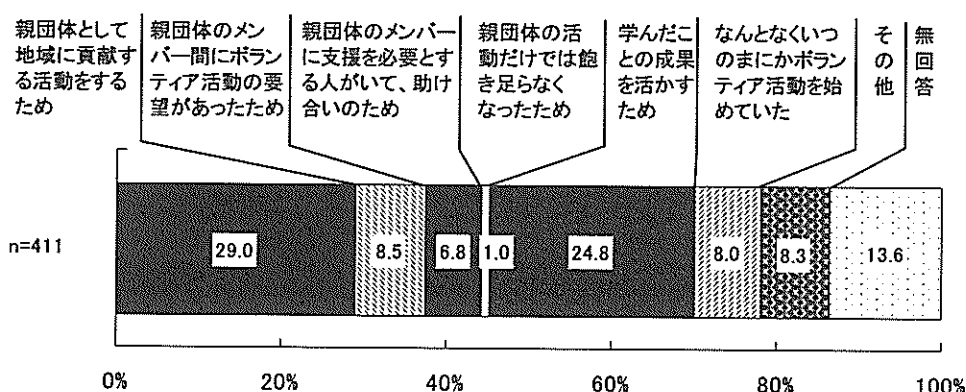
注: 当事者組織とは、高齢者団体、障害者団体、患者団体、介護者の会などをさす。

² 今回調査の個人向け調査結果では、回答者の72.7%が女性となっている。

② 「活動の一環型団体・グループ」がボランティア活動を始めた理由

「親団体として地域に貢献する活動をするため」が 29.0%、「学んだことの成果を活かすため」が 24.8%となっており、この2つが主な理由となっている。

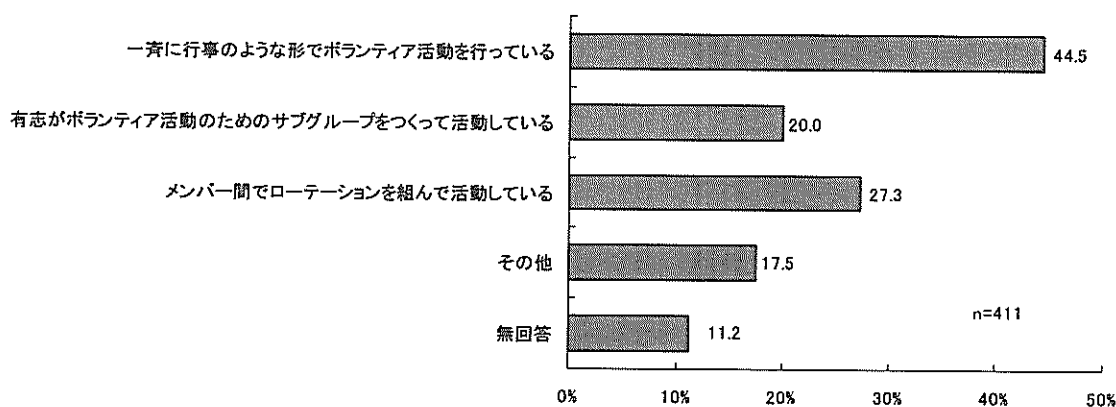
図表Ⅲ－ 5 【活動の一環型団体・グループ】 ボランティア活動の開始理由(問1付問2)



③ 「活動の一環型団体・グループ」のボランティア活動のしかた

「一斉に行事のような形でボランティア活動を行っている」と答えた「活動の一環型団体・グループ」が 44.5%と最も多くなっている。次いで、「メンバー間でローテーションを組んで活動している」が 27.3%、「有志がボランティア活動のためのサブグループをつくって活動している」が 20.0%となっている。日常的な活動というよりは、イベント的な活動のしかたが多いことがうかがえる。

図表Ⅲ－ 6 【活動の一環型団体・グループ】 ボランティア活動のしかた(問1付問3、複数回答)



<活動プログラム別>

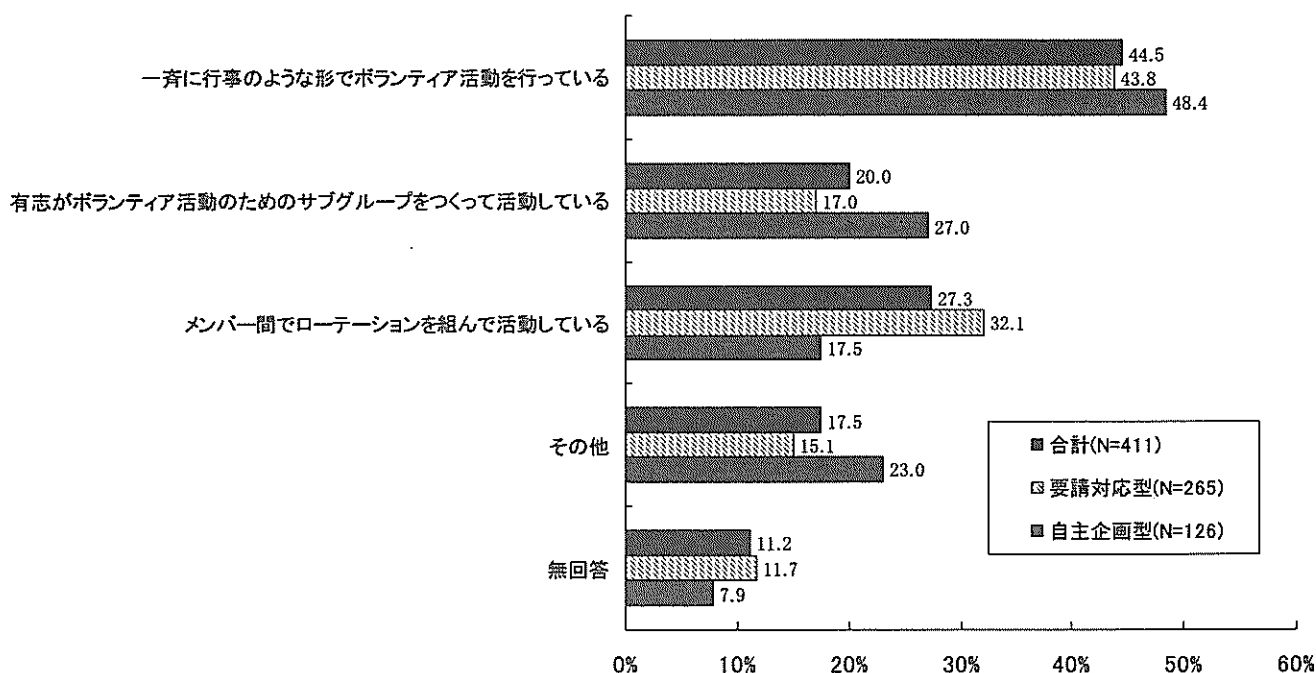
団体・グループの活動が、ある決まった機関や団体のプログラムや要請にそって行われているかどうかの別(活動プログラムの形態別)³に、ボランティア活動のしかたについてきいた。「ある機関や団体のプログラムや要請にそって活動を行っている」団体・グループを「要請対応型」とし、「自分達で活動を企画している」団体・グループを「自主企画型」とした。

この結果、「要請対応型」および「自主企画型」団体・グループとも、「一斉に行事のような形でボランティア活動を行っている」割合が高いものの、「要請対応型」団体・グループでは、「メンバー間でローテーションを組んで活動している」と答えた割合が 32.1%となっており、「自主企画型」団体・グループの 17.5%よりも高くなっている。一方、「有志がボランティア活動のためのサブグループを作っている」と答えた団体・グループは「自主企画型」で 27.0%と高くなっている。

このことから、「活動の一環型団体・グループ」の活動のしかたでは、まず、一斉行事といった活動タイプがあり、さらに、活動プログラムの形態によって若干の多様性がみられることがわかる。すなわち、「要請対応型」の団体・グループでは、ローテーションを組んで全員で活動を分担するという、やや活動を強制する色彩の強いタイプがみられる。一方、「自主企画型」団体・グループでは、有志によるサブグループでの活動といった、自主性や自由度の高い活動タイプがみられる。

図表Ⅲ－ 7【活動の一環型団体・グループ】

<活動プログラムの形態別>ボランティア活動のしかた(問1付問3、複数回答)



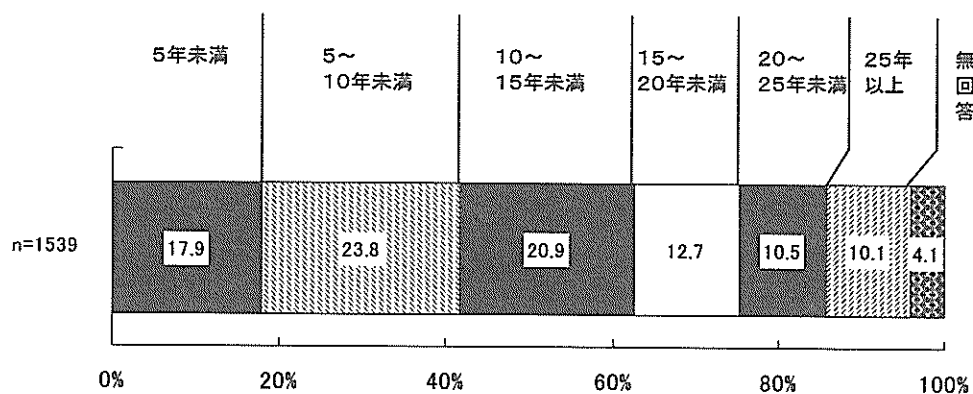
³ この設問は、団体の目的にかかわらず全ての団体・グループにきいている。70頁の「4. 現在の活動について (3) 活動プログラム」の項を参照。

(2) 活動年数

ボランティア団体・グループの活動年数をみると、「5～10年未満」が23.8%、「10～15年未満」が20.9%、「5年未満」が17.9%、「15～20年未満」が12.7%となっている。「20～25年未満」が10.5%、「25年以上」が10.1%となっており、20年以上の長期間活動を行っている団体・グループが2割程度存在する。

前回調査では「5年未満」の団体・グループが36.7%であったのに対し、今回調査ではその割合は17.9%に減少している。

図表Ⅲ－8 団体の活動年数(問2)

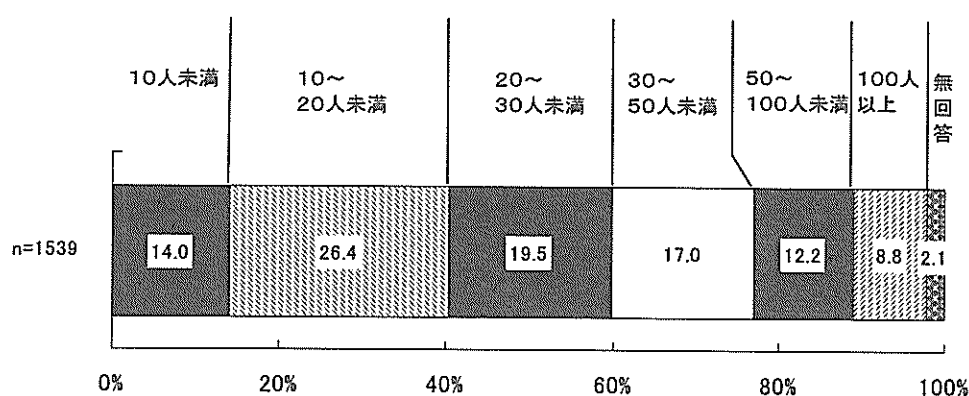


(3) 活動メンバー

「10～20人未満」が26.4%と最も多くなっており、次いで、「20～30人未満」が19.5%、「30～50人未満」が17.0%となっている。

前回調査より、「10人未満」の小規模な団体の割合が若干増えているものの、メンバーの規模はほぼ同様の割合となっている⁴。

図表Ⅲ－9 メンバー数(問3)

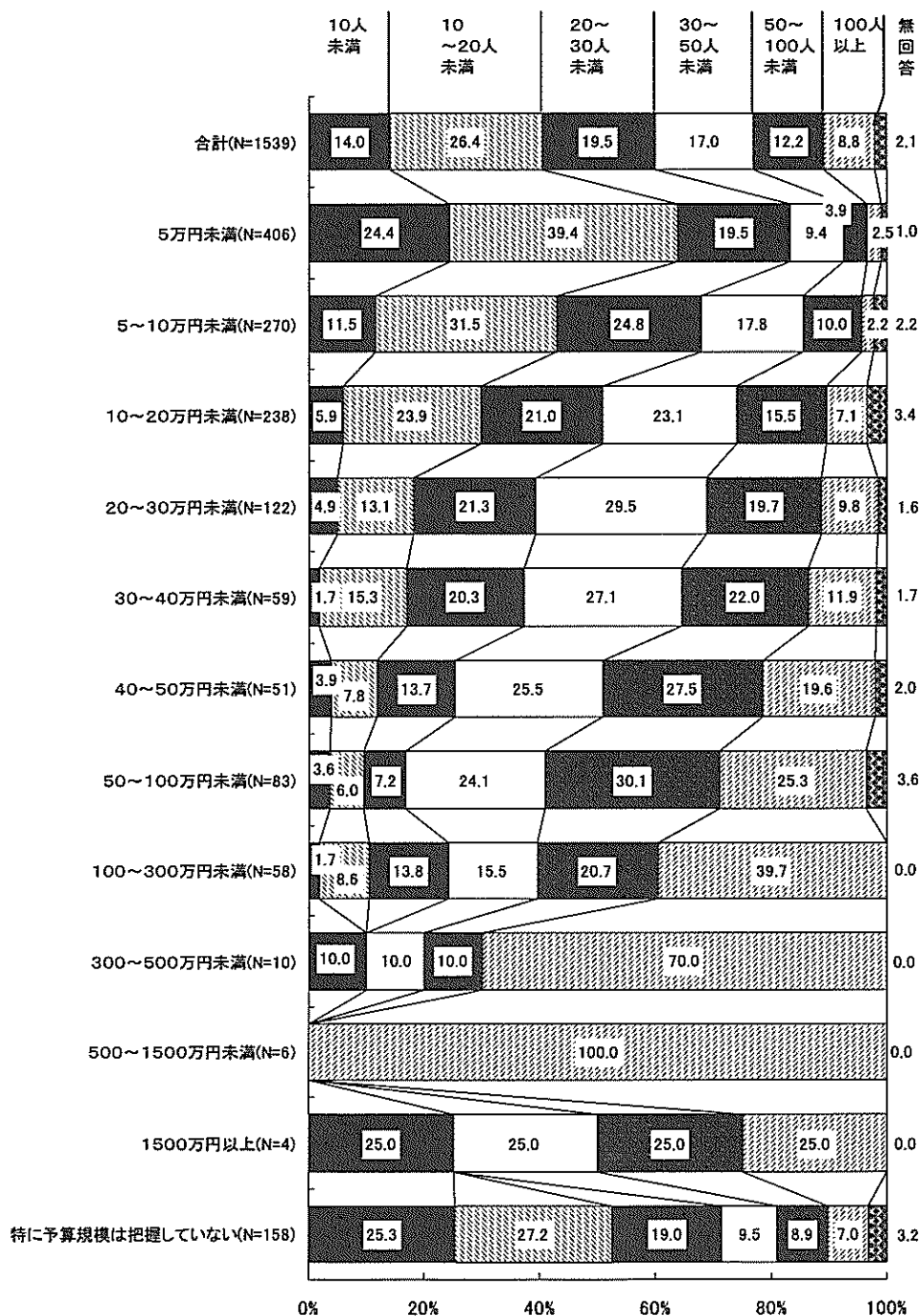


⁴ 前回調査では、「10人未満」が10.8%、「10～30人未満」が47.2%、「30～50人未満」が18.6%、「50～100人未満」が13.4%、「100人以上」が8.7%であった。

<予算規模別>

団体・グループの予算規模別にみると、300万円未満までについては⁵、予算規模が大きくなるにしたがって、団体・グループのメンバー数の規模も大きくなっている。

図表Ⅲ－10 <予算規模別>メンバー数(問3)



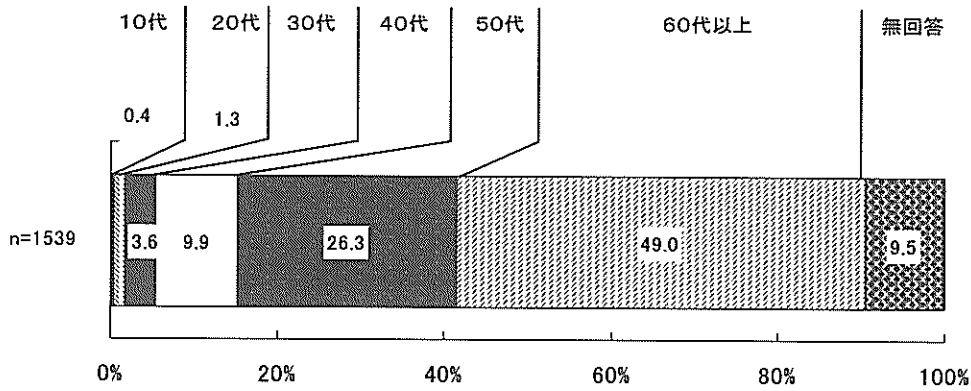
⁵ 「300~500万円未満」「500~1,500万円未満」「1,500万円以上」についてはサンプル数が少ないため分析の対象から除外している（以下、同じ）。

(4) 代表者のプロフィール

①代表者の年齢

代表者の年齢は、「60代以上」が49.0%と最も多く、次いで、「50代」が26.3%となっている。60代以上の代表者が約半数を占めていた前回調査と同様の結果となった⁶。

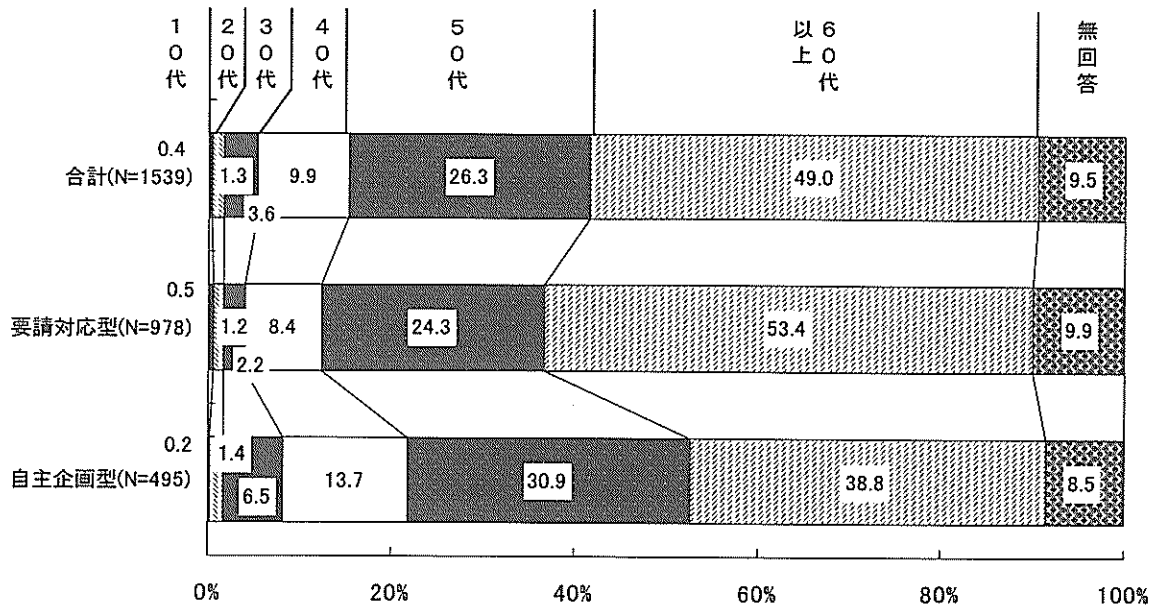
図表Ⅲ－11 代表者の年齢(問4付問1)



<活動プログラムの形態別>

「要請対応型」団体・グループの代表者は「60代以上」が53.4%と最も多くなっている。一方、「自主企画型」団体・グループでは、「60代以上」の代表者が最も多いものの、その割合は38.8%となっており、「要請対応型」と比較して低い割合である。代わって、「自主企画型」団体・グループでは、「30代」が6.5%、「40代」が13.7%、「50代」が30.9%となっており、「要請対応型」よりも代表者の年齢が若い様子が見えてくる。

図表Ⅲ－12 <活動プログラムの形態別>代表者の年齢(問4付問1)

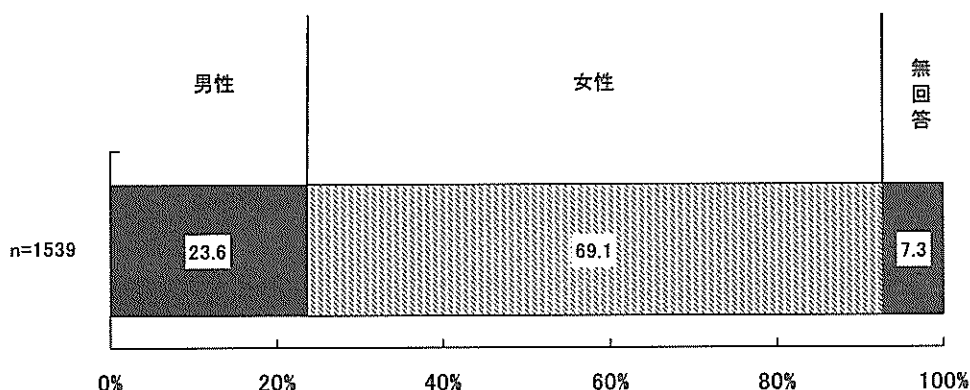


⁶ 前回調査では、「40代」が14.4%、「50代」が25.7%、「60代」が32.3%、「70代以上」が16.8%であった。

②代表者の性別

「女性」の代表者が 69.1%と大半を占めており、「男性」の代表者は 23.6%となっている。前回調査と同様の結果であった⁷。

図表Ⅲ－ 13 代表者の性別(問4付問2)



<活動内容別>

現在行っているボランティア活動の内容について、「人に対して直接サービスを提供している」か、「人との交流を行っている」か、「社会的に不利な立場におかれた人々への支援活動」を行っているか、「特定の人々を対象とするよりは、テーマにそった活動を行っている」かの別に回答してもらっている。この活動内容をもとにして、以下のような活動内容別に類型をつくり、その類型ごとに代表者の性別について差異があるかについてみた。

図表Ⅲ－ 14 活動内容の類型⁸

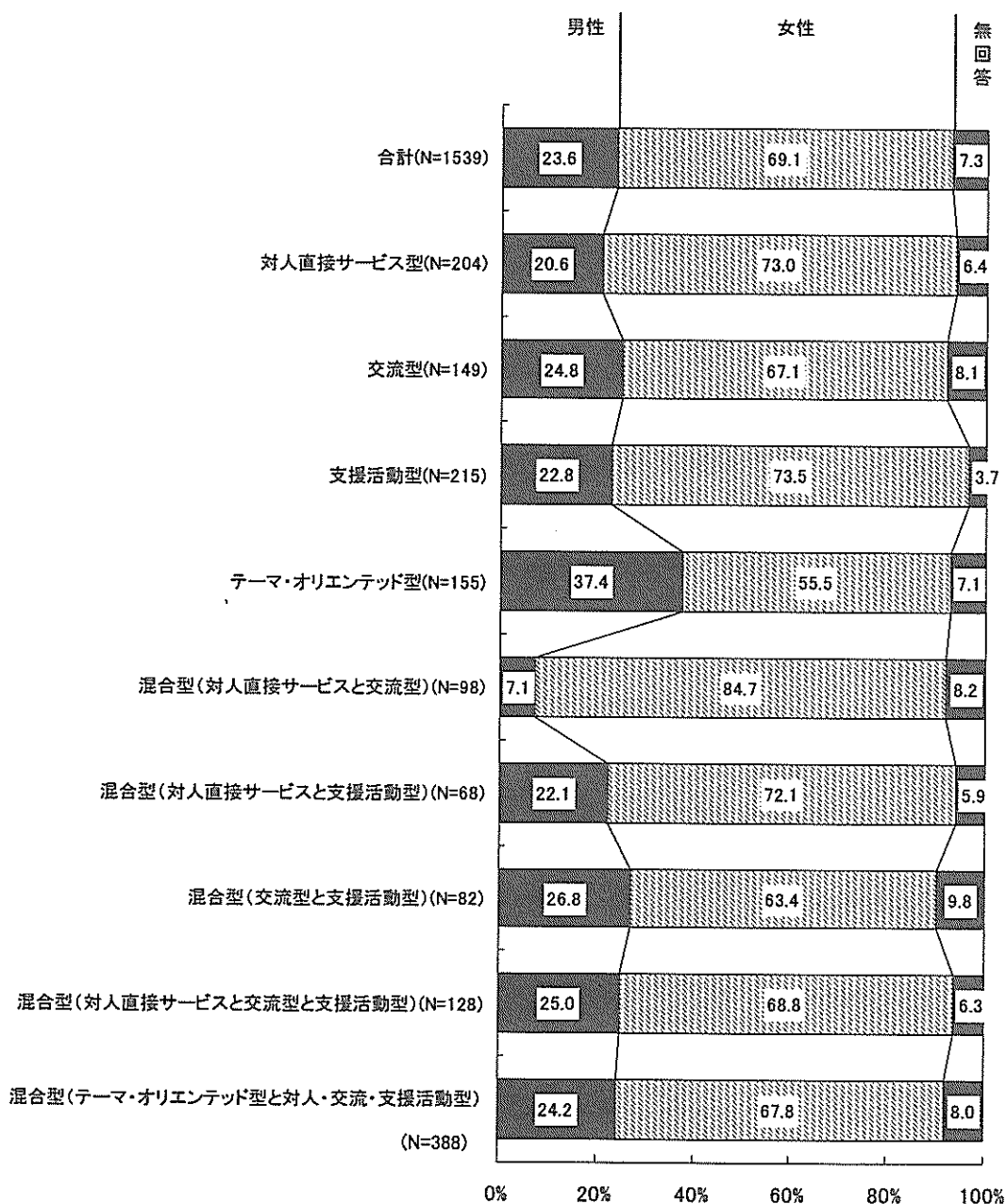
類型		活動内容の選択肢(問7)
単一の活動内容の場合	対人直接サービス型	人に対して直接サービスを提供している
	交流型	人との交流を行っている
	支援活動型	社会的に不利な立場におかれた人々への支援活動
	テーマ・オリエンテッド型	特定の人々を対象とするよりは、テーマにそった活動を行っている
複数の活動内容の場合	混合型(対人直接サービスと交流型)	人に対して直接サービスを提供している、および、人との交流を行っている
	混合型(対人直接サービスと支援活動型)	人に対して直接サービスを提供している、および、社会的に不利な立場におかれた人々への支援活動
	混合型(交流型と支援活動型)	人との交流を行っている、および、社会的に不利な立場におかれた人々への支援活動
	混合型(対人直接サービスと交流型と支援活動型)	人に対して直接サービスを提供している、人との交流を行っている、社会的に不利な立場におかれた人々への支援活動のすべてを行っている
	混合型(テーマオリエンテッド型と対人・交流・支援活動型)	特定の人々を対象とするよりはテーマにそった活動を行っている、および、人に対して直接サービスを提供・人との交流・社会的に不利な立場におかれた人々への支援活動のうちいずれかを行っている

⁷ 前回調査では、「女性」の代表者が71.3%、「男性」の代表者が27.4%であった。

⁸ この類型以外にも選択肢による組み合わせが可能であるが、サンプル数が少ない類型を割愛している。

このように活動内容別にみると、「テーマ・オリエンテッド型」の活動を行っている団体・グループの代表は、「男性」が37.4%、「女性」が55.5%となっており、他の類型よりも男性が代表者である割合が高い。これ以外の類型では、女性の代表者の割合が7割前後、男性の割合が2～3割前後とほぼ同じ水準となっている。特に、対人直接サービスと交流型の混合型では、女性の代表者の割合が84.7%と高くなっている。

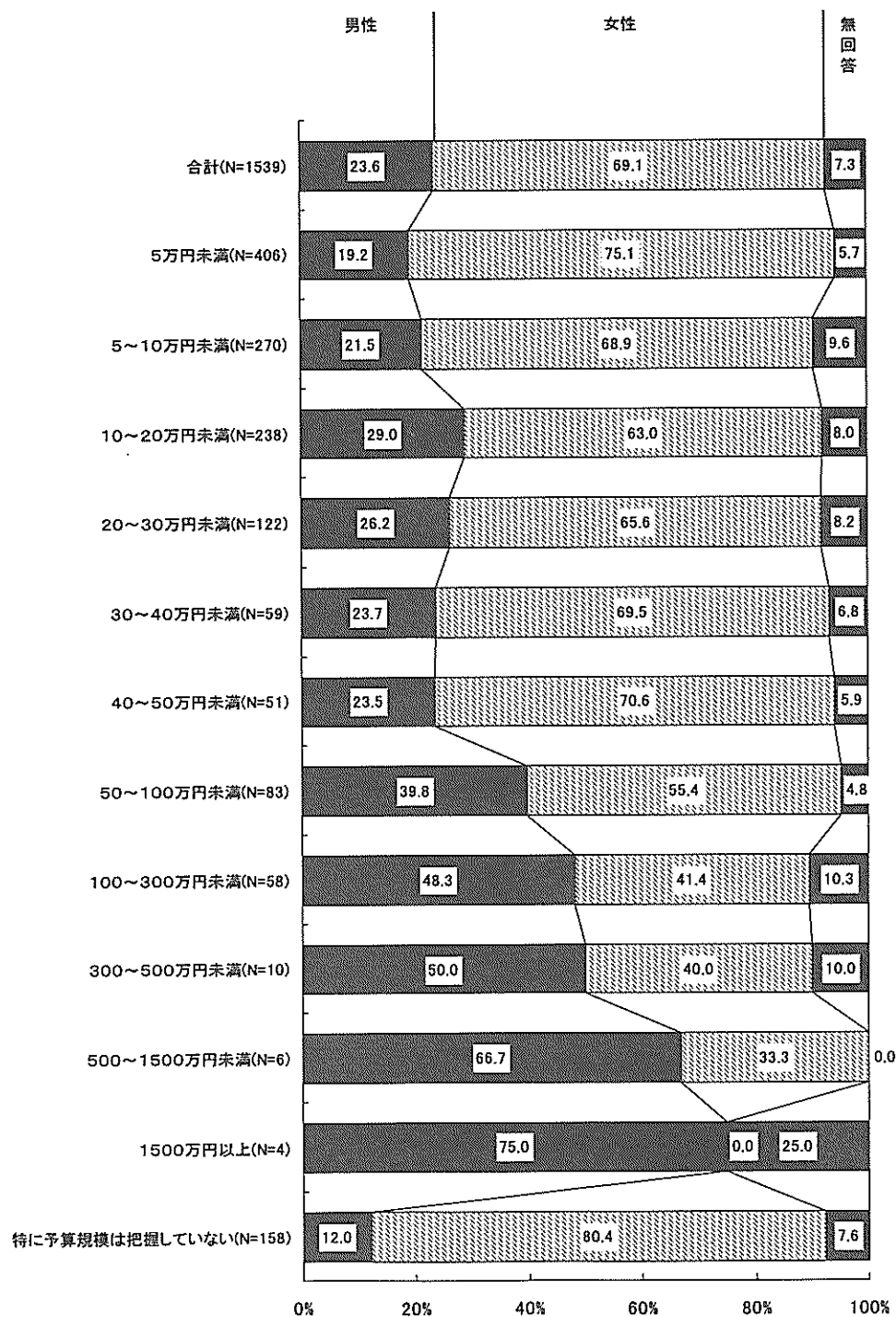
図表Ⅲ－15 <活動内容別>代表者の性別(問4付問2)



＜予算規模別＞

「50万円未満」の団体・グループでは、女性の代表者の割合が6～7割、男性の割合が2～3割とほぼ同じ水準となっている。しかし、「50万円以上」の予算規模の団体・グループでは、男性の代表者の割合が多くなっている。「100～300万円未満」の予算規模の団体・グループでは男性の代表者が48.3%、女性が41.4%となっており、男性の割合が高くなっている。

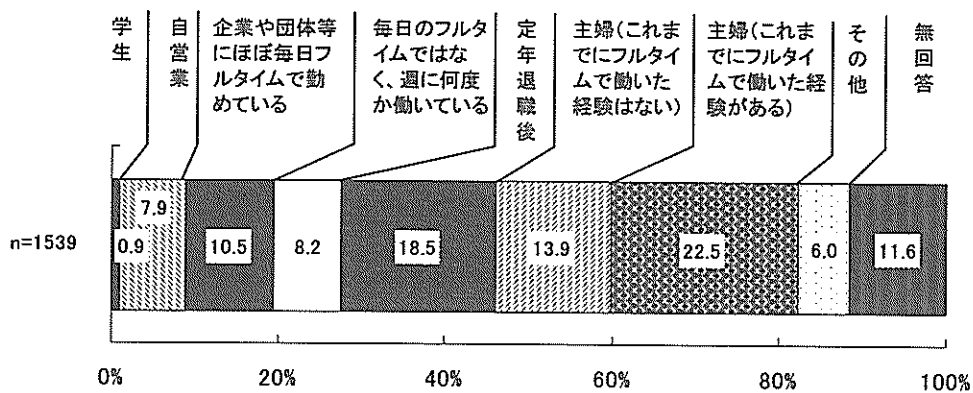
図表Ⅲ－16 <予算規模別>代表者の性別(問4付問2)



③代表者の職業

「主婦(これまでにフルタイムで働いた経験がある)」が22.5%、「定年退職後」の人が18.5%、「主婦(これまでにフルタイムで働いた経験はない)」が13.9%となっている。主婦のなかでは、フルタイムでの就労経験のある女性が代表となっている割合が高くなっている。

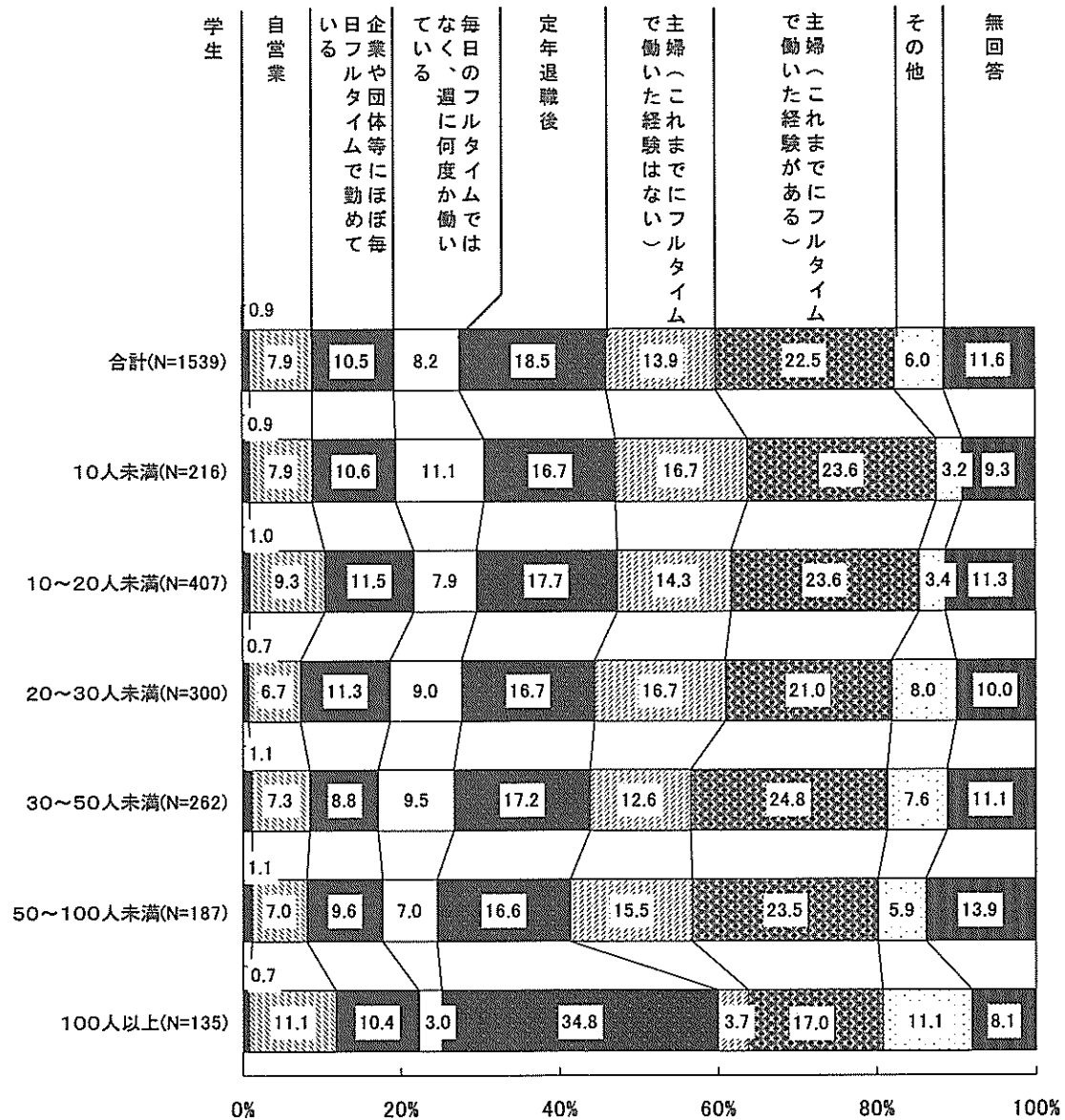
図表Ⅲ－17 代表者の職業(問4付問3)



<メンバー数の規模別>

100 人未満までの団体・グループでは、全体と同様の傾向にあるが、100 人以上の団体では「定年退職後」の代表者の割合が高くなっている。すなわち、100 人以上のメンバー規模の団体・グループでは、「定年退職後」の代表者の割合が 34.8%と高くなっており、代わって、「主婦(これまでにフルタイムで働いた経験はない)」の代表者の割合が 3.7%と低くなっている。

図表Ⅲ－18 <メンバー数の規模別>代表者の職業(問4付問3)

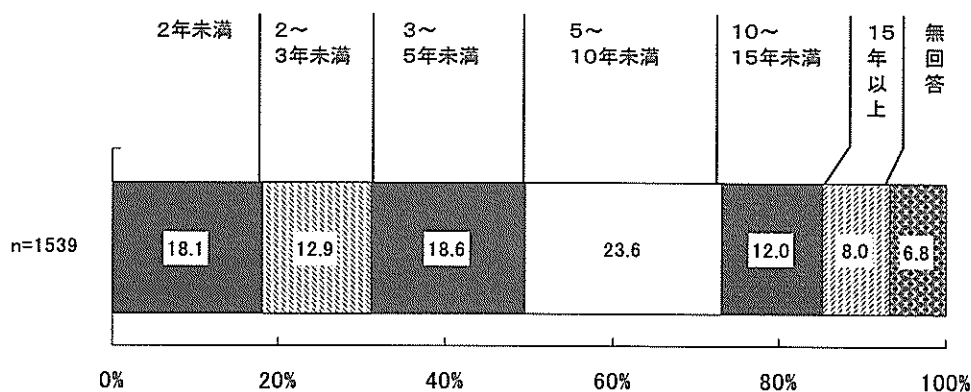


④代表者の就任年数

「5～10年未満」が23.6%、「3～5年未満」が18.6%、「2年未満」が18.1%となっている。一方、「10～15年未満」が12.0%、「15年以上」が8.0%となっており、合計で20.0%の団体・グループで代表者の就任年数が10年以上の長期にわたっていることがわかる。

前回調査の代表者の就任年数は、大半が10年未満である⁹。

図表Ⅲ－19 代表者の就任年数(問4付問4)



代表者の就任年数が長期化しているかどうかの観点から、下記のような計算を行って、「長期継続型の団体」と「それ以外の団体」に分類を行った。

<代表就任年数の長期化の基準>

「現在の代表者が代表になってからの通算年数(代表者の就任年数、問4付問4)」
 \div 「団体・グループの活動年数(問2)」 \times 100

↓

- ①計算結果が70以上の場合(活動年数の70%以上の年数にわたって、現在の代表者が代表を勤めている) → 「長期継続型の団体」
- ②計算結果が70未満の場合(活動年数の70%未満の年数にわたって、現在の代表者が代表を勤めている) → 「それ以外の団体」

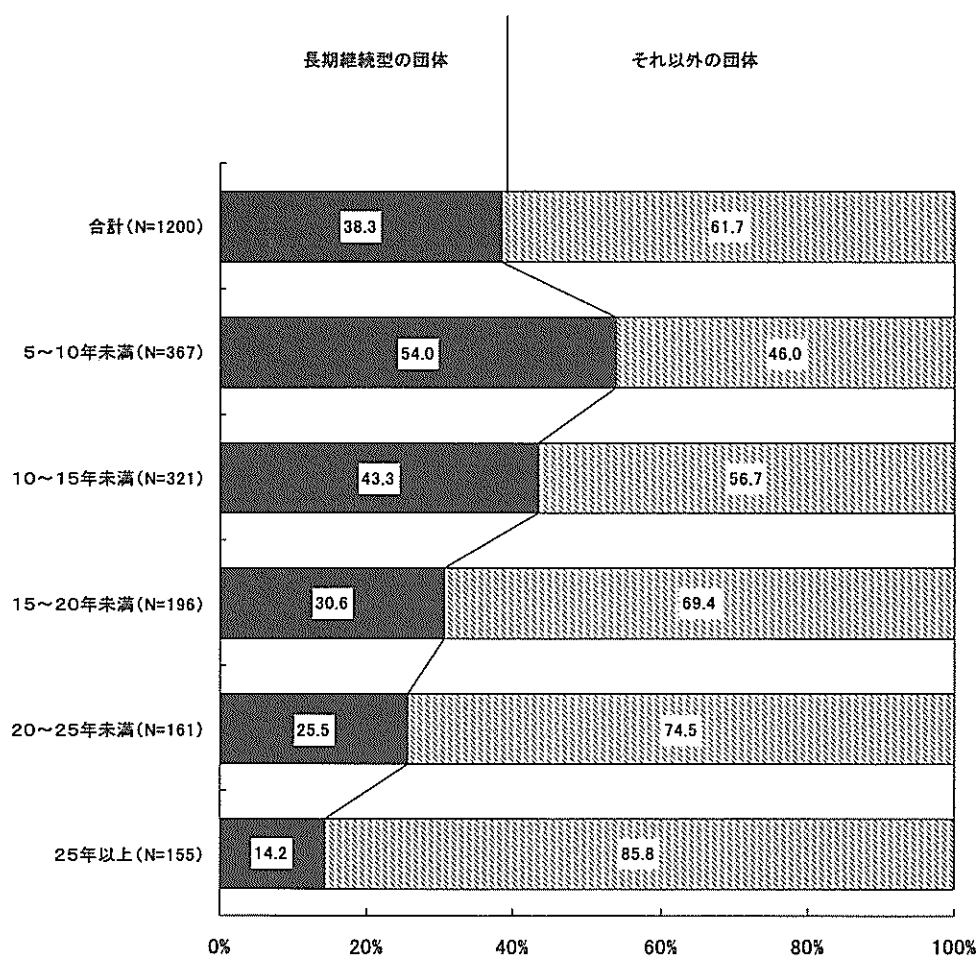
なお、上記の分類は、活動年数が5年以上の団体のみを対象としている。

⁹ 前回調査では、「2年未満」が28.6%、「2～3年未満」が14.4%、「3～5年未満」が16.3%、「5～10年未満」が40.2%、「10年以上」が0.1%であった。

このような分類を設定して、団体・グループの活動年数別に、「長期継続型の団体」と「それ以外の団体」の割合をみた。

この結果、団体・グループの活動年数の70%以上の長期にわたって現在の代表者が代表を勤めている「長期継続型の団体」の割合は、「5～10年未満」の活動年数の団体・グループで54.0%、「10～15年未満」の団体・グループで43.3%と高くなっている。15年以上の活動年数の団体・グループでは、「長期継続型の団体」の割合は減少していく傾向にあり、「25年以上」の団体・グループでは14.2%となっている。

図表Ⅲ－20 <活動年数別>代表者の長期継続化の有無(問4付問4×問2)



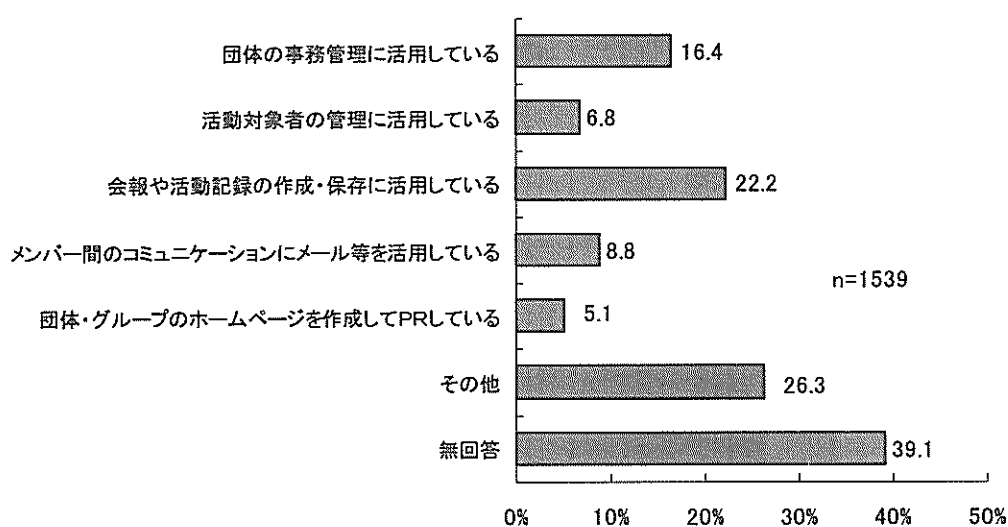
(5) 情報技術の利用状況

団体運営や活動にコンピュータやインターネット等の情報技術を活用しているかについてたずねたところ、「会報や活動記録の作成・保存に活用している」が 22.2%、「団体の事務管理に活用している」が 16.4%となっている。

「その他」が 26.3%となっており、この内容として、「必要ない」「パソコン点訳を行っている」「現在活用を検討中である」などが挙げられていた。

また、「無回答」が 39.1%と多くなっているが、この多くは情報技術を活用していない団体・グループであると考えられる。

図表Ⅲ－21 団体運営や活動への情報技術の活用状況(問 14、複数回答)



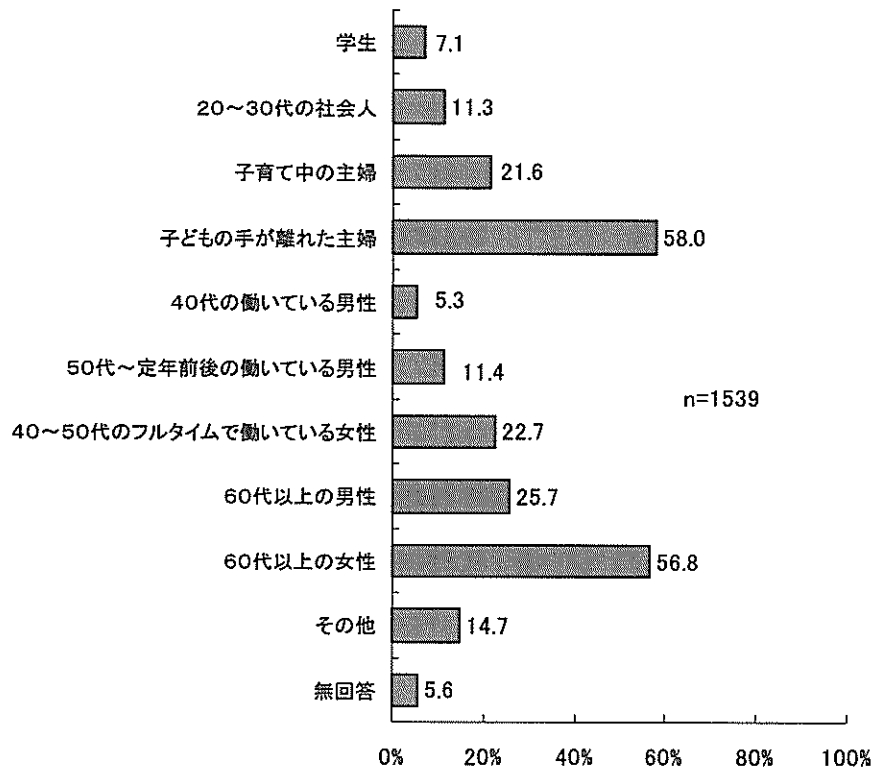
2. メンバー構成

(1) 主要メンバー層

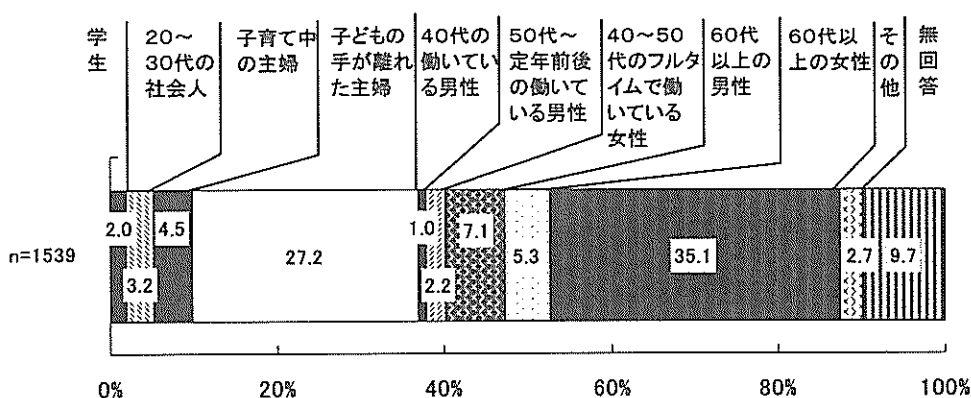
「子どもの手が離れた主婦」が58.0%、「60代以上の女性」が56.8%となっており、この2つの層が主要メンバーとなっている団体が多い。また、「60代以上の男性」が25.7%、「40～50代のフルタイムで働いている女性」が22.7%、「子育て中の主婦」が21.6%と続いており、定年退職後の男性や、仕事をもっている中年女性、子育て中の主婦といった層の参加もみられることがわかる。

最も多いメンバー層も、主なメンバー層と同様に、「60代以上の女性」が35.1%、「子どもの手が離れた主婦」が27.2%となっている。

図表Ⅲ－22 主なメンバー層(問5付問1、複数回答)



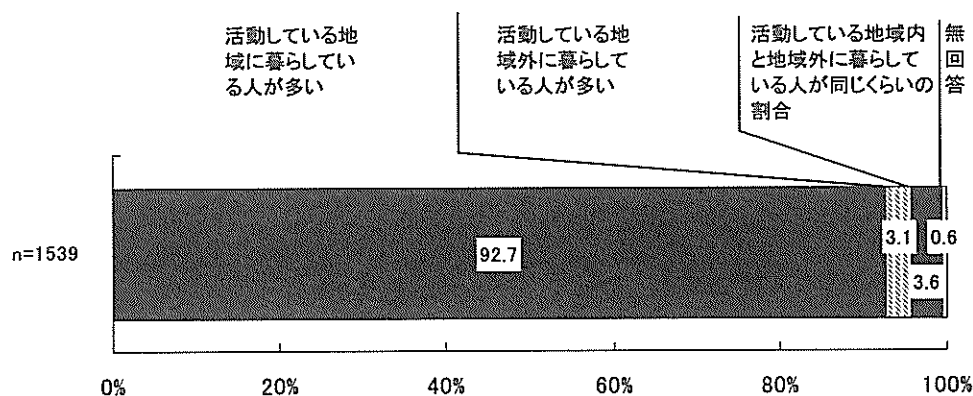
図表Ⅲ－23 最も多いメンバー層(問5付問1)



(2) 活動している地域とメンバーの居住地

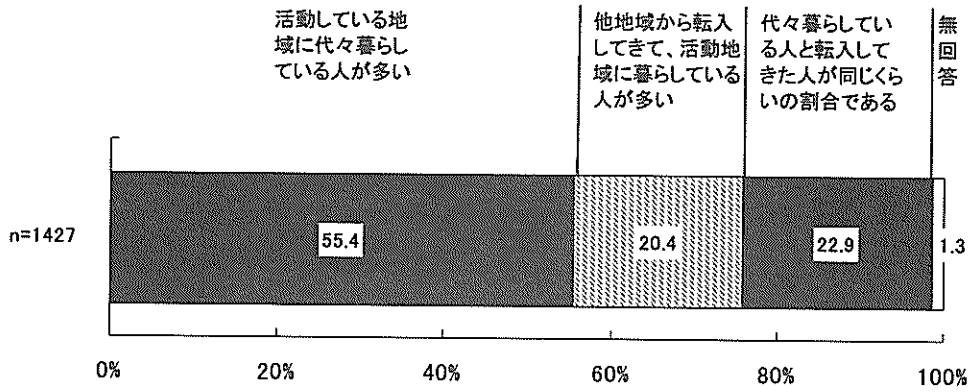
団体・グループが活動している地域とメンバーの居住地の関係をみると、「活動している地域に暮らしている人が多い」と答えた団体が 92.7%と大半を占めた。

図表Ⅲ－24 団体・グループの活動地域とメンバーの居住地の関係(問5付問2)



「活動している地域に暮らしている人が多い」と答えた団体・グループについて、メンバーがその地域にどのくらいの期間居住しているかを聞いたところ、「活動している地域に代々暮らしている人が多い」が 55.4%と過半数を占めており、「代々暮らしている人と転入してきた人が同じくらいの割合である」が 22.9%、「他地域から転入してきて、活動地域に暮らしている人が多い」が 20.4%となっている。団体・グループの活動地域に代々暮らしている人が活動メンバーの多くを占めている一方で、他地域から転入し新住民として地域でボランティア活動を行っている人が主力の団体や、両者がともに活動している団体が一定割合いることがわかる。

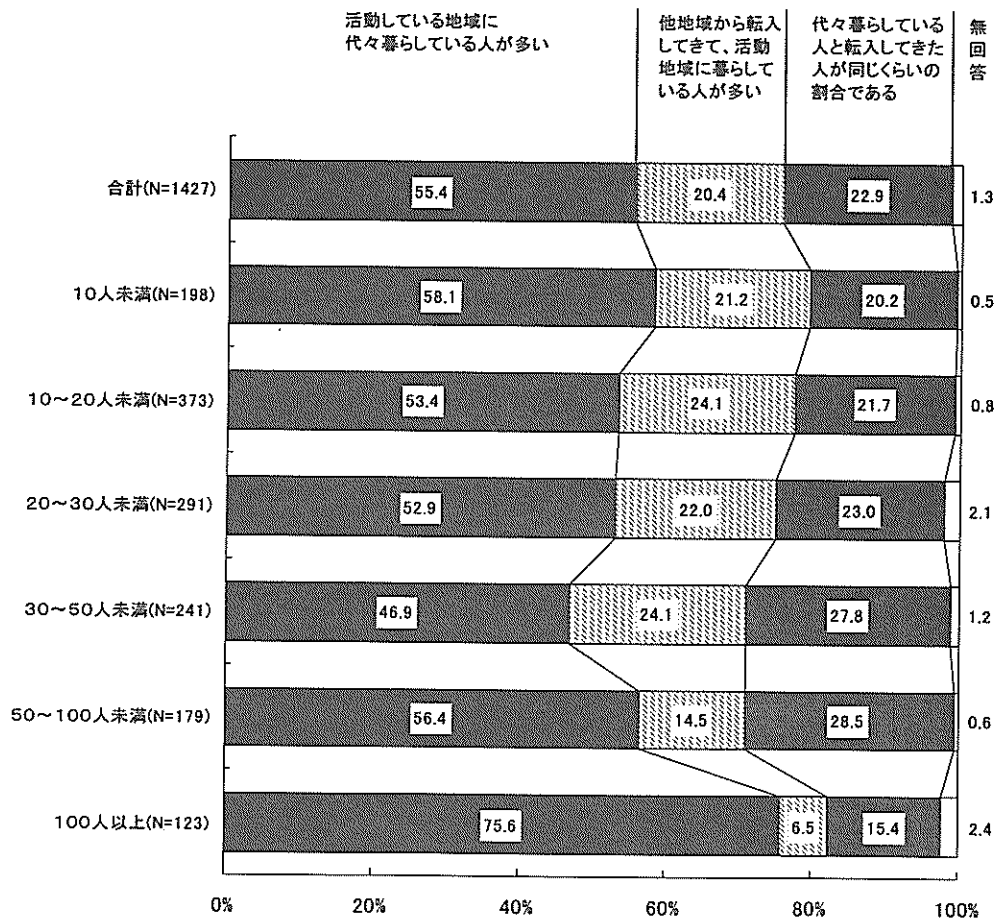
図表Ⅲ－ 25 【活動地域に長く暮らしているメンバーが多い団体・グループ】
メンバーが活動地域に住んでいる長さ(問5付問3)



<メンバー数の規模別>

「100人以上」では、「活動している地域に代々暮らしている人が多い」と答えた団体・グループが75.6%と多くなっている。

図表Ⅲ－ 26 【活動地域に長く暮らしているメンバーが多い団体・グループ】
<メンバー数の規模別>メンバーが活動地域に住んでいる長さ(問5付問3)

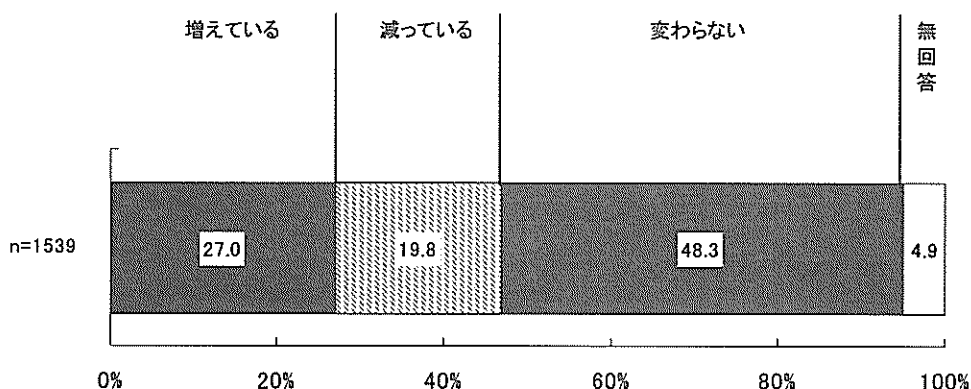


(3) メンバー数の増減

1年前と比較して、メンバー数は「変わらない」と答えた団体・グループが 48.3%、「増えている」が 27.0%、「減っている」が 19.8%となっている。

前回調査では1年前より「増えている」と答えた団体が 40.1%に達しており、今回調査ではメンバー数を増やしている団体が減少していることがわかる¹⁰。

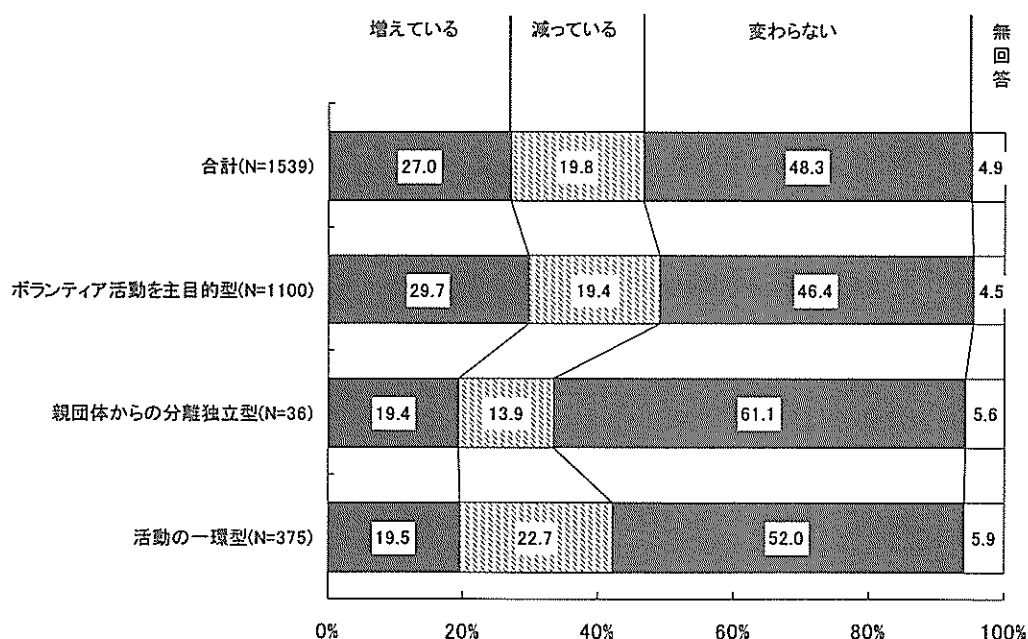
図表Ⅲ－ 27 1年前と比較したメンバー数の増減(問5付問4)



<団体の目的別¹¹>

主目的型で1年前よりもメンバーが増えていると答えた団体・グループが 29.7%と高くなっている。一方、「活動の一環型」では、「減っている」と答えた団体・グループが 22.7%となっており、他の類型よりも若干高くなっている。

図表Ⅲ－ 28 <団体の目的別>1年前と比較したメンバー数の増減(問5付問4)



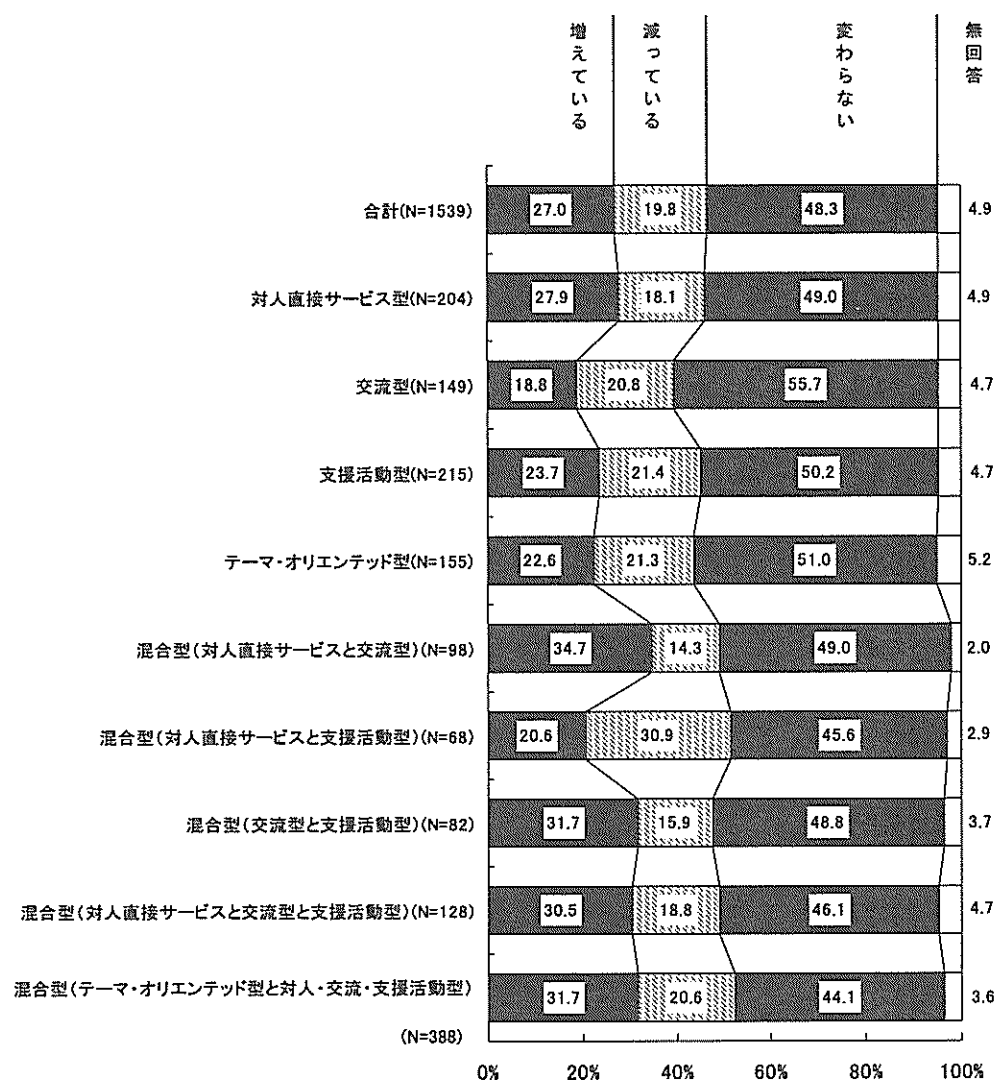
¹⁰ 前回調査では、1年前と比較して会員数が「増えている」団体が40.1%、「減っている」団体が14.5%、「変わらない」団体が44.4%であった。

¹¹ 親団体からの分離独立型はサンプル数が少ないため、分析の対象としない(以下、同じ)。

<活動内容別>

おおむね、混合型の活動を行っている団体・グループでは、「1年前と比較してメンバーが増えている」と答えている割合が3割を超えている。特に、対人直接サービスと交流の混合型の活動を行っている団体・グループでは、その割合が 34.7%になっている。ただし、対人直接サービスと支援活動の混合型では、「減っている」と答えた団体・グループの割合が 30.9%となっており、他の類型よりも高くなっている。

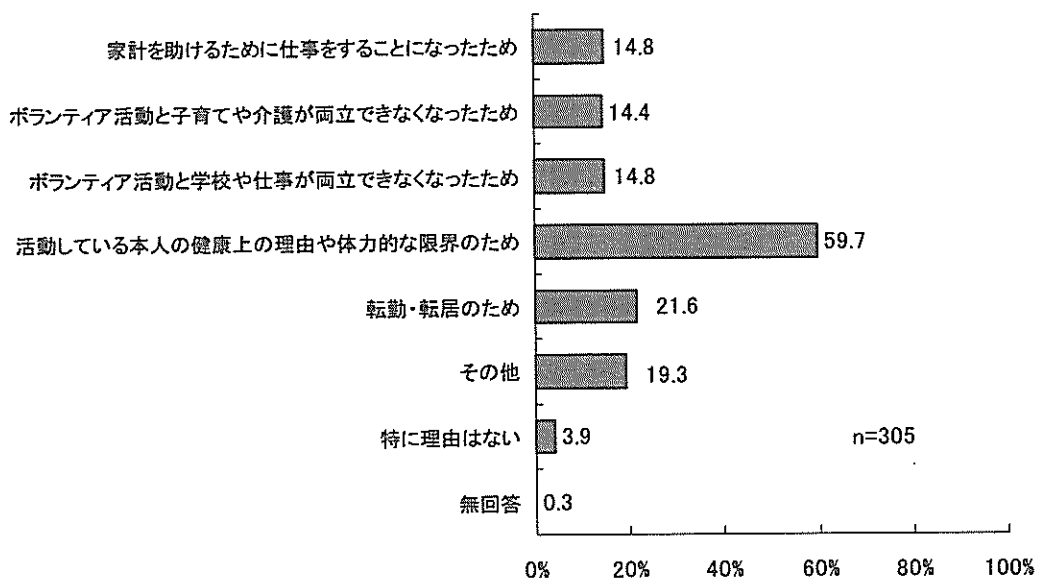
図表Ⅲ－ 29 <活動内容別>1年前と比較したメンバー数の増減(問5付問4)



1年前と比較してメンバー数が減った理由では、「活動している本人の健康上の理由や体力的な限界のため」が 59.7%と最も多くなっている。次いで、「転勤・転居のため」が 21.6%、「その他」が 19.3%となっている。「その他」の具体的な内容は、「人間関係が問題となったため」「活動に興味をもてなくなったため」「他のボランティア活動が忙しくなったため」などが挙げられている。

図表Ⅲ－ 30 【1年前と比べてメンバー数が減った団体・グループ】

メンバーが活動から離れた理由(問5付問5、複数回答)

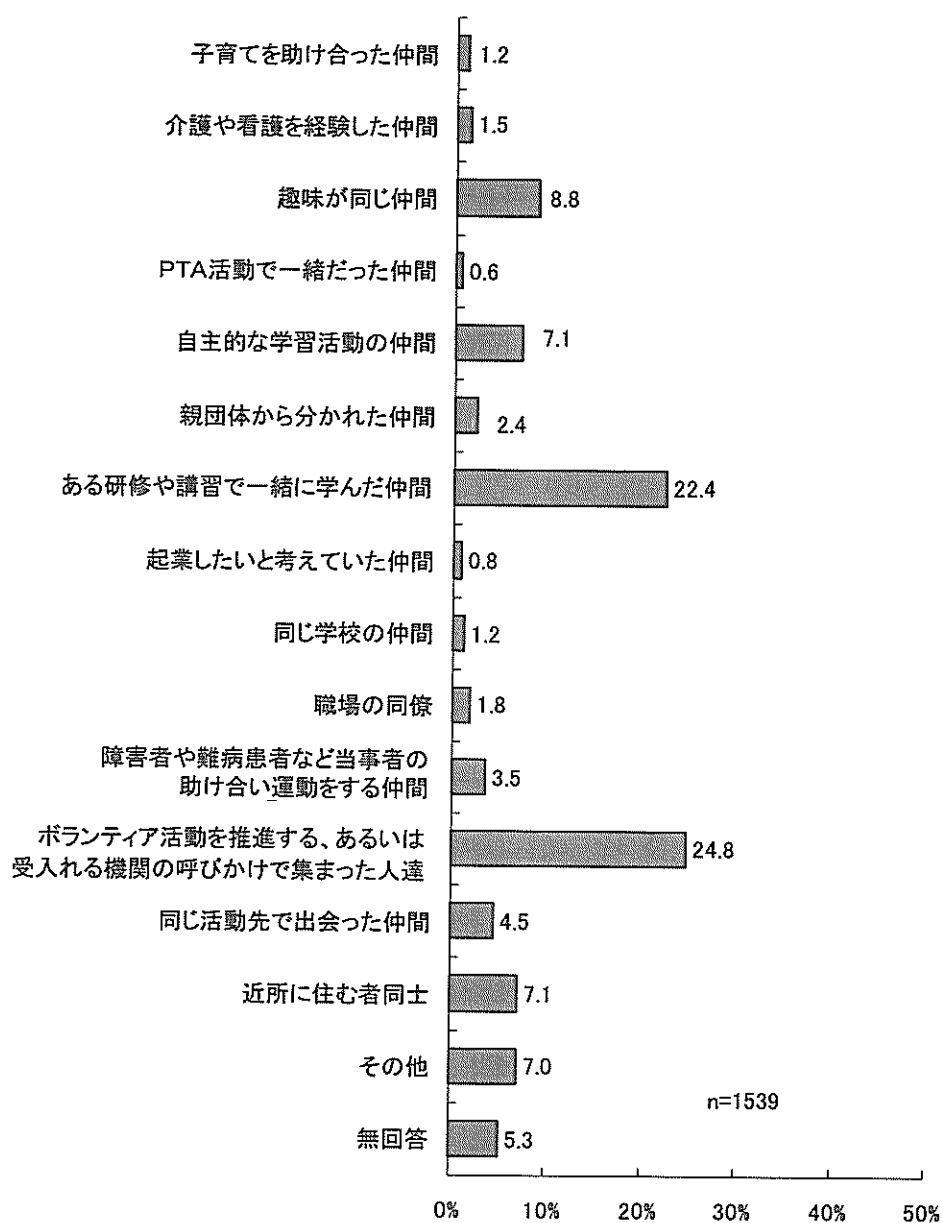


3. 団体の立ち上げ時期について

(1) 立ち上げメンバー

団体・グループを立ち上げたメンバーの共通点を見ると、「ボランティア活動を推進、受け入れる機関の呼びかけで集まった人達」が24.8%、「ある研修や講座と一緒に学んだ仲間」が22.4%と多くなっている。

図表Ⅲ－31 団体・グループを立ち上げたメンバーの共通点(問6、複数回答)



<団体の目的別>

「主目的型」の団体・グループでは、「ある研修や講座で一緒に学んだ仲間」の割合が 25.9%、「ボランティア活動を推進、受け入れる機関の呼びかけで集まった人達」が 30.1%となっており、「活動の一環型団体・グループ」よりも高い割合となっている。

「活動の一環型団体・グループ」では、「趣味が同じ仲間」の割合が 19.2%となっており、「主目的型」よりも高くなっている。

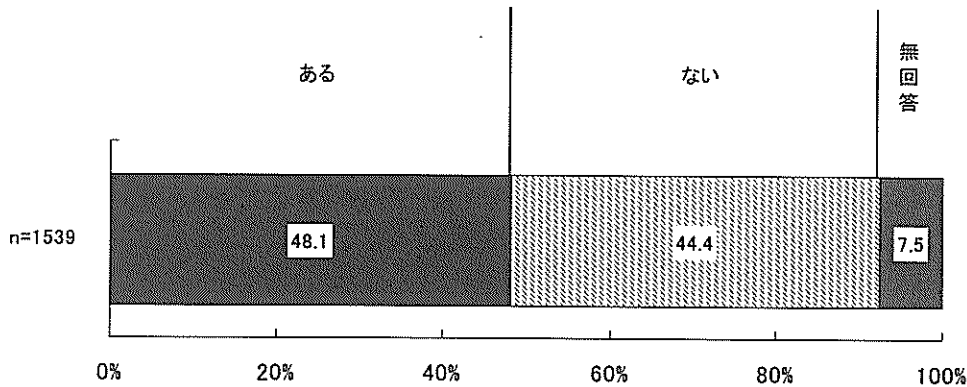
図表Ⅲ－ 32 <団体の目的別>団体・グループを立ち上げたメンバーの共通点(問6、複数回答)

団体の活動目的	調査数	子育てを助け合った仲間	介護や看護を経験した仲間	趣味が同じ仲間	P T A 活動で一緒だった仲間	自主的な学習活動の仲間	親団体から分かれた仲間	にある研修や講座で一緒に学んだ仲間	起業したいと考えている仲間	同じ学校の仲間	職場の同僚	当事者や障害者などの仲間	ボランティア活動で集まった人達	同じ活動先で出会った仲間	近所に住む者同士	その他	無回答
全体	1539 100.0	18 1.2	23 1.5	135 8.8	10 0.6	110 7.1	37 2.4	344 22.4	12 0.8	19 1.2	27 1.8	54 3.5	382 24.8	70 4.5	109 7.1	107 7.0	82 5.3
ボランティア活動を「主目的型」	1100 100.0	13 1.2	17 1.5	53 4.8	8 0.7	73 6.6	20 1.8	285 25.9	9 0.8	13 1.2	16 1.5	33 3.0	331 30.1	45 4.1	71 6.5	56 5.1	57 5.2
親団体からの「分離独立型」	36 100.0	2 5.6	-	6 16.7	-	2 5.6	4 11.1	3 8.3	1 2.8	-	-	1 2.8	6 16.7	5 13.9	5 13.9	-	1 2.8
「活動の一環型」	375 100.0	3 0.8	4 1.1	72 19.2	2 0.5	32 8.5	13 3.5	50 13.3	2 0.5	6 1.6	11 2.9	20 5.3	38 10.1	20 5.3	30 8.0	49 13.1	23 6.1

(2) 立ち上げ時の苦勞

団体・グループの立ち上げ時に苦勞したことが「ある」とした団体は 48.1%であり、苦勞は「ない」と答えた団体が 44.4%とほぼ同じ水準であった。

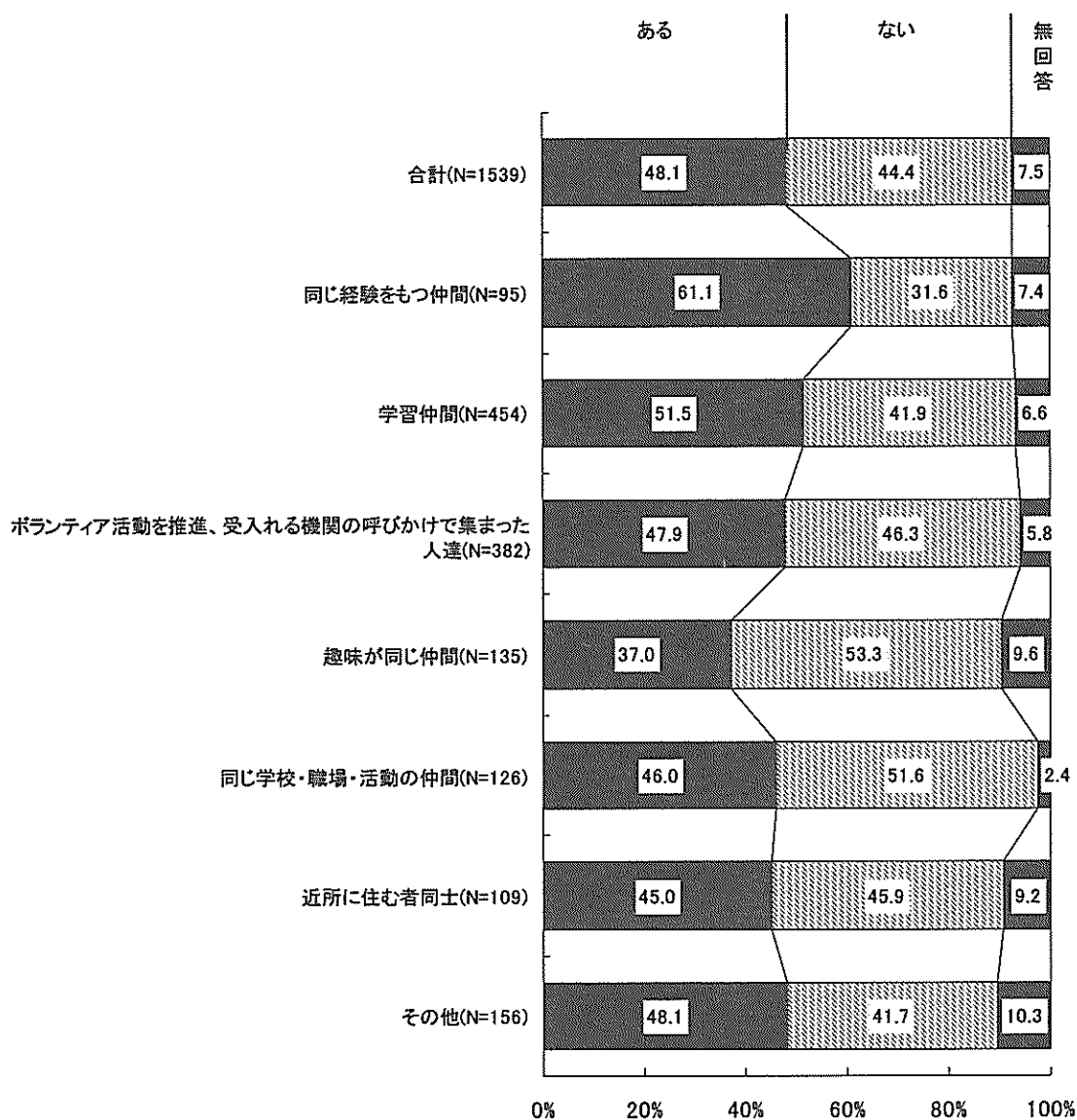
図表Ⅲ－ 33 活動開始前後に苦勞したことの有無(問 15)



＜立ち上げ時のメンバー別＞

活動開始前後に苦勞したことが「ある」と答えた割合は、「同じ経験をもつ仲間」が立ち上げ時のメンバーである団体・グループで 61.1%と高くなっている。一方、「趣味が同じ仲間」が立ち上げ時のメンバーである団体・グループでは、その割合は 37.0%と低くなっている。

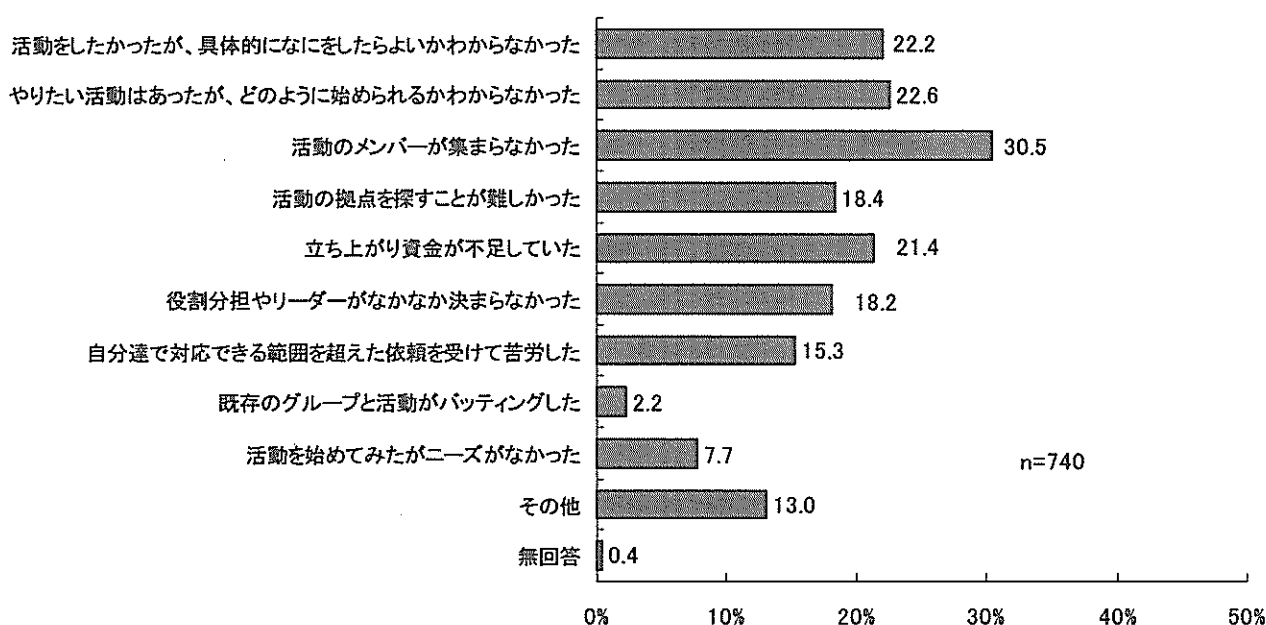
図表Ⅲ－ 34 ＜立ち上げ時のメンバー別＞活動開始前後に苦勞したことの有無(問 15)



団体・グループの立ち上げ時に苦労したことが「ある」団体に、その内容をきいたところ、「活動のメンバーが集まらなかった」が 30.5%、「やりたい活動はあったが、どのように始められるかわからなかった」が 22.6%、「ボランティア活動をしたかったが、具体的になにをしたらよいかわからなかった」が 22.2%、「立ち上がり資金が不足していた」が 21.4%となっている。

前回調査においても、「立ち上がり資金が不足していた」や「活動の参加者が得られなかった」が活動開始の際の苦労点として上げられている¹²。

図表Ⅲ－ 35 【活動開始前後に苦労したことがある団体・グループ】
苦労したこと(問 15 付問1、複数回答)

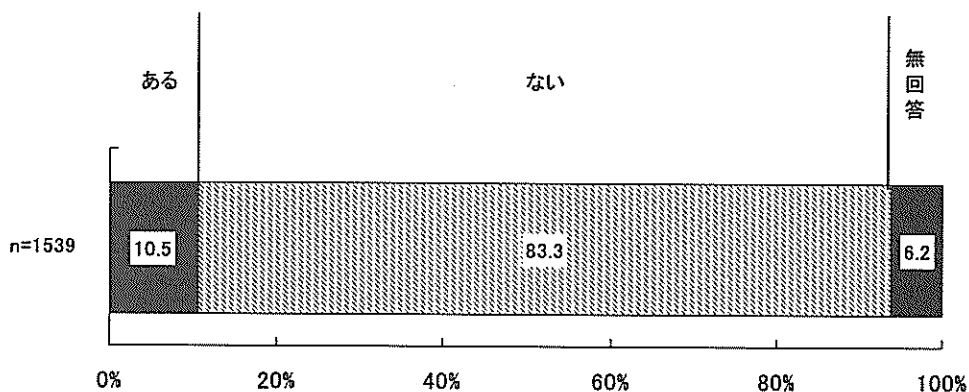


¹² 前回調査では、活動開始の際の苦労点の選択肢のなかに「特にない」の選択肢も入れたことから、個々の苦労点の割合は低くなっている。「特にない」が33.4%、「立ち上がり資金の不足」が18.3%、「活動の参加者が得られなかった」が14.1%などの結果となった。

(3) 活動の中断

これまでに団体・グループとして活動をやめよう、あるいは一時休止しようとしたことがあるかについてきいたところ、そのような経験は「ない」と答えた団体・グループが 83.3%と大半を占めている。「ある」と答えた団体・グループは、10.5%であった。

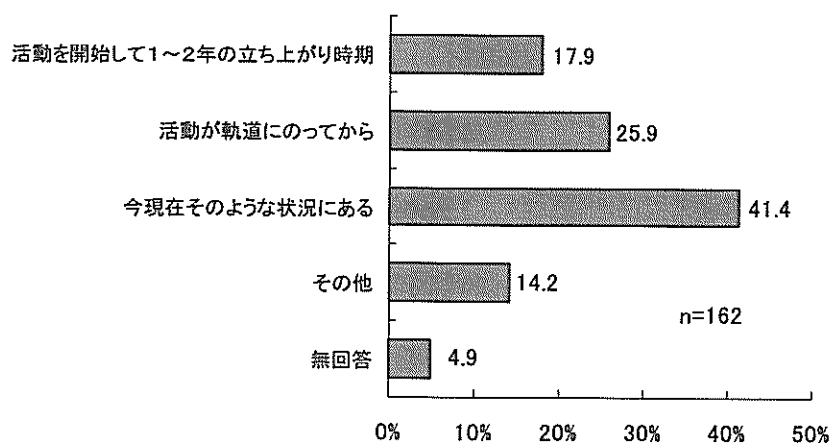
図表Ⅲ－36 これまでに活動をやめよう、あるいは一時休止しようとしたことの有無(問16)



①中断しようとした時期

これまでに団体・グループとして活動をやめよう、あるいは一時休止しようとしたことが「ある」団体・グループに、その時期についてきいたところ、「今現在そのような状況にある」¹³が 41.4%、「活動が軌道にのってから」が 25.9%、「活動を開始して1～2年の立ち上がり時期」が 17.9%となっている。

図表Ⅲ－37 【これまでに団体・グループとして活動をやめよう、あるいは一時休止しようとしたことがある団体・グループ】 そうしようとした時期(問16付問1、複数回答)



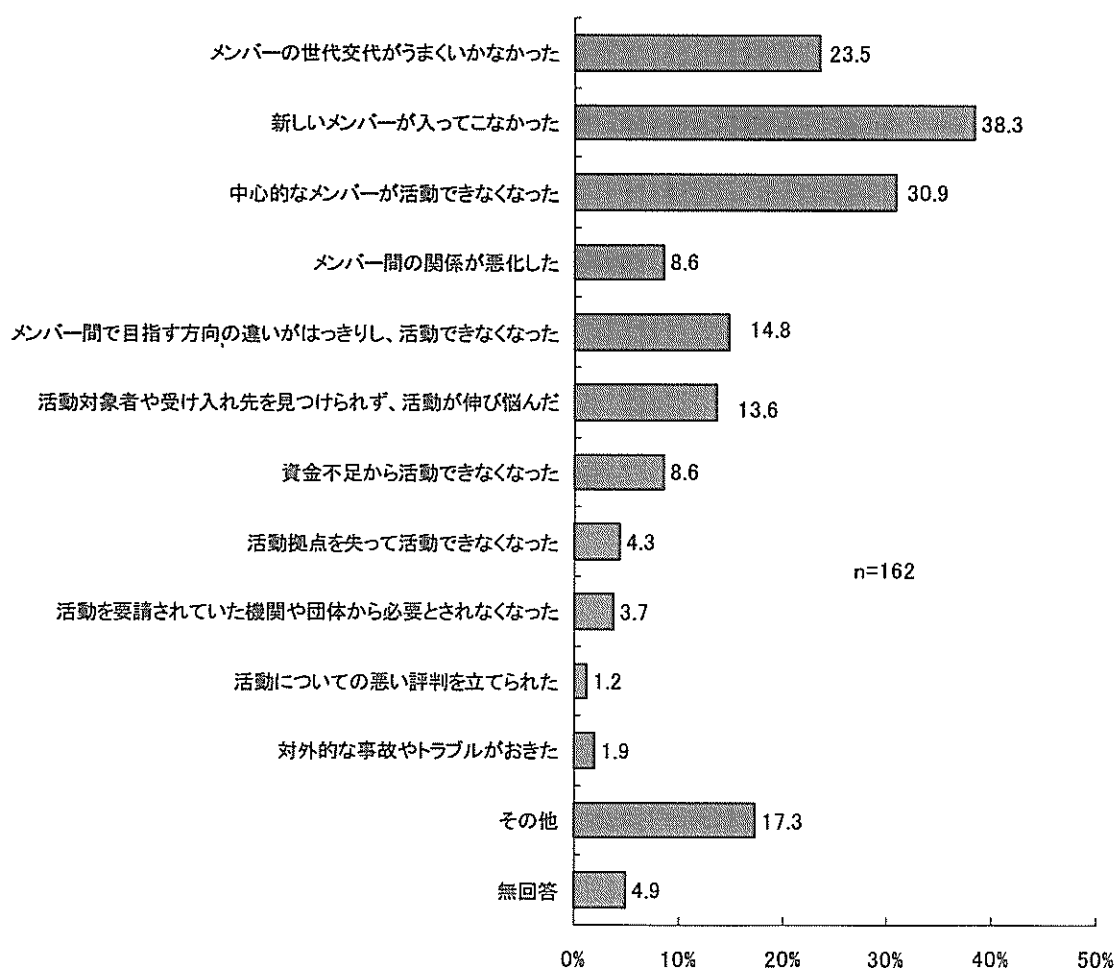
¹³ 「今現在そのような状況にある」と答えた団体・グループの活動年数をみるためにクロス集計を行ったが、活動年数の類型ごとのサンプル数が9～41と少なく分析の対象とすることはできなかった。統計的に有意な結果ではないが、参考までに集計結果を紹介すると、「今現在そのような状況にある」と答えた割合は活動年数に関わらず、全体と同様の割合であった。

②中断しようとした理由

これまでに団体・グループとして活動をやめよう、あるいは一時休止しようとしたことが「ある」団体・グループに、その理由をきいたところ、「新しいメンバーが入ってこなかった」が 38.3%、「中心的なメンバーが活動できなくなった」が 30.9%、「メンバーの世代交代がうまくいかなかった」が 23.5%と多くなっており、メンバーの問題が中心となっていることがわかる。

「その他」が 17.3%となっており、その内容は、「リーダーの負担が大きくなってしまった」「リーダーが決まらなかった」「活動対象者からのニーズが減少した」「事故を起こしてしまったため」などが挙げられている。

図表Ⅲ－ 38 【これまでに団体・グループとして活動をやめよう、あるいは一時休止しようとしたことがある団体・グループ】 その理由(問 16 付問2、複数回答)

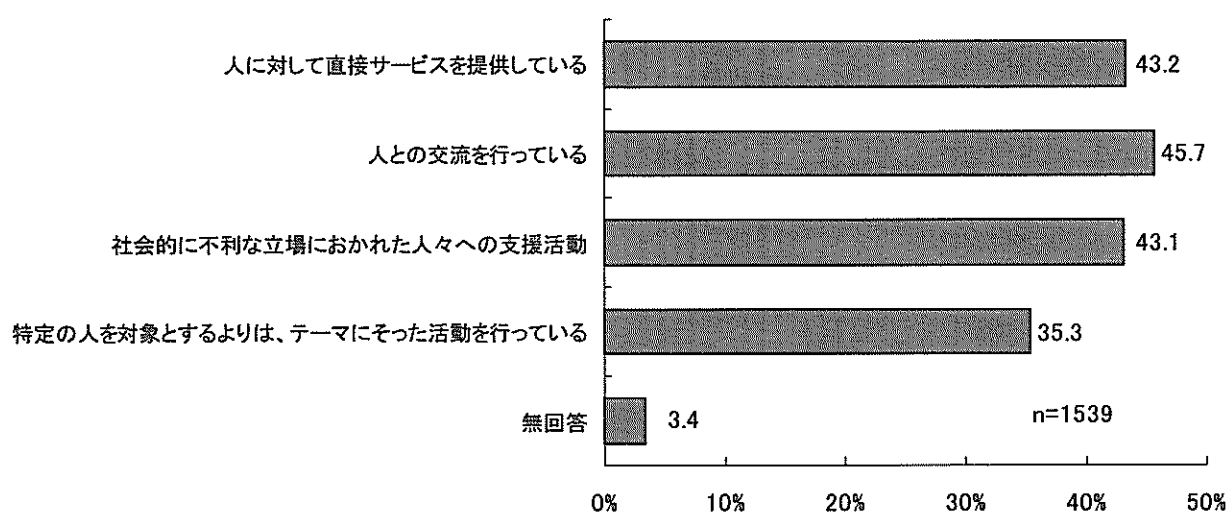


4. 現在の活動について

(1) 活動内容

「人に対して直接サービスを提供している」(以下、「対人直接サービス型」)が 43.2%、「人との交流を行っている」(以下、「交流型」)が 45.7%、「社会的に不利な立場におかれた人々への支援活動」(以下、「支援活動型」)が 43.1%、「特定の人を対象とするよりは、テーマにそった活動を行っている」(以下、「テーマ・オリエンテッド型」)が 35.3%となっている。

図表Ⅲ－ 39 活動内容(問7、複数回答)



<活動内容の類型化>

次図表のように、活動内容の類型化を行った。

図表Ⅲ－40 活動内容の類型¹⁴（再掲）

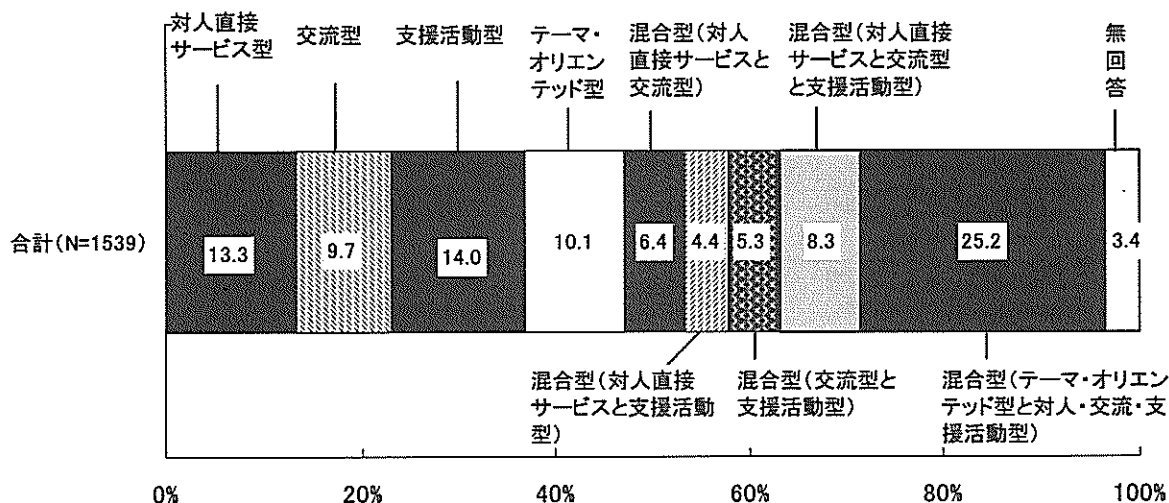
類型		活動内容の選択肢(問7)
単一の活動内容の場合	対人直接サービス型	人に対して直接サービスを提供している
	交流型	人との交流を行っている
	支援活動型	社会的に不利な立場におかれた人々への支援活動
	テーマ・オリエンテッド型	特定の人々を対象とするよりは、テーマにそった活動を行っている
複数の活動内容の場合	混合型(対人直接サービス型と交流型)	人に対して直接サービスを提供している、および、人との交流を行っている
	混合型(対人直接サービス型と支援活動型)	人に対して直接サービスを提供している、および、社会的に不利な立場におかれた人々への支援活動
	混合型(交流型と支援活動型)	人との交流を行っている、および、社会的に不利な立場におかれた人々への支援活動
	混合型(対人直接サービス型と交流型と支援活動型)	人に対して直接サービスを提供している、人との交流を行っている、社会的に不利な立場におかれた人々への支援活動のすべてを行っている
	混合型(テーマオリエンテッド型と対人・交流・支援活動型)	特定の人々を対象とするよりはテーマにそった活動を行っている、および、人に対して直接サービスを提供・人との交流・社会的に不利な立場におかれた人々への支援活動のうちいずれかを行っている

上記の類型に基づいて集計すると、対人直接サービスだけを行っている団体・グループが13.3%、人との交流だけを行っている団体・グループが9.7%、支援活動のみを行っている団体・グループが14.0%、テーマにそった活動のみを行っている団体・グループが10.1%となっている。これらの単一の活動内容である団体・グループの割合は合計で47.1%となっている。

一方、対人直接サービスと交流の混合型は6.4%、対人直接サービスと支援活動の混合型は4.4%、交流と支援活動の混合型は5.3%、対人直接サービスと交流と支援活動の全てを行っている混合型は8.3%、テーマ・オリエンテッド型の活動と対人直接サービス・交流・支援活動のいずれかを行っている混合型は25.2%となっている。これらを合計した混合型の団体・グループは49.6%となっており、単一の活動内容である団体・グループとほぼ同じ水準であることがわかる。

¹⁴ この類型以外にも選択肢による組み合わせが可能であるが、サンプル数が少ない類型を割愛している。

図表Ⅲ－ 41 活動内容(問7、複数回答)の類型



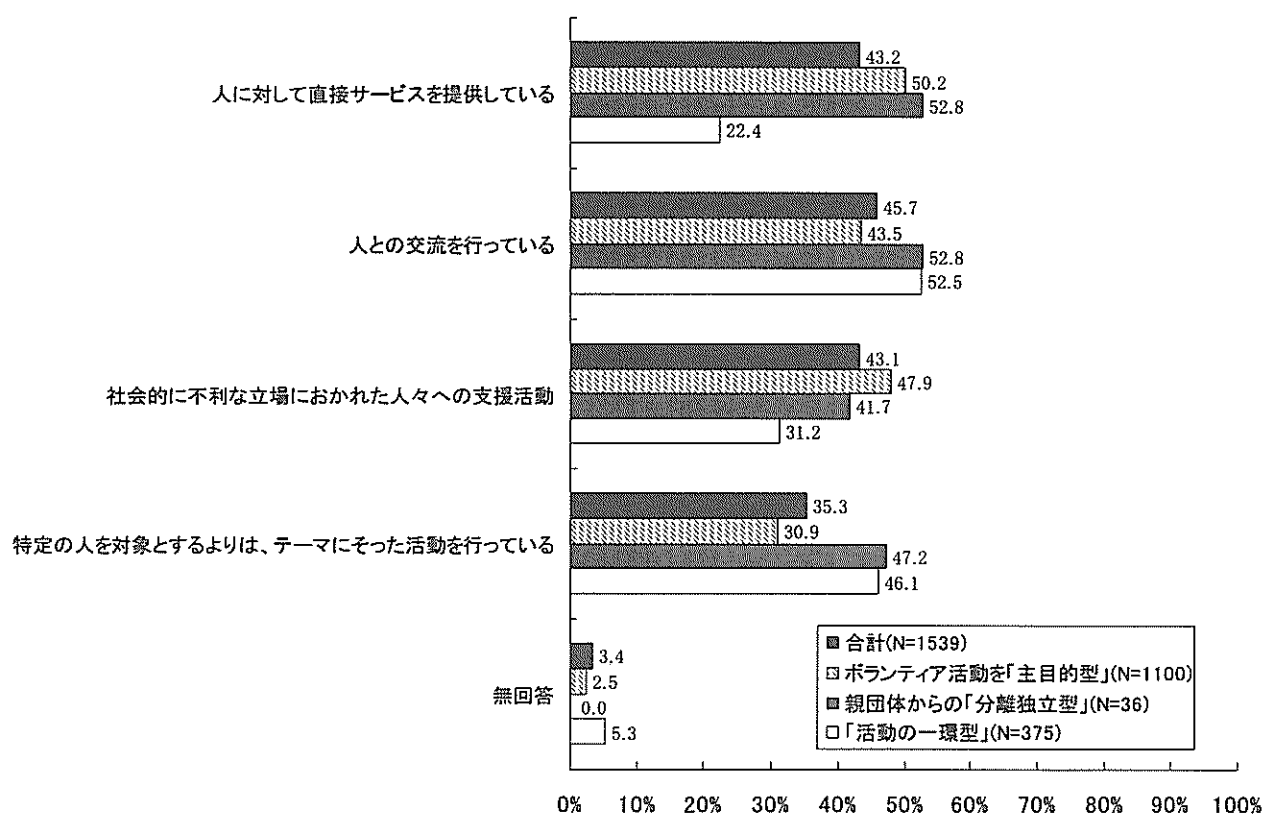
活動内容		調査数	人に 対して 提供し ている	人 との 交流 を行っ てい	活 動 お か れ た 人 々 へ の 支 援 に	た よ り 特 定 の 人 を 対 象 と す る 活 動 を 行 っ て い る	無 回 答
活動内容の類型化による分類							
全体		1539 100.0	665 43.2	704 45.7	663 43.1	543 35.3	52 3.4
単 一 の 活 動 内 容	対人直接サービス型	204 100.0	204 100.0	-	-	-	-
	交流型	149 100.0	-	149 100.0	-	-	-
	支援活動型	215 100.0	-	-	215 100.0	-	-
	テーマ・オリエンテッド型	155 100.0	-	-	-	155 100.0	-
複 数 の 活 動 内 容 の 場 合	混合型(対人直接サービス型と交流型)	98 100.0	98 100.0	98 100.0	-	-	-
	混合型(対人直接サービス型と支援活動型)	68 100.0	68 100.0	-	68 100.0	-	-
	混合型(交流型と支援活動型)	82 100.0	-	82 100.0	82 100.0	-	-
	混合型(対人直接サービス型と交流型と支援活動型)	128 100.0	128 100.0	128 100.0	128 100.0	-	-
	混合型(テーマ・オリエンテッド型と対人直接サービス・交流・支援活動型)	388 100.0	167 43.0	247 63.7	170 43.8	388 100.0	-

<団体の目的別>

「主目的型」では、「人に対して直接サービスを提供している」団体・グループが 50.2%、「社会的に不利な立場におかれた人々への支援活動」を行っている団体・グループが 47.9%となっており、「活動の一環型」よりも多くなっている。

一方、「活動の一環型」では、「人との交流を行っている」団体・グループが 52.5%、「特定の人を対象とするよりは、テーマにそった活動を行っている」団体・グループが 46.1%と高くなっている。「主目的型」の団体・グループに多くなっている「人に対して直接サービスを提供している」や「社会的に不利な立場におかれた人々への支援活動」を行っている団体・グループの割合は、「活動の一環型団体・グループ」では各々22.4%、31.2%と低くなっている。

図表Ⅲ－ 42 <団体の目的別>活動内容(問7、複数回答)



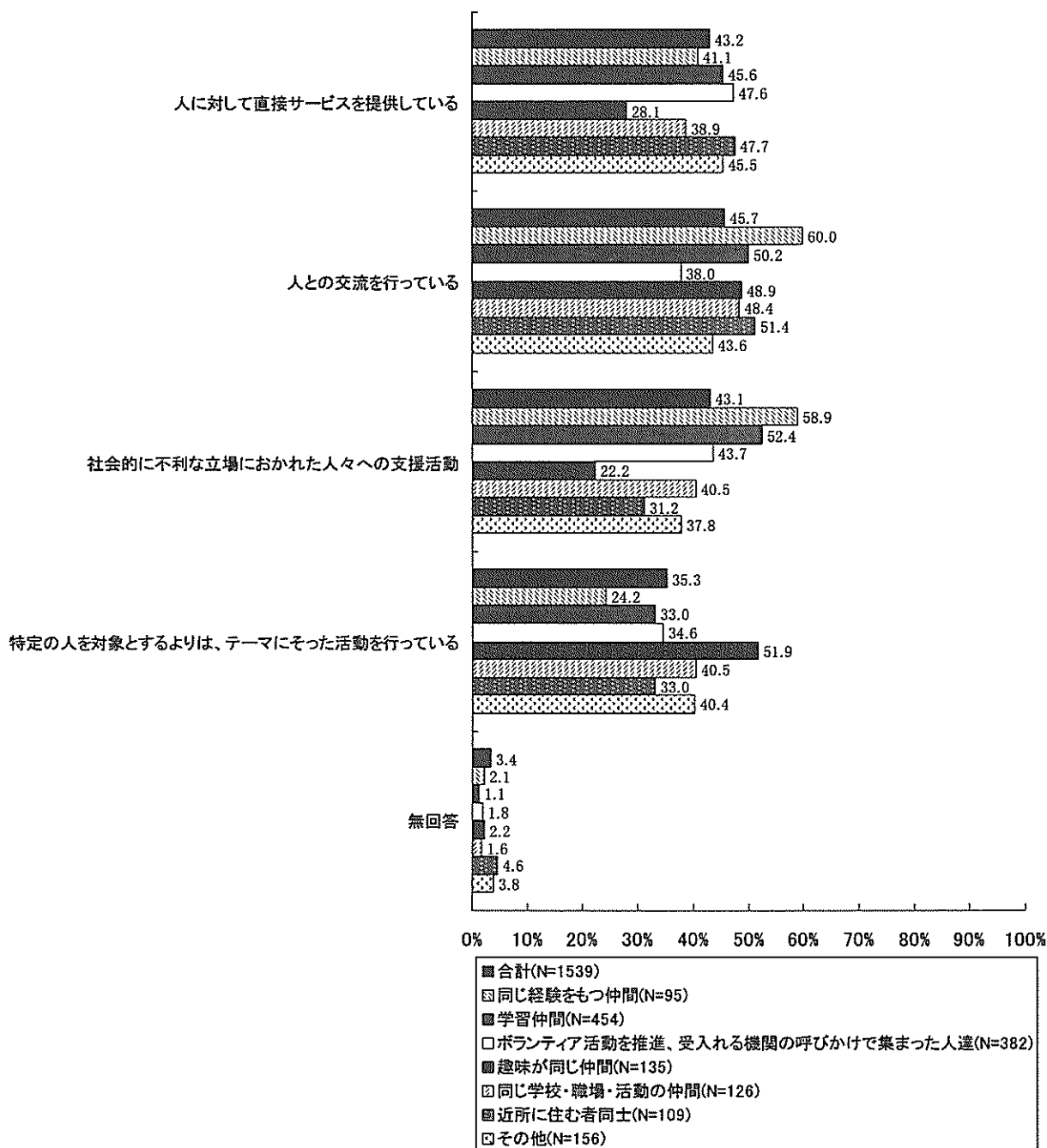
<立ち上げ時のメンバー別>

「同じ経験をもつ仲間」が「交流型」の活動で 60.0%と高くなっている。同様に、「支援活動型」でもその割合が 58.9%と高くなっている。

また、「学習仲間」の割合も「支援活動型」で 52.4%となっている。

「趣味が同じ仲間」の割合は「テーマ・オリエンテッド型」の活動で 51.9%と、他の類型よりも高くなっている。

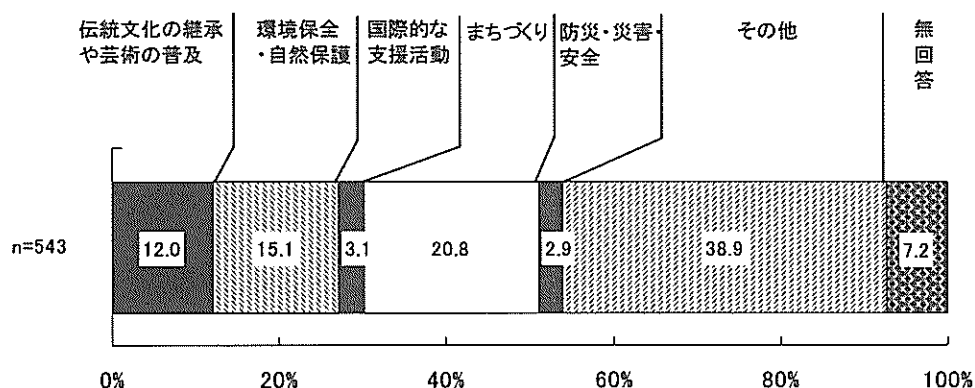
図表Ⅲ－ 43 <立ち上げ時のメンバー別>活動内容(問7、複数回答)



①「テーマ・オリエンテッド型」の団体・グループのテーマ内容

「まちづくり」が 20.8%、「環境保全・自然保護」が 15.1%、「伝統文化の継承や芸術の普及」が 12.0%となっている。「その他」が 38.9%と高くなっているが、これは、各テーマを複合的に行っている団体が多く、主要なテーマを絞り切れなかったためであると考えられる。

図表Ⅲ－ 44 【テーマ・オリエンテッド型の活動を行っている団体・グループ】そのテーマの内容(問7)

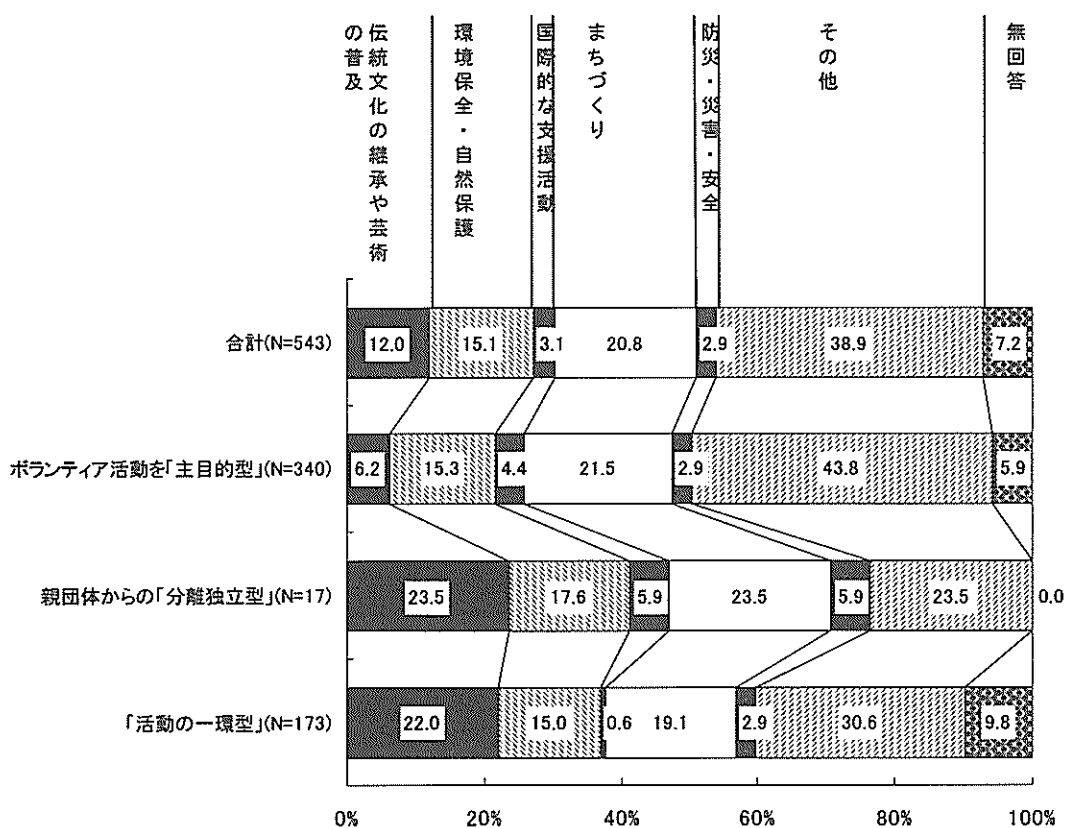


<団体の目的別>

「活動の一環型」では、「伝統文化の継承や芸術の普及」が 22.0%と高くなっている。

図表Ⅲ－ 45 【テーマ・オリエンテッド型の活動を行っている団体・グループ】

<団体の目的別>そのテーマの内容(問7)



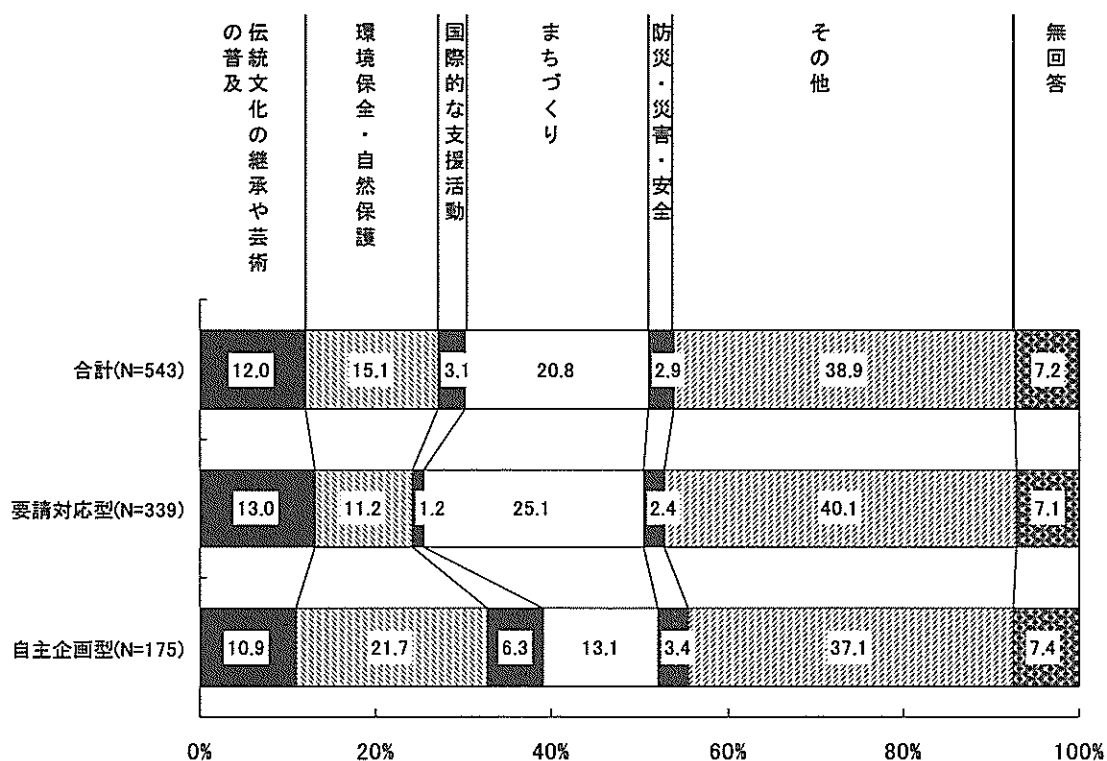
＜活動プログラムの形態別＞

「要請対応型」団体・グループでは、「まちづくり」の割合が 25.1%と高くなっている。

「自主企画型」団体・グループでは、「環境保全・自然保護」の割合が 21.7%、「国際的な支援活動」が 6.3%となっており、各々「要請対応型」団体・グループの割合よりも高くなっている。

図表Ⅲ－ 46 【テーマ型の活動を行っている団体・グループ】

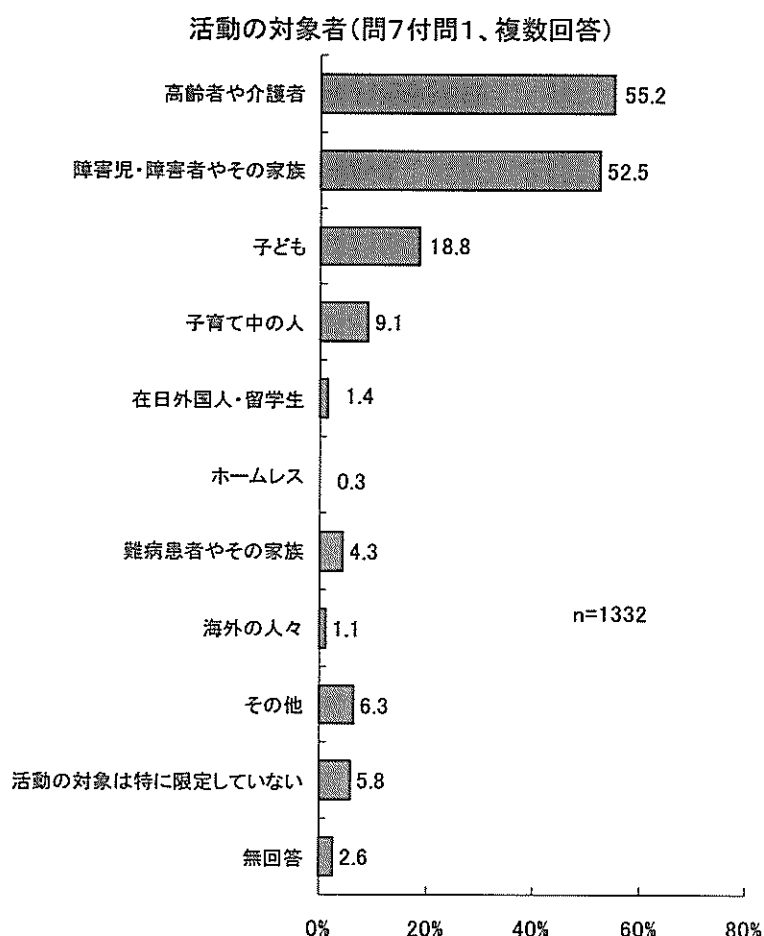
＜活動プログラムの形態別＞そのテーマの内容(問7)



②「対人サービス型」、「交流型」、「支援型」の活動を行っている団体・グループの活動対象者

「高齢者や介護者」が 55.2%、「障害児・障害者やその家族」が 52.5%と高い割合となっている。次いで、「子ども」が 18.8%となっている。

図表Ⅲ－ 47 【「対人サービス型」、「交流型」、「支援型」の活動を行っている団体・グループ】



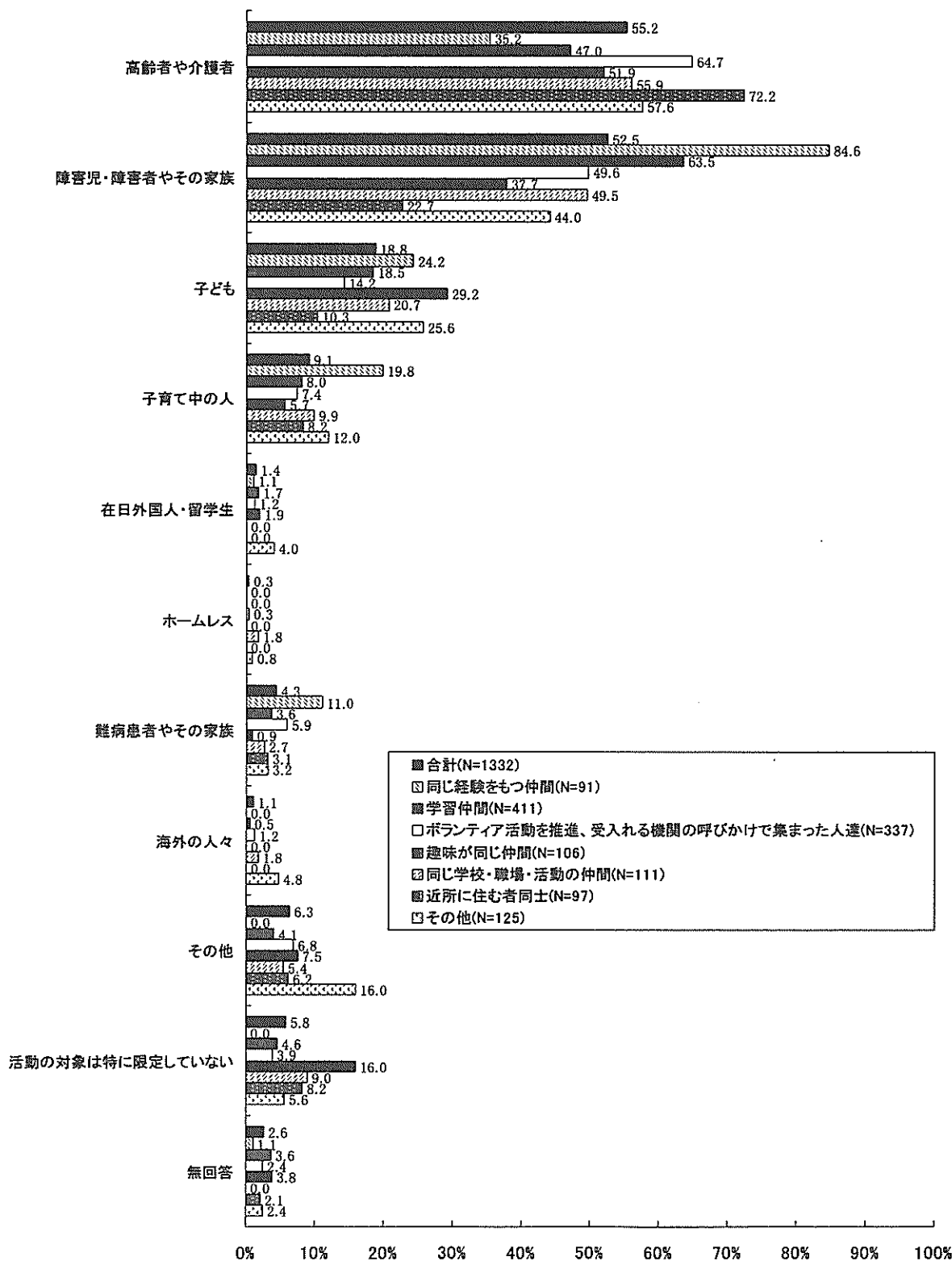
<立ち上げ時のメンバー別>

「近所に住む者同士」が立ち上げメンバーであった団体・グループでは、「高齢者や介護者」を対象とした活動を行っている割合が 72.2%と高くなっている。「ボランティア活動を推進、受入れる機関の呼びかけて集まった人達」も「高齢者や介護者」を対象として活動している割合が 64.7%と高くなっている。「同じ経験をもつ仲間」や「学習仲間」では、「障害児・障害者やその家族」の割合が各々 84.6%、63.5%と高くなっている。

<活動内容別>

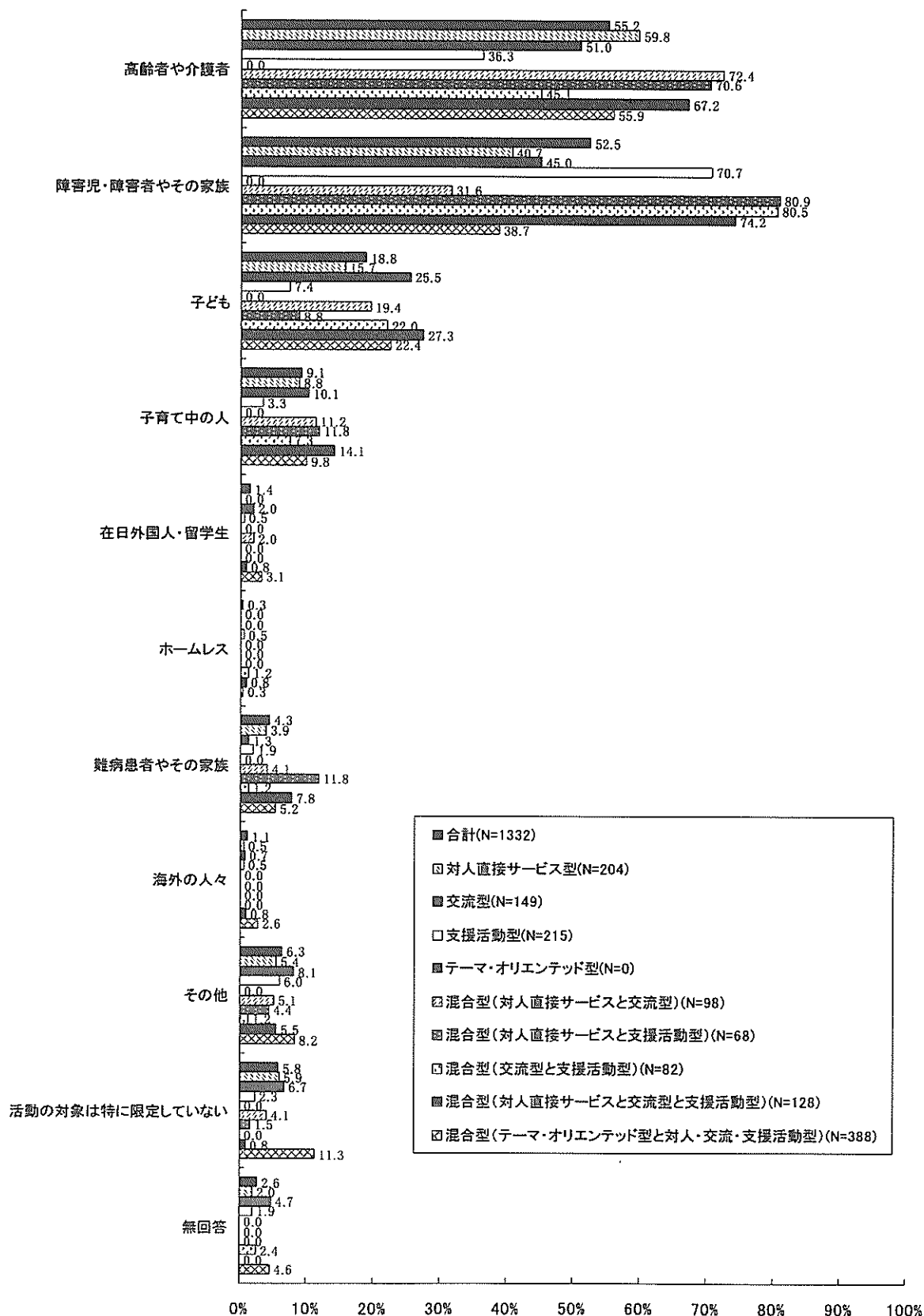
「高齢者や介護者」を対象とした活動については、「対人直接サービス型」および「対人直接サービス型」が入った混合型で実施されている割合が高い。「障害児・障害者やその家族」については、「支援活動型」および「支援活動型」が入った混合型で実施されている割合が高くなっている。ただし、テーマ・オリエンテッド型の入った混合型で実施されている割合は低い。

図表Ⅲ-48 【対人サービス型、交流型、支援型の活動を行っている団体・グループ】
 <立ち上げ時のメンバー別>活動の対象者(問7付問1、複数回答)



図表Ⅲ－49 【対人サービス型、交流型、支援型の活動を行っている団体・グループ】

<活動内容別>活動の対象者(問7付問1、複数回答)



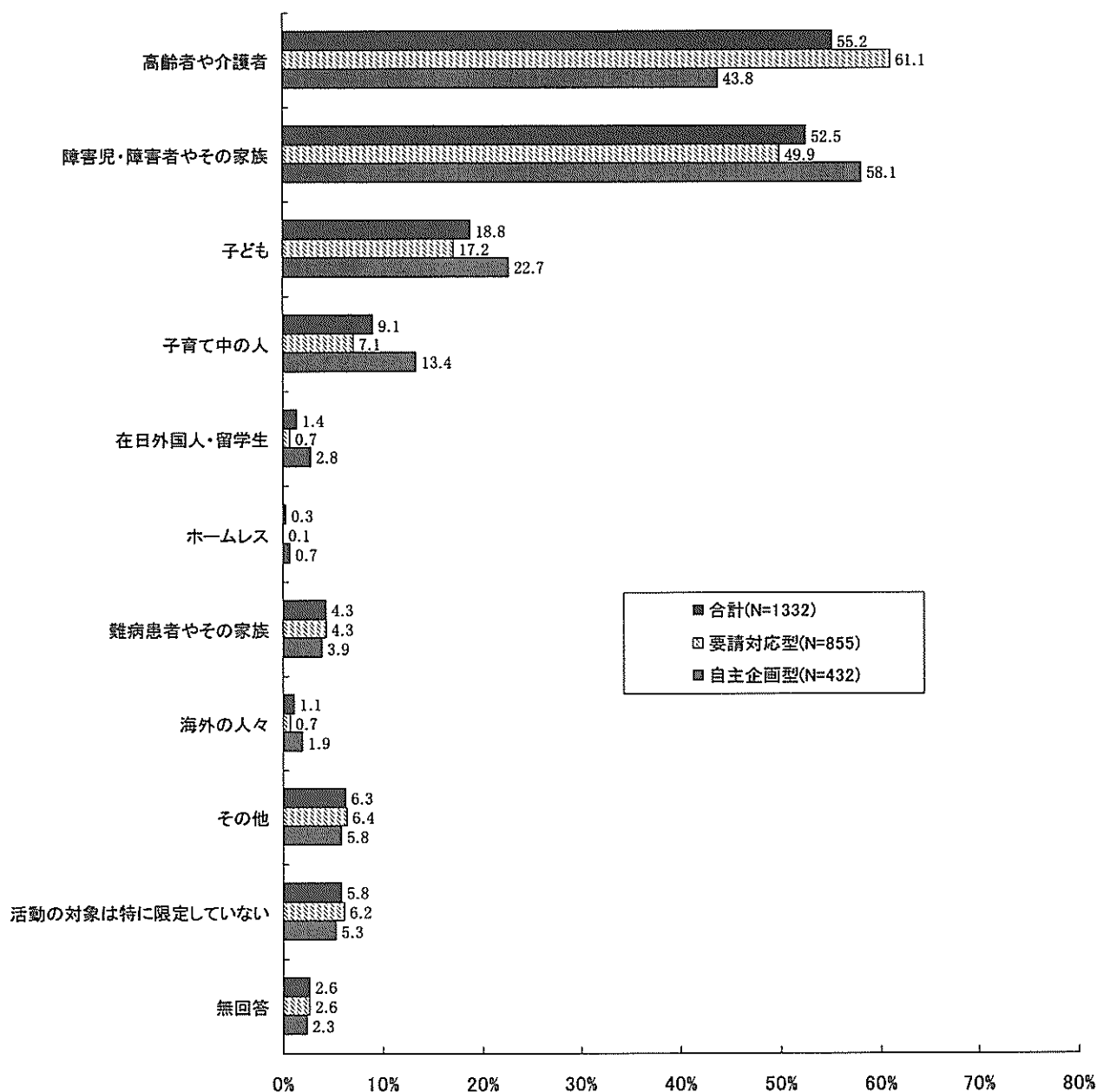
＜活動プログラムの形態別＞

「高齢者や介護者」については、「自主企画型」よりも「要請対応型」の団体・グループの割合が61.1%と多くなっている。

一方、「自主企画型」の団体・グループの割合が高いのは、「障害児・障害者やその家族」「子ども」「子育て中の人」であり、各々58.1%、22.7%、13.4%となっている。

図表Ⅲ－ 50 【対人サービス型、交流型、支援型の活動を行っている団体・グループ】

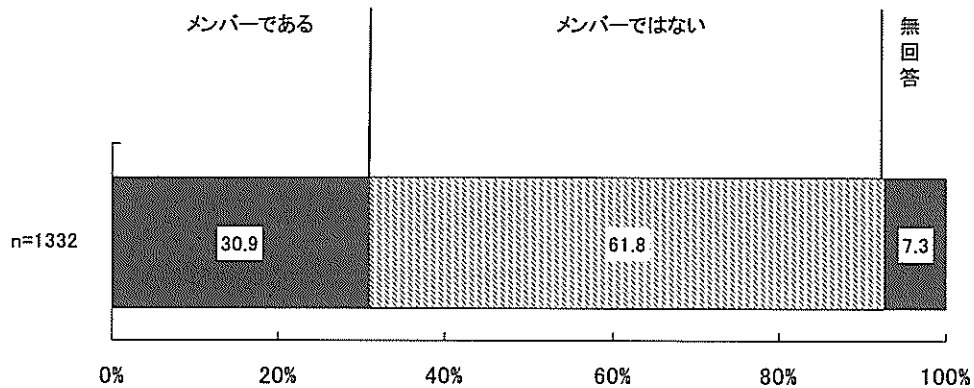
＜活動プログラムの形態別＞活動の対象者(問7付問1、複数回答)



③「対人サービス型」、「交流型」、「支援型」の活動を行っている団体・グループへの
当事者の参加

活動の対象となる人が団体・グループのメンバーとなっている団体・グループが 30.9%、メンバー
ではないが 61.8%となっている。

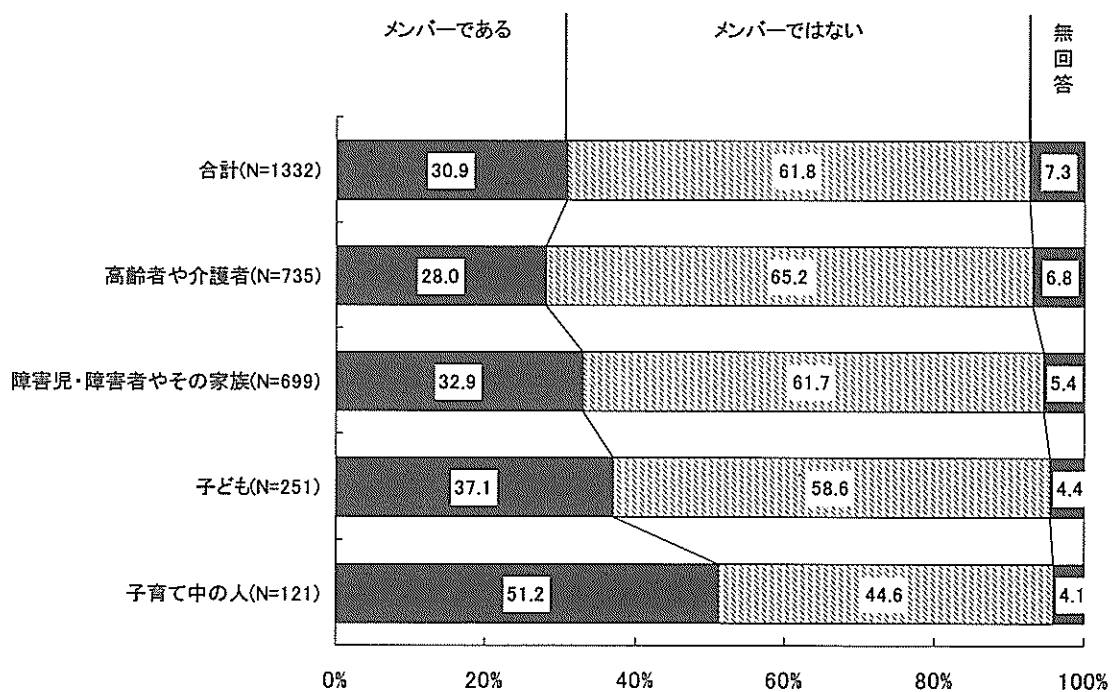
図表Ⅲ－ 51 【「対人サービス型」、「交流型」、「支援型」の活動を行っている団体・グループ】
活動対象者の団体・グループへの参加(問7付問2)



<活動対象者別>

「子育て中の人」を対象とした活動を行っている団体・グループでは、活動対象者がメンバーである
割合が 51.2%と高くなっている。

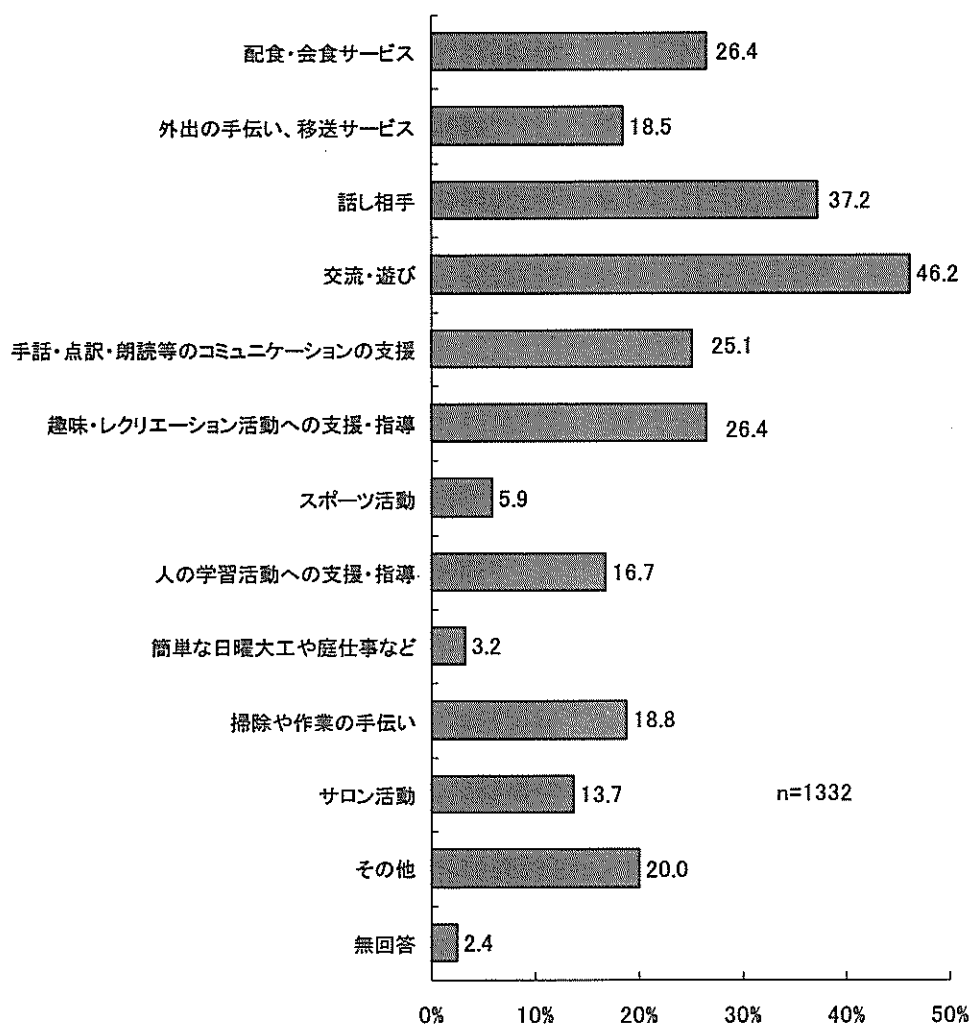
図表Ⅲ－ 52 【「対人サービス型」、「交流型」、「支援型」の活動を行っている団体・グループ】
<活動対象者別>活動対象者の団体・グループへの参加(問7付問2)



④「対人サービス型」、「交流型」、「支援型」活動の具体的な内容

「交流・遊び」が 46.2%、「話し相手」が 37.2%、「配食・会食サービス」および「趣味・レクリエーション活動への支援・指導」が各々 26.4%、「手話・点訳・朗読等のコミュニケーションの支援」が 25.1%、「掃除や作業の手伝い」が 18.8%、「外出の手伝い、移送サービス」が 18.5%となっている。

図表Ⅲ－ 53 【対人サービス型、交流型、支援型の活動を行っている団体・グループ】
具体的な活動内容(問7付問3、複数回答)



<団体の目的別>

「外出の手伝い、移送サービス」については、主目的型の割合が 22.4%と高くなっている。

「手話・点訳、朗読等のコミュニケーションの支援」についても、主目的型が 28.4%と高くなっている。

「交流・遊び」や「趣味・レクリエーション活動への支援・指導」では、活動の一環型の割合が各々 52.1%、31.7%と高くなっている。

<立ち上げ時のメンバー別>

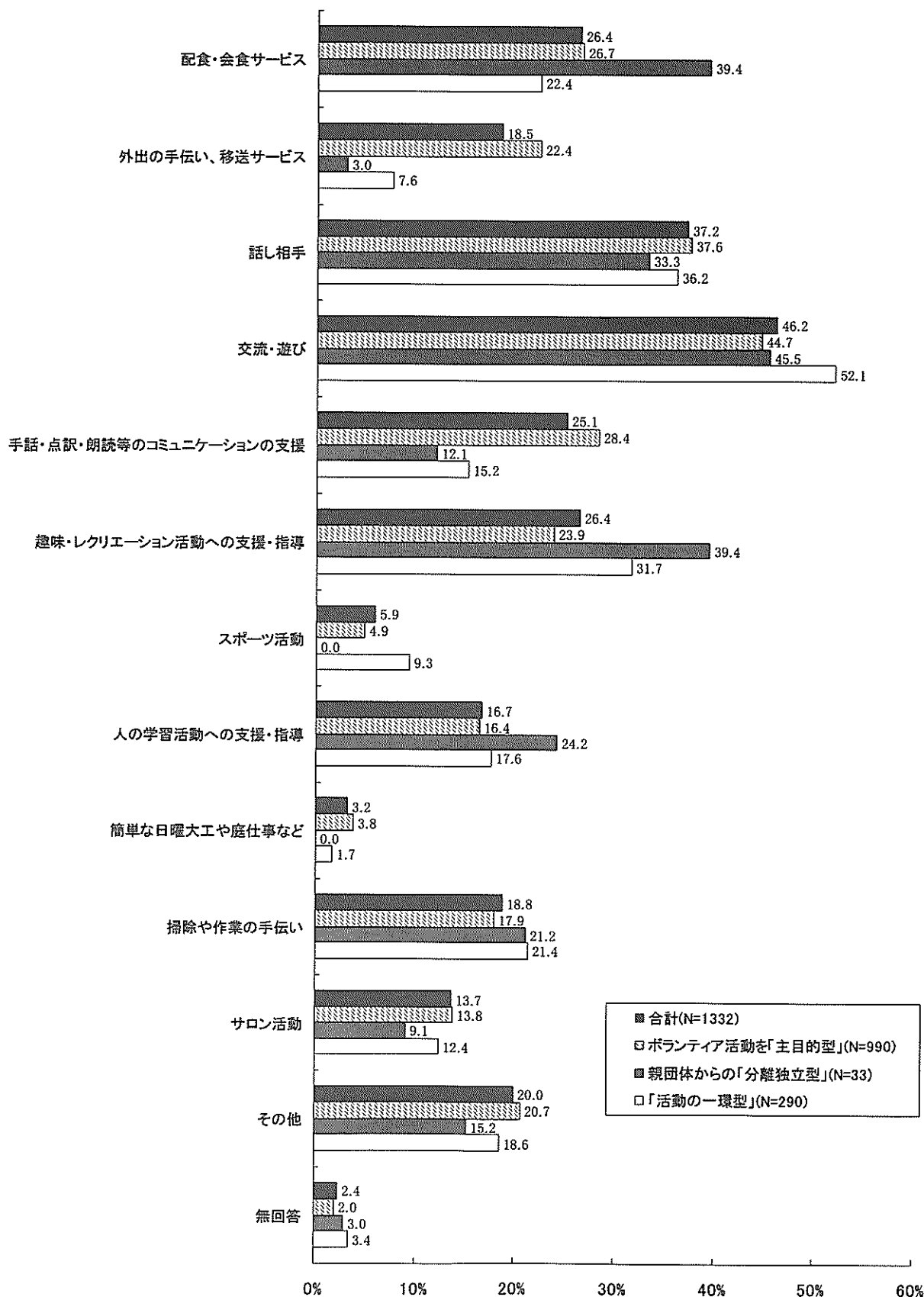
「配食・会食サービス」については、「近所に住む者同士」の割合が 48.5%、「ボランティア活動を推進、受入れる機関の呼びかけで集まった人達」の割合が 38.3%と他のメンバーよりも高くなっている。

「交流・遊び」では、「同じ経験をもつ仲間」の割合が 69.2%と高くなっている。

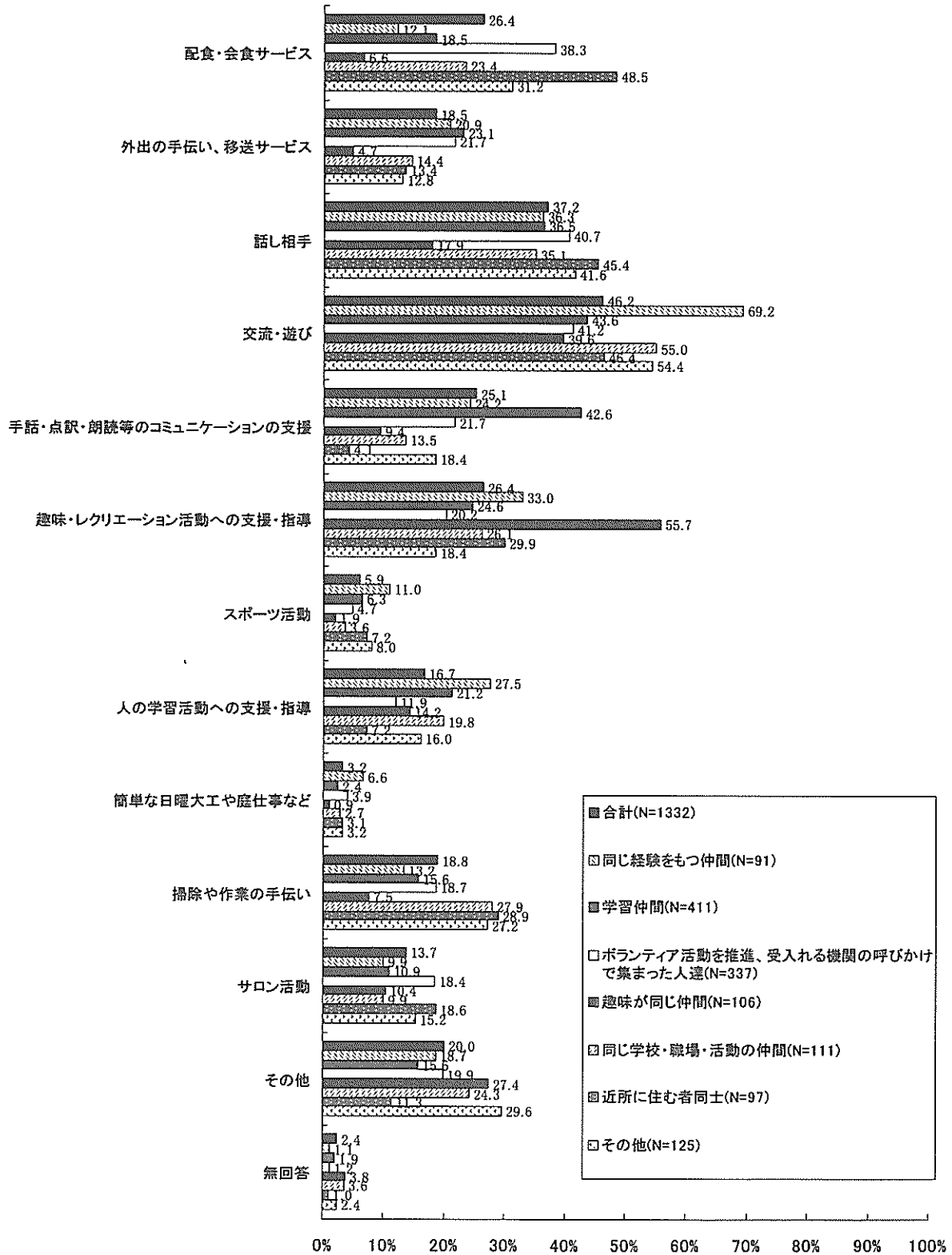
「趣味・レクリエーション活動への支援・指導」では、「趣味が同じ仲間」の割合が 55.7%と高くなっている。

図表Ⅲ－ 54 【「対人サービス型」、「交流型」、「支援型」の活動を行っている団体・グループ】

<団体の目的別>具体的な活動内容(問7付問3、複数回答)



図表Ⅲ－ 55 【「対人サービス型」、「交流型」、「支援型」の活動を行っている団体・グループ】
 <立ち上げ時のメンバー別>具体的な活動内容(問7付問3、複数回答)



<活動対象者別>

「高齢者や介護者」を対象とした活動を行っている団体・グループでは、具体的な活動内容として「話し相手」が51.2%、「交流・遊び」が46.9%、「配食・会食サービス」が41.8%と高くなっている。特に、「配食・会食サービス」を実施している団体・グループの割合は、他を対象とした活動を行っている団体・グループよりも高くなっている。

「障害児・障害者やその家族」を対象とした活動を行っている団体・グループでは、「交流・遊び」が49.8%、「手話・点訳・朗読等のコミュニケーションの支援」が41.3%となっている。特に、「手話・点訳・朗読等のコミュニケーションの支援」を実施している団体・グループの割合は、他を対象とした活動を行っている団体・グループよりも高くなっている。

「子ども」や「子育て中の人」を対象とした活動を行っている団体・グループでは、「交流・遊び」の割合が各々72.9%、71.1%と高くなっており、この割合は他を対象とした活動を行っている団体・グループよりも高い。

図表Ⅲ－56 【「対人サービス型」、「交流型」、「支援型」の活動を行っている団体・グループ】

<活動対象者別>具体的な活動内容(問7付問3、複数回答)

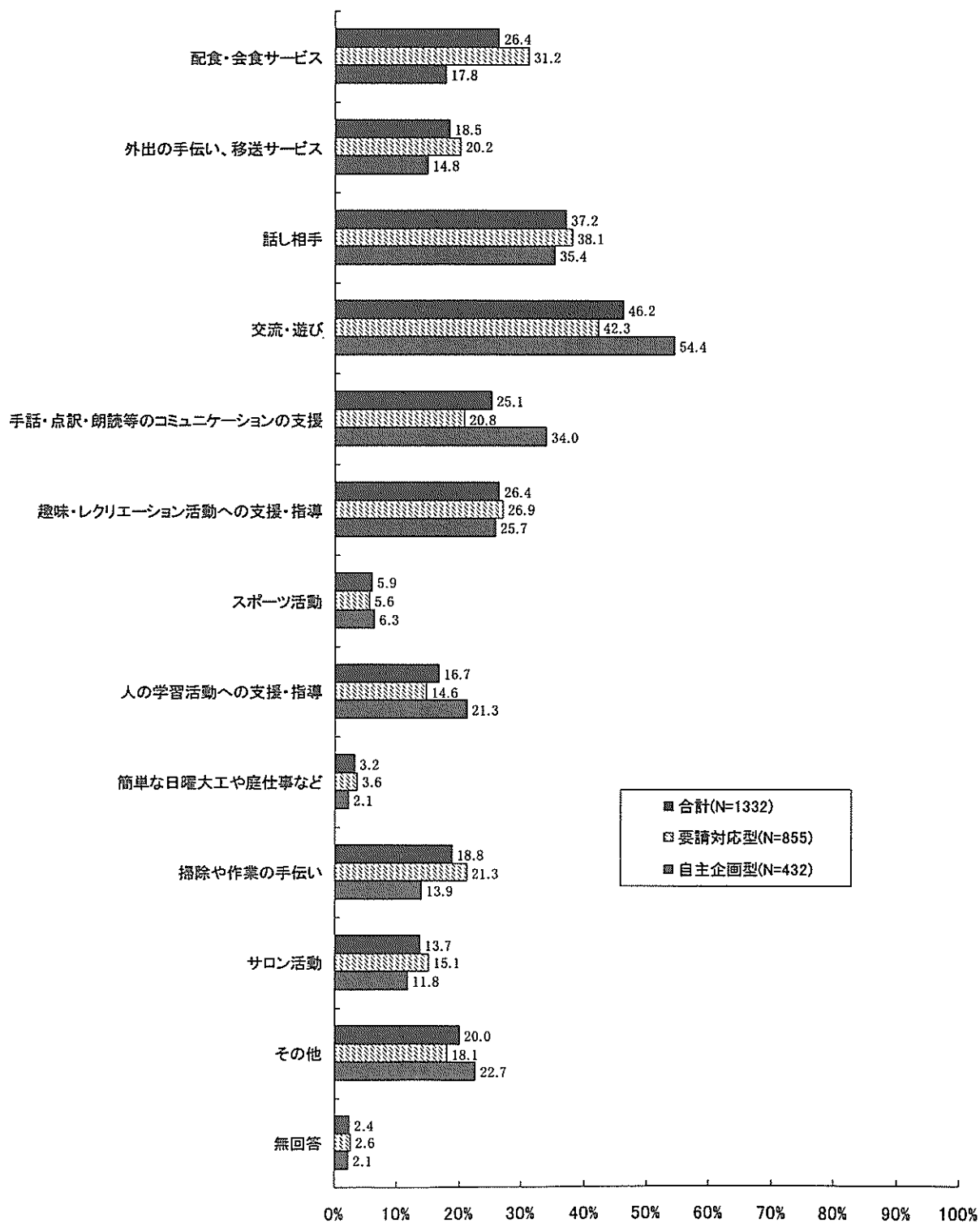
活動の対象者	調査数	配食・会食サービス	外出のサービス、移送	話し相手	交流・遊び	支援 コミュニケーションの	手話・点訳・朗読等の	趣味・レクリエーションへの支援・指導	スポーツ活動	人の学習活動への支援・指導	簡単な日曜大工や庭仕事など	掃除や作業の手伝い	サロン活動	その他	無回答
全体	1332 100.0	351 26.4	246 18.5	496 37.2	616 46.2	334 25.1	352 26.4	78 5.9	222 16.7	43 3.2	250 18.8	182 13.7	266 20.0	32 2.4	
高齢者や介護者	735 100.0	307 41.8	188 25.6	376 51.2	345 46.9	88 12.0	230 31.3	35 4.8	83 11.3	37 5.0	186 25.3	144 19.6	161 21.9	17 2.3	
障害児・障害者やその家族	699 100.0	129 18.5	167 23.9	248 35.5	348 49.8	289 41.3	200 28.6	50 7.2	143 20.5	26 3.7	122 17.5	77 11.0	121 17.3	12 1.7	
子ども	251 100.0	42 16.7	36 14.3	87 34.7	183 72.9	60 23.9	91 36.3	22 8.8	78 31.1	9 3.6	46 18.3	37 14.7	56 22.3	7 2.8	
子育て中の人	121 100.0	25 20.7	26 21.5	54 44.6	86 71.1	21 17.4	39 32.2	8 6.6	52 43.0	6 5.0	22 18.2	18 14.9	31 25.6	3 2.5	
在日外国人・留学生	19 100.0	4 21.1	2 10.5	8 42.1	15 78.9	1 5.3	6 31.6	2 10.5	11 57.9	1 5.3	2 10.5	5 26.3	7 36.8	7 -	
ホームレス	4 100.0	1 25.0	2 50.0	4 100.0	3 75.0	-	-	-	1 25.0	1 25.0	1 25.0	1 25.0	2 50.0	2 -	
難病患者やその家族	57 100.0	19 33.3	28 49.1	40 70.2	31 54.4	8 14.0	19 33.3	1 1.8	14 24.6	6 10.5	18 31.6	8 14.0	19 33.3	19 -	
海外の人々	14 100.0	5 35.7	1 7.1	7 50.0	10 71.4	-	5 35.7	3 21.4	6 42.9	-	3 21.4	3 21.4	9 64.3	9 -	
その他	84 100.0	24 28.6	17 20.2	33 39.3	40 47.6	17 20.2	23 27.4	4 4.8	12 14.3	3 3.6	24 28.6	9 10.7	40 47.6	40 -	
活動の対象は特に限定していない	77 100.0	18 23.4	6 7.8	18 23.4	27 35.1	3 3.9	25 32.5	5 6.5	16 20.8	1 1.3	17 22.1	9 11.7	17 22.1	3 3.9	

＜活動プログラムの形態別＞

「配食・会食サービス」については「要請対応型」の団体・グループが 31.2%と「自主企画型」より高くなっている。一方、「交流・遊び」や「手話・点訳・朗読等のコミュニケーションの支援」については、「自主企画型」が各々54.4%、34.0%と高くなっている。

図表Ⅲ－ 57 【「対人サービス型」、「交流型」、「支援型」の活動を行っている団体・グループ】

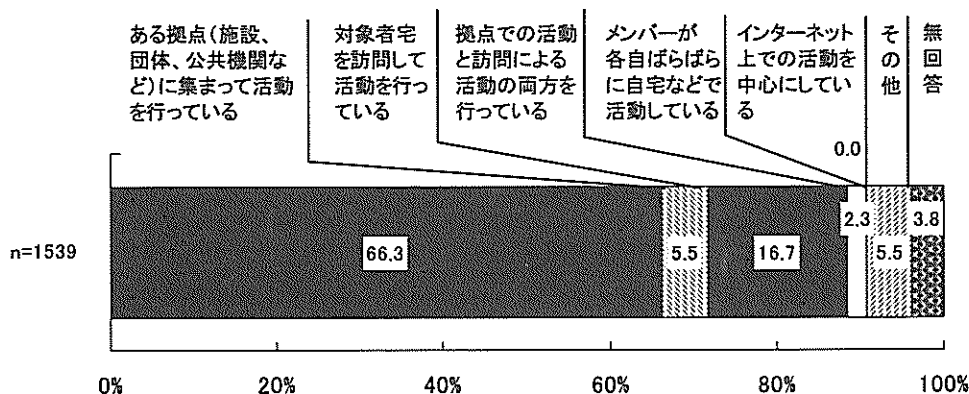
＜活動プログラムの形態別＞具体的な活動内容(問7付問3、複数回答)



(2) 活動形態

「ある拠点(施設、団体、公共機関など)に集まって活動している」が 66.3%と最も多くなっており、次いで、「拠点での活動と訪問による活動の両方を行っている」が 16.7%となっている。

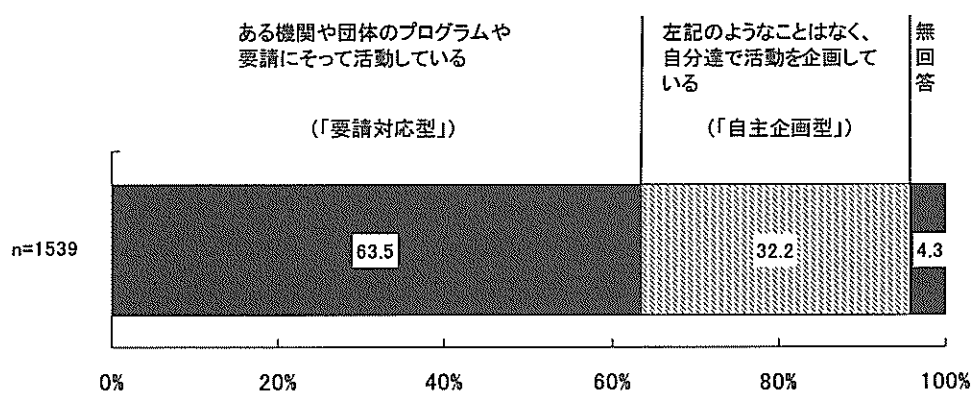
図表Ⅲ－ 58 活動の形態(問8)



(3) 活動プログラム

「ある機関や団体のプログラムや要請にそって活動している(「要請対応型」)」団体・グループが 63.5%と過半数を超えている。「自分たちで活動を企画している(「自主企画型」)」と答えた団体・グループは 32.2%であった。

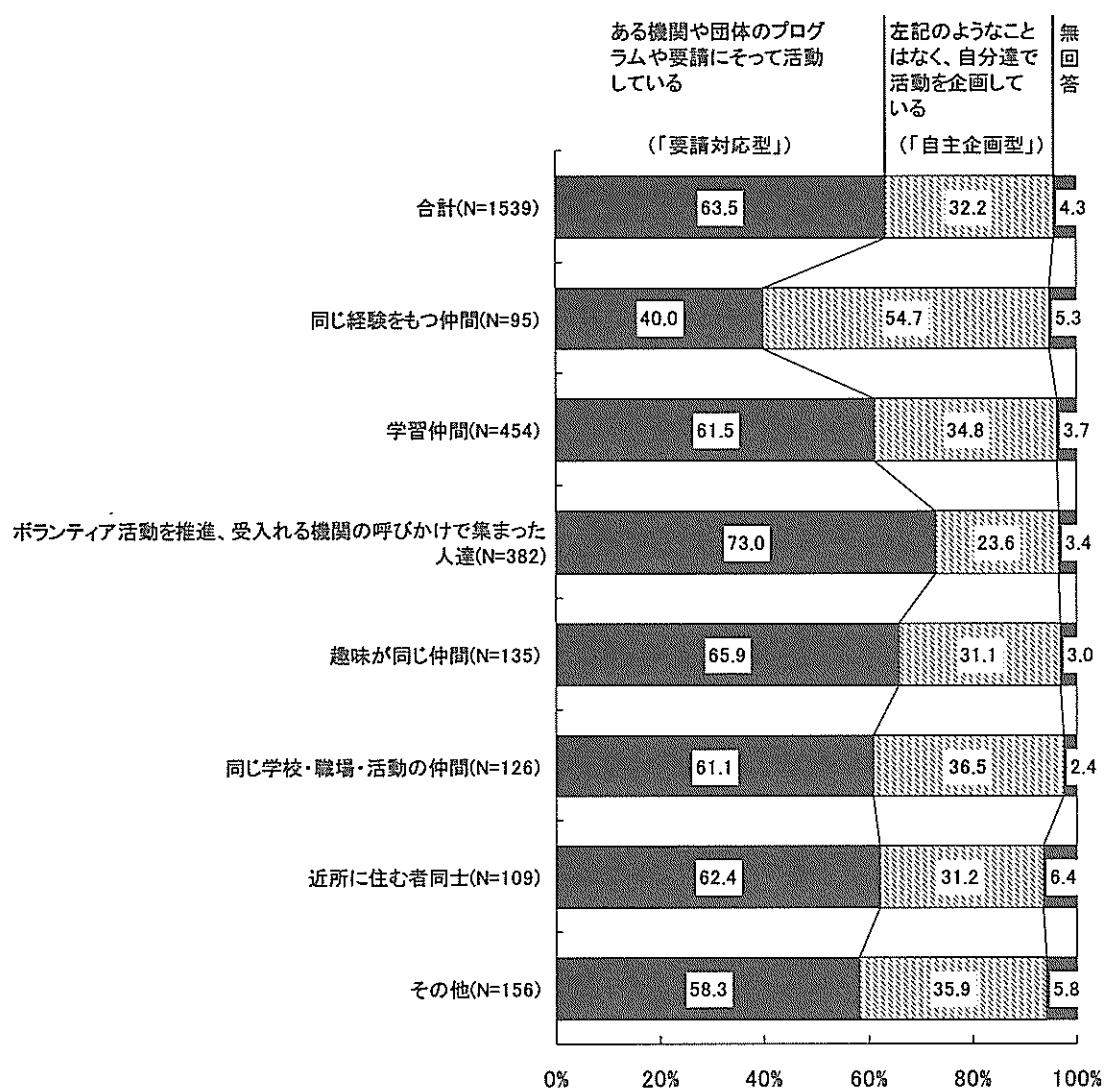
図表Ⅲ－ 59 活動プログラム(問9)



<立ち上げ時のメンバー別>

「同じ経験をもつ仲間」では、「自主企画型」の団体・グループの割合が54.7%と高くなっている。一方、「ボランティア活動を推進、受入れる機関の呼びかけで集まった人達」が立ち上げ時のメンバーである団体・グループでは、「自主企画型」の割合が23.6%と低くなっており、「要請対応型」が73.0%になっている。

図表Ⅲ－60 <立ち上げ時のメンバー別>活動プログラム(問9)

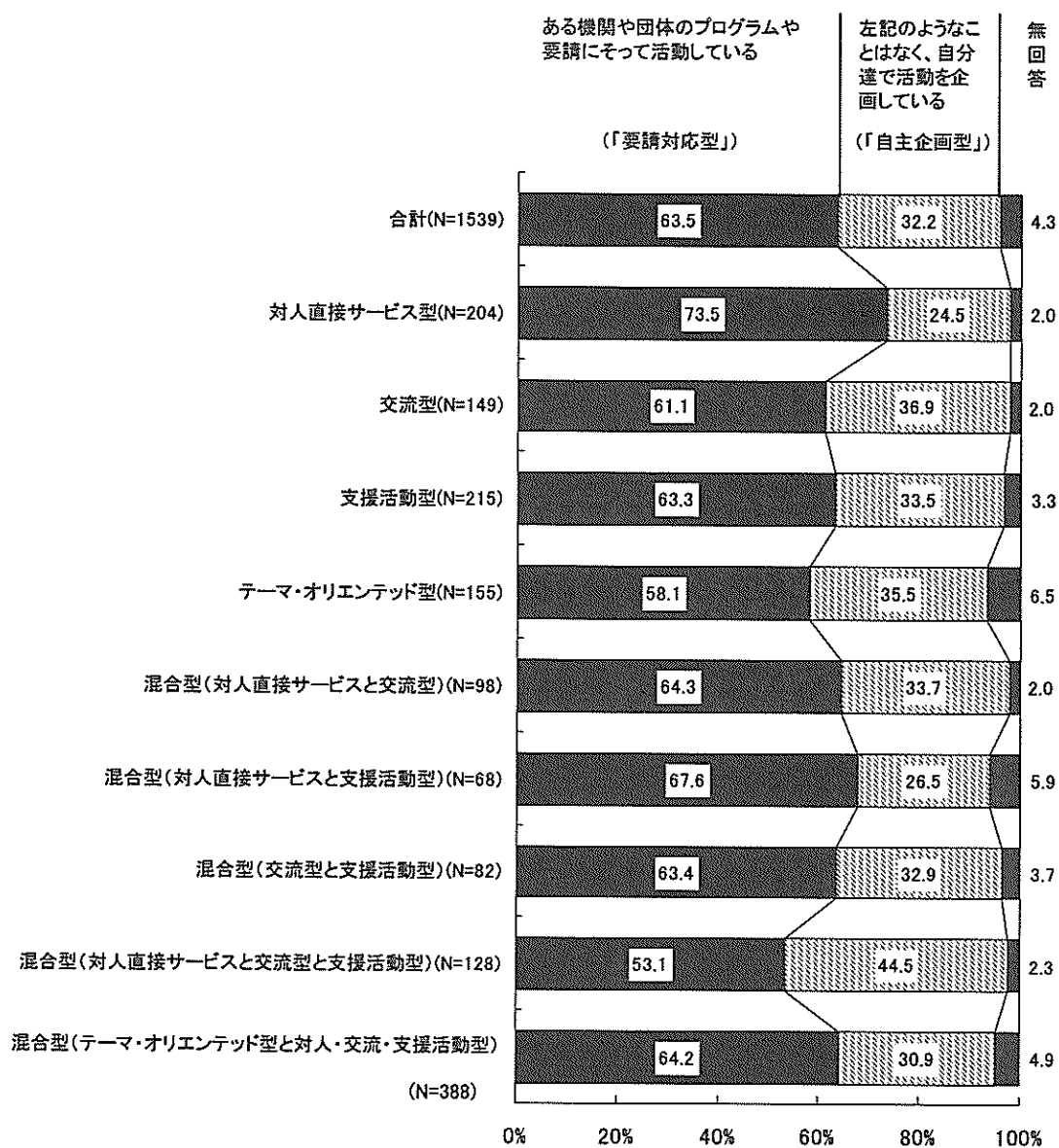


<活動内容別>

「要請対応型」の団体・グループは、「対人直接サービス型」で73.5%と高い割合となっている。

「自主企画型」の団体・グループの割合が高いのは、「対人直接サービス・交流型・支援活動の混合型」で44.5%となっている。

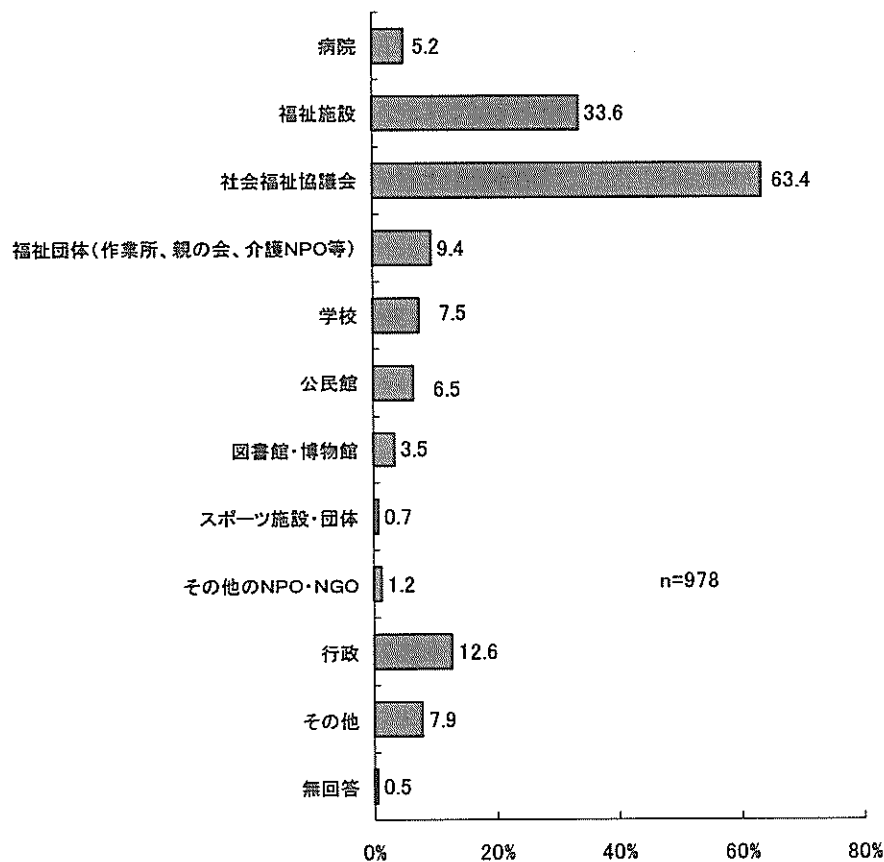
図表Ⅲ－ 61 <活動内容別>活動プログラム(問9)



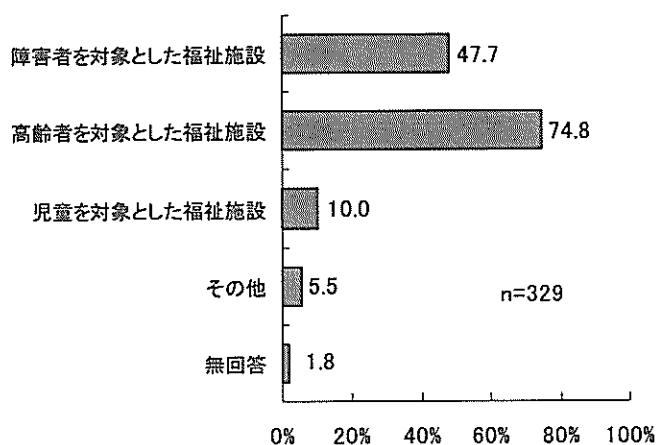
「ある機関や団体のプログラムや要請にそって活動している」(「要請対応型」)団体・グループについて、その機関・団体を聞いたところ、「社会福祉協議会」が 63.4%と最も多く、次いで、「福祉施設」が 33.6%、「行政」が 12.6%となっている。

さらに「福祉施設」について具体的に聞いたところ、「高齢者を対象とした福祉施設」が 74.8%と最も多く、次いで、「障害者を対象とした福祉施設」が 47.7%となっている。

図表Ⅲ－ 62 【ある機関や団体のプログラムや要請にそって活動している団体・グループ(「要請対応型」)】 その機関や団体(問9、複数回答)



図表Ⅲ－ 63 【ある機関や団体のプログラムや要請にそって活動している団体・グループ(「要請対応型」)】 その機関や団体として福祉施設を上げた場合の福祉施設の種類(問9付問1、複数回答)

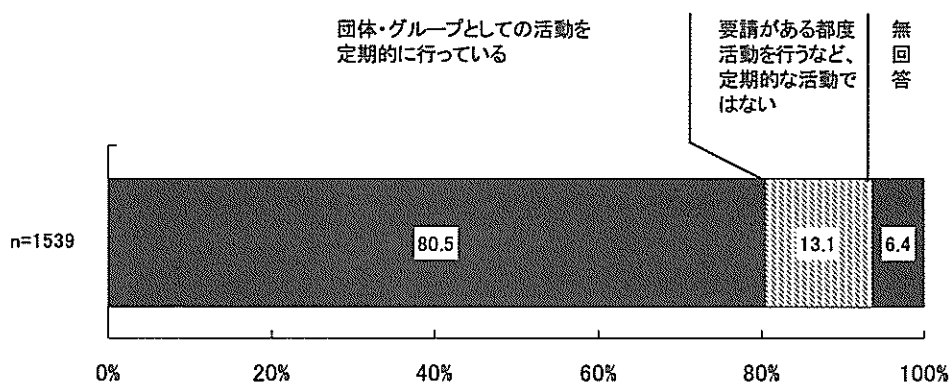


(4) 活動頻度と時間帯

①活動¹⁵の周期性

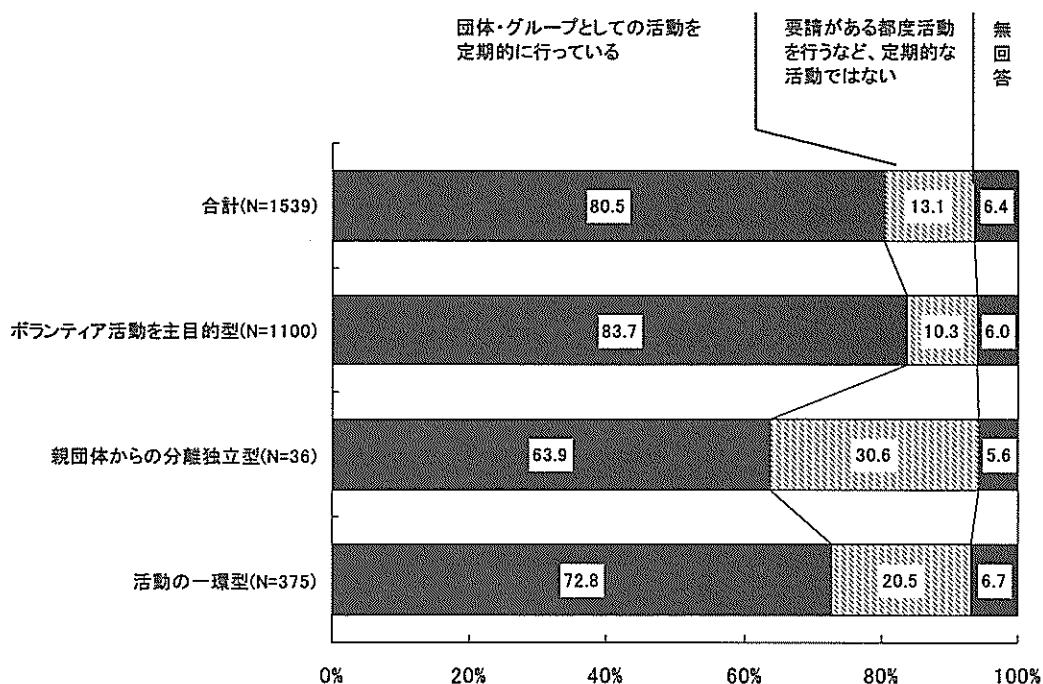
「団体・グループとしての活動を定期的に行っている」団体・グループが 80.5%と大半を占めており、「要請がある都度活動を行うなど、定期的な活動ではない」団体・グループは 13.1%であった。ある機関や団体のプログラムや要請にそって活動している団体・グループが過半数を超えているものの、団体・グループとしての活動には独自の周期性があるところが多いものと考えられる。

図表Ⅲ－64 団体・グループとしての活動の周期性(問10)



<団体の目的別> 「主目的型」では定期的に活動している割合が 83.7%と高くなっている。

図表Ⅲ－65 <団体の目的別>団体・グループとしての活動の周期性(問10)

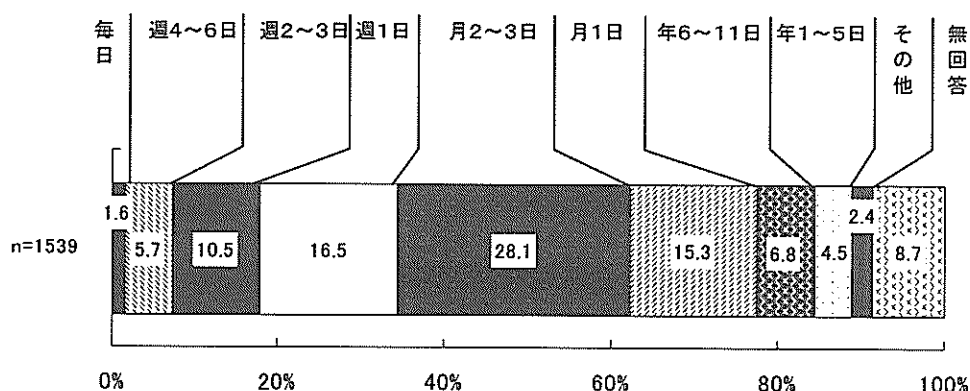


¹⁵ 団体・グループとしての活動には、サービス提供や活動のために集まるときや、団体・グループの運営のための定例会や打ち合わせ等も含まれている。

②活動頻度¹⁶

「月2～3日」活動している団体・グループが28.1%と最も高くなっており、次いで、「週1日」が16.5%、「月1日」が15.3%、「週2～3日」が10.5%となっている。前回調査でも同様の結果が得られており¹⁷、活動頻度の傾向に変化はないと考えられる。

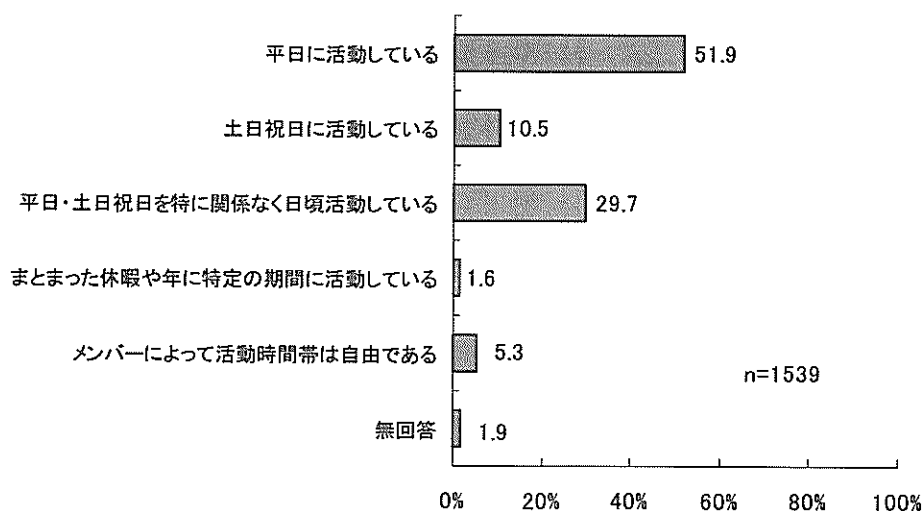
図表Ⅲ－66 活動頻度(問10付問1)



③活動時間帯

「平日に活動している(平日型)」団体・グループが51.9%と最も多くなっている。「平日・土日祝日を特に関係なく日頃活動している(常時型)」が29.7%、「土日祝日に活動している」(週末祝日型)が10.5%となっている。

図表Ⅲ－67 活動時間帯(問10付問2、複数回答)



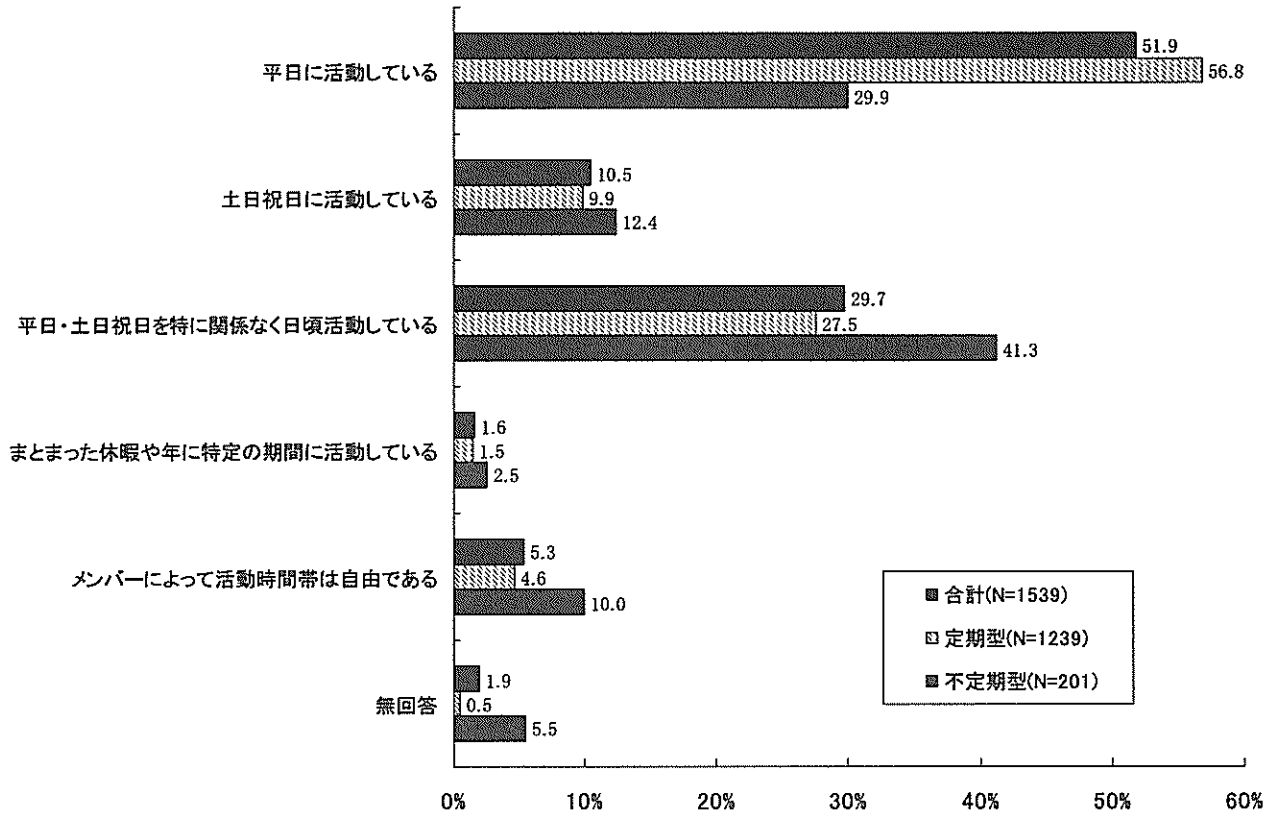
¹⁶ 定期的な活動を行っている団体・グループにはその頻度を、活動が不定期的である団体・グループには昨年(平成13年1～12月)の1年間のおおよその平均の頻度を回答してもらった。

¹⁷ 前回調査では、「月2～3日」が27.7%、「週1日」が17.5%、「月1日」が14.5%、「週2～3日」が9.2%であった。

＜活動の定期性別＞

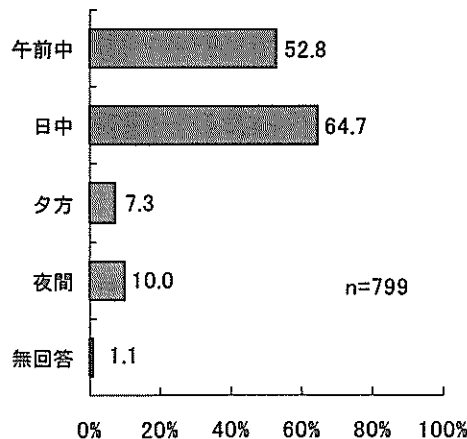
定期的に活動している団体・グループでは、「平日に活動している」割合が 56.8%と高くなっている。一方、不定期型の活動をしている団体・グループでは、「平日・土日祝日を特に関係なく日頃活動している」割合が 41.3%と高くなっている。

図表Ⅲ－ 68 ＜活動の定期性別＞活動時間帯(問 10 付問2、複数回答)

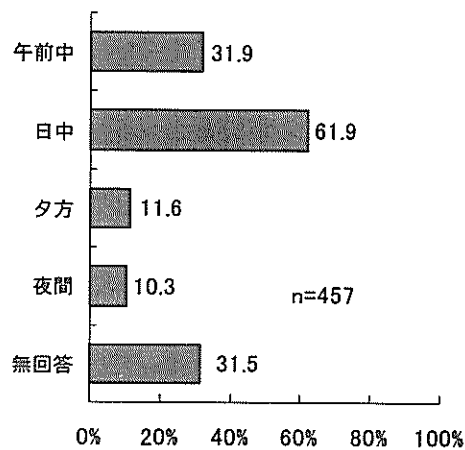


各々の活動時間帯についてみると、「平日に活動している」団体・グループでは、「日中」が 64.7%、「午前中」が 52.8%と多くなっている。「平日・土日祝日を特に関係なく日頃活動している」団体・グループでは、「日中」が 61.9%、「午前中」が 31.9%と多くなっている。「土日祝日に活動している」団体・グループでは、「日中」が 77.2%、「午前中」が 38.9%となっている。

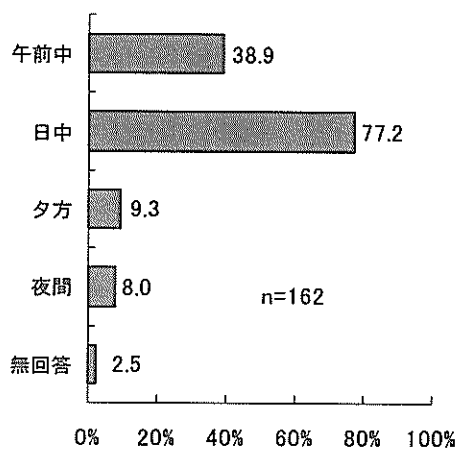
図表Ⅲ－ 69 【平日に活動している団体・グループ】活動時間帯(問 10 付問2、複数回答)



図表Ⅲ－ 70 【平日・土日祝日を特に関係なく日頃活動している団体・グループ】
活動時間帯(問 10 付問2、複数回答)



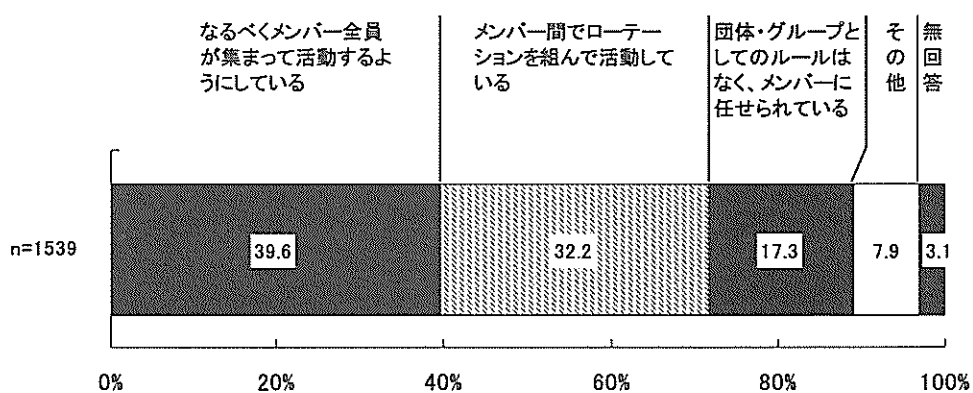
図表Ⅲ－ 71 【土日祝日に活動している団体・グループ】 活動時間帯(問 10 付問2、複数回答)



(5) メンバーの活動のしかた

メンバーの活動のしかたで決まっていることがあるかについてきいたところ、「なるべくメンバー全員が集まって活動するようにしている」が 39.6%、「メンバー間でローテーションを組んで活動している」が 32.2%、「団体・グループとしてのルールはなく、メンバーに任せられている」が 17.3%となっている。メンバーの活動のしかたに一定のルールがある団体・グループが多くなっていることがわかる。

図表Ⅲ－ 72 メンバーの活動のしかたに関するルール(問 11)

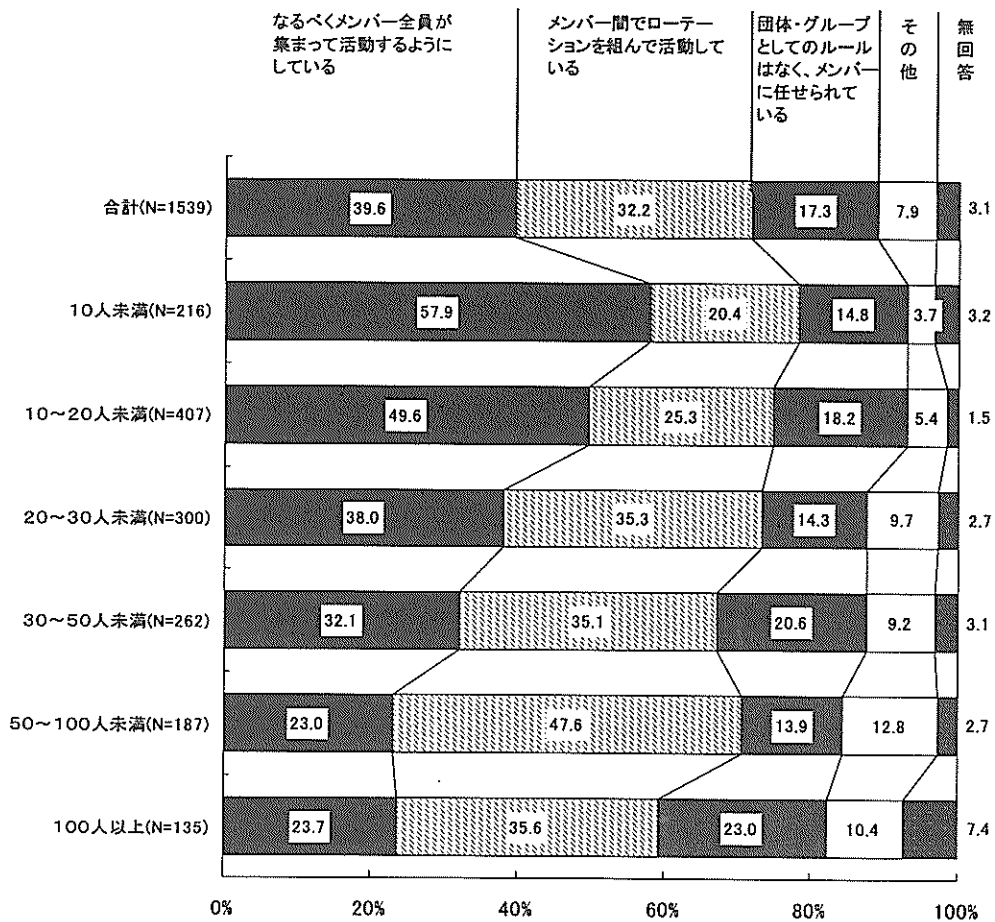


<メンバー数の規模別>

「なるべくメンバー全員が集まって活動するようにしている」団体・グループの割合は、メンバー数の規模が少ないほど高くなっており、「10人未満」の団体・グループでは57.9%と高くなっている。

「メンバー間でローテーションを組んで活動している」団体・グループの割合は、おおむね、メンバー数の規模が大きくなるにしたがって高くなっている。

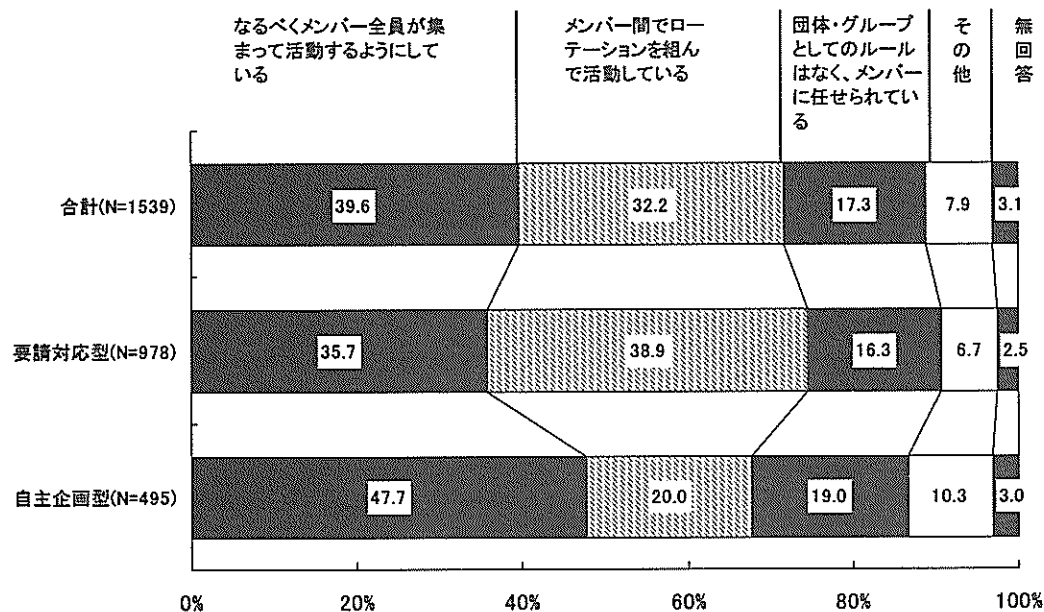
図表Ⅲ－73 <メンバー数の規模別>メンバーの活動のしかたに関するルール(問11)



<活動プログラムの形態別>

「要請対応型」では「メンバー間でローテーションを組んで活動している」団体・グループの割合が38.9%と高くなっている。「自主企画型」では、「なるべくメンバー全員が集まって活動するようにしている」団体・グループの割合が47.7%と高くなっている。

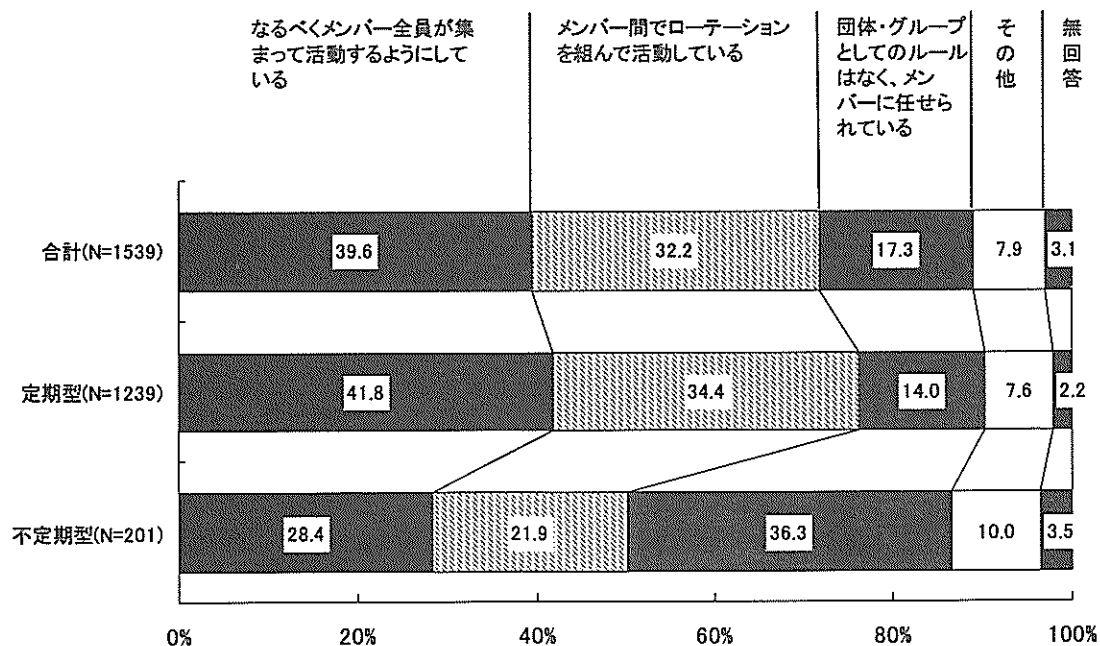
図表Ⅲ－74 <活動プログラムの形態別>メンバーの活動のしかたに関するルール(問11)



<活動の定期性別>

不定期型の団体・グループでは、「団体・グループとしてのルールはなく、メンバーに任せられている」割合が36.3%と高くなっている。

図表Ⅲ－75 <活動の定期性別>メンバーの活動のしかたに関するルール(問11)

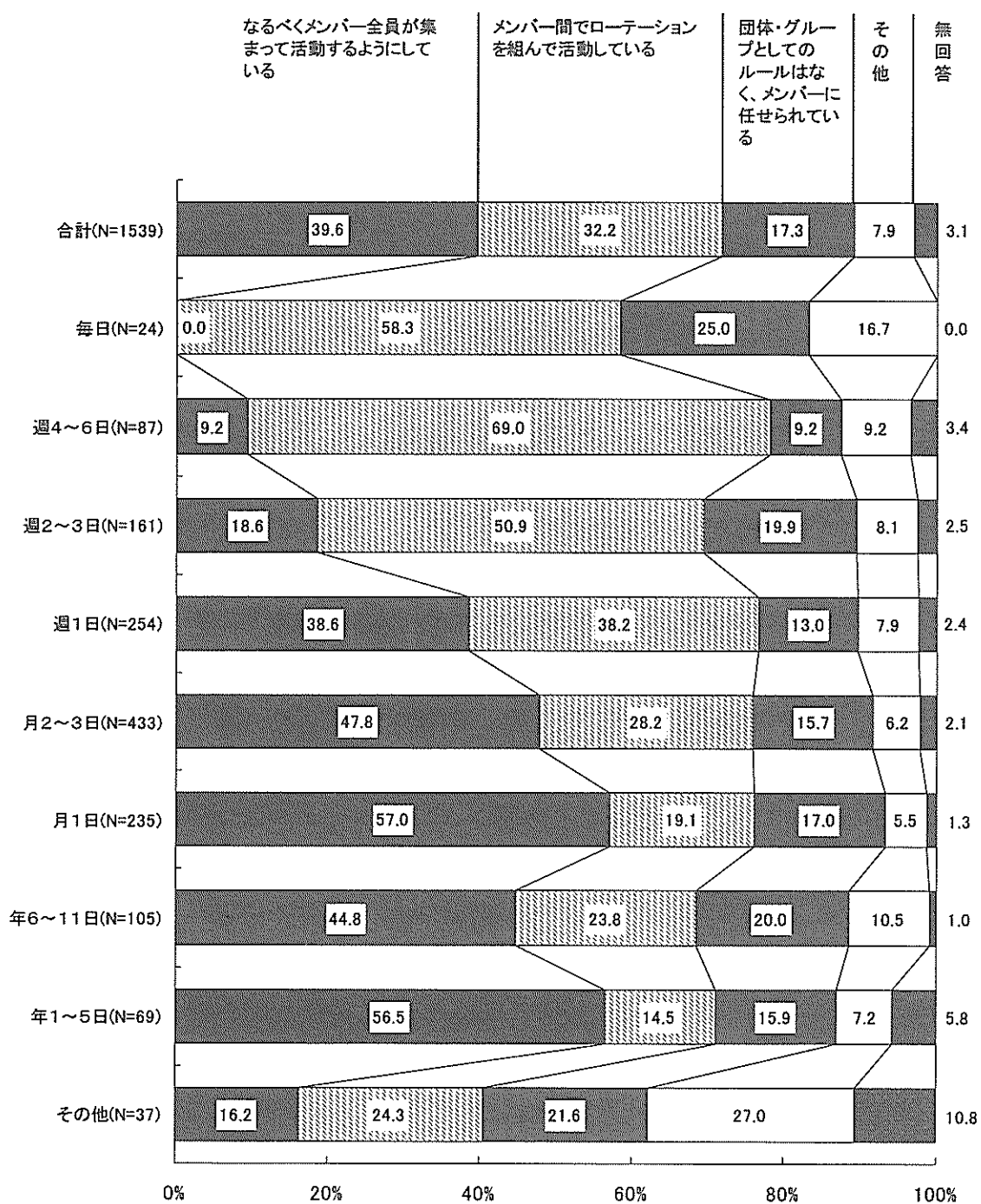


<活動頻度別>

「週4～6日」や「週2～3日」の比較的高い頻度での活動を行っている団体・グループでは、「メンバー間でローテーションを組んで活動している」割合が各々69.0%、50.9%と高くなっている。

一方、「週1日」未満の頻度の活動を行っている団体・グループでは、「なるべくメンバー全員が集まって活動するようにしている」割合が高くなっている。

図表Ⅲ－76 <活動頻度別>メンバーの活動のしかたに関するルール(問11)

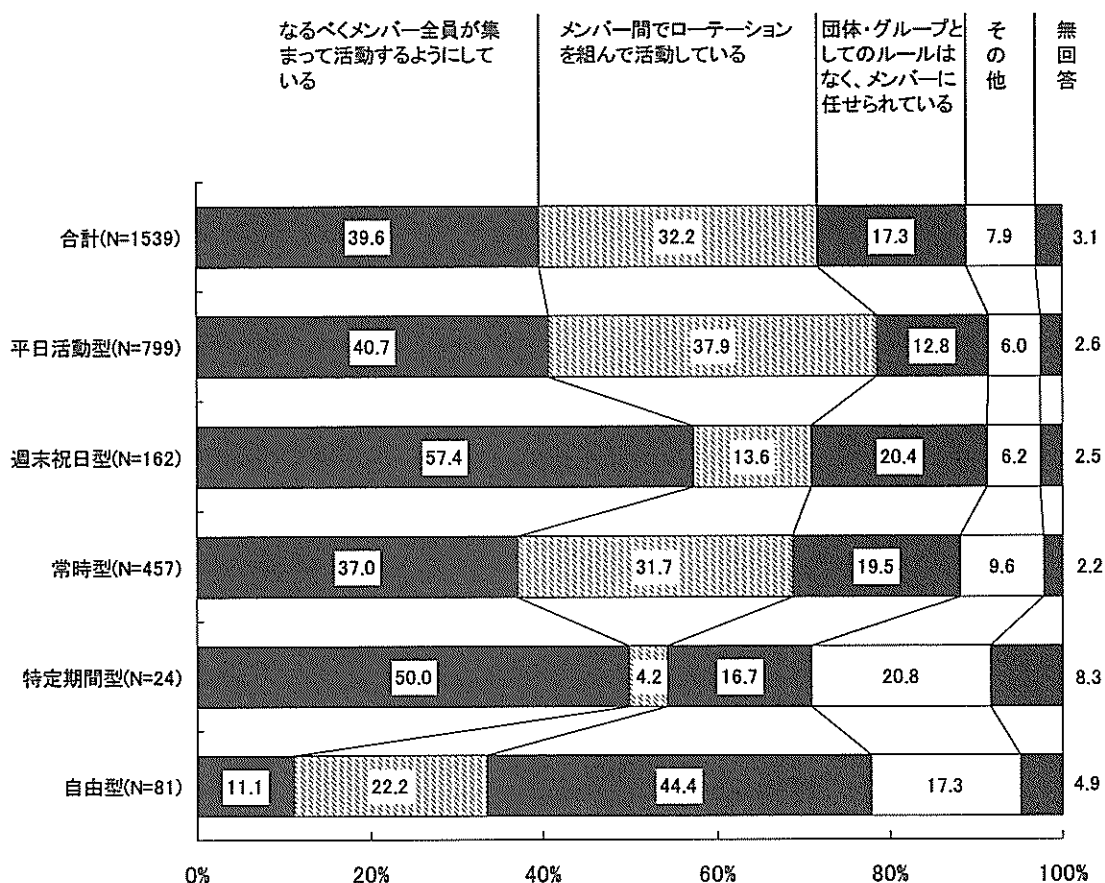


<活動時間帯別>

「週末祝日型」で活動している団体・グループでは、「なるべくメンバー全員が集まって活動するようにしている」割合が57.4%と高くなっている。

「平日活動型」や「常時型」で活動している団体・グループでは、「なるべくメンバー全員が集まって活動するようにしている」割合が4割程度と最も高いものの、「メンバー間でローテーションを組んで活動している」割合も各々37.9%、31.7%と高くなっている。

図表Ⅲ－ 77 <活動時間帯別>メンバーの活動のしかたに関するルール(問 11)



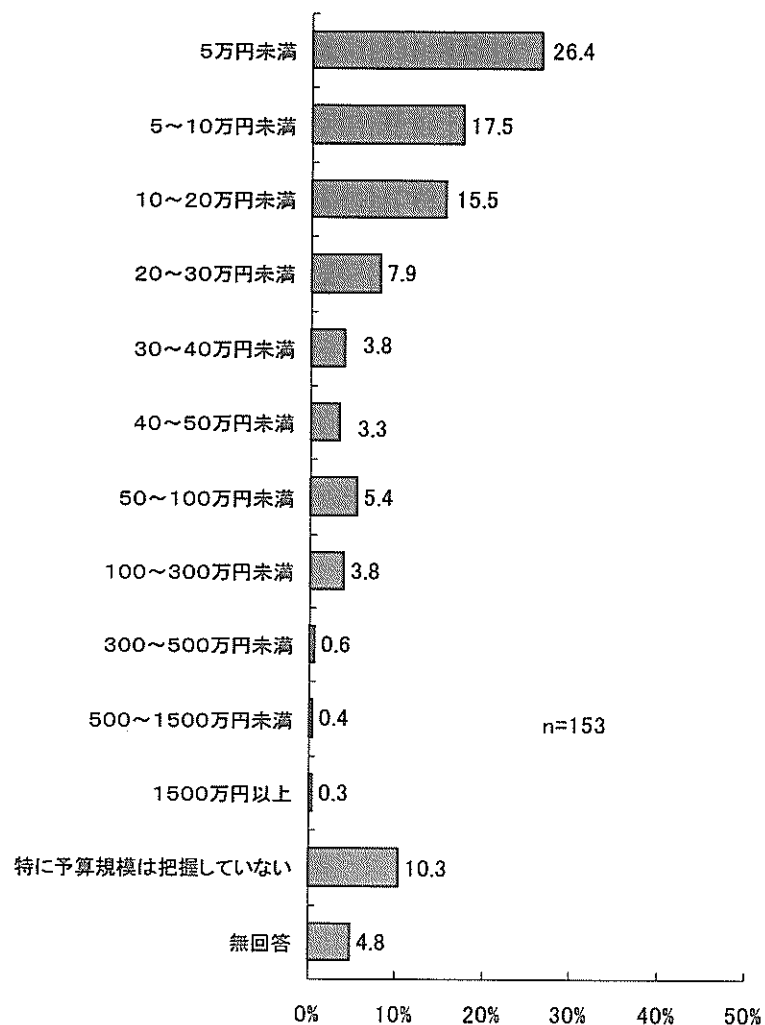
5. 資金について

(1) 予算規模

「5万円未満」が26.4%、「5～10万円未満」が17.5%、「10～20万円未満」が15.5%となっており、年間予算が小規模な団体・グループが多いことがわかる。なお、「特に予算規模は把握していない」と答えた団体・グループが10.3%となっている。

前回調査でも、年間予算規模が「10万円未満」の団体が35.2%と多くなっていたことから、現在でも、社協に登録しているボランティア団体・グループには、小規模な年間予算のところが多いことがわかる。

図表Ⅲ－78 年間予算規模(問12)



<メンバー数の規模別>

大規模な団体・グループほど年間予算規模が高くなっていく傾向にある。「10人未満」のメンバー数の団体・グループでは年間予算規模が「5万円未満」の団体・グループの割合が45.8%と最も高くなっているが、「30～50人未満」の団体・グループでは「10～20万円未満」が21.0%となっており、「100人以上」の団体・グループでは「100～300万円未満」が17.0%となっている。

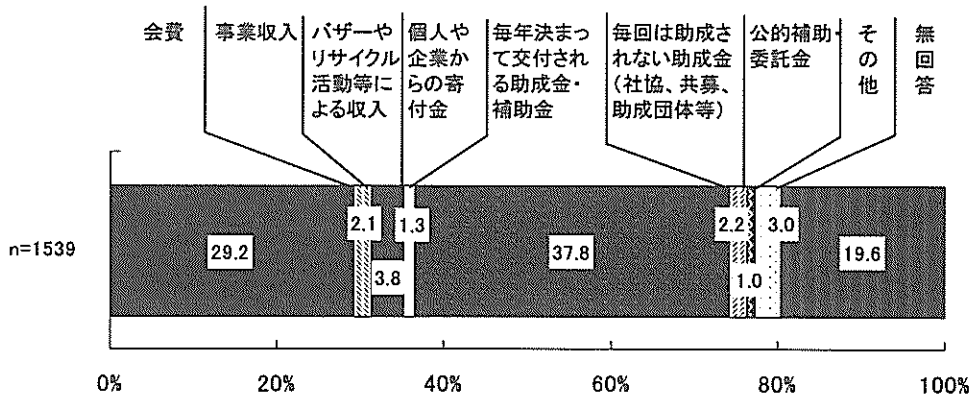
図表Ⅲ－79 <メンバー数の規模別>年間予算規模(問12)

団体・グループの 年間予算規模	調査 数	団体・グループのメンバー数											特 に 予 算 規 模 は 把 握 し な い	無 回 答
		5 万 円 未 満	5 ～ 1 0 万 円 未 満	1 0 ～ 2 0 万 円 未 満	2 0 ～ 3 0 万 円 未 満	3 0 ～ 4 0 万 円 未 満	4 0 ～ 5 0 万 円 未 満	5 0 ～ 1 0 0 万 円 未 満	1 0 0 ～ 3 0 0 万 円 未 満	3 0 0 ～ 5 0 0 万 円 未 満	5 0 0 ～ 1 0 0 0 万 円 未 満	1 0 0 0 ～ 5 0 0 0 万 円 未 満		
全体	1539	406	270	238	122	59	51	83	58	10	6	4	158	74
	100.0	26.4	17.5	15.5	7.9	3.8	3.3	5.4	3.8	0.6	0.4	0.3	10.3	4.8
10人未満	216	99	31	14	6	1	2	3	1	1	-	1	40	17
	100.0	45.8	14.4	6.5	2.8	0.5	0.9	1.4	0.5	0.5	-	0.5	18.5	7.9
10～20人未満	407	160	85	57	16	9	4	5	5	-	-	-	43	23
	100.0	39.3	20.9	14.0	3.9	2.2	1.0	1.2	1.2	-	-	-	10.6	5.7
20～30人未満	300	79	67	50	26	12	7	6	8	-	-	-	30	15
	100.0	26.3	22.3	16.7	8.7	4.0	2.3	2.0	2.7	-	-	-	10.0	5.0
30～50人未満	262	38	48	55	36	16	13	20	9	1	-	1	15	10
	100.0	14.5	18.3	21.0	13.7	6.1	5.0	7.6	3.4	0.4	-	0.4	5.7	3.8
50～100人未満	187	16	27	37	24	13	14	25	12	1	-	1	14	3
	100.0	8.6	14.4	19.8	12.8	7.0	7.5	13.4	6.4	0.5	-	0.5	7.5	1.6
100人以上	135	10	6	17	12	7	10	21	23	7	6	1	11	4
	100.0	7.4	4.4	12.6	8.9	5.2	7.4	15.6	17.0	5.2	4.4	0.7	8.1	3.0

(2) 収入源

主な収入源は、「毎年決まって交付される助成金・補助金」が37.8%、「会費」が29.2%と多くなっている。

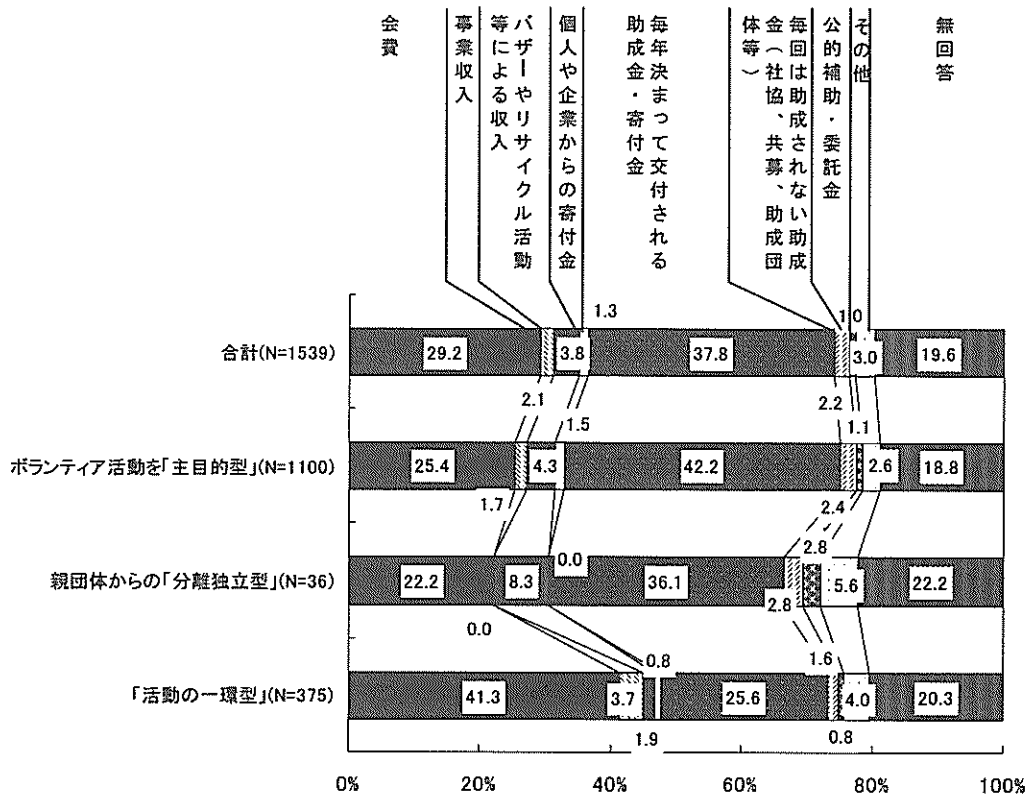
図表Ⅲ－80 主な収入源(問12付問1)



<団体の目的別>

「主目的型」では、「毎年決まって交付される助成金・補助金」が主な収入源である団体・グループが42.2%と最も高くなっている。一方、「活動の一環型」では、「会費」の割合が41.3%と最も高くなっている。

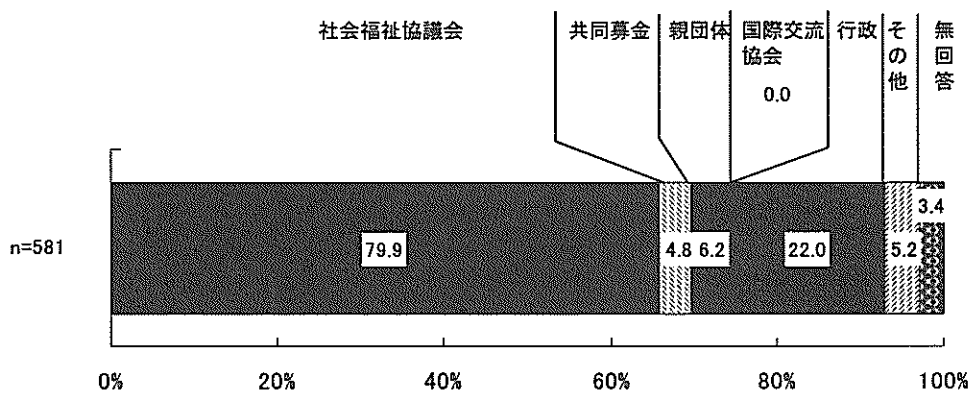
図表Ⅲ－81 <団体の目的別>主な収入源(問12付問1)



「毎年決まって交付される助成金・補助金」の交付元では、「社会福祉協議会」が 79.9%と最も多くなっており、次いで、「行政」が 22.0%となっている。

前回調査では団体・グループの収入内訳をきいたが、「民間の助成金(社協・共募・民間助成団体)」からの資金が 37.9%、「自己資金(会費・賛助会費・積立金等)」が 22.4%と多くなっており、今回調査においても前回調査と同様の結果となった。

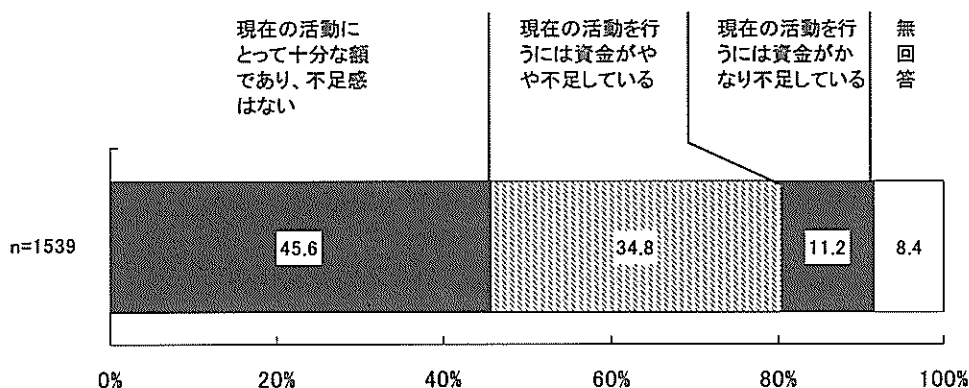
図表Ⅲ－ 82 毎年決まって交付される助成金・補助金の交付元(問 12 付問1、複数回答)



(3) 資金の充足感

予算規模が、団体・グループの活動や運営にとって十分かどうかについてきいたところ、「現在の活動にとって十分な額であり、不足感はない」と答えた団体・グループが45.6%、「現在の活動を行うには資金がやや不足している」が34.8%、「現在の活動を行うには資金がかなり不足している」が11.2%となっている。

図表Ⅲ－83 予算規模の過不足感(問12付問2)



(4) 有償の活動の動向

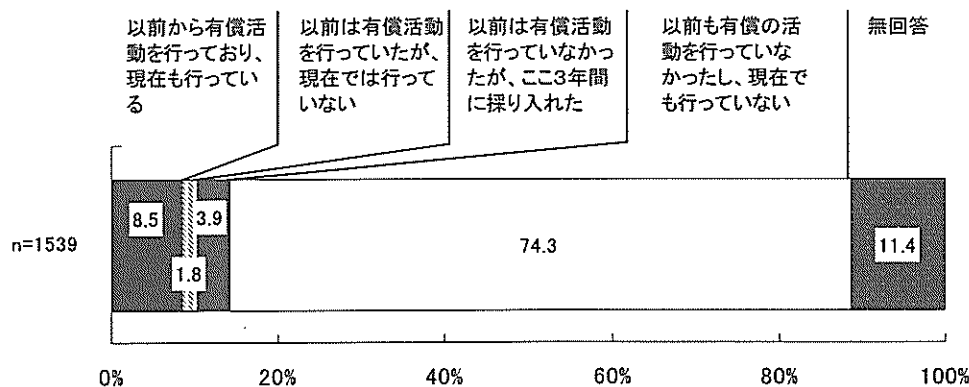
①有償活動の実施状況

ここ3年間のうちに、有償の活動を採り入れたかどうかについてきいたところ、「以前も有償の活動を行っていなかったし、現在でも行っていない」団体・グループが74.3%と大半を占めた。

一方、「以前は有償活動を行っていなかったが、ここ3年間に採り入れた」団体・グループは3.9%であった。「以前から有償活動を行っており、現在も行っている」団体・グループが8.5%おり、現在有償の活動を行っているのは合計で12.4%である。

なお、「以前は有償活動を行っていたが、現在は行っていない」団体・グループは1.8%となっている。

図表Ⅲ－84 有償活動の実施状況(問13)

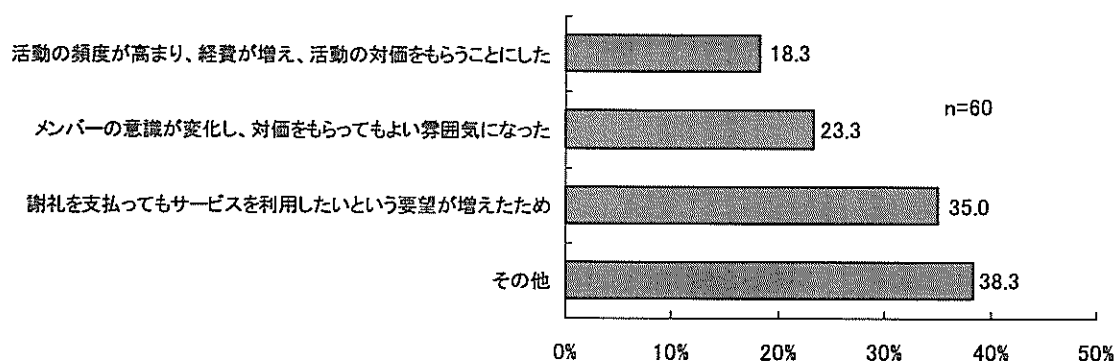


②最近有償活動を採り入れた理由

「以前は有償活動を行っていなかったが、ここ3年間に採り入れた」団体・グループが、有償活動を採り入れた理由は、「謝礼を支払ってもサービスを利用したいという要望が増えたため」が35.0%と多くなっており、利用者の側の意向に対応していることがわかる。また、「メンバーの意識が変化し、対価をもらってもよい雰囲気になった」が23.3%、「活動の頻度が高まり、経費が増え、活動の対価をもらうことにした」が18.3%となっている。

また、「その他」が38.3%となっており、その内容では、「活動対象者にもともと有償でもサービスを受けたいという要望があったため」や「交通費等の実費がかかるので、これを賄うため」などが挙げられている。

図表Ⅲ－85 【以前は有償活動を行っていなかったが、ここ3年間に採り入れた団体・グループ】
有償活動を採り入れた理由(問13付問1、複数回答)



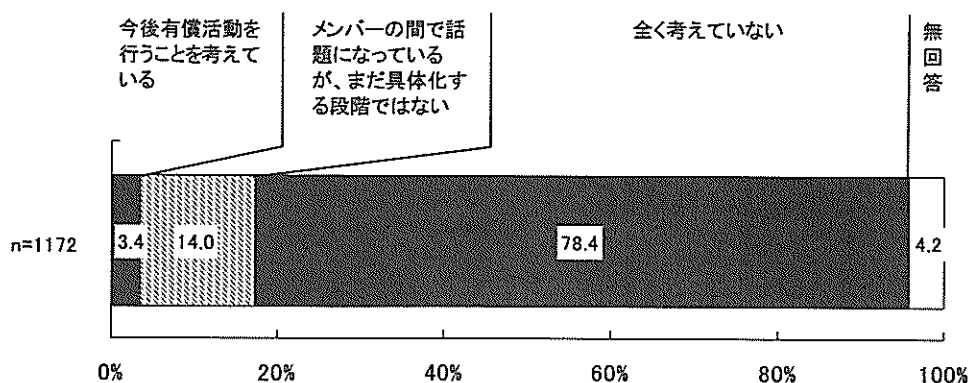
③今後有償活動を採り入れる意向の有無

現在有償活動を行っていない団体・グループに今後有償活動を採り入れていくかどうかについてきいたところ、「全く考えていない」と答えた団体・グループが78.4%と大半を占めている。

「今後有償活動を行うことを考えている」団体・グループは3.4%にとどまり、「メンバーの間で話題になっているが、まだ具体化する段階ではない」が14.0%となっている。

図表Ⅲ－86 【現在有償活動を行っていない団体・グループ】

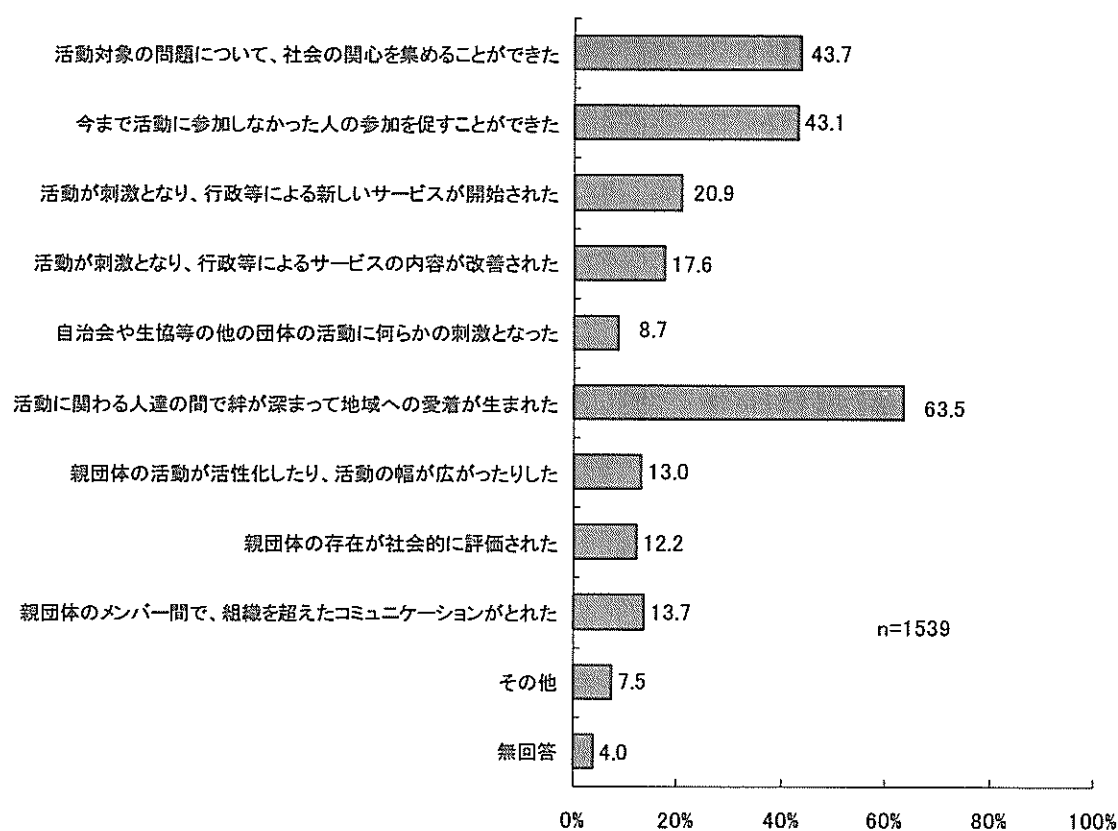
今後有償活動を採り入れる意向の有無(問13付問2)



6. 活動による社会的な効果

団体・グループが行っているボランティア活動が社会的にどのような効果を生んでいるかについて自己評価を行ってもらったところ、「活動に関わる人達の間で絆が深まって地域への愛着が生まれた」が 63.5%と最も多くなっており、次いで、「自分達の活動が対象としている問題について、社会の関心を集めることができた」が 43.7%、「今まで活動に参加しなかった人の参加を促すことができた」が 43.1%、「自分達の活動が刺激となって、行政や社協等による新しいサービスが開始された」が 20.9%、「自分達の活動が刺激となって、行政や社協等によるサービスの内容が改善された」が 17.6%となっている。

図表Ⅲ－ 87 ボランティア活動による社会的な効果(問 17、複数回答)

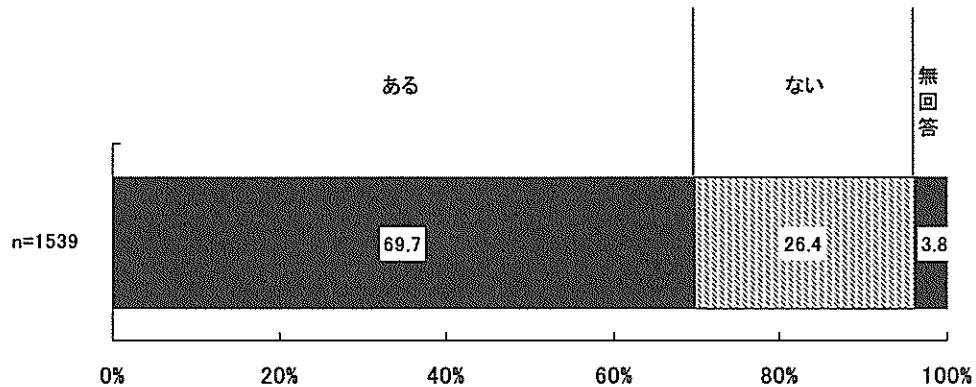


7. 今後の課題と活動の方向性

(1) 活動の課題

「現在活動を行ううえで困っていることがある」団体・グループが 69.7%と過半数を占めており、「困っていない」団体・グループは 26.4%であった。

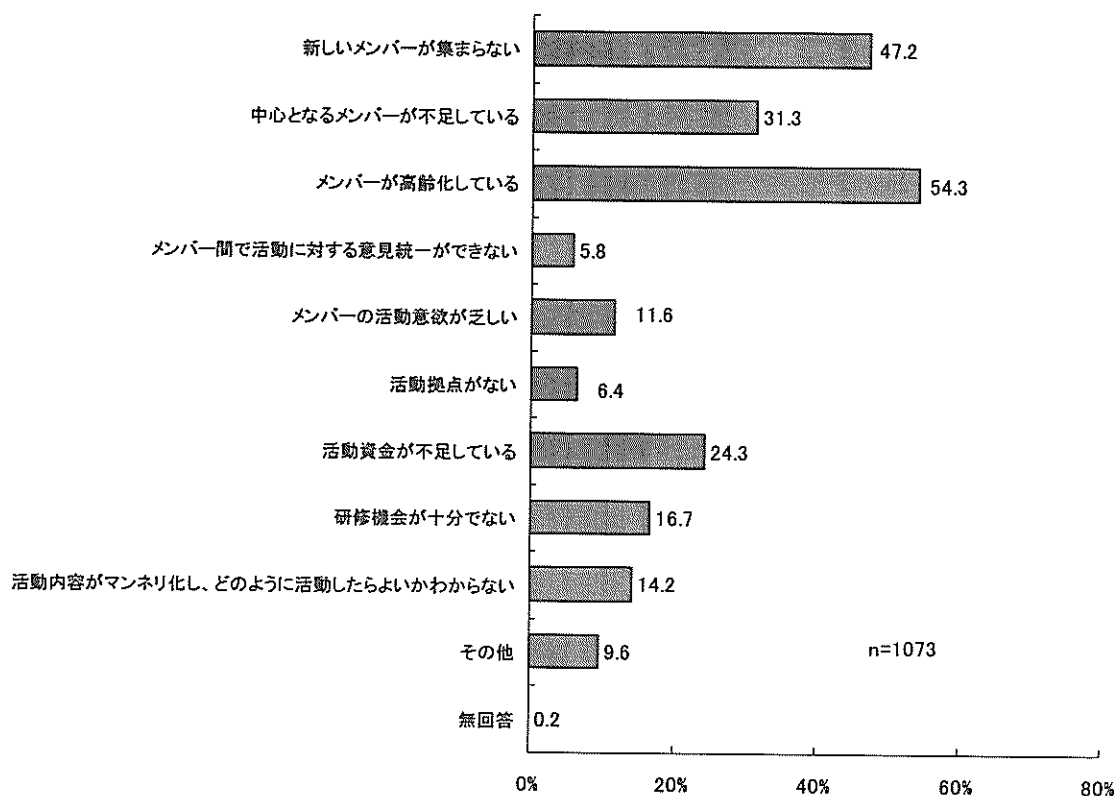
図表Ⅲ－ 88 現在活動を行ううえで困っていることの有無(問 18)



現在活動を行ううえで困っていることでは、「メンバーが高齢化している」を挙げた団体・グループが 54.3%、「新しいメンバーが集まらない」が 47.2%、「中心となるメンバーが不足している」が 31.3%、「活動資金が不足している」が 24.3%となっており、メンバーに関する困りごとが多くなっていることがわかる。かつて活動を中止あるいは休止することを考えた経験のある団体・グループにその理由をたずねたところ、やはりメンバーの人材不足が挙げられていた。メンバーに関する困りごとは、団体・グループの存続にも影響してくる深刻な問題といえよう。

前回調査でも、「団体・グループ内のメンバーが高齢化している」が 38.1%、「新しい参加者が加入してこない」が 31.3%と最も高くなっており、今回調査も同様の結果となった。

図表Ⅲ－ 89 【現在活動を行ううえで困っていることがある団体・グループ】
困っていること(問 18 付問1、複数回答)



<活動年数別>

「新しいメンバーが集まらない」ことや「メンバーが高齢化している」ことに困っている団体・グループは、おおむね、活動年数が長くなるにしたがって、高い割合となっている。

一方、活動年数が「5年未満」と比較的浅い活動歴の団体・グループでは、「活動資金が不足している」ことや「研修機会が十分でない」ことに困っている割合が、他の活動年数の団体・グループよりも若干高くなっている。

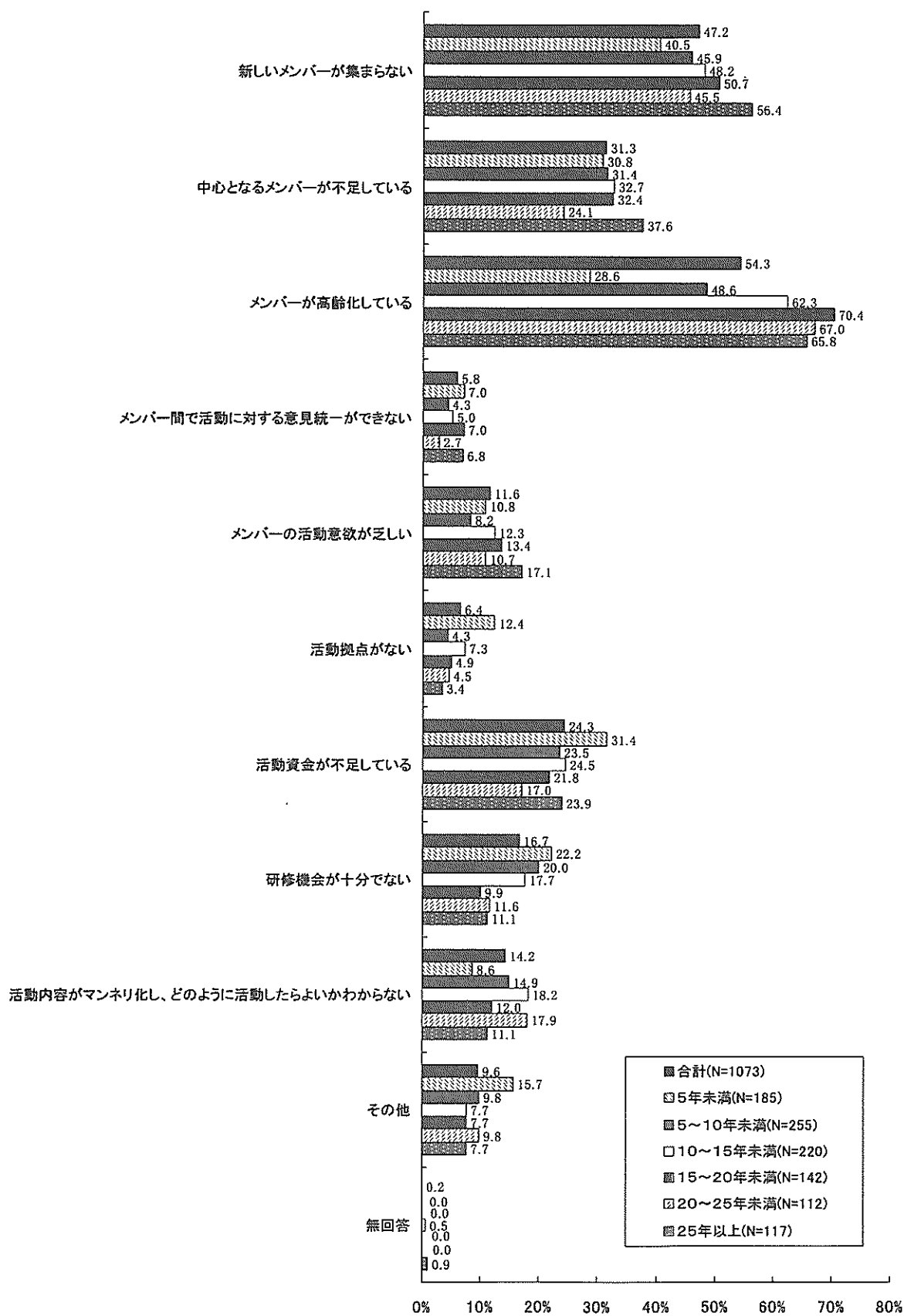
<立ち上げ時のメンバー別>

「同じ経験をもつ仲間」が立ち上げメンバーであった団体・グループでは、「中心となるメンバーが不足している」ことや「活動資金が不足している」ことに困っている割合が、他の種類の団体・グループよりも高くなっている。

「ボランティア活動を推進、受入れる機関の呼びかけで集まった人達」が立ち上げ時のメンバーである団体・グループでは、「メンバーが高齢化している」ことが最も大きな困りごとであり、その割合は他の種類の団体・グループよりも高くなっている。

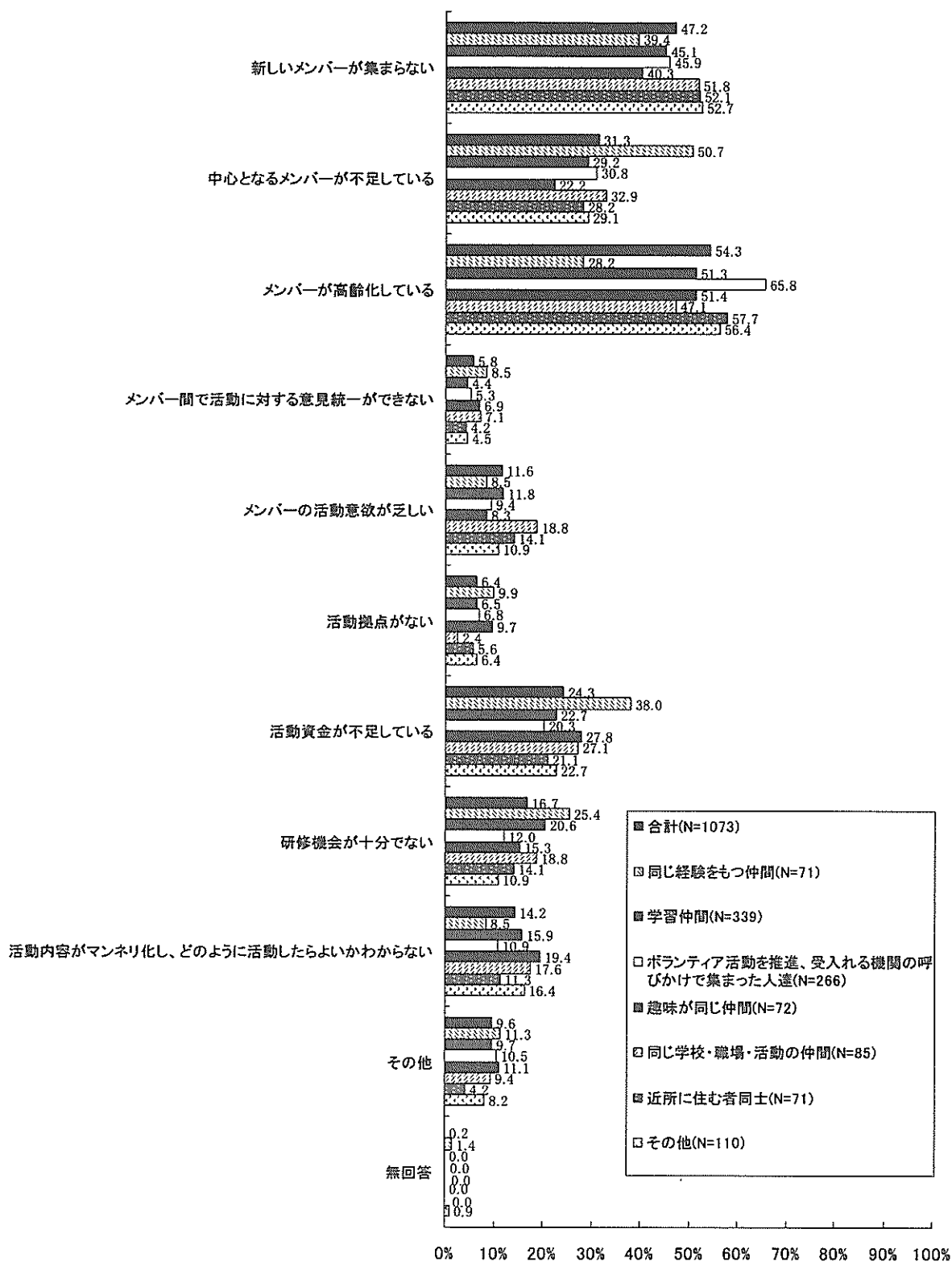
図表Ⅲ－ 90 【現在活動を行ううえで困っていることがある団体・グループ】

＜活動年数別＞困っていること(問 18 付問1、複数回答)



図表Ⅲ－91 【現在活動を行ううえで困っていることがある団体・グループ】

＜立ち上げ時のメンバー別＞困っていること(問 18 付問1、複数回答)

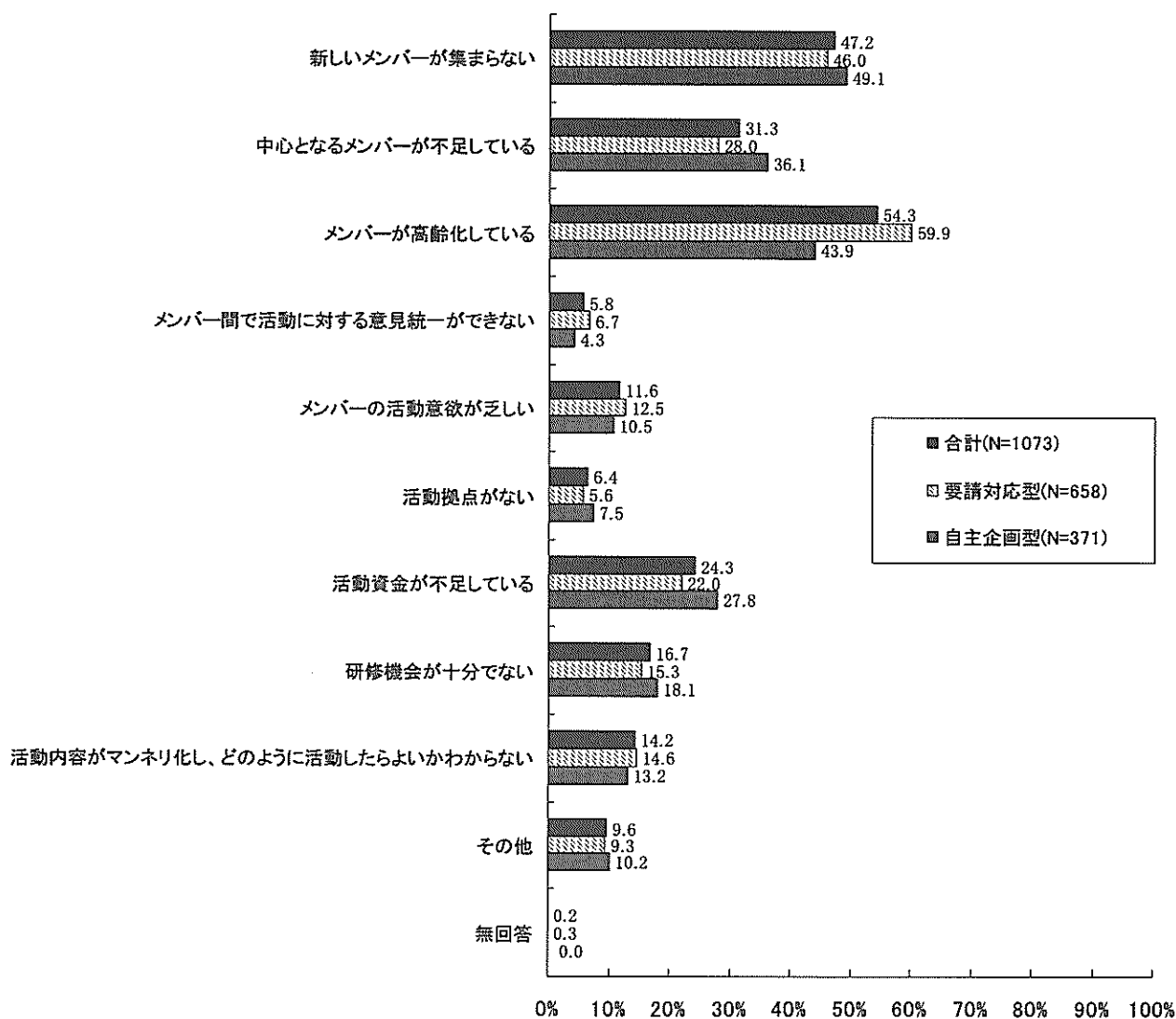


＜活動プログラムの形態別＞

「要請対応型」の団体・グループでは、「メンバーが高齢化している」という問題を抱えている割合が59.9%と高くなっている。

図表Ⅲ－ 92 【現在活動を行ううえで困っていることがある団体・グループ】

＜活動プログラムの形態別＞困っていること(問 18 付問1、複数回答)



<具体的な活動内容別>

「配食・会食サービス」「外出の手伝い、移送サービス」「話し相手」「掃除や作業の手伝い」「サロン活動」を行っている団体・グループでは、「メンバーが高齢化している」ことが困っていると答えた割合が、各々72.0%、63.6%、63.3%、70.6%、64.8%と高くなっている。

また「スポーツ活動」を行っている団体・グループでは、「新しいメンバーが集まらない」ことに困っている割合が54.2%となっており、他の活動を行っている団体・グループよりも高い割合となっている。

図表Ⅲ－93【現在活動を行ううえで困っていることがある団体・グループ】

<具体的な活動内容別>困っていること(問18付問1、複数回答)

具体的な活動内容	調査数	新しいメンバーが集まらない	中心となるメンバーが不足している	メンバーが高齢化している	メンバー間で活動できない	メンバーの活動意欲が乏しい	活動拠点が無い	活動資金が不足している	研修機会が十分でない	活動内容がマンネリ化している	その他	無回答
全体	942	432	301	503	57	108	66	232	167	127	92	2
	100.0	45.9	32.0	53.4	6.1	11.5	7.0	24.6	17.7	13.5	9.8	0.2
配食・会食サービス	239	112	70	172	11	23	16	57	34	31	22	2
	100.0	46.9	29.3	72.0	4.6	9.6	6.7	23.8	14.2	13.0	9.2	0.8
外出の手伝い、移送サービス	176	89	53	112	6	15	12	51	31	22	18	-
	100.0	50.6	30.1	63.6	3.4	8.5	6.8	29.0	17.6	12.5	10.2	-
話し相手	362	173	120	229	20	48	25	102	61	54	36	-
	100.0	47.8	33.1	63.3	5.5	13.3	6.9	28.2	16.9	14.9	9.9	-
交流・遊び	460	211	171	228	31	61	41	121	77	72	48	-
	100.0	45.9	37.2	49.6	6.7	13.3	8.9	26.3	16.7	15.7	10.4	-
手話・点訳・朗読等のコミュニケーションの支援	245	111	91	105	19	33	17	62	63	32	30	-
	100.0	45.3	37.1	42.9	7.8	13.5	6.9	25.3	25.7	13.1	12.2	-
趣味・レクリエーション活動への支援・指導	247	106	94	130	19	36	16	76	52	40	27	-
	100.0	42.9	38.1	52.6	7.7	14.6	6.5	30.8	21.1	16.2	10.9	-
スポーツ活動	59	32	32	33	5	14	3	24	12	11	4	-
	100.0	54.2	54.2	55.9	8.5	23.7	5.1	40.7	20.3	18.6	6.8	-
人の学習活動への支援・指導	169	65	68	77	16	23	20	59	44	22	20	-
	100.0	38.5	40.2	45.6	9.5	13.6	11.8	34.9	26.0	13.0	11.8	-
簡単な日曜大工や庭仕事など	32	11	8	19	2	2	3	13	6	2	4	-
	100.0	34.4	25.0	59.4	6.3	6.3	9.4	40.6	18.8	6.3	12.5	-
掃除や作業の手伝い	180	88	55	127	10	26	10	42	21	26	13	1
	100.0	48.9	30.6	70.6	5.6	14.4	5.6	23.3	11.7	14.4	7.2	0.6
サロン活動	125	54	48	81	10	14	12	36	17	13	16	-
	100	43.2	38.4	64.8	8	11.2	9.6	28.8	13.6	10.4	12.8	-
その他	191	97	50	108	13	16	13	55	37	20	27	-
	100	50.8	26.2	56.5	6.8	8.4	6.8	28.8	19.4	10.5	14.1	-

(2) 今後の活動の方向性

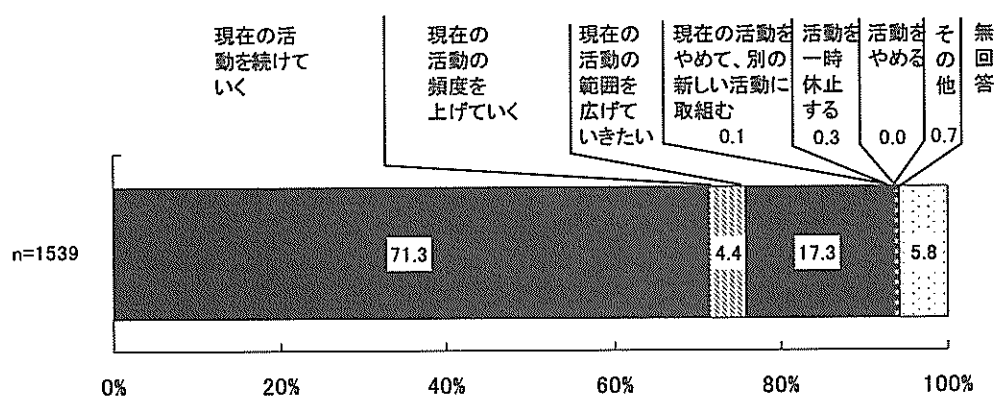
「現在の活動を続けていく」と答えた団体・グループが 71.3%と最も多くなっており、現状維持の方向性であるところが多いことがわかる。

一方、「現在の活動の範囲を広げていきたい」とした団体・グループが 17.3%、「現在の活動の頻度を上げていく」が 4.4%であった。

「活動をやめる」と答えた団体・グループはなく、「活動を一時休止する」も 0.3%と低い割合にとどまった。

前回調査と比較すると、現状維持を志向する団体・グループが若干多くなっている¹⁸。

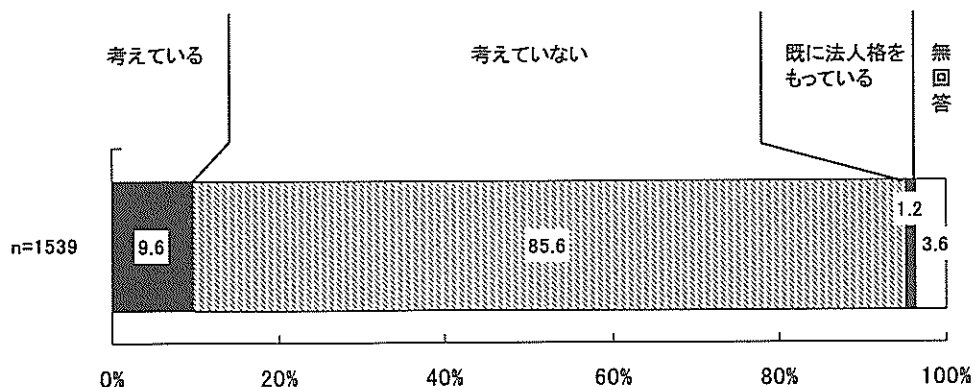
図表Ⅲ－94 今後の活動予定(問20)



(3) 法人格取得意向

法人格取得を考えている団体・グループは 9.6%にとどまり、法人格取得は考えていない団体・グループが 85.6%と大半を占めている。

図表Ⅲ－95 法人格取得の意向(問21)



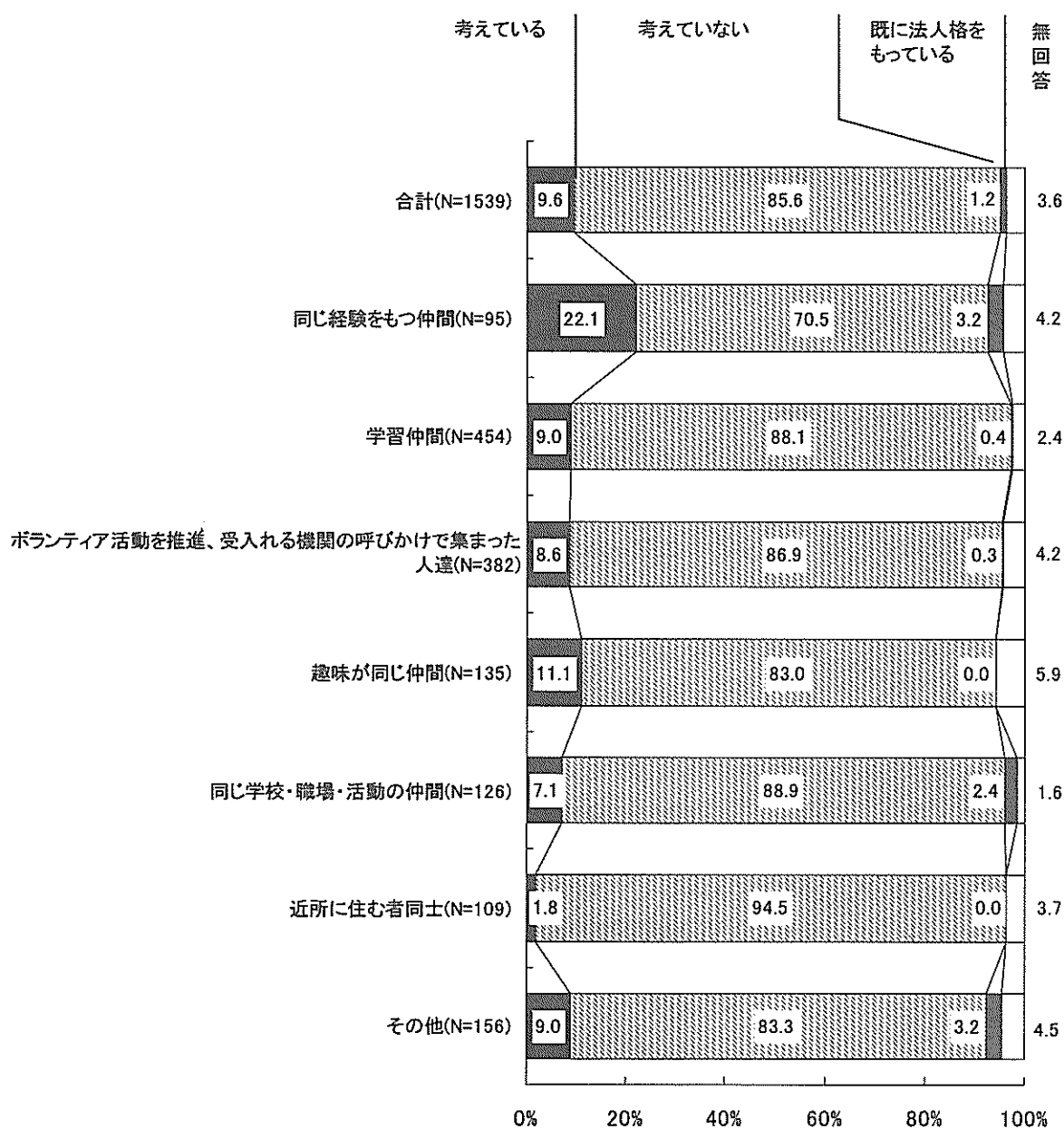
¹⁸ 前回調査では、「現在の活動を続けたい」が66.7%、「現在の活動の回数を増やしていきたい」が7.5%、「現在の活動に加えて、新たな分野の活動にも取組みたい」が21.9%などの結果であった。

<立ち上げ時のメンバー別>

「同じ経験をもつ仲間」が立ち上げた団体・グループでは、「法人格取得を考えている」団体・グループの割合が 22.1%と高くなっている。

一方、「近所に住む者同士」が立ち上げた団体・グループの場合は、「法人格取得を考えていない」団体・グループの割合が 94.5%と高くなっている。

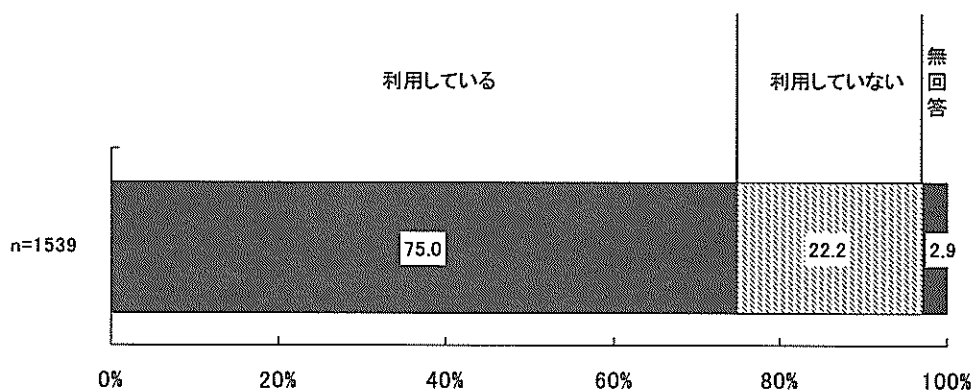
図表Ⅲ－ 96 <立ち上げ時のメンバー別>法人格取得の意向(問 21)



8. 支援機関の利用意向と要望

ボランティア活動を支援する機関を「利用している」団体・グループが 75.0%と多く、「利用していない」団体・グループが 22.2%となっている。

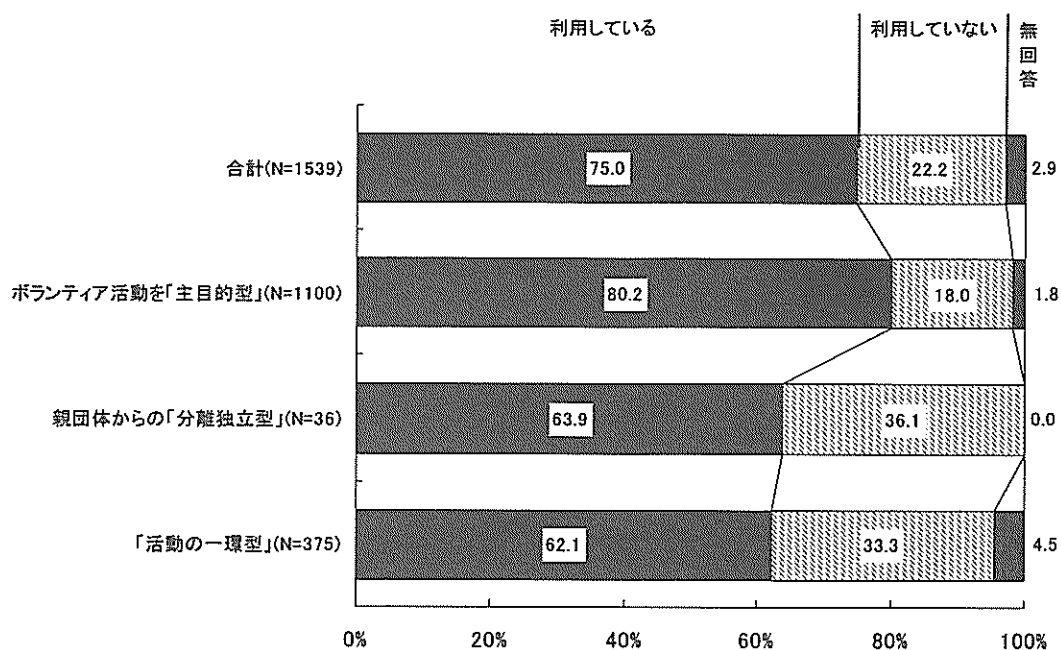
図表Ⅲ－ 97 ボランティア活動を支援する機関の利用状況(問 19)



<団体の目的別>

「主目的型」でボランティア活動を支援する機関を「利用している」と答えた割合が 80.2%と高くなっている。一方、「活動の一環型」では、「利用している」団体・グループの割合は 62.1%であり、「利用していない」団体・グループは 33.3%となっている。

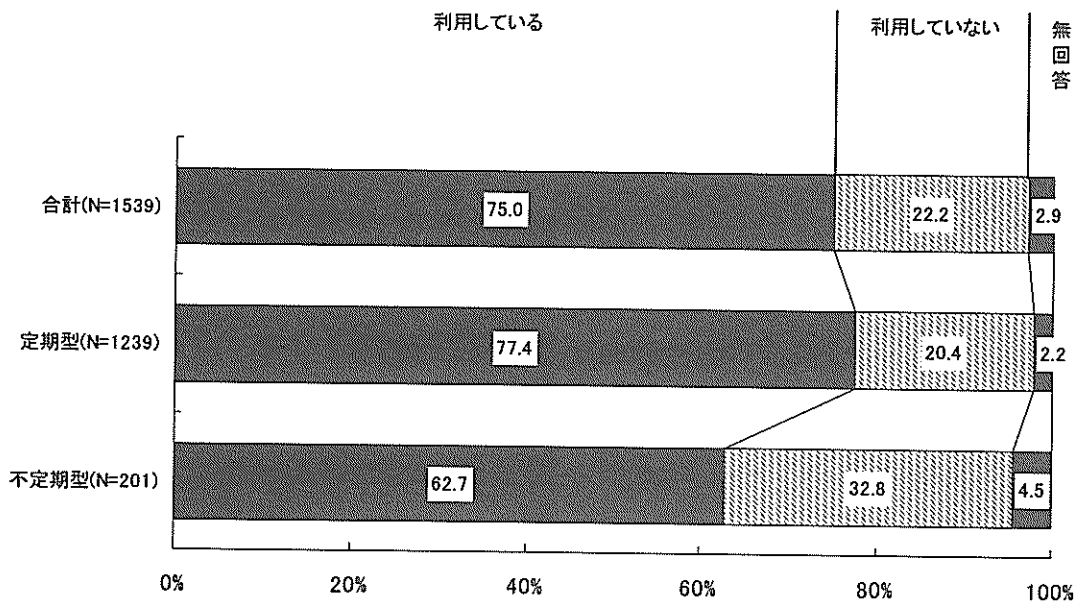
図表Ⅲ－ 98 <団体の目的別>ボランティア活動を支援する機関の利用状況(問 19)



<活動の定期性別>

「定期的な活動を行っている」団体・グループでは、ボランティア活動を支援する機関を「利用している」割合が77.4%と高くなっている。

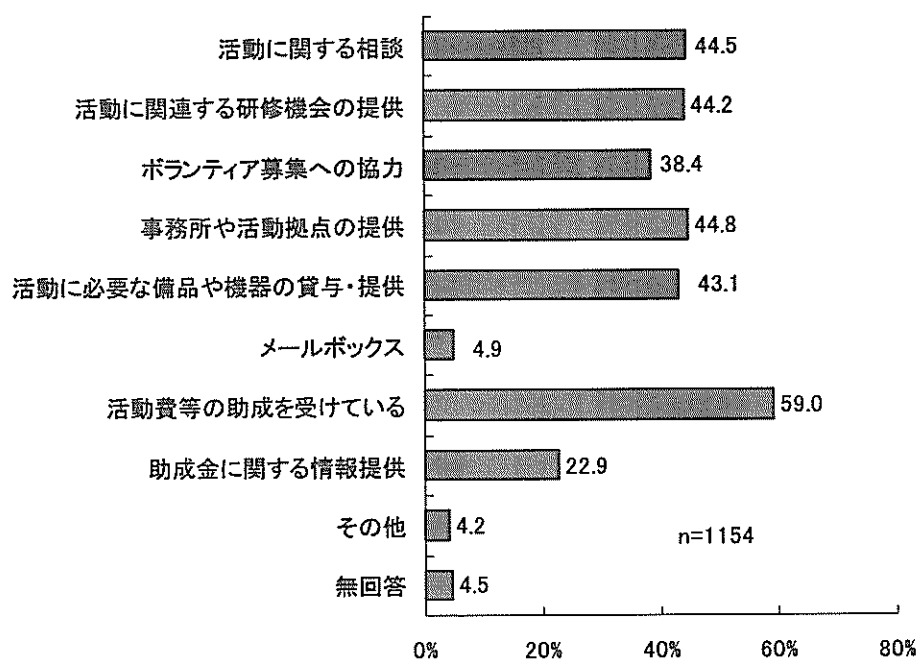
図表Ⅲ－99 <活動の定期性別>ボランティア活動を支援する機関の利用状況(問19)



(1) 利用している支援サービス

「活動費等の助成を受けている」が 59.0%、「事務所や活動拠点の提供」が 44.8%、「活動に関する相談」が 44.5%、「活動に関連する研修機会の提供」が 44.2%、「活動に必要な備品や機器の貸与・提供」が 43.1%、「ボランティア募集への協力」が 38.4%、「助成金に関する情報提供」が 22.9%となっており、幅広い支援サービスが利用されていることがわかる。

図表Ⅲ－ 100 【ボランティア活動を支援する機関を利用している団体・グループ】
利用している支援サービス(問 19 付問1、複数回答)



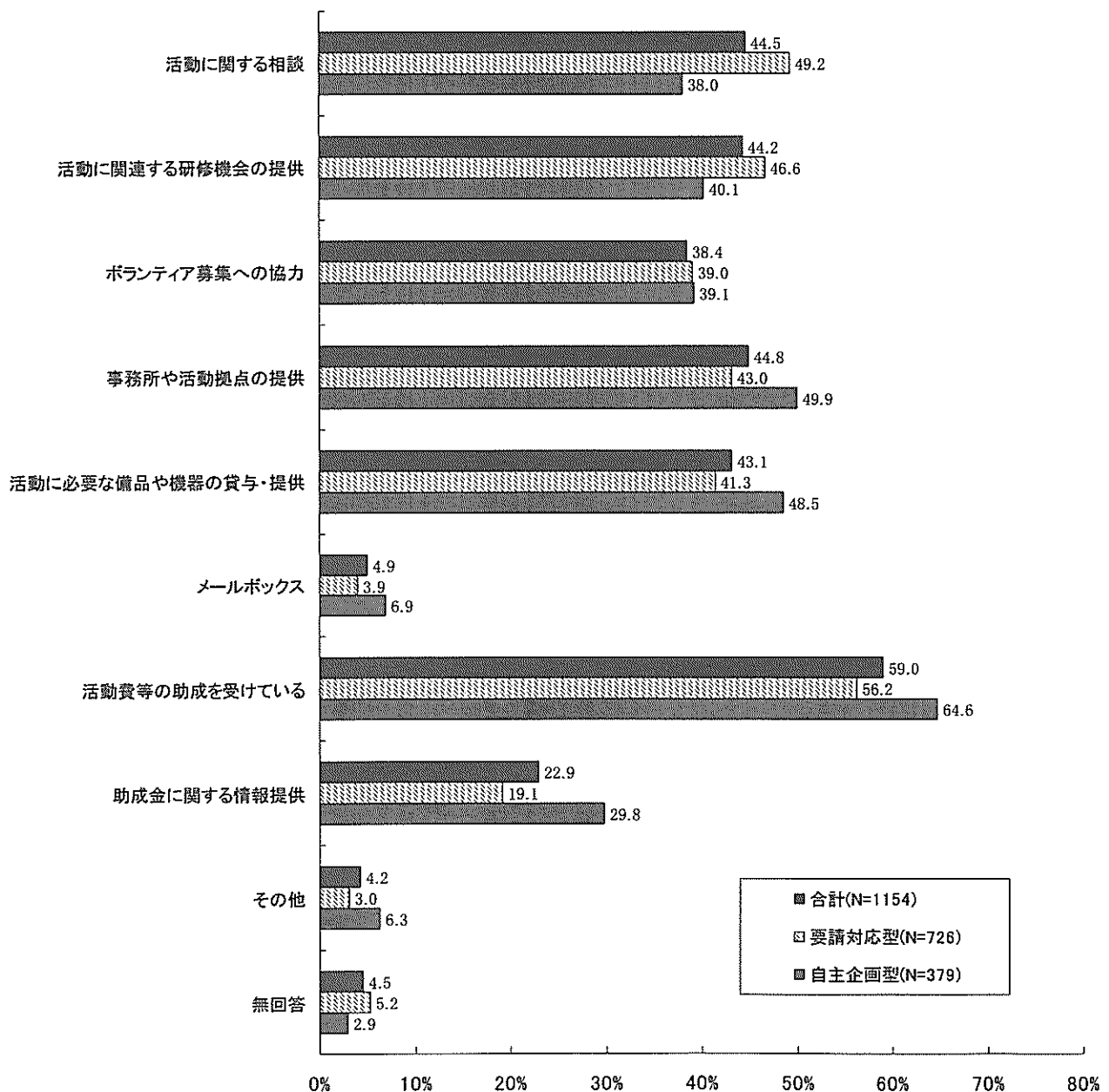
＜活動プログラムの形態別＞

「要請対応型」では、「活動に関する相談」を利用している団体・グループの割合が 49.2%、「活動に関する研修機会の提供」を利用している割合が 46.6%となっており、「自主企画型」の団体・グループよりも割合が高くなっている。

一方、「事務所や活動拠点の提供」「活動に必要な備品や機器の貸与・提供」「活動費等の助成」「助成金に関する情報提供」については、「自主企画型」の団体・グループのほうが利用している割合が各々49.9%、48.5%、64.6%、29.8%となっており、「要請対応型」よりも高くなっている。

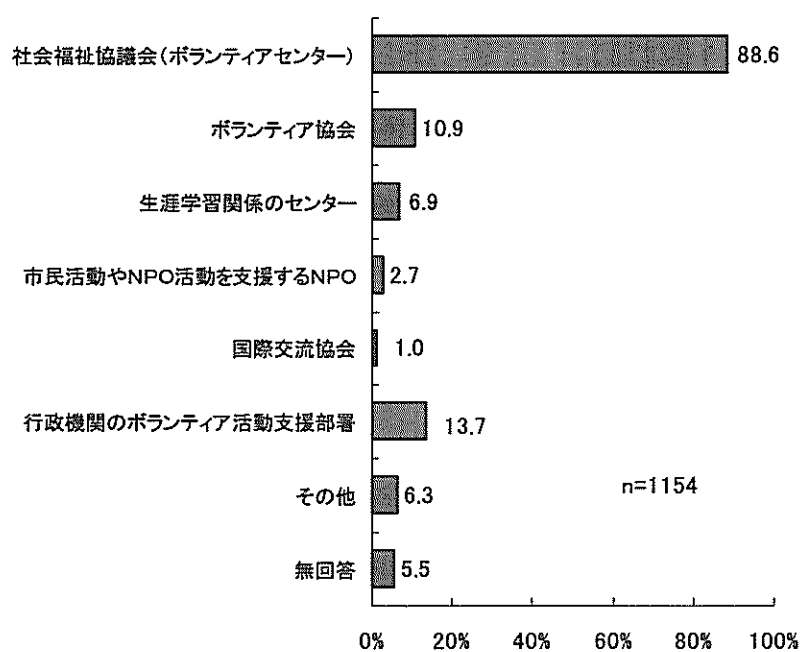
図表Ⅲ－ 101 【ボランティア活動を支援する機関を利用している団体・グループ】

＜活動プログラムの形態別＞利用している支援サービス(問 19 付問1、複数回答)



これらの支援サービスの提供機関では、「社会福祉協議会」が 88.6%と最も多くなっている。このほかには、「行政機関のボランティア活動支援部署」が 13.7%、「ボランティア協会」が 10.9%となっている。

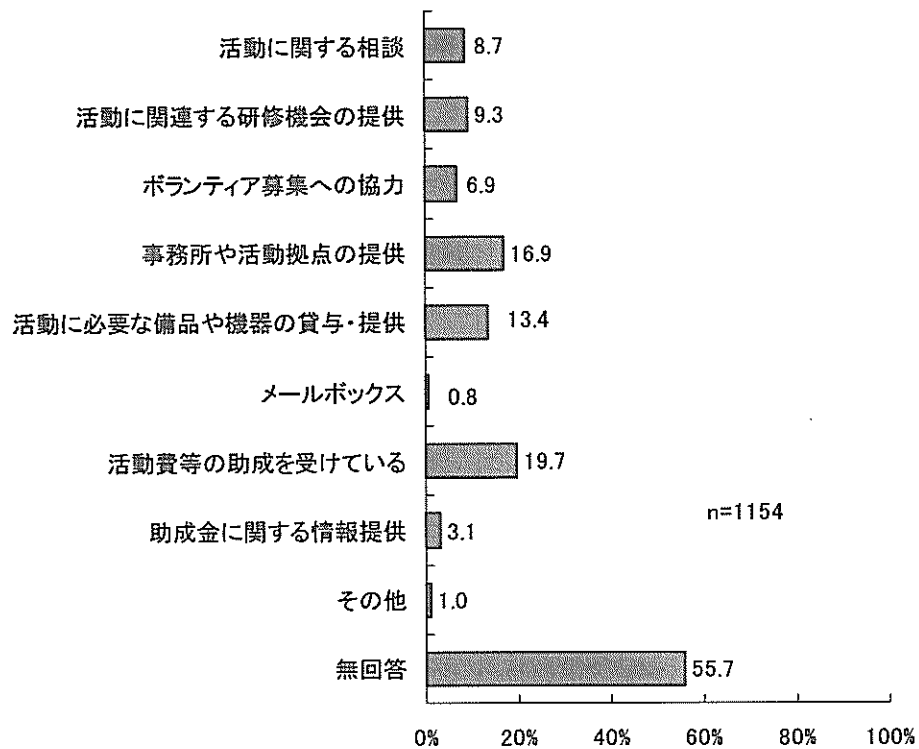
図表Ⅲ－ 102 【ボランティア活動を支援する機関を利用している団体・グループ】
利用している支援サービスの提供機関(問 19 付問2、複数回答)



(2) 役立っている支援サービス

「活動費等の助成を受けていることが役立っている」と回答した団体・グループが 19.7%、「事務所や活動拠点の提供」が16.9%、「活動に必要な備品や機器の貸与・提供」が13.4%となっている。無回答が多くなっているが、これは、役立っている支援サービスは特になことを意味しているものとも考えられる。

図表Ⅲ－ 103 【ボランティア活動を支援する機関を利用している団体・グループ】
役立っている支援サービス(問 19 付問1、複数回答)

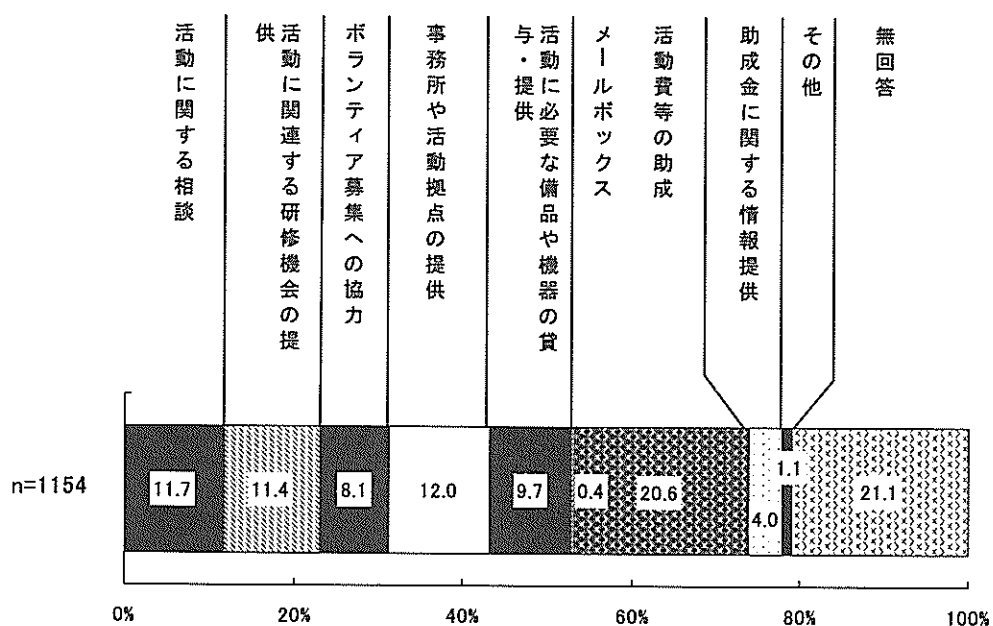


(3) 最も期待している支援サービス

「活動費等の助成」が 20.6%と最も期待されている。このほかに、「事務所や活動拠点の提供」が 12.0%、「活動に関する相談」が 11.7%、「活動に関連する研修機会の提供」が 11.4%となっている。

図表Ⅲ－ 104 【ボランティア活動を支援する機関を利用している団体・グループ】

最も期待している支援サービス(問 19 付問1)



IV. ボランティア活動を行っている個人向け 調査結果

IV. ボランティア活動を行っている個人向け調査結果

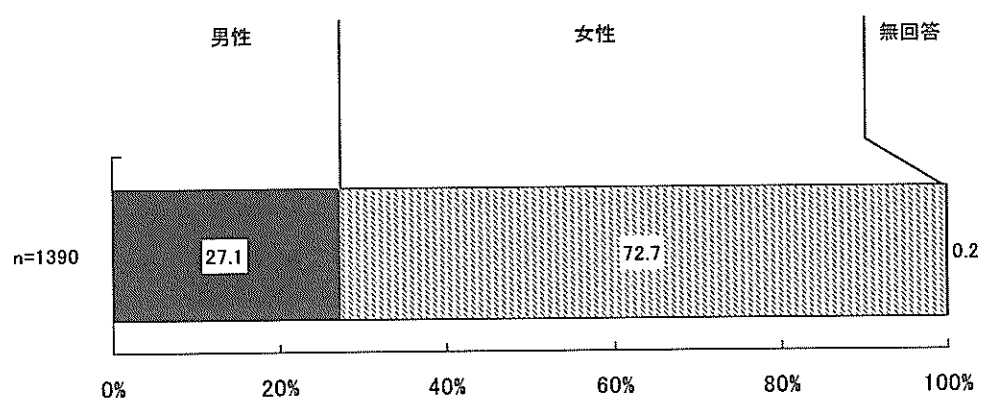
1. 回答者のプロフィール

(1) 性別

「女性」が72.7%、「男性」が27.1%となっている。

前回調査¹では、「女性」が78.0%、「男性」が21.7%であり、若干ではあるが、「男性」の割合が高くなっている。

図表IV-1 回答者の性別【問 18(1)】

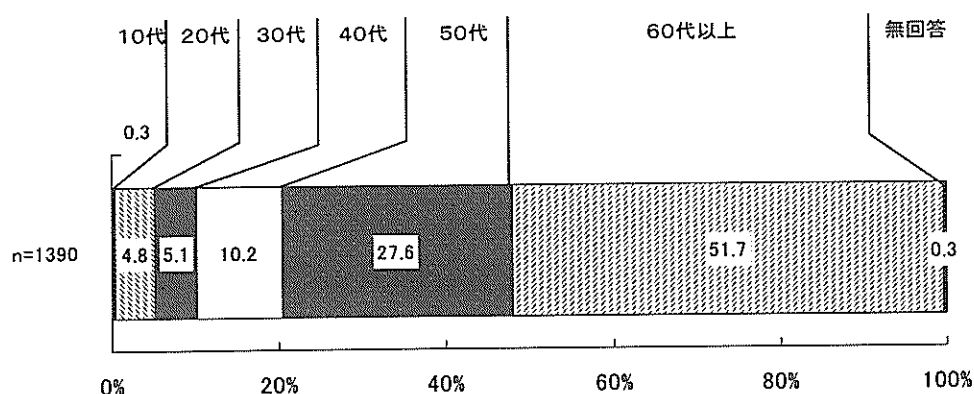


(2) 年齢

「60代以上」が51.7%と最も多く、次いで、「50代」が27.6%、「40代」が10.2%となっており、中高年が大半を占めている。

前回調査とほぼ同様の結果となった²。

図表IV-2 回答者の年齢【問 18(2)】



¹ 前回調査のうち、「団体に所属している個人」に関する集計結果と比較している（「I. 調査の概要」の「4. 前回調査について」を参照）。

² 前回調査では、「10代」が1.8%、「20代」が3.5%、「30代」が4.9%、「40代」が15.0%、「50代」が25.2%、「60代以上」が49.6%であった。

<性別>

「男性」では「60代以上」が62.3%と最も多くなっており、「女性」では「60代以上」が47.9%、「50代」が33.0%となっている。

図表IV-3 <性別>回答者の年齢[問18(2)]

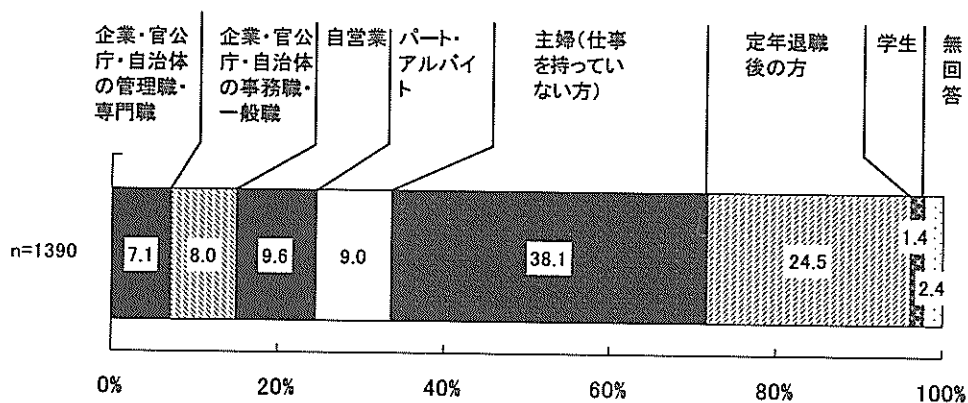
	調査数	10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	無回答
全体	1390	4	67	71	142	383	719	4
	100.0	0.3	4.8	5.1	10.2	27.6	51.7	0.3
男性	377	-	34	28	30	50	235	-
	100.0	-	9.0	7.4	8.0	13.3	62.3	-
女性	1010	4	33	43	112	333	484	1
	100.0	0.4	3.3	4.3	11.1	33.0	47.9	0.1

(3) 職業

「主婦(仕事を持っていない方)」が38.1%、「定年退職後の方」が24.5%と多くなっている。

前回調査と比較すると、定年退職した人の割合が若干高くなっており、その分、主婦の割合が減っている³。

図表IV-4 回答者の職業[問18(3)]

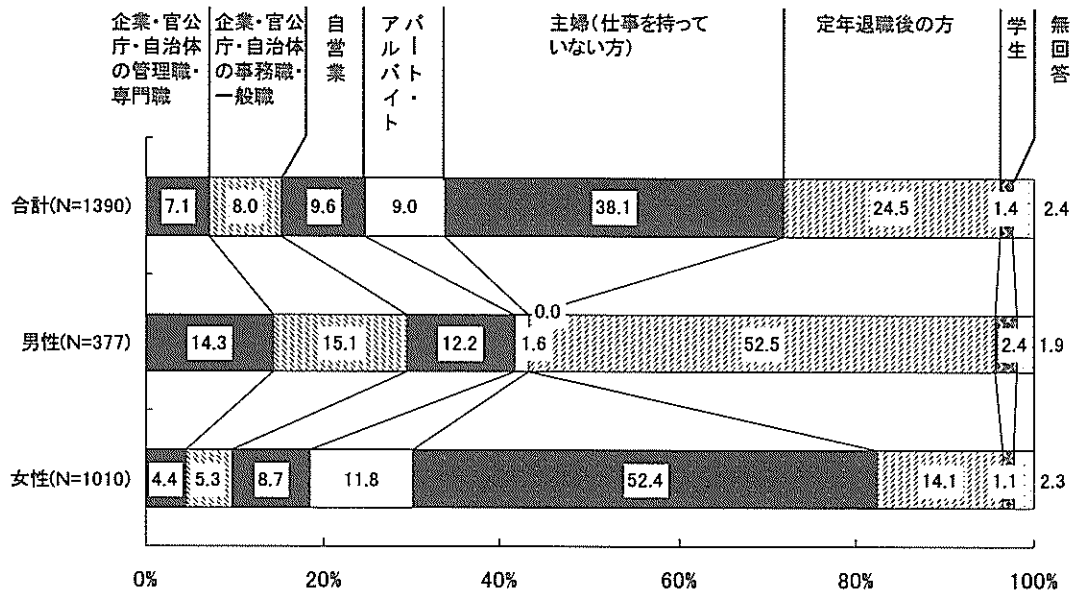


<性別>

「男性」では「定年退職後の方」が52.5%と最も多くなっており、「女性」では「主婦(仕事を持っていない方)」が52.4%と多くなっている。また、企業・官公庁・自治体に勤めている人の割合は女性より男性のほうが高くなっている。

³ 前回調査では、「主婦」が44.6%、「退職者」が16.5%などとなった。

図表Ⅳ-5 <性別>回答者の職業[問 18(3)]



<年齢別>

「20代」では「企業・官公庁・自治体の管理職・専門職」が34.3%、「企業・官公庁・自治体の一般職・事務職」が26.9%と多くなっている。「30代」では、「企業・官公庁・自治体の一般職・事務職」が36.6%、「主婦(仕事を持っていない方)」が25.4%となっている。40代と50代では、「主婦(仕事を持っていない方)」が最も多くなっており、各々34.5%、50.4%である。「60代以上」では、「定年退職後の方」が45.6%と最も多く、次いで、「主婦(仕事を持っていない方)」が37.3%となっている。

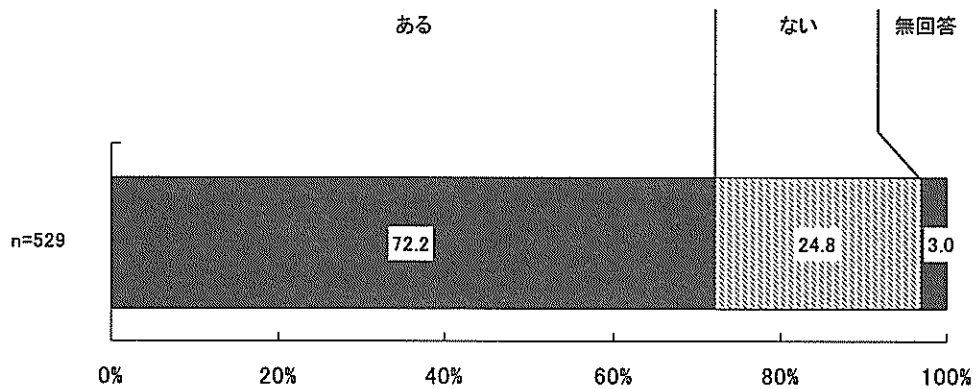
図表Ⅳ-6 <年齢別>回答者の職業[問 18(3)]

回答者の職業	調査数	の企業・官公庁・自治体の管理職・専門職	の企業・官公庁・自治体の事務職・一般職	自営業	パート・アルバイト	主婦(仕事を持っていない方)	定年退職後の方	学生	無回答
回答者の年齢									
全体	1390	98	111	134	125	529	340	20	33
	100.0	7.1	8.0	9.6	9.0	38.1	24.5	1.4	2.4
10代	4	-	-	-	-	-	-	4	-
	100.0	-	-	-	-	-	-	100.0	-
20代	67	23	18	3	7	1	-	13	2
	100.0	34.3	26.9	4.5	10.4	1.5	-	19.4	3.0
30代	71	12	26	7	6	18	-	1	1
	100.0	16.9	36.6	9.9	8.5	25.4	-	1.4	1.4
40代	142	16	29	12	34	49	-	1	1
	100.0	11.3	20.4	8.5	23.9	34.5	-	0.7	0.7
50代	383	32	33	56	56	193	11	-	2
	100.0	8.4	8.6	14.6	14.6	50.4	2.9	-	0.5
60代以上	719	15	5	56	22	268	328	1	24
	100.0	2.1	0.7	7.8	3.1	37.3	45.6	0.1	3.3

「主婦(仕事を持っていない方)」の方に、フルタイムで働いた経験の有無をたずねたところ、これまでにフルタイムで働いた経験が「ある」人が72.2%、「ない」人が24.8%であった。

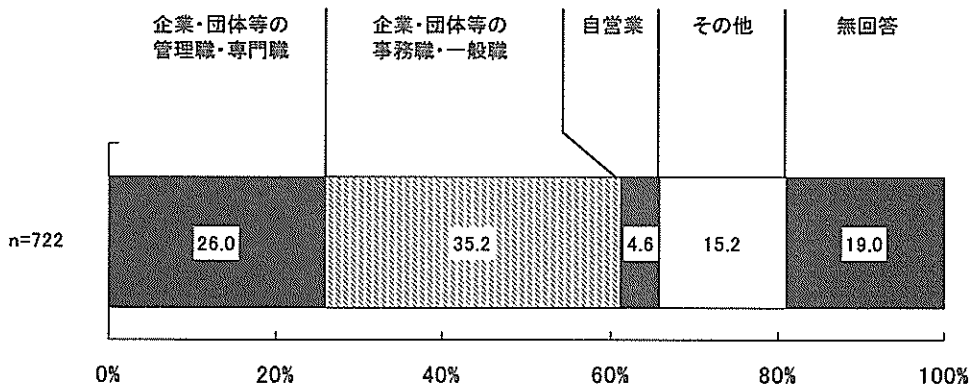
また、フルタイムで働いた最後の職種では、「企業・団体等の事務職・一般職」が35.2%、「企業・団体等の管理職・専門職」が26.0%となっている。これらのことから、現在仕事を持っていない主婦のなかには、フルタイムの職業経験がある人が多く、一般職・事務職だけでなく管理職・専門職経験者もいるといった多様性があることがわかる。

図表IV-7 【主婦(仕事を持っていない方)】フルタイム勤務の経験の有無【問18(4)】



図表IV-8 【主婦(仕事を持っていない方)で、フルタイム勤務経験者】

フルタイムで勤務した最後の職種【問18(5)】

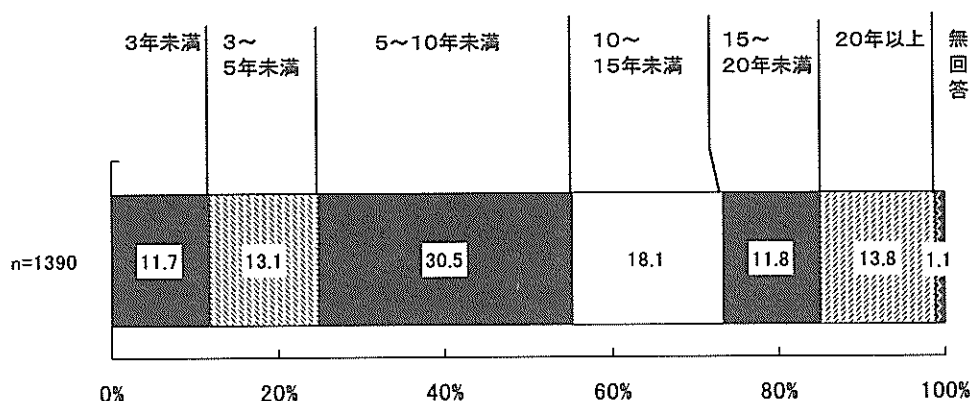


(4) 活動年数

「5～10年未満」が30.5%と最も多く、次いで、「10～15年未満」が18.1%、「20年以上」が13.8%、「3～5年未満」が13.1%、「3年未満」が11.7%、「15～20年未満」が11.8%となっている。

前回調査と比較すると、「5年未満」が前回調査では35.6%であったが、今回調査では24.8%と減少している。「5～10年未満」については、前回調査が25.5%、今回調査が30.5%となっており、若干増加している。「10年以上」の長期間活動している人についてみると、前回調査では38.8%であったが、今回調査では43.7%と若干増加している。これらのことから、社協に登録しているボランティアの活動年数は長期化の傾向にあり、新しく活動を始めた人や活動年数の浅い人が少なくなっていることがわかる。

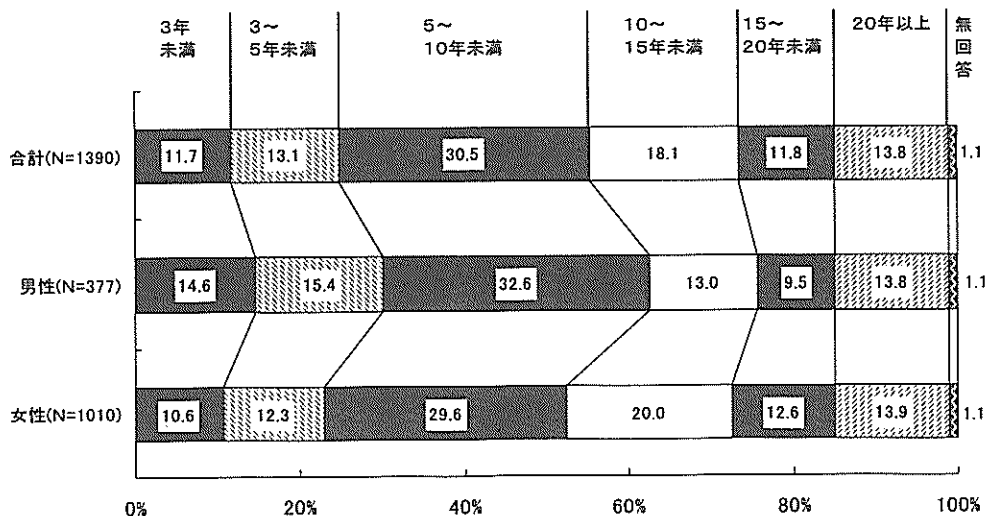
図表IV-9 活動年数(問1)



<性別>

「3年未満」「3～5年未満」「5～10年未満」では男性の割合が若干高く、「10～15年未満」「15～20年未満」では女性の割合が高くなっている。「20年以上」の活動年数の人は男女ともほぼ同じ割合であった。男性には女性と比較して最近活動を始めた人が多いことがわかる。

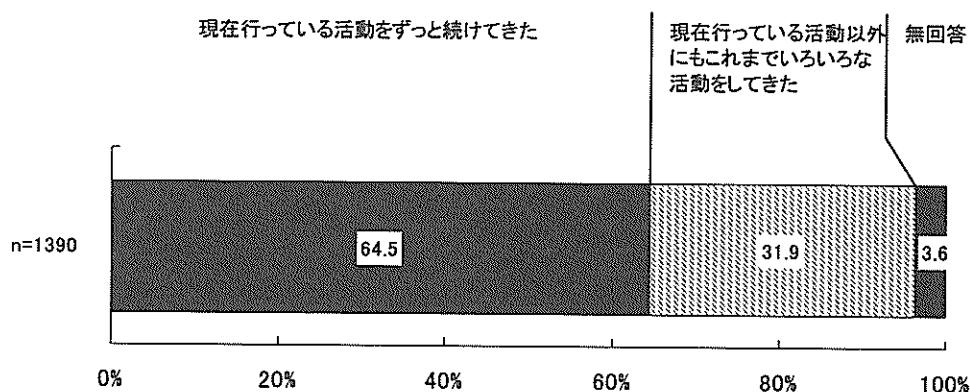
図表IV-10 <性別>活動年数(問1)



(5) これまでの活動歴

「現在行っている活動をずっと続けてきた」と答えた人が 64.5%と過半数となっており、「現在行っている活動以外にも、これまでいろいろな活動をしてきた」人が 31.9%であった。ボランティア活動者の多くは同じ活動を継続しているが、いろいろな活動を経験してきた人も一定割合いることがわかる。

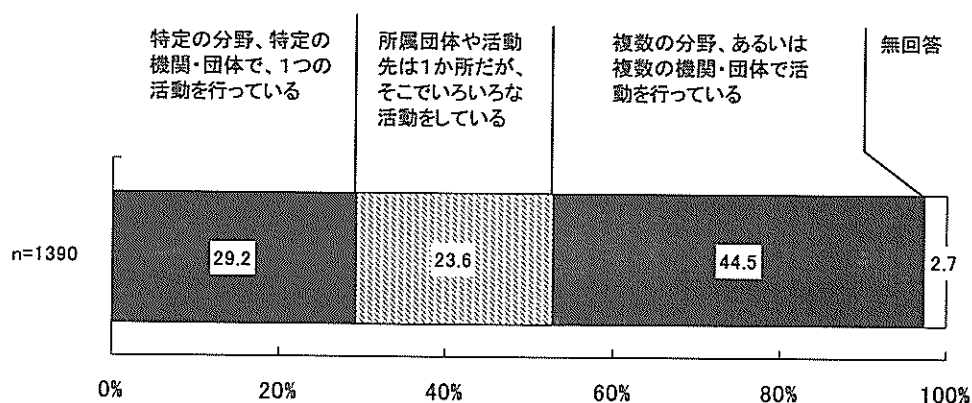
図表IV-11 活動歴(問4)



(6) 現在の活動の形態

「複数の分野、あるいは複数の機関・団体で活動を行っている」と答えた人が 44.5%と最も多くなっている。「ある特定の分野、あるいは特定の機関・団体で、一つの活動を行っている」は 29.2%、「属している団体・グループや活動先は1か所だが、そこでいろいろな活動を行っている」は 23.6%であった。一つの活動だけではなく、複数のボランティア活動を行っている人が多いことがわかる。

図表IV-12 現在の活動の形態(問3)



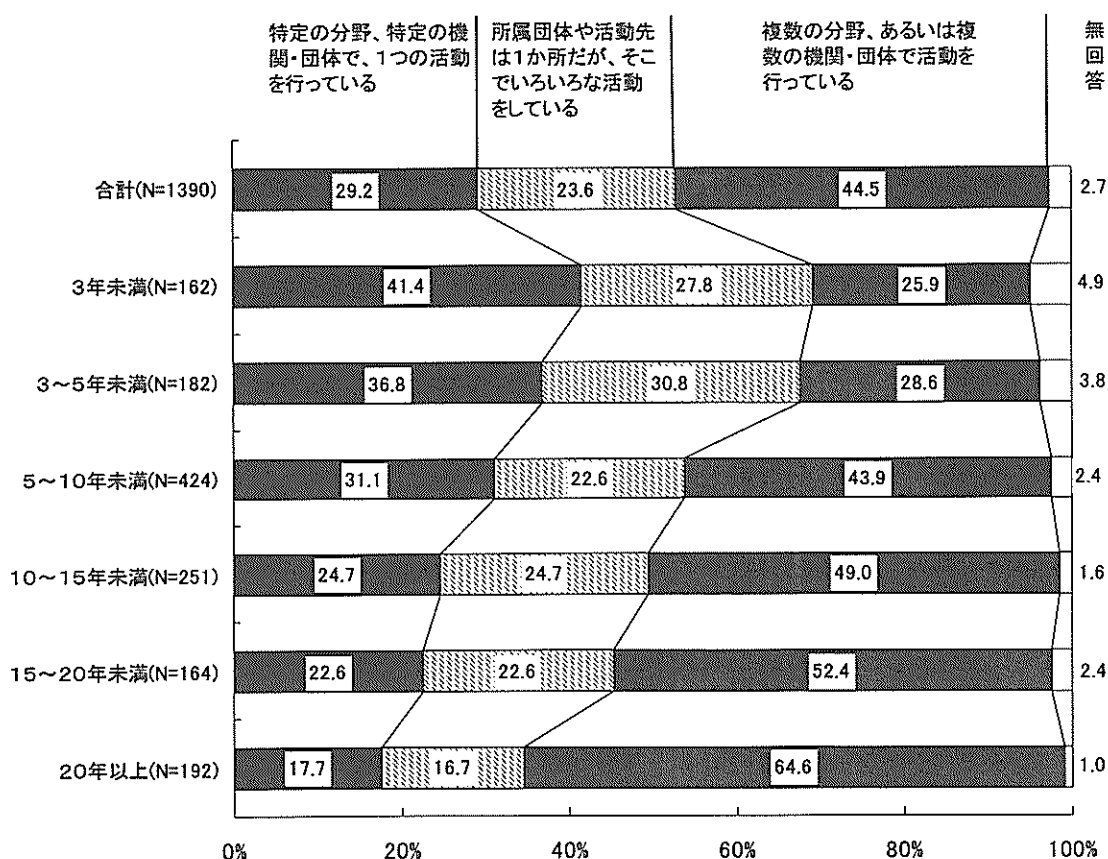
<活動年数別>

「複数の分野、あるいは複数の機関・団体で活動を行っている」と答えた人は、活動年数が多くなるにしたがってその割合が高くなっている。

一方、「ある特定の分野、あるいは特定の機関・団体で、一つの活動を行っている」人は、活動年数が多くなるとその割合が減少していく傾向にある。「属している団体・グループや活動先は1カ所だが、そこでいろいろな活動を行っている」と答えた人の割合も、活動年数が多くなるにつれて減少していく傾向があるが、「ある特定の分野、あるいは特定の機関・団体で、一つの活動を行っている」と答えた人の割合ほど大きな減少率ではない。

これらのことから、まず、ある一つの活動あるいは一つの活動の場でボランティアとしてのスタートを切り、活動を継続するなかで、活動の分野あるいは活動の場を広げていく様子が見えてくる。「ある特定の分野、あるいは特定の機関・団体で、一つの活動を行っている」人の割合と、「複数の分野、あるいは複数の機関・団体で活動を行っている」人の割合が逆転するのが、「5～10年未満」の活動年数であることも注目される。

図表IV-13 <活動年数別>現在の活動の形態(問3)



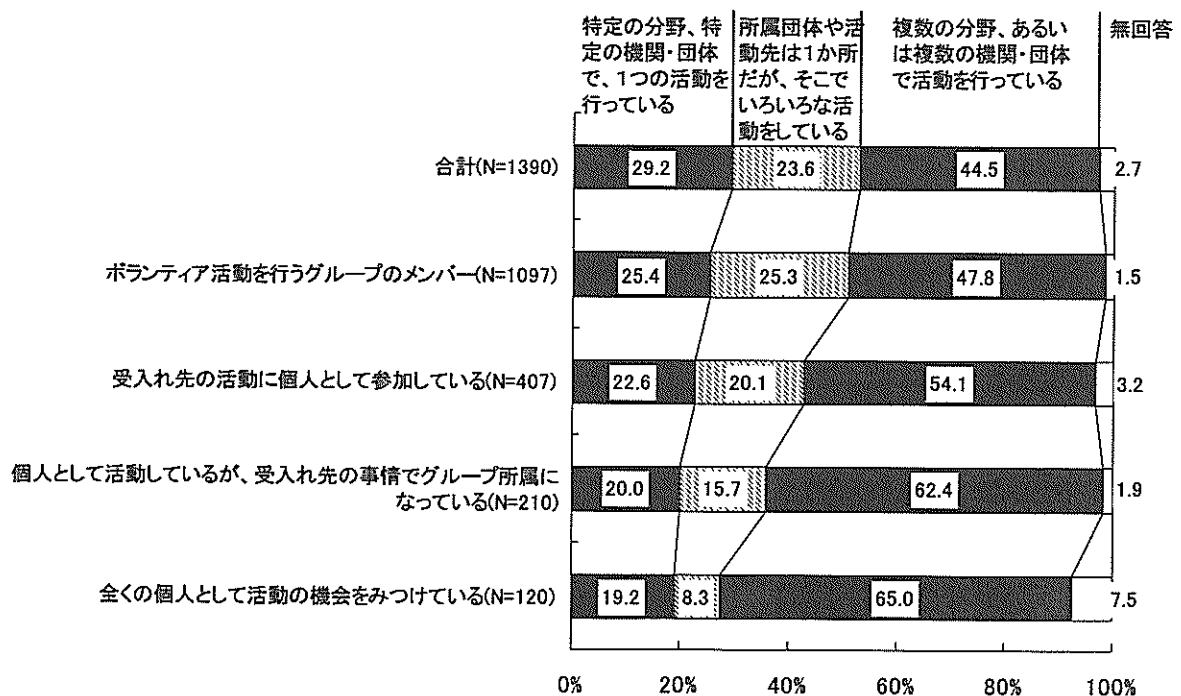
<だれと活動しているか別>

「複数の分野、あるいは複数の機関・団体で活動を行っている」と答えた人の割合が、「ボランティア活動を行うグループのメンバー」として活動している人よりも、「受入れ先の活動に個人として参加している」人、「個人として活動しているが、受入れ先の事情でグループ所属になっている」人、および「全くの個人として活動の機会をみつけている」人に多くなっている。特に、「全くの個人として活動の機会をみつけている」人では、その割合は、65.0%にのぼっている。

一方、「属している団体・グループや活動先は1か所だが、そこでいろいろな活動を行っている」と答えた人の割合は、「ボランティア活動を行うグループのメンバー」として活動している人で 25.3%と高く、それ以外の人では割合が低くなっており、特に、「全くの個人として活動の機会をみつめている」人では 8.3%に過ぎない。なお、「ある特定の分野、あるいは特定の機関・団体で、一つの活動を行っている」人の割合も同様の傾向がみられるが、「属している団体・グループや活動先は1か所だが、そこでいろいろな活動を行っている」と答えた人の割合ほど大きな差異はない。

これらのことから、ボランティア団体・グループに所属して活動していない人、すなわち、全くの個人として活動の機会をみつめている人や受入れ先の活動に個人として参加している人は、一人で複数の分野の活動、あるいは、複数の場所での活動を行っている様子がうかがえる。

図表IV-14 <誰と活動しているか別>現在の活動の形態(問3)

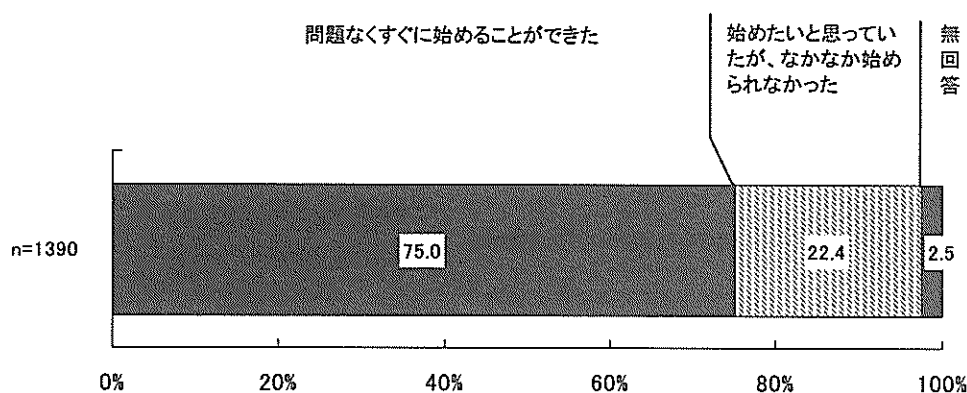


2. ボランティア活動を始めるにあたって

(1) 開始時

ボランティア活動を始めたいと思ったときに、すぐに始めることができたかどうかをきいたところ、「問題なくすぐに始めることができた」と答えた人が 75.0%と大半を占めていた。一方、「始めたいと思っていたが、なかなか始められなかった」人が 22.4%となっている。

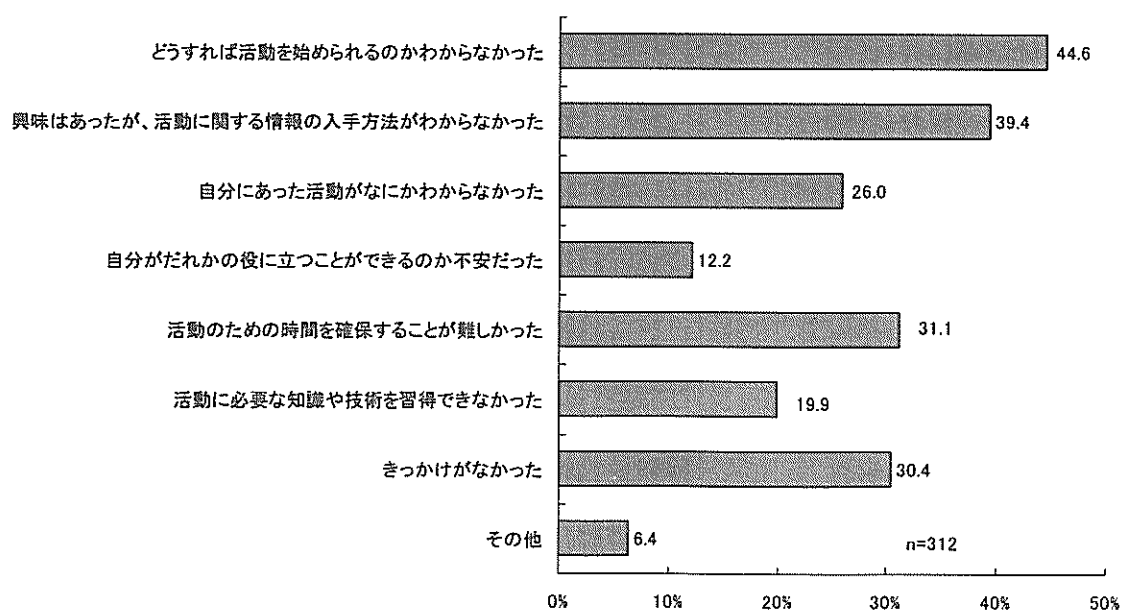
図表IV- 15 活動をすぐに開始できたか(問2)



ボランティア活動を始めたいと思っていたがなかなか始められなかった理由では、「どうすれば活動を始められるのかわからなかった」が 44.6%、「興味はあったが、活動に関する情報の入手方法がわからなかった」が 39.4%、「活動のための時間を確保することが難しかった」が 31.1%、「きっかけがなかった」が 30.4%となっている。

図表IV- 16 【活動を始めたいと思っていたが、なかなか始められなかった人】

なかなか始められなかった理由(問2付問1、複数回答)



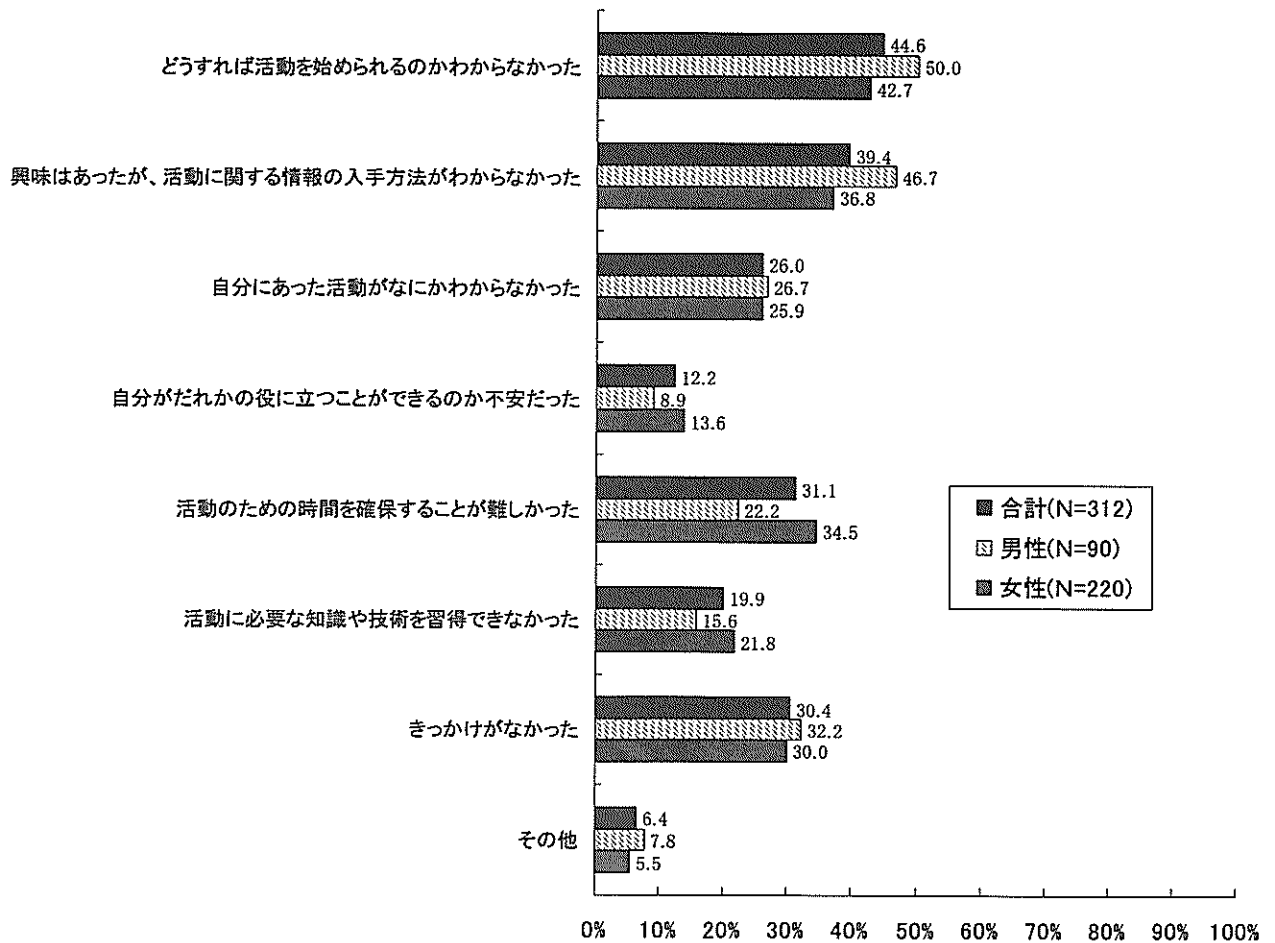
<性別>

「興味はあったが、活動に関する情報の入手方法がわからなかった」が、「男性」で 46.7%、「女性」で 36.8%となっている。活動に関する情報へのアクセスにおいて、「男性」の回答者のほうがなんらかの困難を抱えている様子が見えてくる。

一方、「活動のための時間を確保することが難しかった」という理由については、「男性」が 22.2%であるのに対し、「女性」では34.5%と高くなっている。これは、男性の回答者に退職後の方が多く、女性の回答者に主婦層が多かったことが背景となっているものと考えられる。

図表IV-17 【活動を始めたいと思っていたが、なかなか始められなかった人】

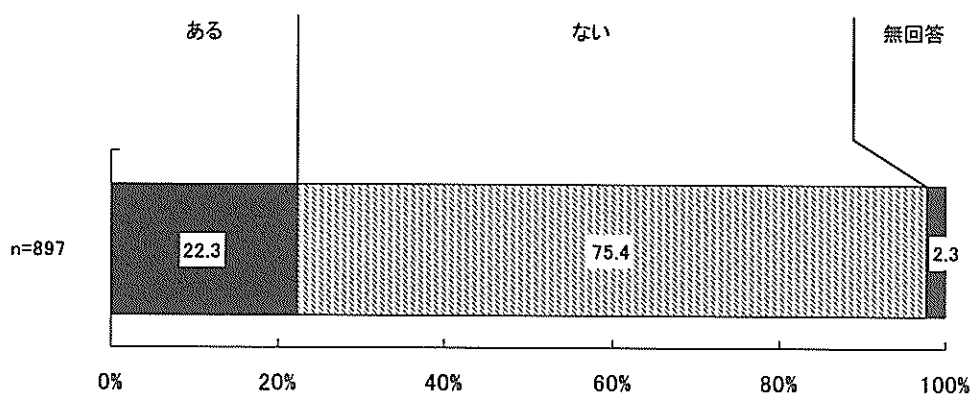
<性別>なかなか始められなかった理由(問2付問1、複数回答)



(2) 活動の中断

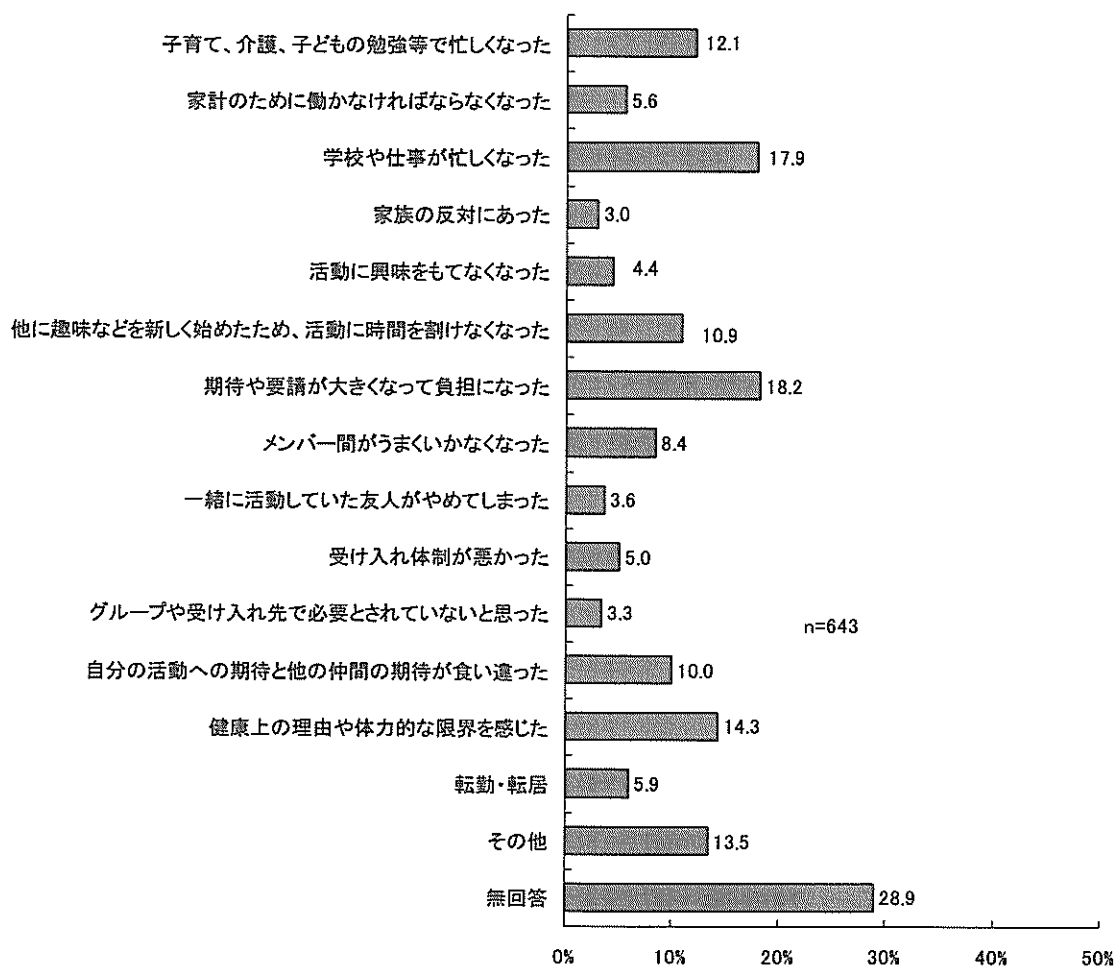
これまでにボランティア活動を中断したり、やめたりした(あるいは、やめたいと思った)ことがあると答えた人が、22.3%、ないと答えた人が75.4%となっている。

図表IV-18 活動を中断あるいはやめた(やめたいと思った)ことがあるか(問4付問1)



これまでにボランティア活動を中断したり、やめたりした(あるいは、やめたいと思った)ことがある人に、その理由をきいたところ、「期待や要請が大きくなって負担になった」が 18.2%、「学校や仕事が忙しくなった」が 17.9%、「健康上の理由や体力的な限界を感じた」が 14.3%となっている。なお、「その他」が 13.5%となっており、その内容では、「メンバーが減ってしまった」「活動がマンネリになってしまった」「活動の今後に不安を感じた」「活動の依頼(要請)がなくなった」「活動先が遠方になってしまった」「活動の幅を広げすぎて、忙しくなりすぎた」といったことが挙げられていた。

図表IV- 19 【これまでにボランティア活動を中断したり、やめたりした(あるいは、やめたいと思った)ことがある人】 その理由(問4付問2、複数回答)



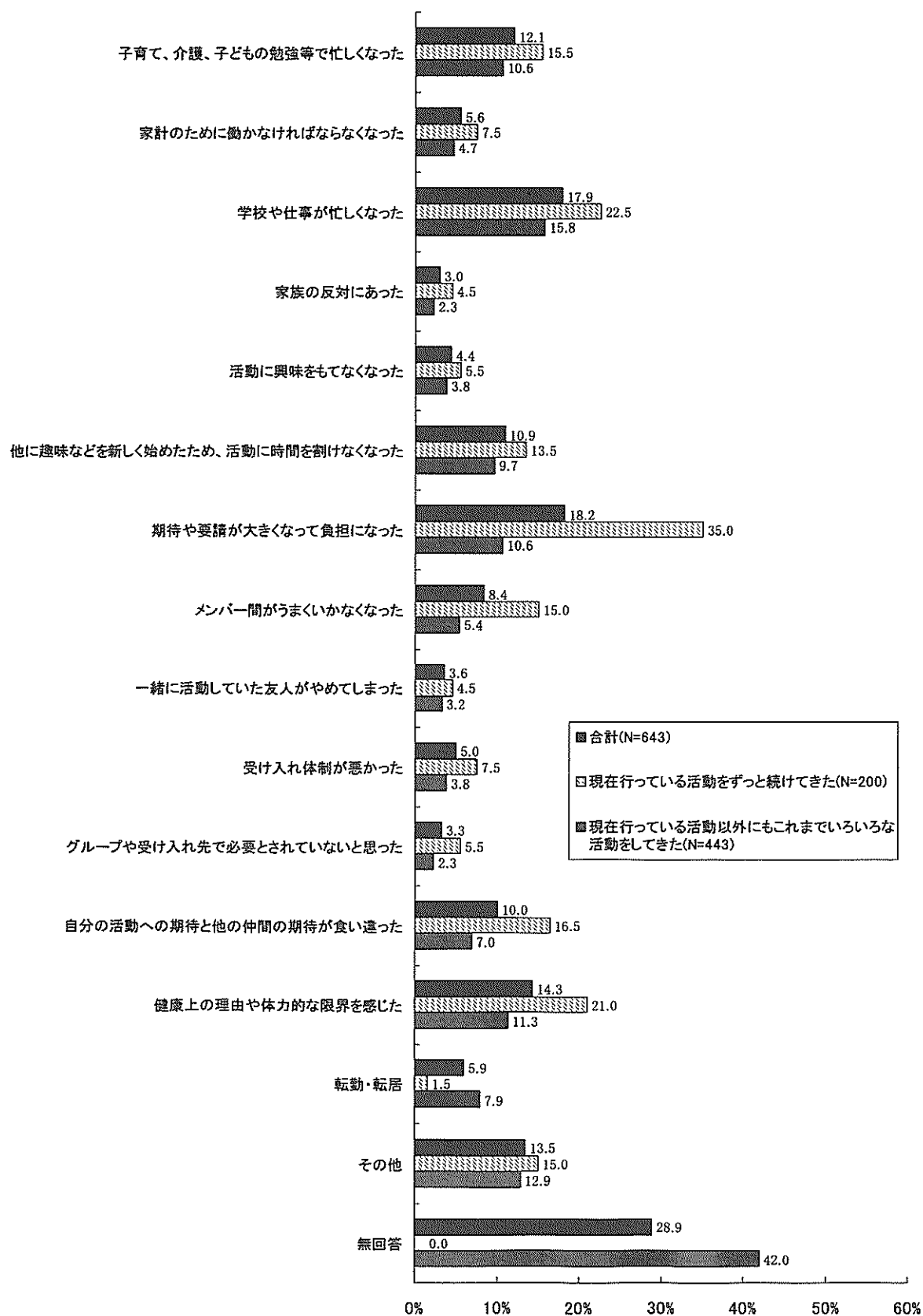
<活動歴別>

また、ボランティア活動を中断したり、やめたりした(あるいは、やめたいと思った)ことがある理由について、これまでの活動歴別(現在行っている活動をずっと続けてきたか、あるいは、現在行っている活動以外にもいろいろな活動をしてきたか)にみた。

この結果、「現在行っている活動をずっと続けてきた」人では「期待や要請が大きくなって負担になった」と答えた人が 35.0%となっており、「現在行っている活動以外にもいろいろな活動をしてきた」人の10.6%と比較して高い割合となっている。このことから、同じ活動を継続している人のほうが、活動先等からの期待や要請を負担に思う傾向にあることがわかる。

また、「メンバー間がうまくいかなかった」、「自分の活動への期待と他の仲間の期待が食い違った」、「健康上の理由や体力的な限界を感じた」についても、「現在行っている活動をずっと続けてきた」人で割合が高くなっている。

図表IV-20 【これまでにボランティア活動を中断したり、やめたりした(あるいは、やめたいと思った)ことがある人】 <これまでの活動歴別> その理由(問4付問2、複数回答)

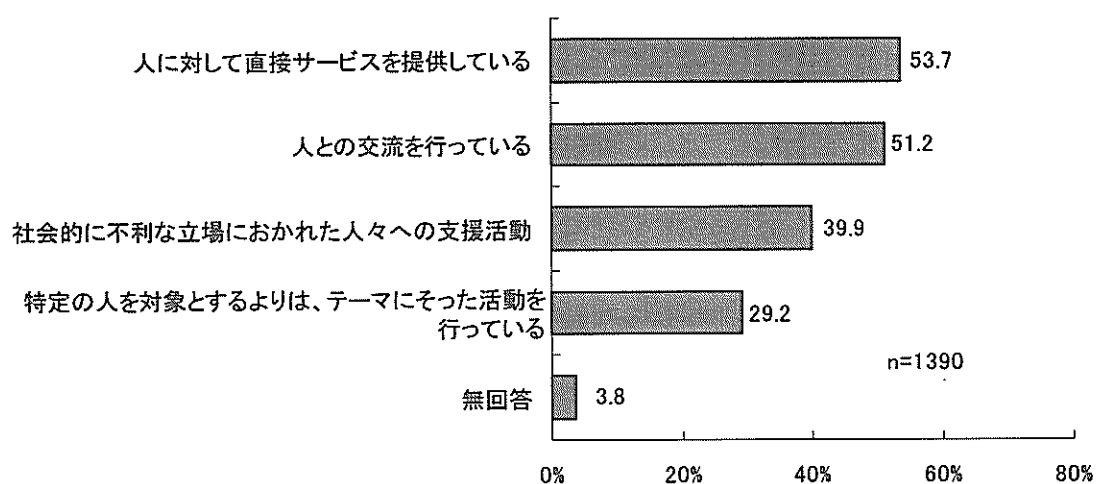


3. 現在のボランティア活動について

(1) 活動内容

「人に対して直接サービスを提供している」(以下、対人サービス型)が 53.7%、「人との交流を行っている」(以下、交流型)が51.2%、「社会的に不利な立場におかれた人々への支援活動」(以下、支援型)が 39.9%、「特定の人を対象とするよりは、テーマにそった活動を行っている」(以下、テーマ・オリエンテッド型)が 29.2%となっている。

図表IV-21 活動内容(問6、複数回答)



<活動内容の類型化>

次図表のように、活動内容の類型化を行った。

図表IV-22 活動内容の類型⁴（再掲）

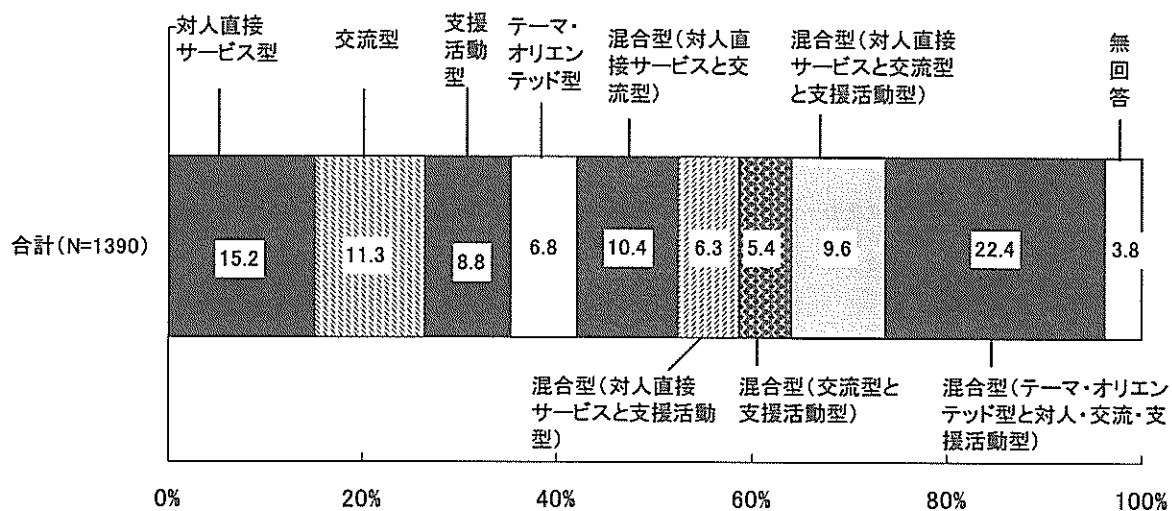
類型		活動内容の選択肢(問6)
単一の活動内容の場合	対人直接サービス型	人に対して直接サービスを提供している
	交流型	人との交流を行っている
	支援活動型	社会的に不利な立場におかれた人々への支援活動
	テーマ・オリエンテッド型	特定の人々を対象とするよりは、テーマにそった活動を行っている
複数の活動内容の場合	混合型(対人直接サービス型と交流型)	人に対して直接サービスを提供している、および、人との交流を行っている
	混合型(対人直接サービス型と支援活動型)	人に対して直接サービスを提供している、および、社会的に不利な立場におかれた人々への支援活動
	混合型(交流型と支援活動型)	人との交流を行っている、および、社会的に不利な立場におかれた人々への支援活動
	混合型(対人直接サービス型と交流型と支援活動型)	人に対して直接サービスを提供している、人との交流を行っている、社会的に不利な立場におかれた人々への支援活動のすべてを行っている
	混合型(テーマオリエンテッド型と対人直接サービス型・交流・支援活動型)	特定の人々を対象とするよりはテーマにそった活動を行っている、および、人に対して直接サービスを提供・人との交流・社会的に不利な立場におかれた人々への支援活動のうちいずれかを行っている

上記の類型に基づいて集計すると、「対人直接サービスだけを行っている」団体・グループが15.2%、「人との交流だけを行っている」団体・グループが11.3%、「支援活動のみを行っている」団体・グループが8.8%、「テーマにそった活動のみを行っている」団体・グループが6.8%となっている。これらの単一の活動内容である団体・グループの割合は合計で42.1%となっている。

一方、「対人直接サービスと交流の混合型」は10.4%、「対人直接サービスと支援活動の混合型」は6.3%、「交流と支援活動の混合型」は5.4%、「対人直接サービスと交流と支援活動の全てを行っている混合型」は9.6%、「テーマ・オリエンテッド型の活動と対人直接サービス・交流・支援活動のいずれかを行っている混合型」は22.4%となっている。これらを合計した混合型の団体・グループは54.1%となっており、単一の活動内容である団体・グループよりも割合が高くなっている。

⁴ この類型以外にも選択肢による組み合わせが可能であるが、サンプル数が少ない類型を割愛している。

図表IV-23 活動内容(問6、複数回答)の類型

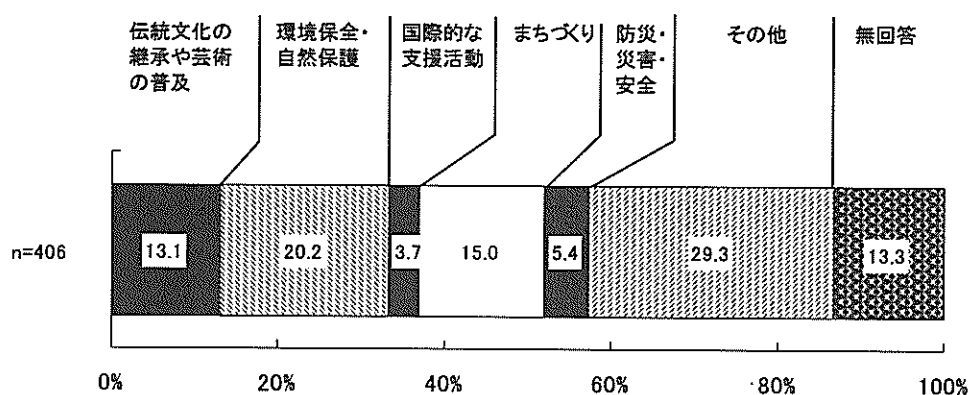


活動内容	調査数	人に 対して 提供して いる	人との 交流を行 っている	社会的に 不利な立 場への支 援に	特定の 人に対 象とし て行っ ている	無 回 答
活動内容の類型化による分類						
全体	1390	747	711	555	406	53
	100.0	53.7	51.2	39.9	29.2	3.8
対人直接サービス型	211	211	-	-	-	-
	100.0	100.0	-	-	-	-
交流型	157	-	157	-	-	-
	100.0	-	100.0	-	-	-
支援活動型	122	-	-	122	-	-
	100.0	-	-	100.0	-	-
テーマ・オリエンテッド型	94	-	-	-	94	-
	100.0	-	-	-	100.0	-
混合型(対人直接サービス型と交流型)	144	144	144	-	-	-
	100.0	100.0	100.0	-	-	-
混合型(対人直接サービス型と支援活動型)	88	88	-	88	-	-
	100.0	100.0	-	100.0	-	-
混合型(交流型と支援活動型)	75	-	75	75	-	-
	100.0	-	100.0	100.0	-	-
混合型(対人直接サービス型と交流型と支援活動型)	134	134	134	134	-	-
	100.0	100.0	100.0	100.0	-	-
混合型(テーマ・オリエンテッド型と対人直接サービス・交流・支援活動型)	312	170	201	136	312	-
	100.0	54.5	64.4	43.6	100.0	-

①テーマ型の活動を行っている人のテーマ内容

「環境保全・自然保護」が 20.2%、「まちづくり」が 15.0%、「伝統文化の継承や芸術の普及」が 13.1%となっている。「その他」が 29.3%と高くなっているが、これは、各テーマを複合的に行っている団体が多く、主要なテーマを絞り切れなかったためであるとも考えられる。

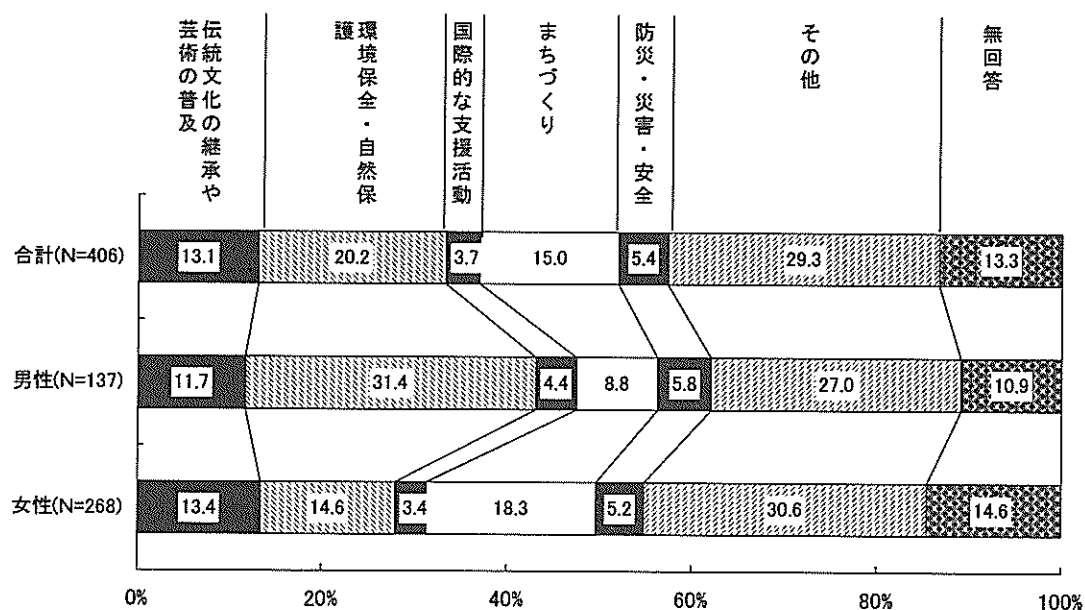
図表IV-24 【テーマ型の活動を行っている人】 そのテーマの内容(問6)



<性別>

「男性」では「環境保全・自然保護」をテーマに活動している人の割合が 31.4%と高くなっている。

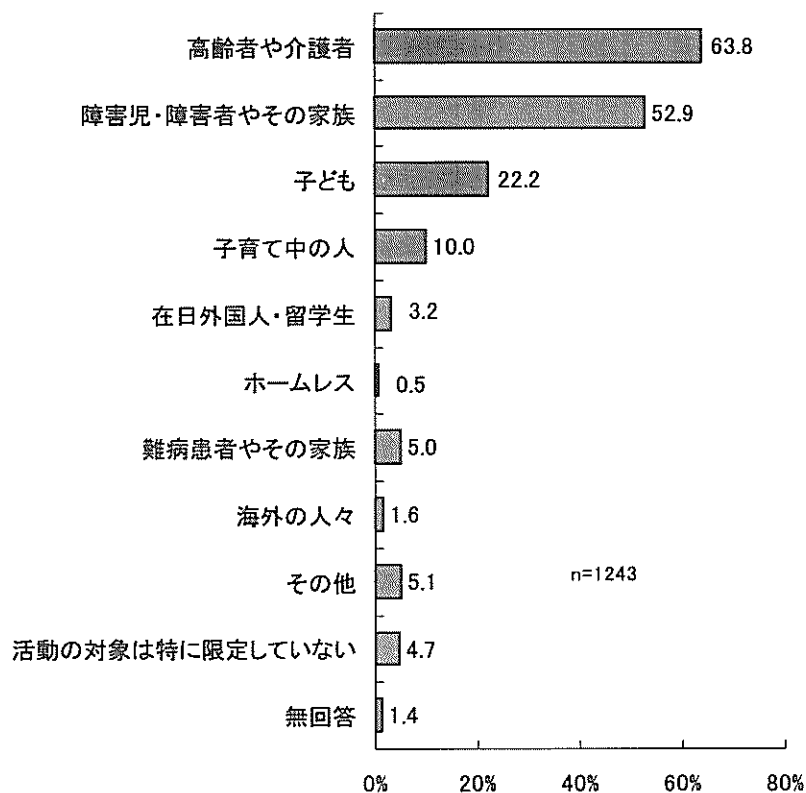
図表IV-25 【テーマ型の活動を行っている人】 <性別> そのテーマの内容(問6)



②対人サービス型、交流型、支援型の活動を行っている人の活動対象者

「高齢者や介護者」が 63.8%、「障害児・障害者やその家族」が 52.9%と高い割合となっている。次いで、「子ども」が 22.2%となっている。

図表IV- 26 【対人サービス型、交流型、支援型の活動を行っている人】
活動の対象者(問6付問1、複数回答)



<年齢別>

40代以下の世代と50代以上の世代で、活動の対象者に差異がみられた。すなわち、40代以下の世代では、「障害児・障害者やその家族」を対象とした活動を行っている人の割合が高くなっているが、50代以上では、「高齢者や介護者」を対象とした活動を行っている人の割合が高くなっている。

図表IV-27 【対人サービス型、交流型、支援型の活動を行っている人】

<年齢別>活動の対象者(問6付問1、複数回答)

活動の対象者 回答者の年齢	調査数	高齢者や介護者	障害児・障害者やその家族	子ども	子育て中の人	在日外国人・留学生	ホームレス	難病患者やその家族	海外の人々	その他	活動の対象は特に限定していない	無回答
全体	1243 100.0	292 23.5	241 19.4	37 3.0	15 1.2	7 0.6	-	5 0.4	1 0.1	7 0.6	56 4.5	582 46.8
10代	4 100.0	1 25.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3 75.0
20代	65 100.0	6 9.2	15 23.1	5 7.7	-	-	-	1 1.5	-	-	4 6.2	34 52.3
30代	67 100.0	7 10.4	20 29.9	6 9.0	6 9.0	-	-	1 1.5	-	-	3 4.5	24 35.8
40代	123 100.0	13 10.6	52 42.3	6 4.9	3 2.4	2 1.6	-	-	-	1 0.8	1 0.8	45 36.6
50代	349 100.0	80 22.9	62 17.8	12 3.4	3 0.9	3 0.9	-	-	1 0.3	3 0.9	19 5.4	166 47.6
60代以上	631 100.0	183 29.0	92 14.6	7 1.1	3 0.5	2 0.3	-	3 0.5	-	3 0.5	29 4.6	309 49.0

<職業別>

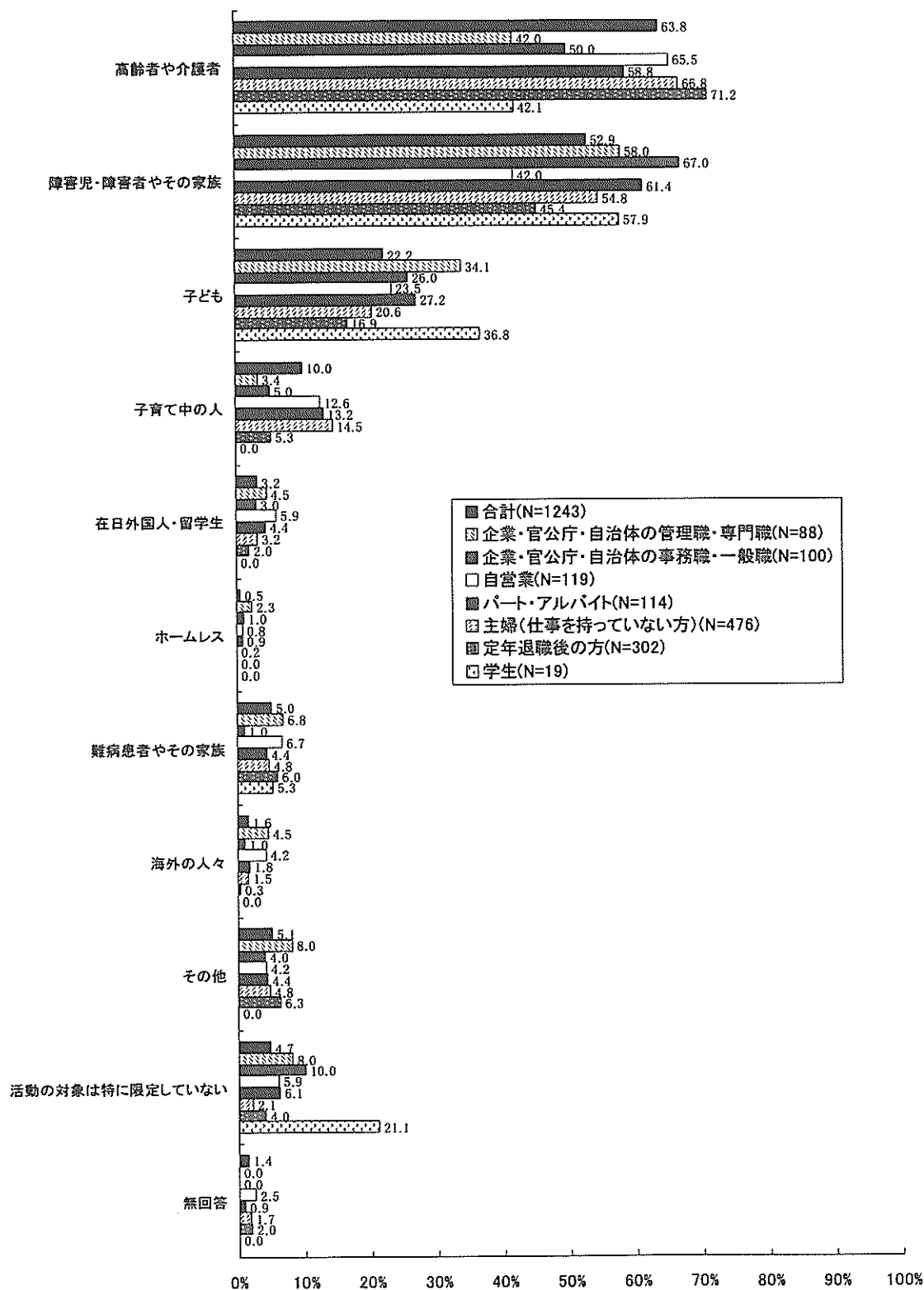
「定年退職後の方」、「主婦(仕事を持っていない方)」および「自営業」の人と、企業・官公庁・自治体に勤めている人やパート・アルバイトの人では、活動の対象者に差異がみられた。

「高齢者や介護者」を対象とした活動を行っているのは、「定年退職後の方」(71.2%)、「主婦(仕事を持っていない方)」(66.8%)、および「自営業」の人(65.5%)において高くなっている。一方、「障害児・障害者やその家族」を対象とした活動では、「企業・官公庁・自治体の事務職・一般職」の人で67.0%、「パート・アルバイト」の人で61.4%、「企業・官公庁・自治体の管理職・専門職」で58.0%と高くなっている。これは、「定年退職後の方」、「主婦(仕事を持っていない方)」および「自営業」の人の年代が、企業・官公庁・自治体に勤めている人やパート・アルバイトの人の年代よりも比較的高いことがその背景になっているものと考えられる。

なお、「子ども」を対象とした活動を行っている人の割合が、「企業・官公庁・自治体の管理職・専門職」の人で34.1%と高くなっていることも注目される。

図表IV-28 【対人サービス型、交流型、支援型の活動を行っている人】

<職業別>活動の対象者(問6付問1、複数回答)



<活動内容別>

まず、「対人直接サービス型」「交流型」「支援活動型」の単一の活動内容の場合の類型についてみると、「対人直接サービス型」の活動を行っている人では、他の類型の活動を行っている人よりも、「高齢者や介護者」を対象としている割合が69.7%と高くなっている。また、「交流型」の活動を行っている人では、「子ども」を対象とした活動が23.6%と高くなっている。「支援活動型」の活動を行っている人では、「障害児・障害者やその家族」を対象とした活動が72.1%と高くなっている。

この傾向は、複数の活動内容の場合の類型に反映されており、例えば、対人直接サービスと支援活動型の両方を併せ持っている混合型では、単一の対人直接サービス型に多い「高齢者や介護者」を対象とした活動を行っている人と、単一の支援活動型に多い「障害児・障害者やその家族」を対象とした活動を行っている人の両方の割合が高くなっている。また、対人直接サービスと支援活動型に加えて交流型の3つを併せ持っている混合型では、「高齢者や介護者」と「障害児・障害者やその家族」とともに、単一の交流型に多い「子ども」を対象とした活動を行っている人の割合も高くなっている。

図表IV-29 【対人サービス型、交流型、支援型の活動を行っている人】

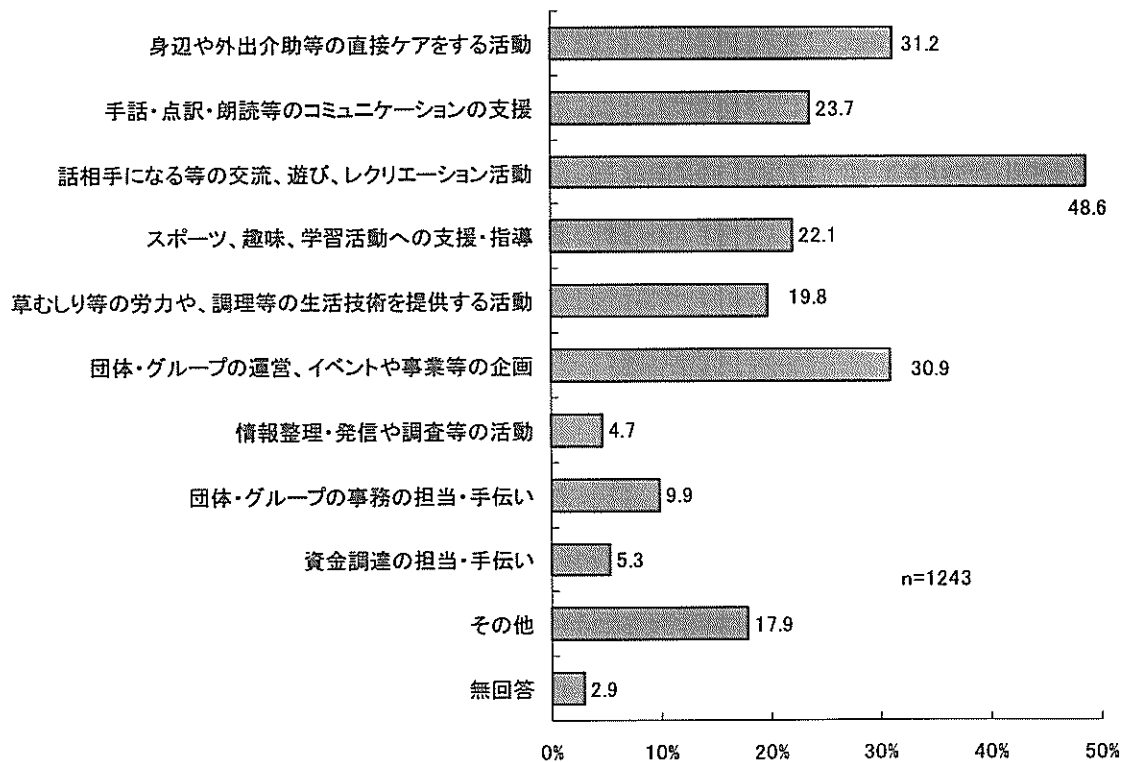
<活動内容別>活動の対象者(問6付問1、複数回答)

活動の対象者	調査数	高齢者や介護者	家族 障害児・障害者やその	子ども	子育て中の人	在日外国人・留学生	ホームレス	難病患者やその家族	海外の人々	その他	活動の対象は特に限定	無回答
活動内容の類型化による分類												
全体	1243 100.0	793 63.8	658 52.9	276 22.2	124 10.0	40 3.2	6 0.5	62 5.0	20 1.6	64 5.1	59 4.7	18 1.4
対人直接サービス型	211 100.0	147 69.7	70 33.2	26 12.3	9 4.3	4 1.9	1 0.5	5 2.4	-	8 3.8	10 4.7	2 0.9
交流型	157 100.0	88 56.1	52 33.1	37 23.6	9 5.7	1 0.6	-	5 3.2	2 1.3	6 3.8	22 14.0	4 2.5
支援活動型	122 100.0	47 38.5	88 72.1	8 6.6	4 3.3	2 1.6	1 0.8	8 6.6	2 1.6	4 3.3	6 4.9	4 3.3
テーマ・オリエンテッド型	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
混合型(対人直接サービスと交流型)	144 100.0	106 73.6	70 48.6	32 22.2	20 13.9	6 4.2	-	4 2.8	3 2.1	6 4.2	3 2.1	1 0.7
混合型(対人直接サービスと支援活動型)	88 100.0	62 70.5	67 76.1	12 13.6	5 5.7	1 1.1	-	9 10.2	1 1.1	3 3.4	-	-
混合型(交流型と支援活動型)	75 100.0	43 57.3	59 78.7	15 20.0	10 13.3	2 2.7	1 1.3	1 1.3	-	4 5.3	-	-
混合型(対人直接サービスと交流型と支援活動型)	134 100.0	103 76.9	103 76.9	45 33.6	30 22.4	6 4.5	1 0.7	15 11.2	3 2.2	8 6.0	-	-
混合型(テーマ・オリエンテッド型と対人・交流・支援活動型)	312 100.0	197 63.1	149 47.8	101 32.4	37 11.9	18 5.8	2 0.6	15 4.8	9 2.9	25 8.0	18 5.8	7 2.2

③対人サービス型、交流型、支援型活動の具体的な内容

「話相手になる等の交流、遊び、レクリエーション活動」が 48.6%と最も高く、次いで、「身辺や外出介助等の直接ケアをする活動」が 31.2%、「団体・グループの運営、イベントや事業等の企画」が 30.9%と多くなっている。

図表IV- 30 【対人サービス型、交流型、支援型の活動を行っている人】
具体的な活動内容(問6付問2、複数回答)



<性別>

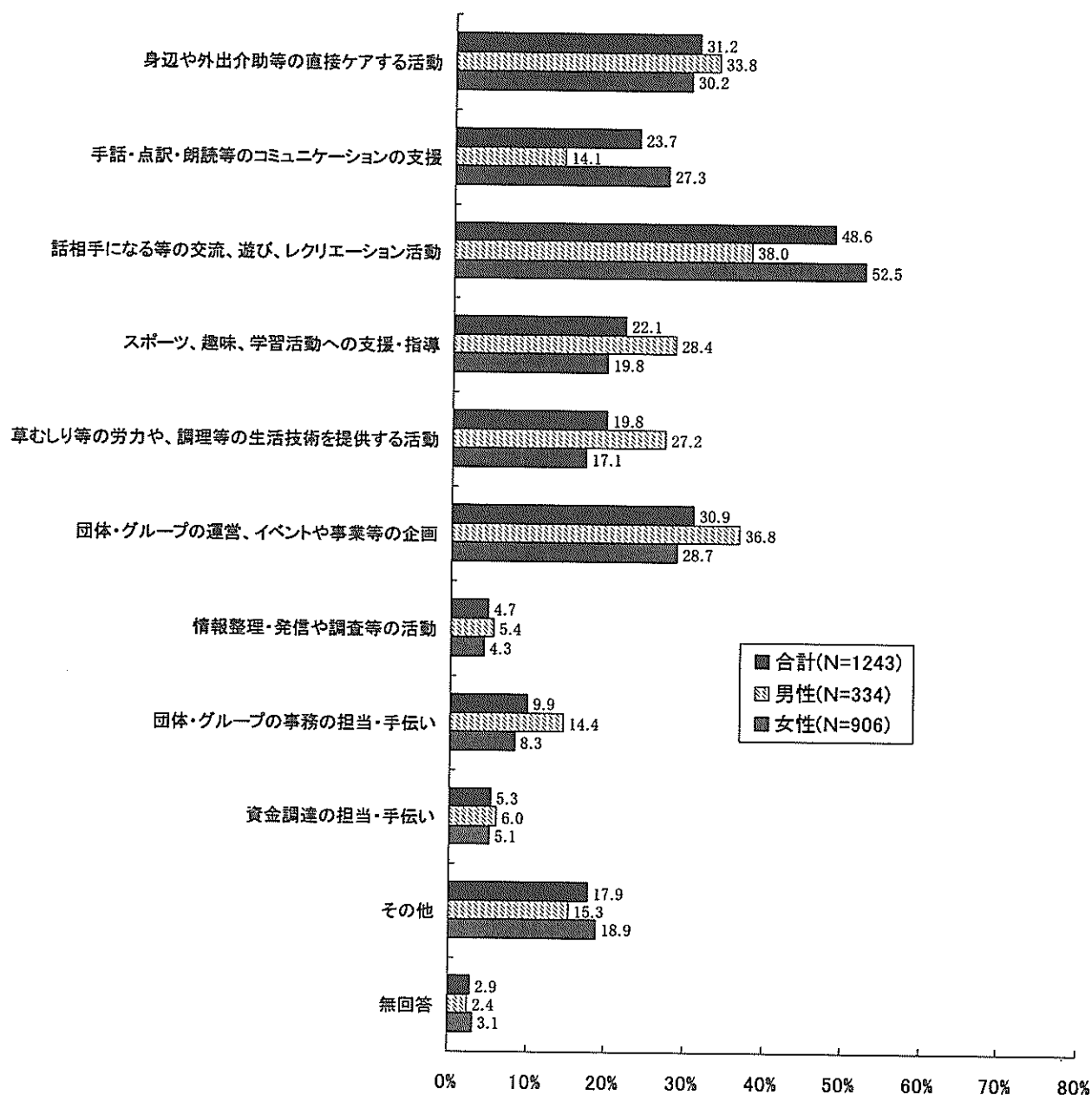
「手話・点訳・朗読等のコミュニケーションの支援」では、「女性」が 27.3%、「男性」が 14.1%となっており、女性の活動者の割合が高くなっている。同様に、「話相手になる等の交流、遊び、レクリエーション活動」においても、「男性」が 38.0%であるのに対し、「女性」が 52.5%と高くなっている。

一方、「スポーツ、趣味、学習活動への支援・指導」では、「男性」が 28.4%、「女性」が 19.8%となっており、男性の活動者の割合が高くなっている。「草むしり等の労力や、調理等の生活技術を提供する活動」でも「男性」が 27.2%と高くなっており、同様に、「団体・グループの運営・イベントや事業等の企画」でも「男性」が 36.8%と高くなっている。

これらのことから、交流、遊び、レクリエーション、コミュニケーションなどを対象者と同じ視点で行うといった内容の活動を行うのは女性が多く、男性では、支援や指導、企画・運営といった内容の活動か、あるいは、労力の提供といった活動が多くなっている様子がうかがえる。

図表IV-31 【対人サービス型、交流型、支援型の活動を行っている人】

<性別>具体的な活動内容(問6付問2、複数回答)

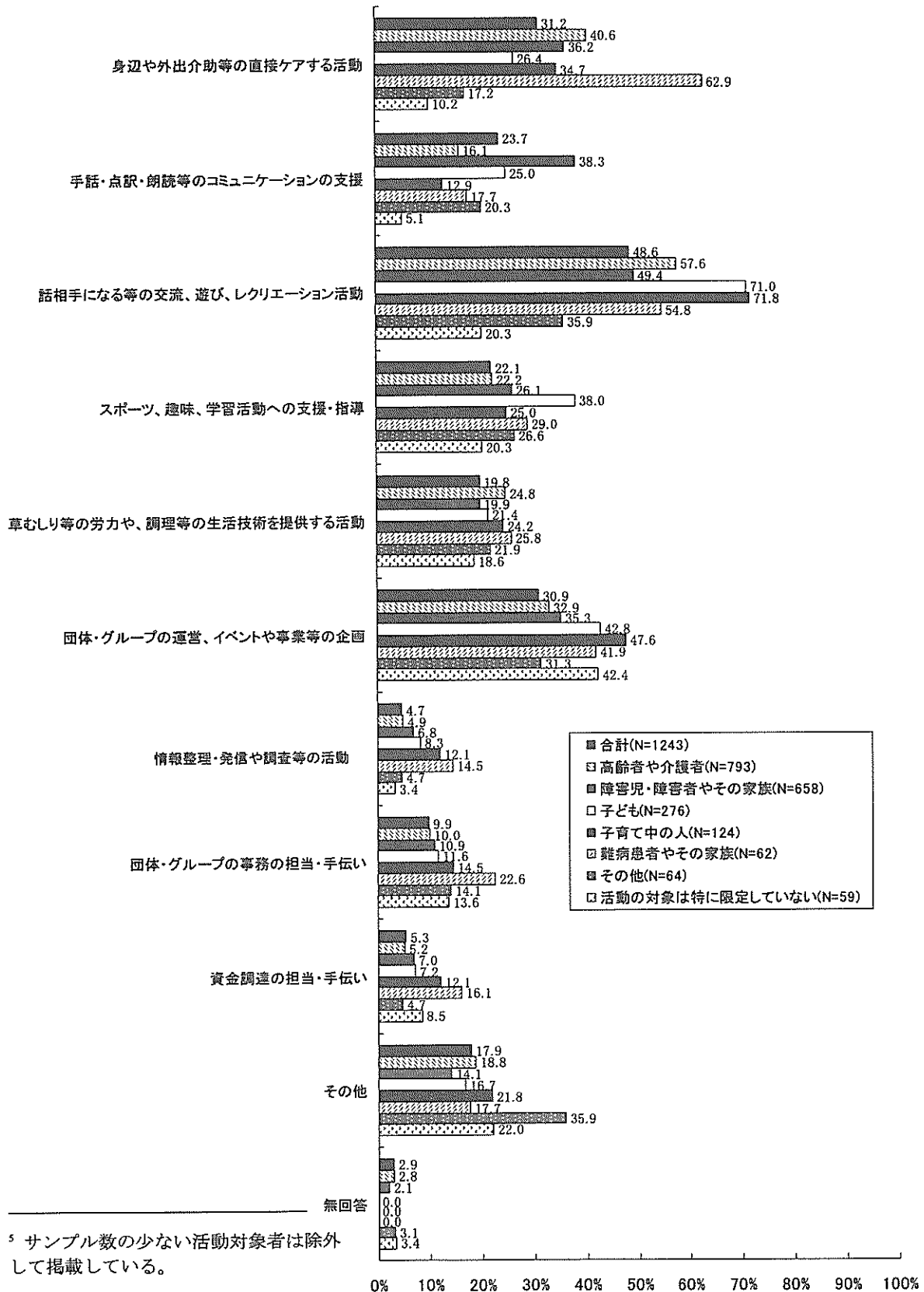


<活動対象者別>

「身辺や外出介助等の直接ケアをする活動」では、「難病患者やその家族」および「高齢者や介護者」の割合が高くなっている。「手話・点訳・朗読等のコミュニケーションの支援」では「障害児・障害者やその家族」の割合、「話相手になる等の交流、遊び、レクリエーション活動」では「子ども」および「子育て中の人」の割合、「スポーツ、趣味、学習活動への支援・指導」では「子ども」の割合が、それぞれ高くなっている。

図表IV-32 【対人サービス型、交流型、支援型の活動を行っている人】

<活動対象者別⁵>具体的な活動内容(問6付問2、複数回答)



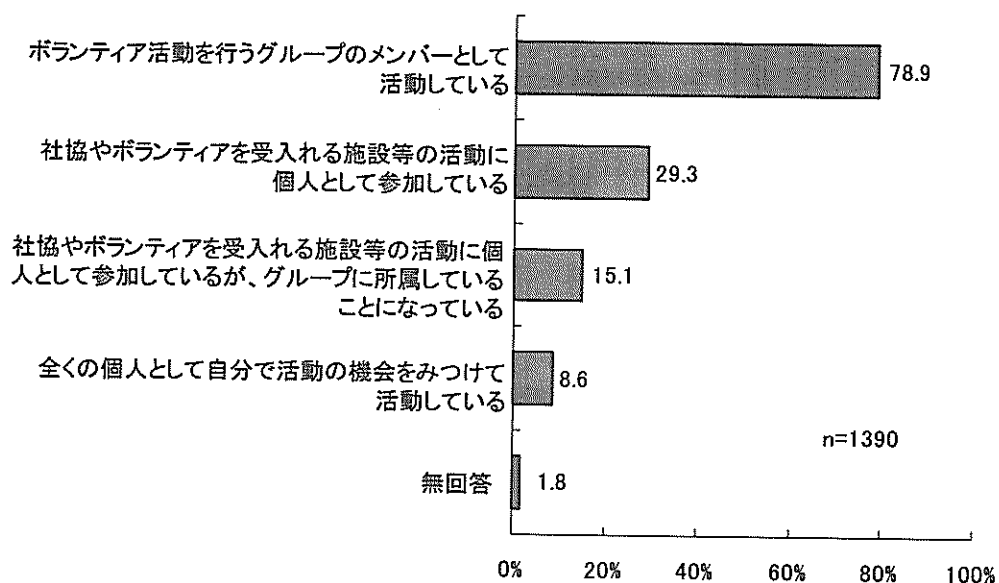
⁵ サンプル数の少ない活動対象者は除外して掲載している。

(2) 活動のしかた

①だれと活動しているか

「ボランティア活動を行うグループのメンバーとして活動している」と答えた人が 78.9%と最も多くなっている。「社協やボランティアを受け入れる施設等の活動に個人として参加している」人が 29.3%、「社協やボランティアを受け入れる施設等の活動に個人として参加しているが、受け入れ側の事情で自動的にグループに所属していることになっている」が 15.1%であった。「全くの個人として自分で活動の機会をみつけて活動している」人は 8.6%であった。

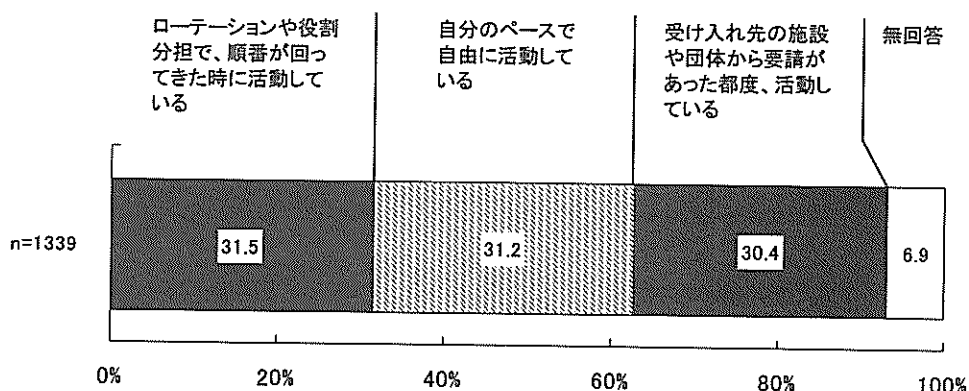
図表IV- 33 だれと活動しているか(問5、複数回答)



②活動のルール

「ローテーションや役割分担で、順番が回ってきたときに活動している」が 31.5%、「自分のペースで自由に活動している」が 31.2%、「受け入れ先の施設や団体から要請があった都度、活動している」が 30.4%と、ほぼ同じ割合となっている。

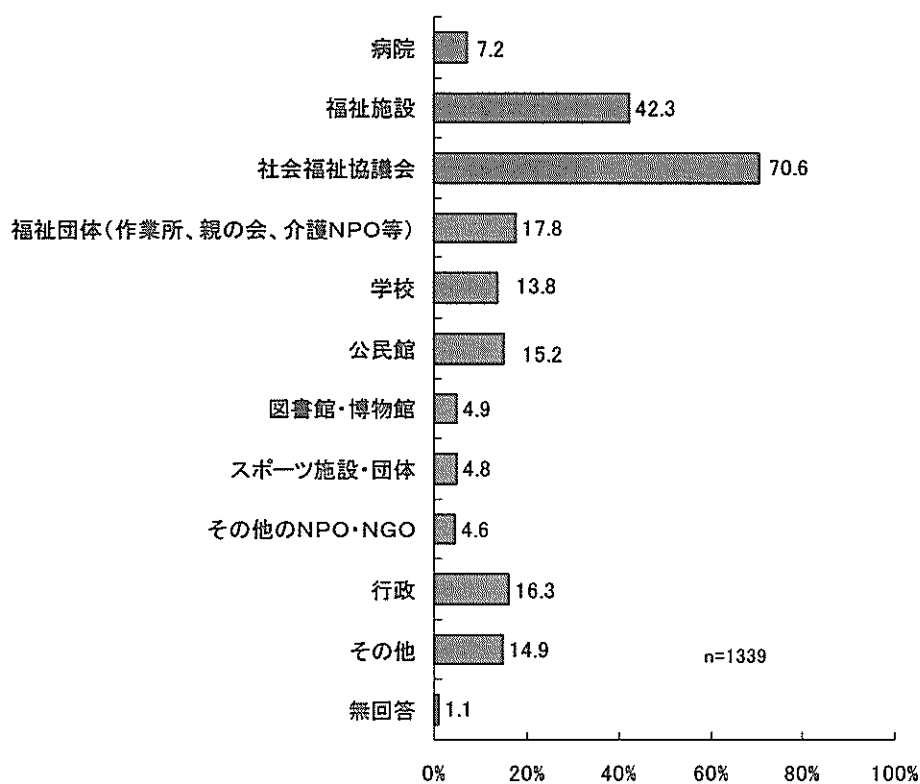
図表IV- 34 活動のルール(問5付問1)



③活動プログラム

参加している活動プログラムを実施している施設・機関をきいたところ、「社会福祉協議会」が70.6%と最も多く、次いで、「福祉施設」が42.3%となっている。

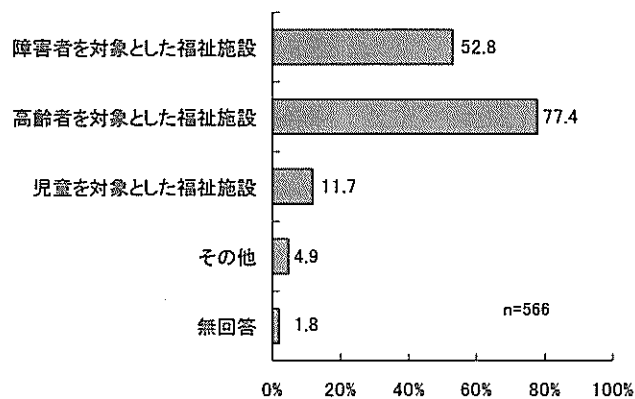
図表IV- 35 参加している活動プログラムの実施施設・機関(問5付問2、複数回答)



「福祉施設」では、「高齢者を対象とした福祉施設」が77.4%と最も多くなっており、「障害者を対象とした福祉施設」が52.8%、「児童を対象とした福祉施設」は11.7%であった。

図表IV- 36 【福祉施設が実施する活動プログラムに参加している人】

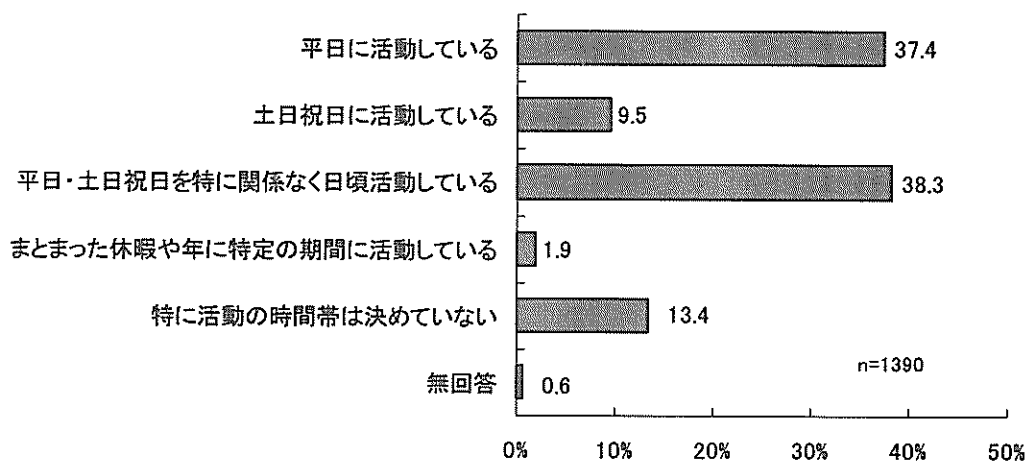
福祉施設の種類(問5付問3、複数回答)



(3) 活動の時間帯

「平日・土日祝日を特に関係なく日頃活動している」人が 38.3%、「平日に活動している」人が 37.4%と多くなっている。「特に活動の時間帯は決めていない」人は 13.4%であった。

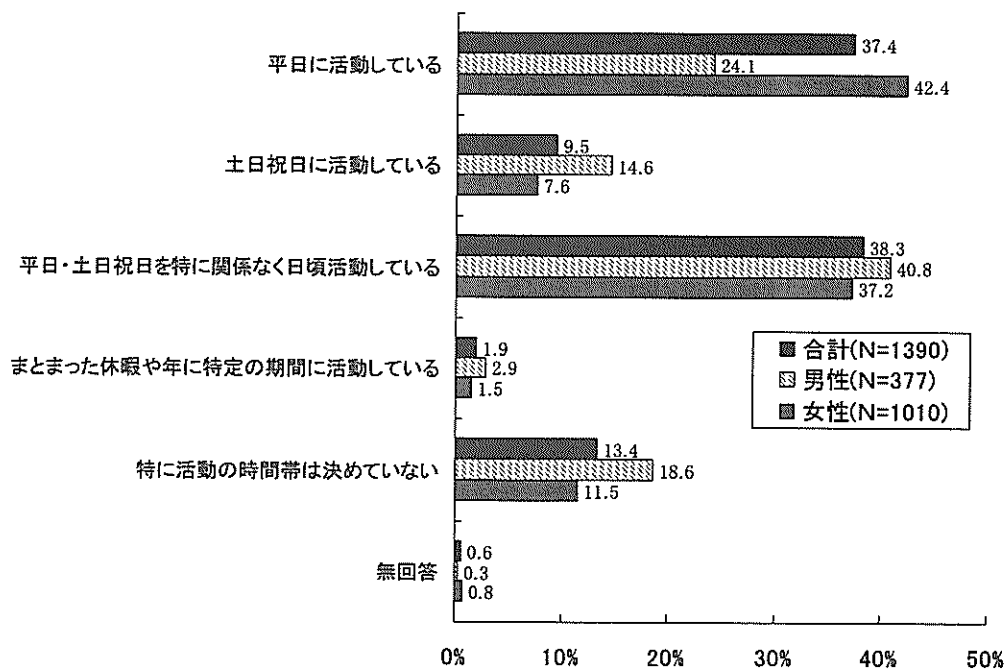
図表IV- 37 活動時間帯(問8、複数回答)



<性別>

「平日に活動している」人は、「男性」が 24.1%、「女性」が 42.4%と女性が多くなっている。一方、「土日祝日に活動している」人や「特に活動の時間帯は決めていない」人は「男性」に多く、各々 14.6%、18.6%となっている。

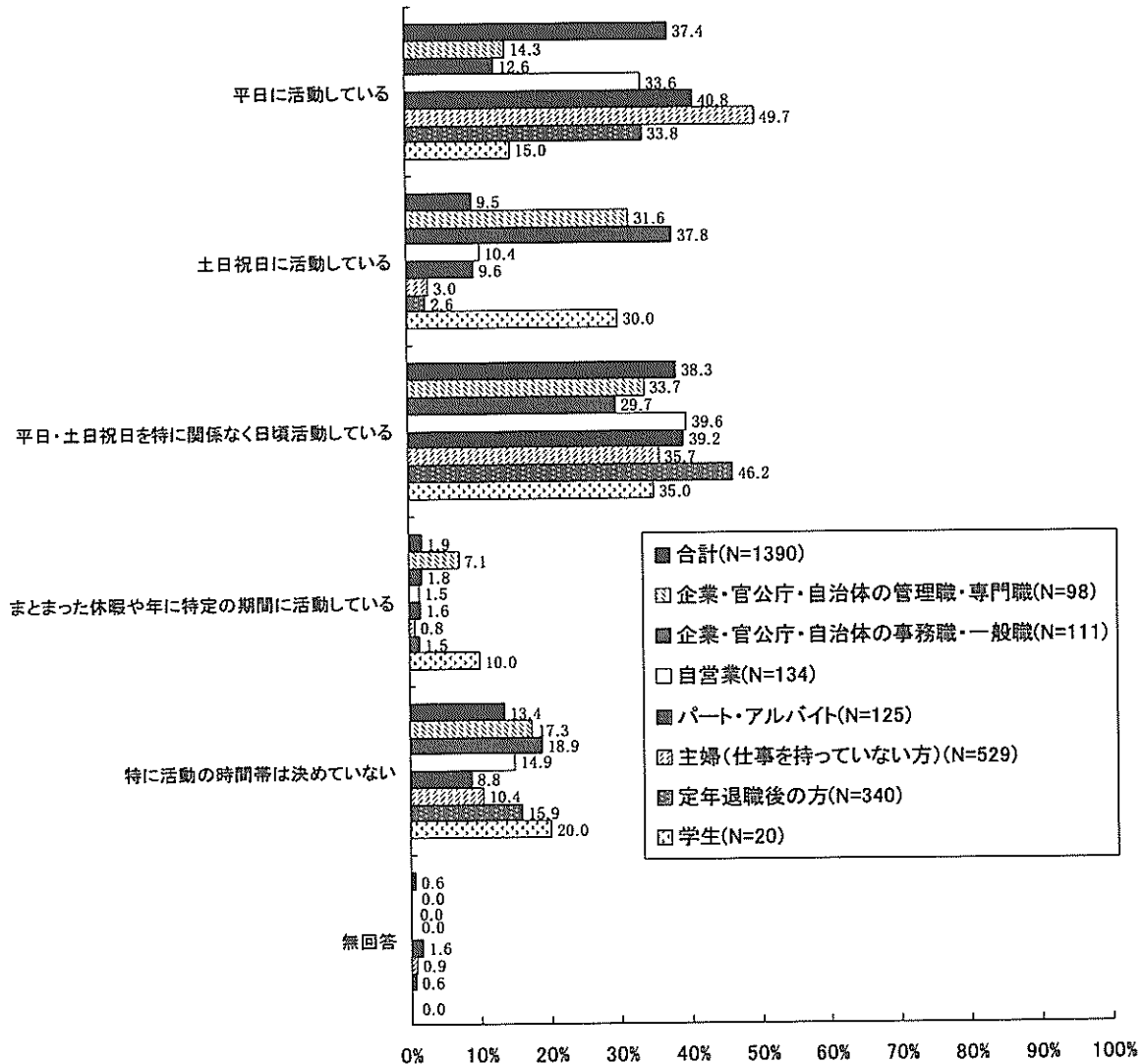
図表IV- 38 <性別>活動時間帯(問8、複数回答)



<職業別>

「平日に活動している」人は「主婦(仕事を持っていない方)」が 49.7%と多くなっており、「土日祝日に活動している」人は「企業・官公庁・自治体の管理職・専門職」および「企業・官公庁・自治体の事務職・一般職」が各々31.6%、37.8%と多くなっている。「平日・土日祝日を特に関係なく日頃活動している」人は、「定年退職後の方」で 46.2%と多くなっている。

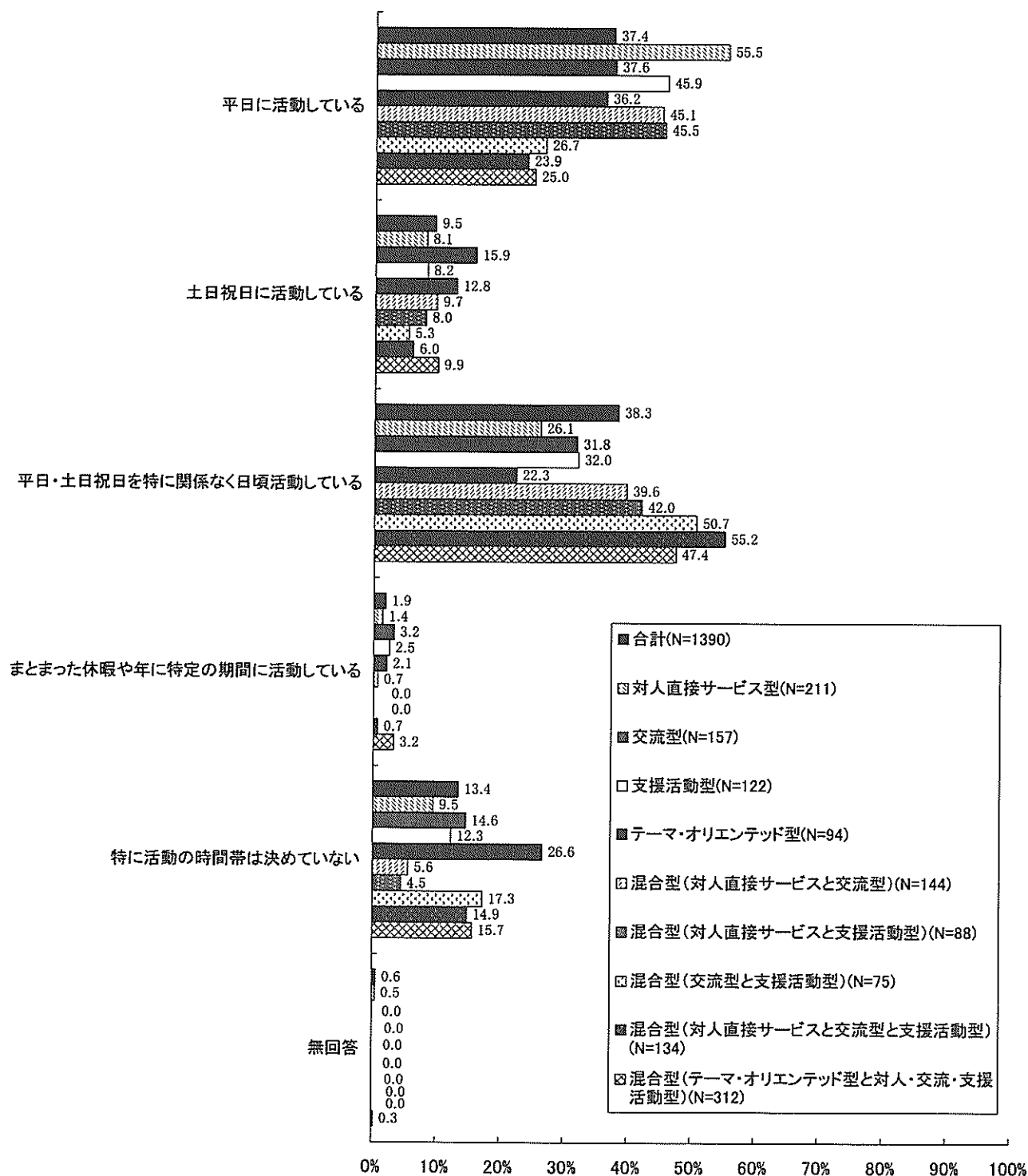
図表IV- 39 <職業別>活動時間帯(問8、複数回答)



<活動内容別>

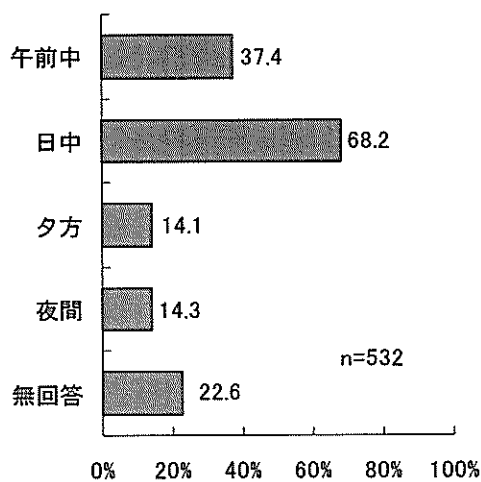
「平日に活動している」人は「対人直接サービス型」の活動を行っている人に多くなっている。「平日・土日祝日を特に関係なく日頃活動している」人は、対人直接サービス・交流型・支援活動型をあわせて行っている混合型の活動を行っている人に多くなっている。また、「特に活動の時間帯は決めていない」人は、「テーマ・オリエンテッド型」の活動者に多い。

図表IV-40 <活動内容別>活動時間帯(問8、複数回答)

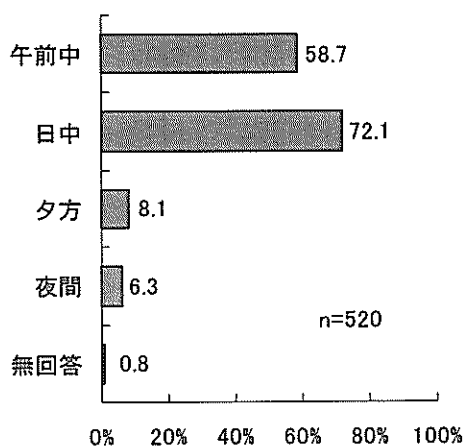


各々の活動時間帯についてみると、「平日・土日祝日を特に関係なく日頃活動している」人では、「日中」が 68.2%、「午前中」が 37.4%と多くなっている。「平日に活動している」人では、「日中」が 72.1%、「午前中」が 58.7%となっている。「土日祝日に活動している」人では、「日中」が 72.7%、「午前中」が 42.4%となっている。

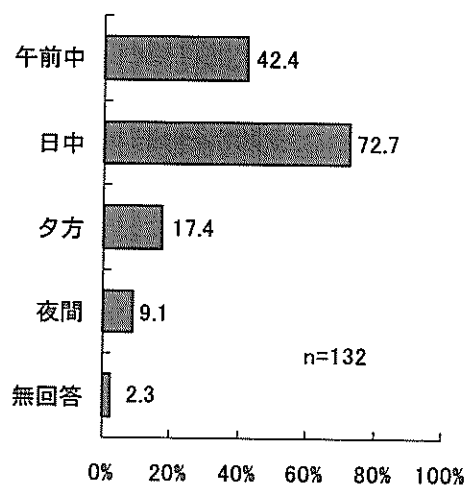
図表IV- 41 【平日・土日祝日を特に関係なく日頃活動している人】 活動時間帯(問8、複数回答)



図表IV- 42 【平日に活動している人】 活動時間帯(問8、複数回答)



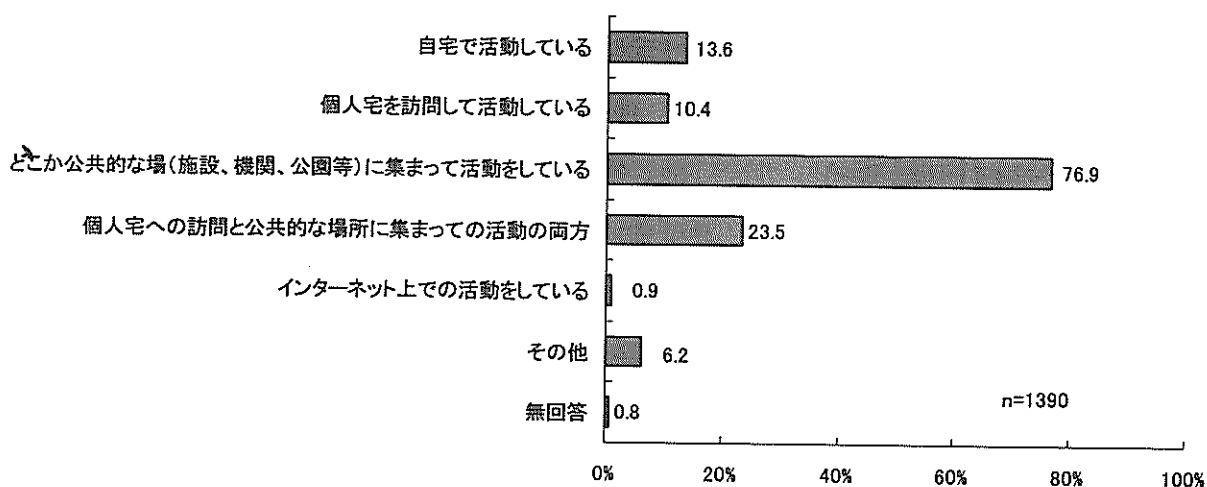
図表IV-43 【土日祝日に活動している人】 活動時間帯(問8、複数回答)



(4) 活動場所

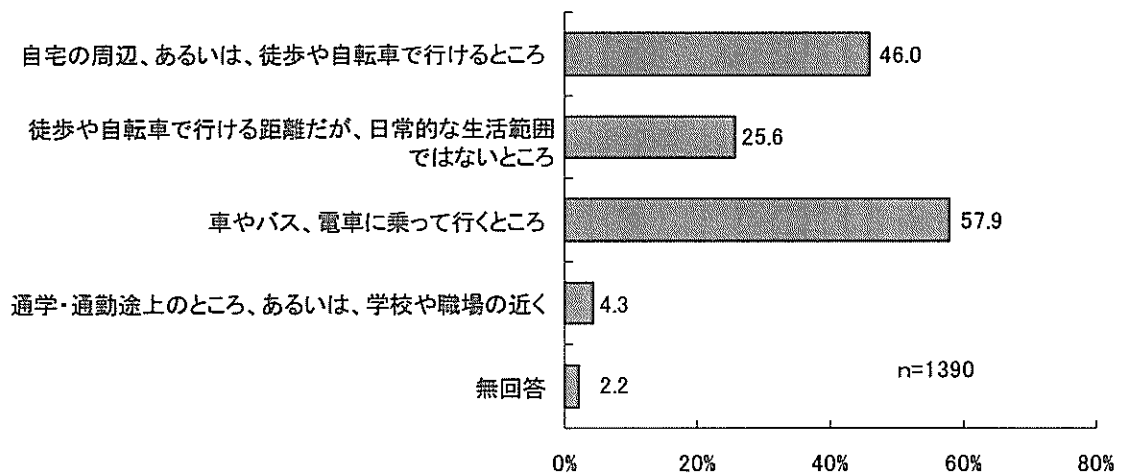
「どこか公共的な場所(施設、機関、公園等)に集まって活動している」が 76.9%と最も多くなっており、次いで、「個人宅への訪問と、公共的な場所に集まったの活動の両方」を行っているが 23.5%となっている。

図表IV-44 活動場所(問9、複数回答)



自宅から活動場所までの距離をきいたところ、「車やバス、電車に乗っていくところ」が 57.9%、「自宅の周辺、あるいは、徒歩や自転車で行けるところ」が 46.0%と高くなっている。「徒歩や自転車で行ける距離であるが、近所に住んでいる人々の日常的生活範囲ではないところ」で活動を行っている人が 25.6%となっている。自宅周辺の日常的生活範囲で活動を行っている人が半数近くいるが、日常的生活範囲ではないところで活動を行っている人も多くなっていることわかる。

図表IV-45 自宅と活動場所との距離関係(問10、複数回答)

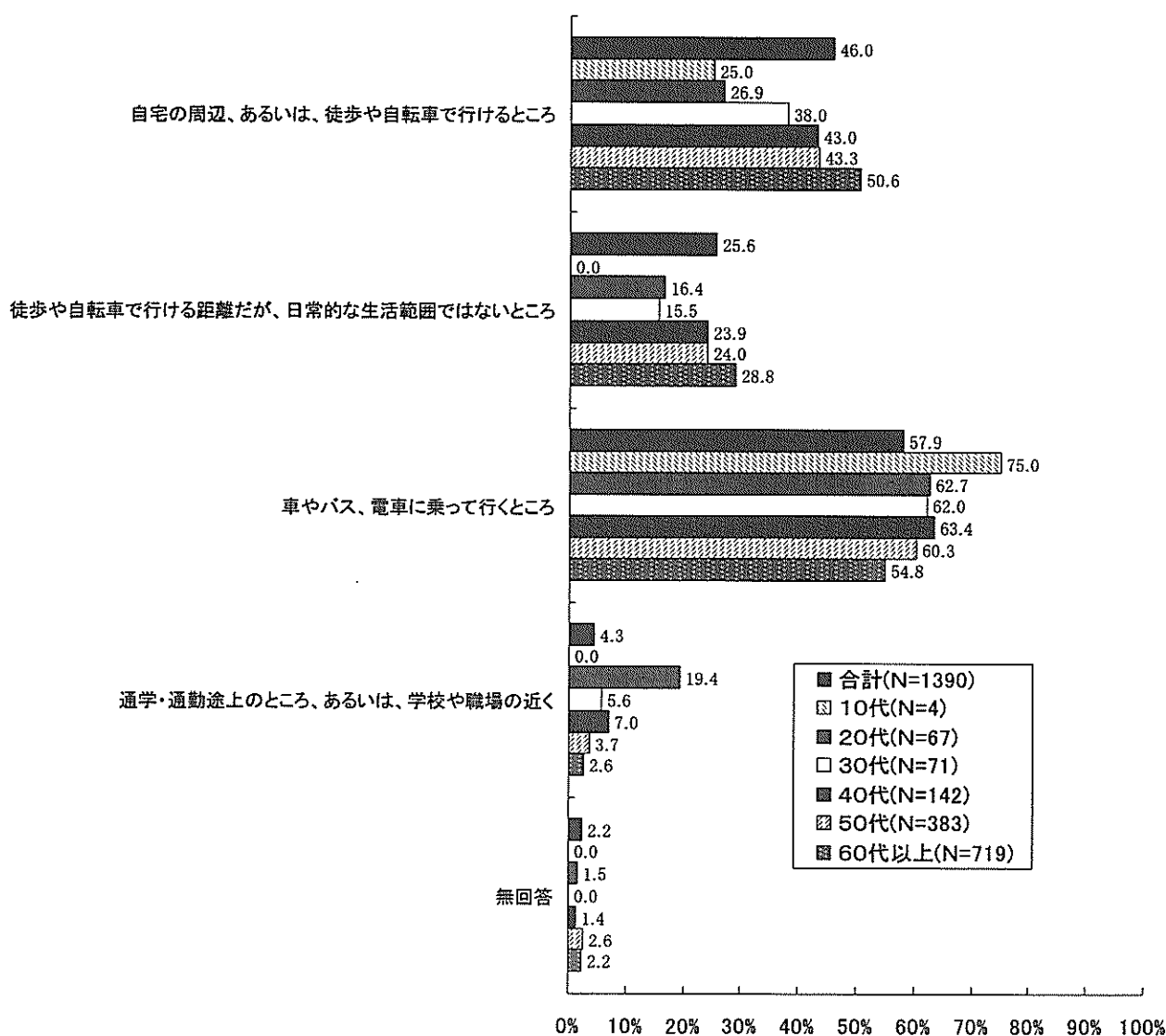


<年齢別>

「車やバス、電車に乗っていくところ」で活動している人が全世代を通して多くなっているが、「自宅の周辺、あるいは、徒歩や自転車でいけるところ」で活動を行っている人の割合は、年齢とともに高くなっている。また、「通学・通勤途上のところ、あるいは、学校や職場の近く」で活動している人は、「20代」で多くなっている。

これらのことから、ごく身近な生活圏内というよりは、車やバスに乗っていくといった若干離れたところでの活動を行っている人が多いなかで、若い世代では、学校や職場の近くでの活動もみられ、また、加齢とともに自宅周辺の活動場所の割合も高くなっていくといった傾向があると考えられる。

図表IV-46 <年齢別> 自宅と活動場所との距離関係(問10、複数回答)



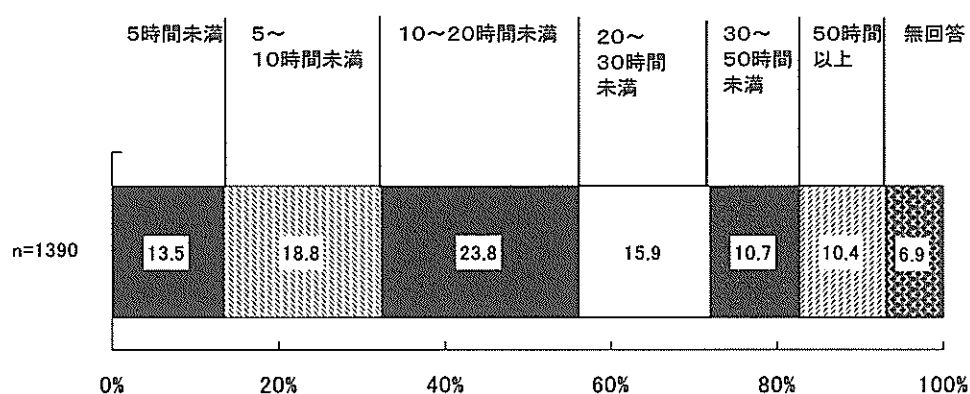
(5) 活動のコスト

① 月間活動時間⁶

1ヵ月間のおおよその活動時間をきいたところ、「10～20 時間未満」活動すると答えた人が 23.8% と最も多くなっており、次いで、「5～10 時間未満」が 18.8%、「20～30 時間未満」が 15.9%、「5 時間未満」が 13.5%となっている。

なお、平均の月間活動時間は、回答者一人あたり 21.7 時間となっている⁷。

図表IV-47 1ヵ月間のおおよその活動時間(問 12)



⁶ 活動時間には、実際に活動している時間、団体運営等の定例会や打ち合わせの時間、活動のための研修の時間などのボランティア活動に関するすべての時間を含めている。

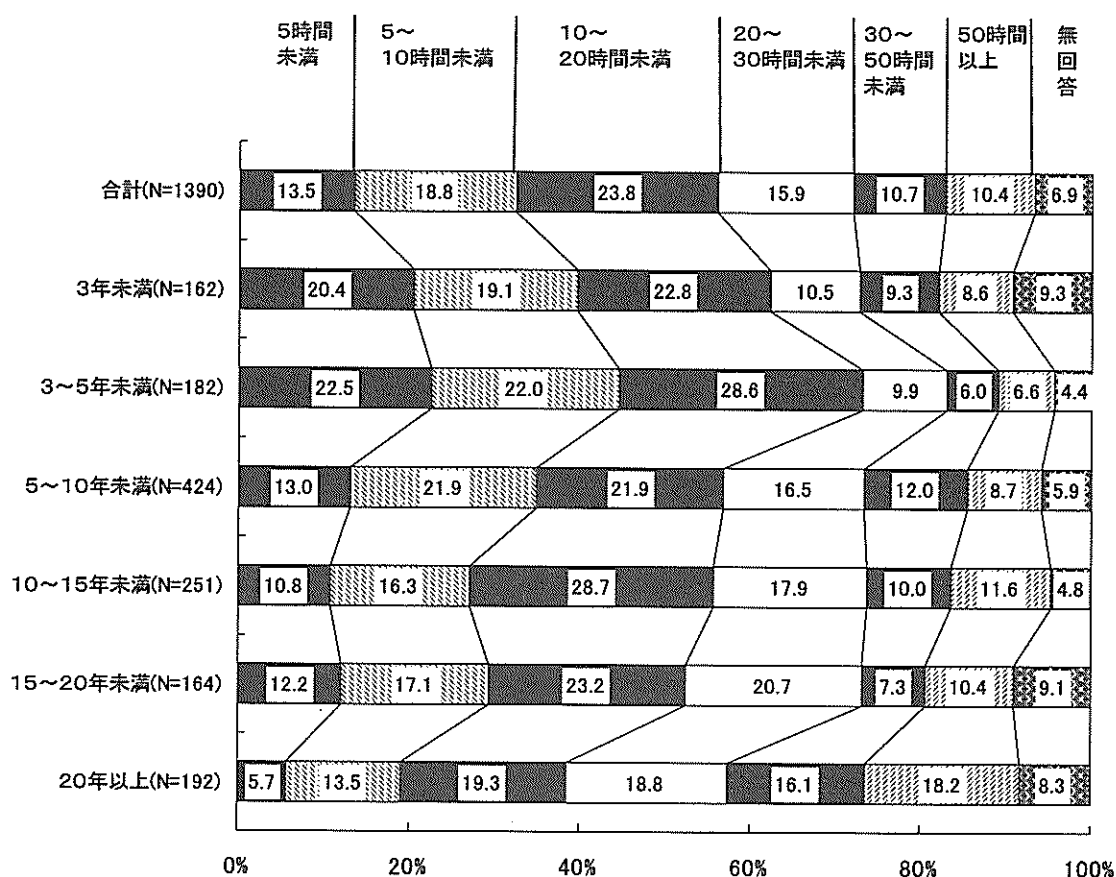
⁷ 月間活動時間の最小値は0.5時間、最大値は240時間であった。

<活動年数別>

月間活動時間が「5時間未満」、「5～10 時間未満」「10～20 時間未満」といった人の割合は、活動年数が少ない人ほど高くなっている。一方、月間活動時間が 20 時間以上の人割合は、活動年数が多い人に高くなっており、20 年以上活動している人のなかには、月間 50 時間以上活動している人が 18.2%にのぼっている。

これらのことから、長い期間活動を継続している人のなかには、月間の活動時間が長くなっている人が多い状況がうかがえる。

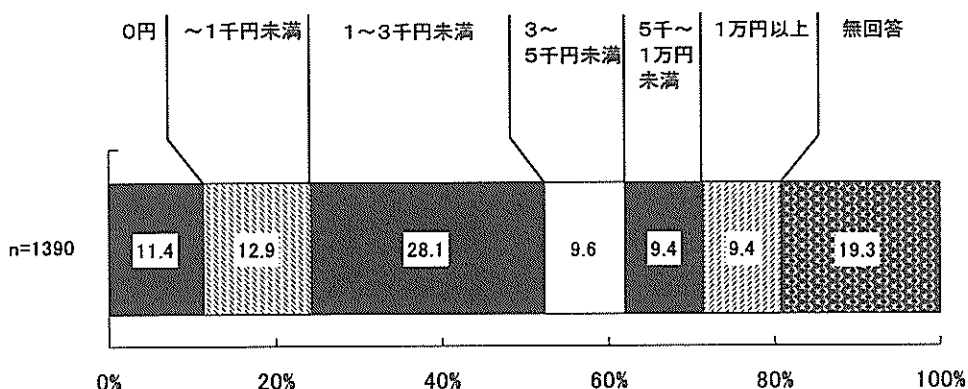
図表Ⅳ- 48 <活動年数別> 1ヵ月間のおおよその活動時間(問 12)



②活動に要する支出

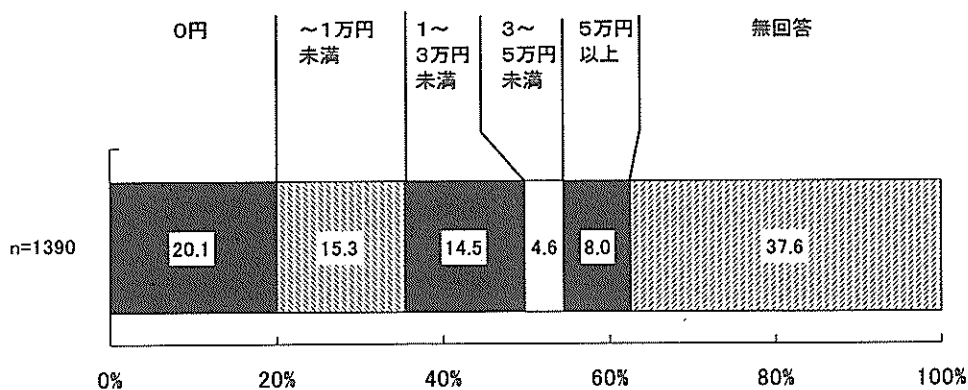
交通費や食費等の日頃の活動に要するおおよその支出額では、「1,000～3,000 円未満」が28.1%と最も多くなっている。

図表IV-49 1カ月の日頃の活動に要するおおよその支出額【問13(1)】



1年間に研修、制服や備品の購入等のまとまった大きな支出はどれくらいになるかをきいたところ、「0 円(大きな支出はない)」が20.1%、「10,000 円未満」が15.3%、「10,000～30,000 円未満」が14.5%となっている。

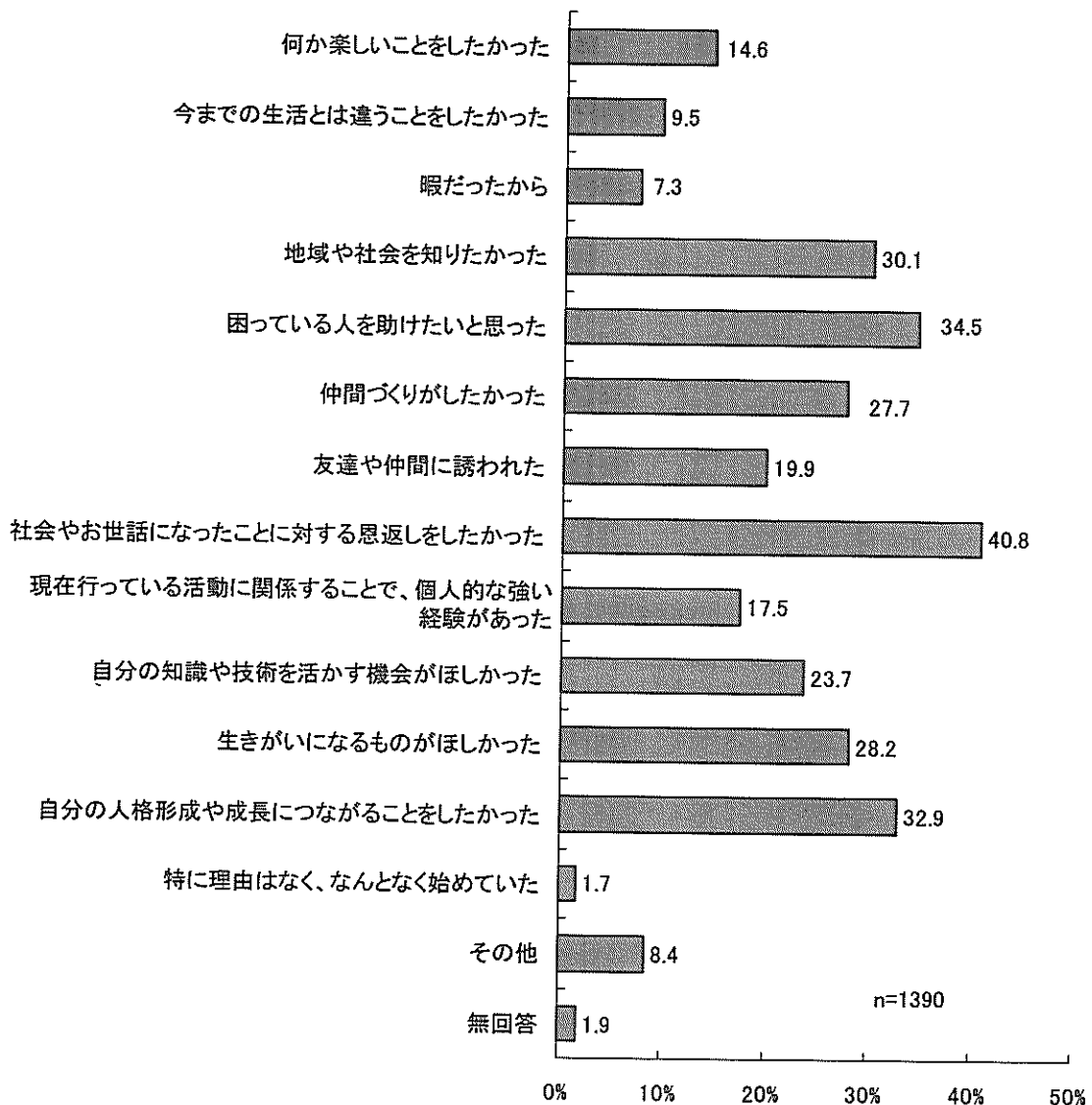
図表IV-50 1年間の活動に要する大きな支出のおおよその額【問13(2)】



(6) 活動に参加した理由

現在行っている活動に参加した理由をきいたところ、「社会やお世話になったことに対する恩返しをしたかった」が 40.8%、「困っている人を助けたいと思った」が 34.5%、「自分の人格形成や成長につながることをしたかった」が 32.9%、「地域や社会を知りたかった」が 30.1%と多くなっている。社会や他者のためになることをしたいという動機とともに、自分自身の向上を目指すことが動機となっている場合も多いことがわかる。

図表IV- 51 現在の活動に参加した理由(問7、複数回答)

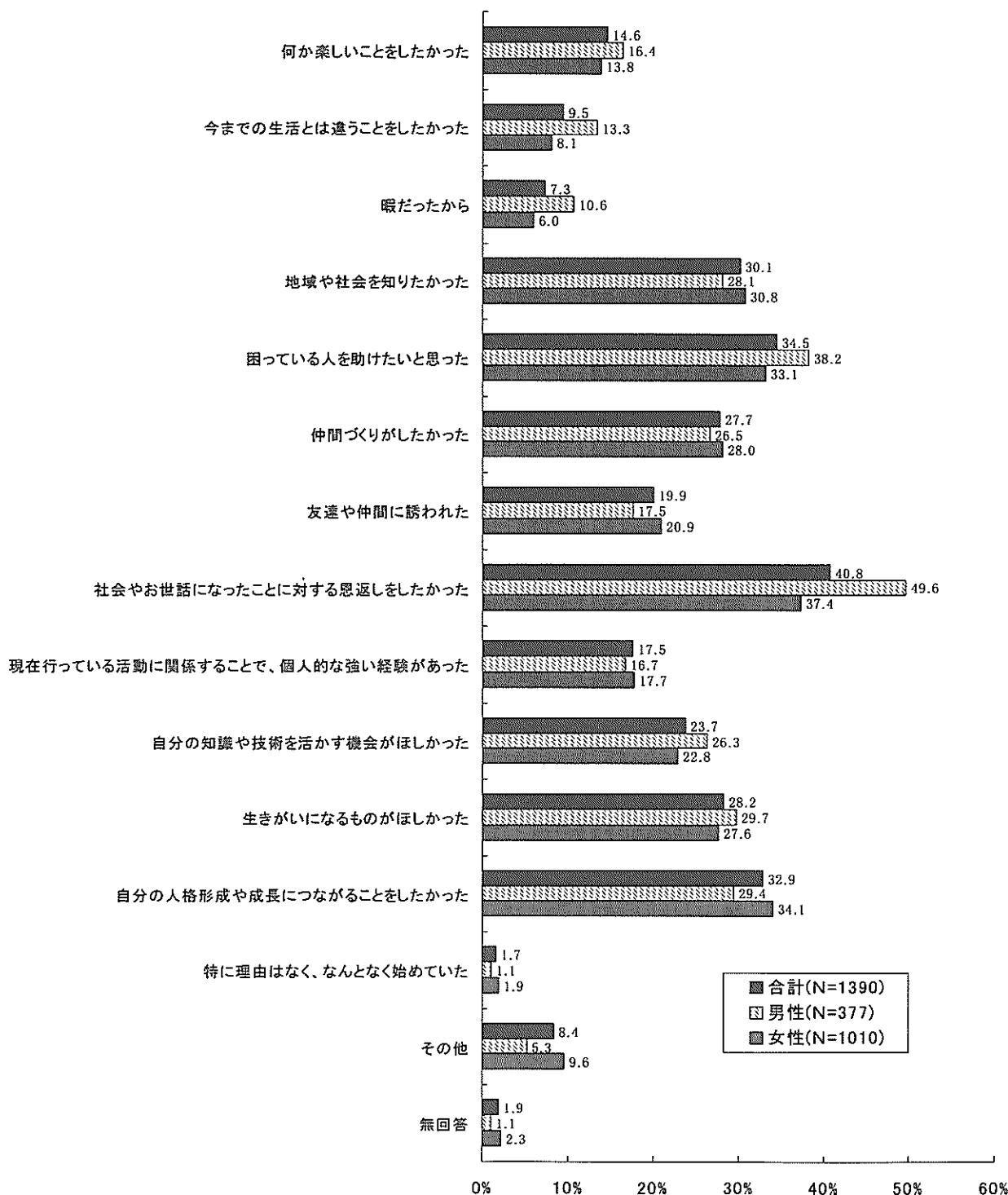


<性別>

社会や他者のためになることをしたいという動機とともに、自分自身の向上を目指すことが動機となっている場合が多いが、特に「男性」においては、「社会やお世話になったことに対する恩返しを

したかった」と答えた人の割合が 49.6%と高くなっており、この理由が強く意識されていることがわかる。

図表IV- 52 <性別>現在の活動に参加した理由(問7、複数回答)



<年齢別>

年齢別に、現在の活動に参加した理由の上位5項目を整理した。

この結果、20代では、「地域や社会を知りたかった」(44.8%)や「自分の人格形成や成長につながることをしたかった」(41.8%)といった、自分の能力向上に関することが主要な動機となっていることがわかる。また、「友達や仲間に誘われた」(29.9%)、「何か楽しいことをしたかった」(25.4%)や「仲間づくりがしたかった」(23.9%)といった理由も挙げられており、若い世代では楽しいことや仲間がキーワードとなっている様子もうかがえる。

30代では、「困っている人を助けたいと思った」(28.2%)が最も高くなっており、次いで、「自分の知識や技術を活かす機会がほしかった」と「自分の人格形成や成長につながることをしたかった」が各々23.9%となっている。30代は、仕事等を通じて社会経験を積み、ある程度自己研鑽を経験している世代であり、自分の成長につながることに、自分の持っている知識や技術を活かしたいという動機が高くなっているものと考えられる。また、社会人としての視野と生活の安定が備わってくる世代でもあることから、自分よりも弱い立場にある人や困っている人へ援助の手をさしのべたいという気持ちが出てくるものと考えられる。

なお、「自分の人格形成や成長につながることをしたかった」は、20～50代に共通して高い理由となっている。

40代や50代では「社会やお世話になったことに対する恩返しをしたかった」が各々31.0%、38.4%と高くなっているものの、「地域社会を知りたかった」や「仲間づくりがしたかった」といった20代と同様の傾向や、「困っている人を助けたいと思った」といった30代と同様の傾向もあらわれている。これは、40～50代に仕事を持っていない主婦層が、子育て等を一段落させてボランティア活動を通じて地域社会に参加していくという傾向が背景にあるものと考えられる。

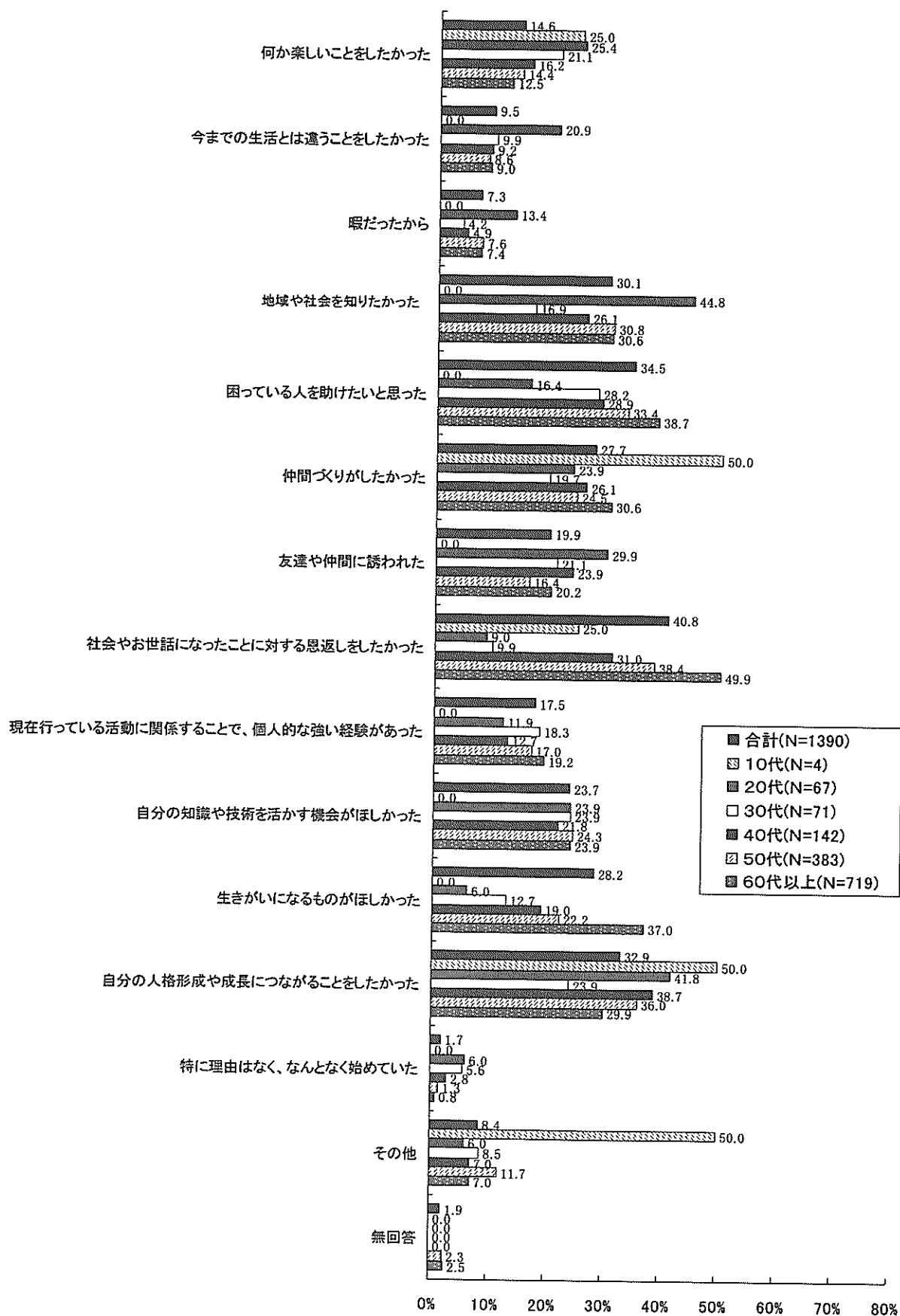
60代以上では、「社会やお世話になったことに対する恩返しをしたかった」が49.9%と最も高く、次いで、「困っている人を助けたいと思った」が38.7%となっている。さらに、この世代では、「生きがいになるものがほしかった」が37.0%と高くなっている特徴がある。この世代にも、「地域や社会を知りたかった」(30.6%)や「仲間づくりがしたかった」(30.6%)が挙げられているが、これは、定年退職した人々が職場社会から地域社会へと生活の場をシフトしていくことが背景にあると考えられる。

図表Ⅳ- 53 <年齢別>現在の活動に参加した理由の上位5項目(問7、複数回答)⁸

	1位	2位	3位	4位	5位
20代 (n=67)	地域や社会を知りたかった (44.8%)	自分の人格形成や成長につながることをしたかった(41.8%)	友達や仲間に誘われた (29.9%)	何か楽しいことをしたかった (25.4%)	自分の知識や技術を活かす機会がほしかった(23.9%) 仲間づくりがしたかった(23.9%)
30代 (n=71)	困っている人を助けたいと思った (28.2%)	自分の知識や技術を活かす機会がほしかった(23.9%) 自分の人格形成や成長につながることをしたかった(23.9%)		何か楽しいことをしたかった(21.1%) 友達や仲間に誘われた(21.1%)	
40代 (n=142)	自分の人格形成や成長につながることをしたかった(38.7%)	社会やお世話になったことに対する恩返しをしたかった(31.0%)	困っている人を助けたいと思った (28.9%)	地域や社会を知りたかった(26.1%) 仲間づくりがしたかった(26.1%)	
50代 (n=383)	社会やお世話になったことに対する恩返しをしたかった(38.4%)	自分の人格形成や成長につながることをしたかった(36.0%)	困っている人を助けたいと思った (33.4%)	地域や社会を知りたかった (30.8%)	仲間づくりがしたかった(24.5%)
60代以上 (n=719)	社会やお世話になったことに対する恩返しをしたかった(49.9%)	困っている人を助けたいと思った (38.7%)	生きがいになるものがほしかった (37.0%)	地域や社会を知りたかった(30.6%) 仲間づくりがしたかった(30.6%)	

⁸ 10代はサンプル数が4と少ないため、省略している。

図表IV-54 <年齢別>現在の活動に参加した理由(問7、複数回答)



<職業別>

職業別にみると、全体的に「社会やお世話になったことに対する恩返しをしたかった」や「自分の人格形成や成長につながることをしたかった」の2つの理由が上位になっている。

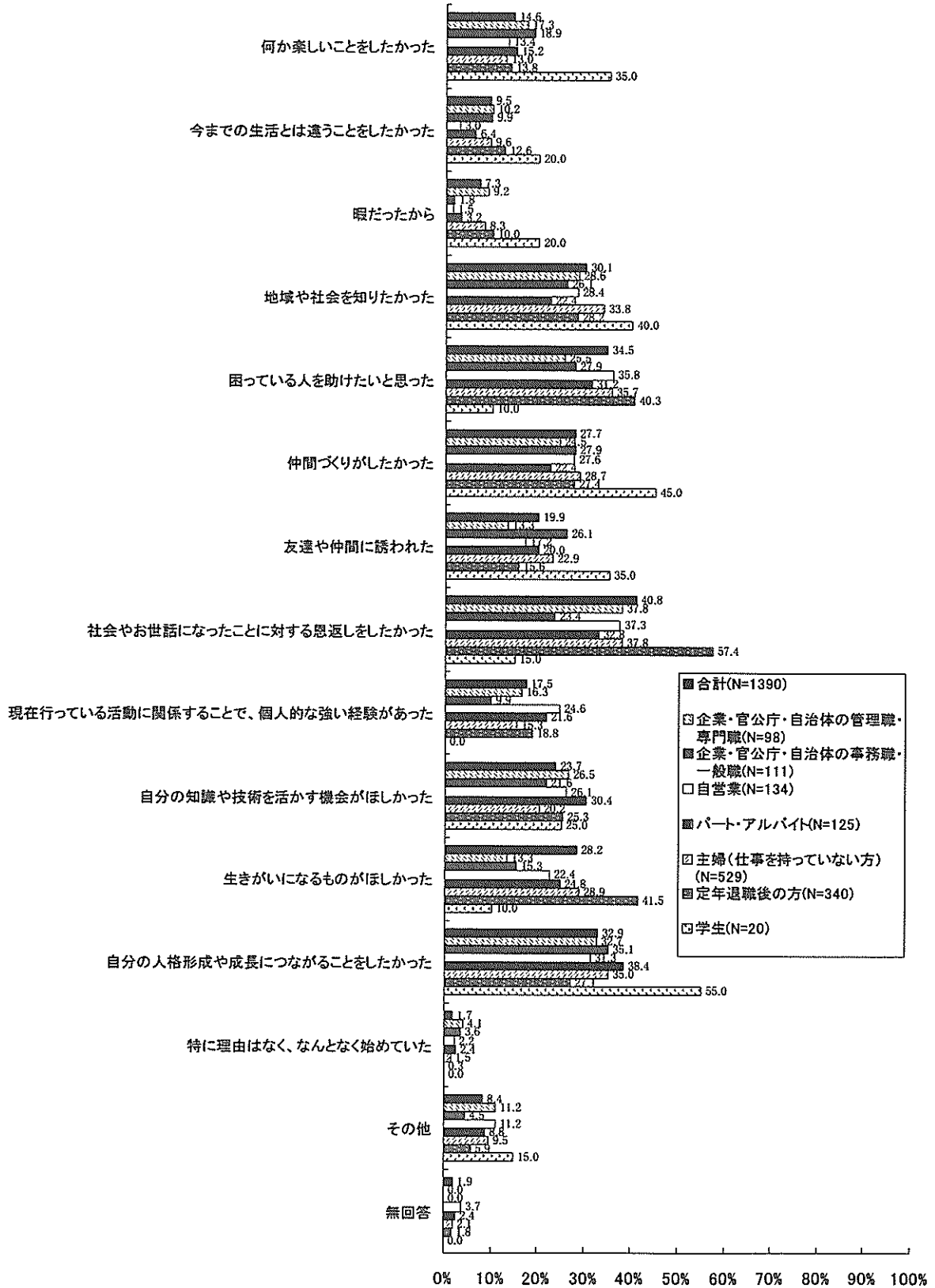
「自分の知識や技術を活かす機会がほしかった」という理由は、「企業・官公庁・自治体の管理職・専門職」や「パート・アルバイト」の人に多くなっている。「企業・官公庁・自治体の事務職・一般職」では、「仲間づくりがしたかった」や「友達や仲間誘われた」という理由が、他の職業の人と比較して多くなっている。また、「定年退職後の方」では、「生きがいになるものがほしかった」という理由が2位に挙げられている。

図表IV- 55 <職業別>現在の活動に参加した理由の上位5項目(問7、複数回答)⁹

	1位	2位	3位	4位	5位
企業・官公庁・自治体の管理職・専門職 (n=98)	社会やお世話になったことに対する恩返しをしたかった(37.8%)	自分の人格形成や成長につながることをしたかった(32.7%)	地域や社会を知りたかった(28.6%)	自分の知識や技術を活かす機会がほしかった(26.5%)	困っている人を助けたいと思った(25.5%)
企業・官公庁・自治体の事務職・一般職 (n=111)	自分の人格形成や成長につながることをしたかった(35.1%)	仲間づくりがしたかった(27.9%) 困っている人を助けたいと思った(27.9%)		地域や社会を知りたかった(26.1%) 友達や仲間誘われた(26.1%)	
自営業 (n=134)	社会やお世話になったことに対する恩返しをしたかった(37.3%)	困っている人を助けたいと思った(35.8%)	自分の人格形成や成長につながることをしたかった(31.3%)	地域や社会を知りたかった(28.4%)	仲間づくりがしたかった(27.6%)
パート・アルバイト(n=125)	自分の人格形成や成長につながることをしたかった(38.4%)	社会やお世話になったことに対する恩返しをしたかった(32.8%)	困っている人を助けたいと思った(31.2%)	自分の知識や技術を活かす機会がほしかった(30.4%)	生きがいになるものがほしかった(24.8%)
主婦(仕事を持っていない方) (n=529)	社会やお世話になったことに対する恩返しをしたかった(37.8%)	困っている人を助けたいと思った(35.7%)	自分の人格形成や成長につながることをしたかった(35.0%)	地域や社会を知りたかった(33.8%)	生きがいになるものがほしかった(28.9%)
定年退職後の方 (n=340)	社会やお世話になったことに対する恩返しをしたかった(57.4%)	生きがいになるものがほしかった(41.5%)	困っている人を助けたいと思った(40.3%)	地域や社会を知りたかった(28.2%)	仲間づくりがしたかった(27.4%)

⁹ 学生はサンプル数が20と少ないため、省略している。

図表IV-56 <職業別>現在の活動に参加した理由(問7、複数回答)

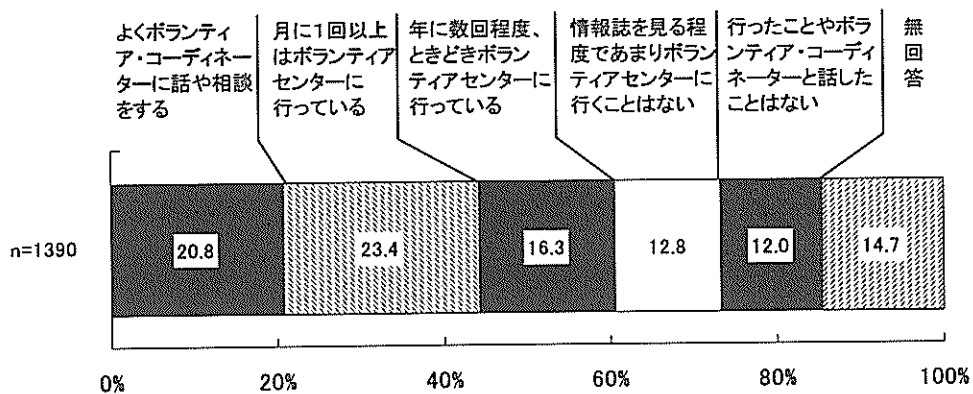


(7) ボランティアセンターの利用状況

「月に1回以上はボランティアセンターに行っている」が23.4%、「よくボランティア・コーディネーターと話したり、相談したりしている」が20.8%、「年に数回程度、ときどきボランティアセンターに行っている」が16.3%となっている。

一方、「情報誌をみている程度であり、あまりボランティアセンターに行くことはしない」が12.8%、「自分で行ったことやボランティア・コーディネーターと話したことはない」が12.0%となっており、2割強の人がボランティアセンターをほとんど利用していないこともわかる。

図表IV-57 ボランティアセンターの利用状況(問11)

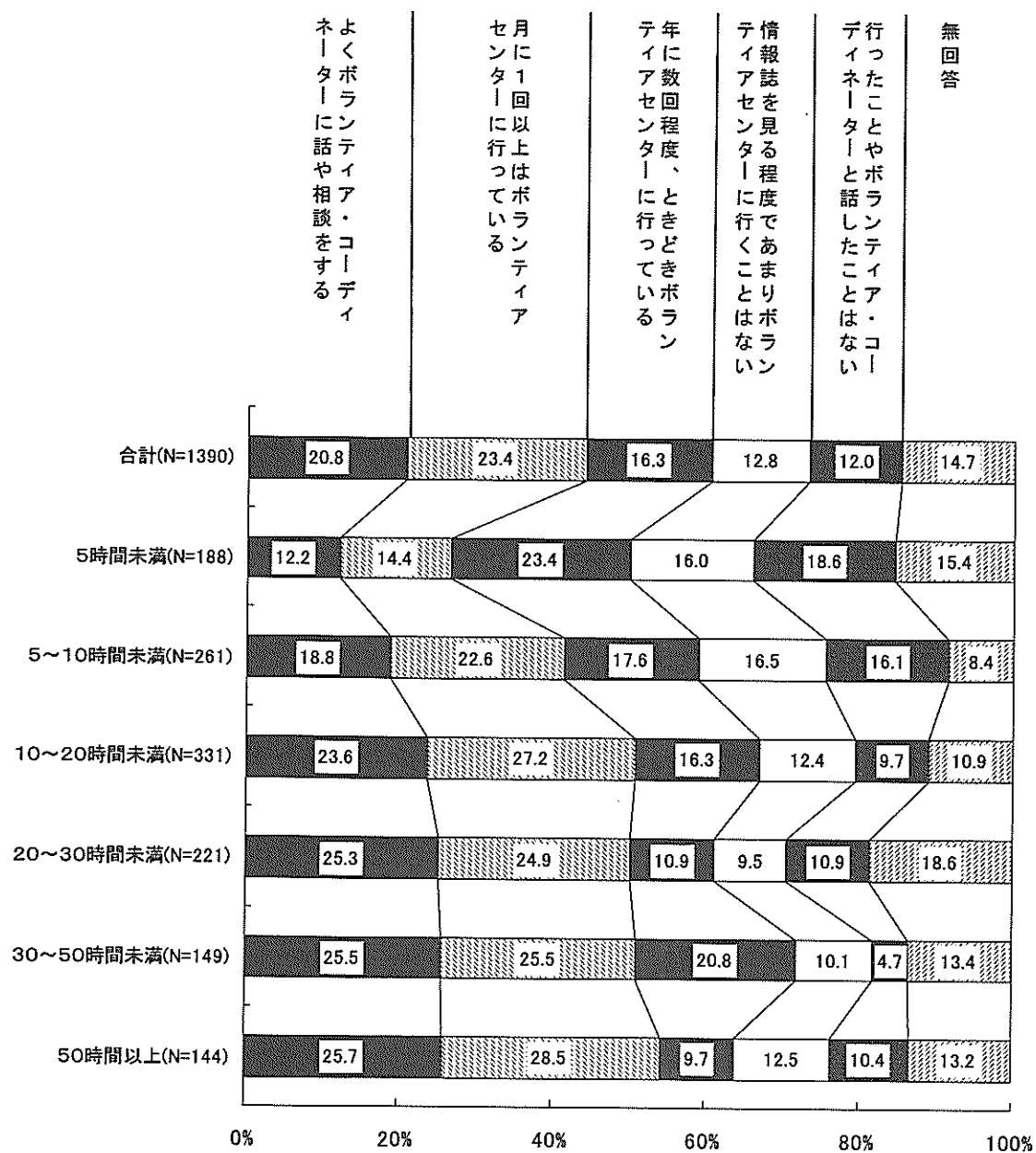


<月間の活動時間別>

10 時間以上活動する人に、「よくボランティア・コーディネーターと話や相談をする」あるいは「月に1回以上はボランティアセンターに行っている」と答えた人の割合が高くなっている。

一方、「年に数回程度、ときどきボランティアセンターに行っている」人や、「情報誌をみている程度であり、あまりボランティアセンターに行くことはしない」や「自分で行ったことやボランティア・コーディネーターと話をしたことはない」といったほとんどボランティアセンターとの接触がない人は、月間の活動時間が10 時間未満の人で割合が高くなっている。

図表IV- 58 <月間の活動時間別>ボランティアセンターの利用状況(問 11)

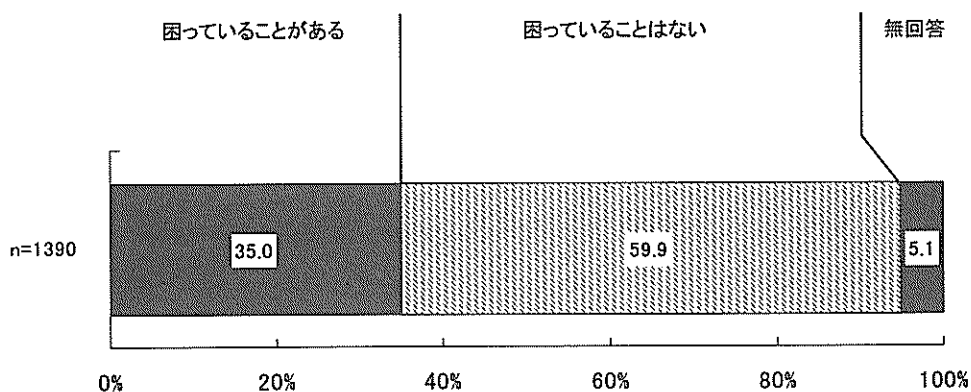


4. 現在の活動の問題点と今後の活動予定

(1) 活動を行ううえで困っていること

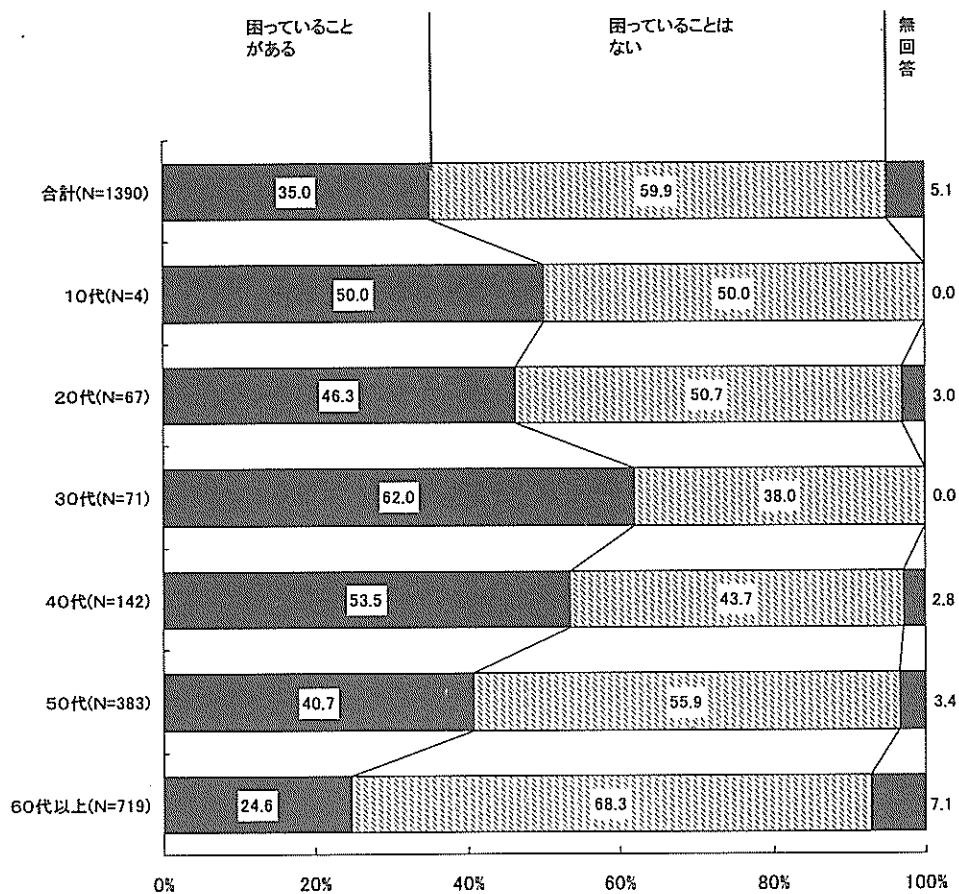
活動を行ううえで「困っていることがある」人が 35.0%、「ない」人が 59.9%となっている。

図表IV-59 活動を行ううえで困っていることの有無(問 14)



年齢別にみると、「困っていることがある」と答えた人の割合は50代以下で4割以上となっている。特に、30代では62.0%にのぼっている。

図表IV-60 <年齢別>活動を行ううえで困っていることの有無(問 14)



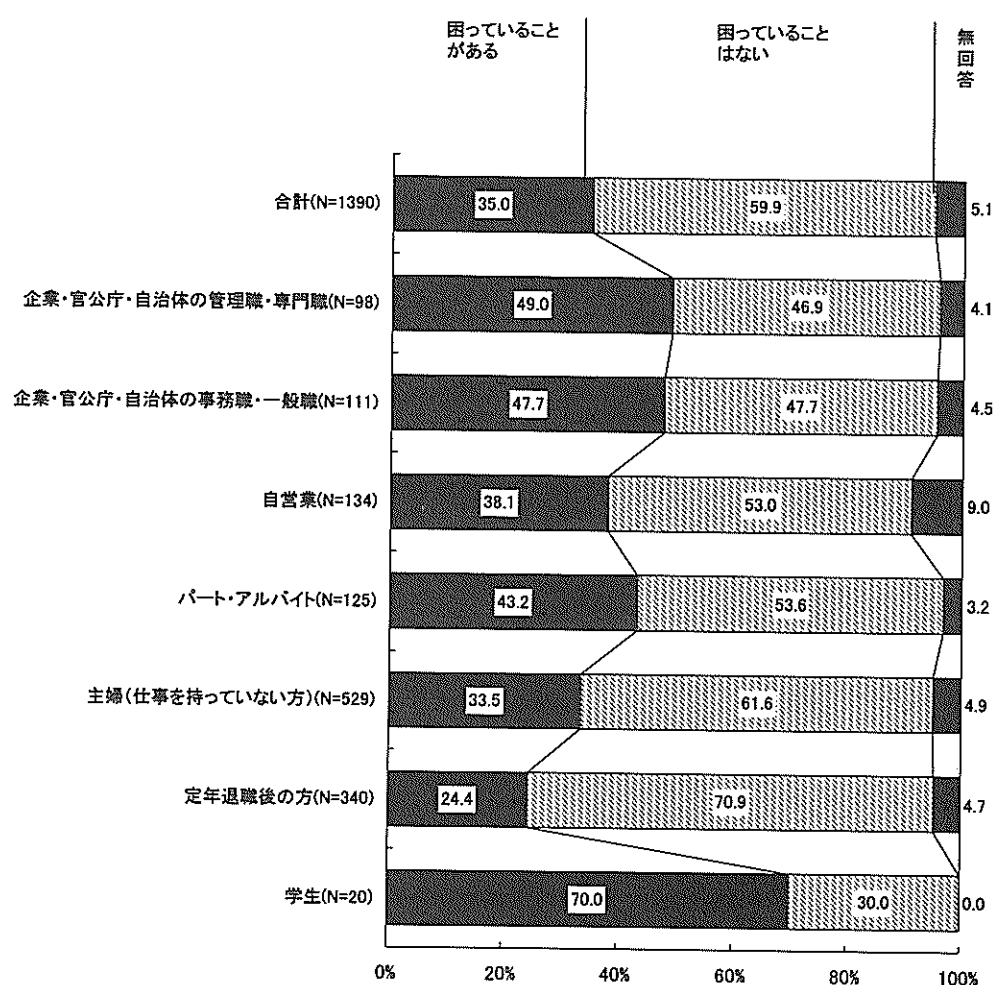
<職業別>

「困っていることがある」と答えた人の割合が全体平均(35.0%)よりも高いのは、「企業・官公庁・自治体の管理職・専門職」(49.0%)、「企業・官公庁・自治体の事務職・一般職」(47.7%)、「パート・アルバイト」(43.2%)、「自営業」(38.1%)となっている。

一方、「主婦(仕事を持っていない方)」や「定年退職後の方」では、困っていることはないと答えた人の割合が各々61.6%、70.9%と高くなっている。

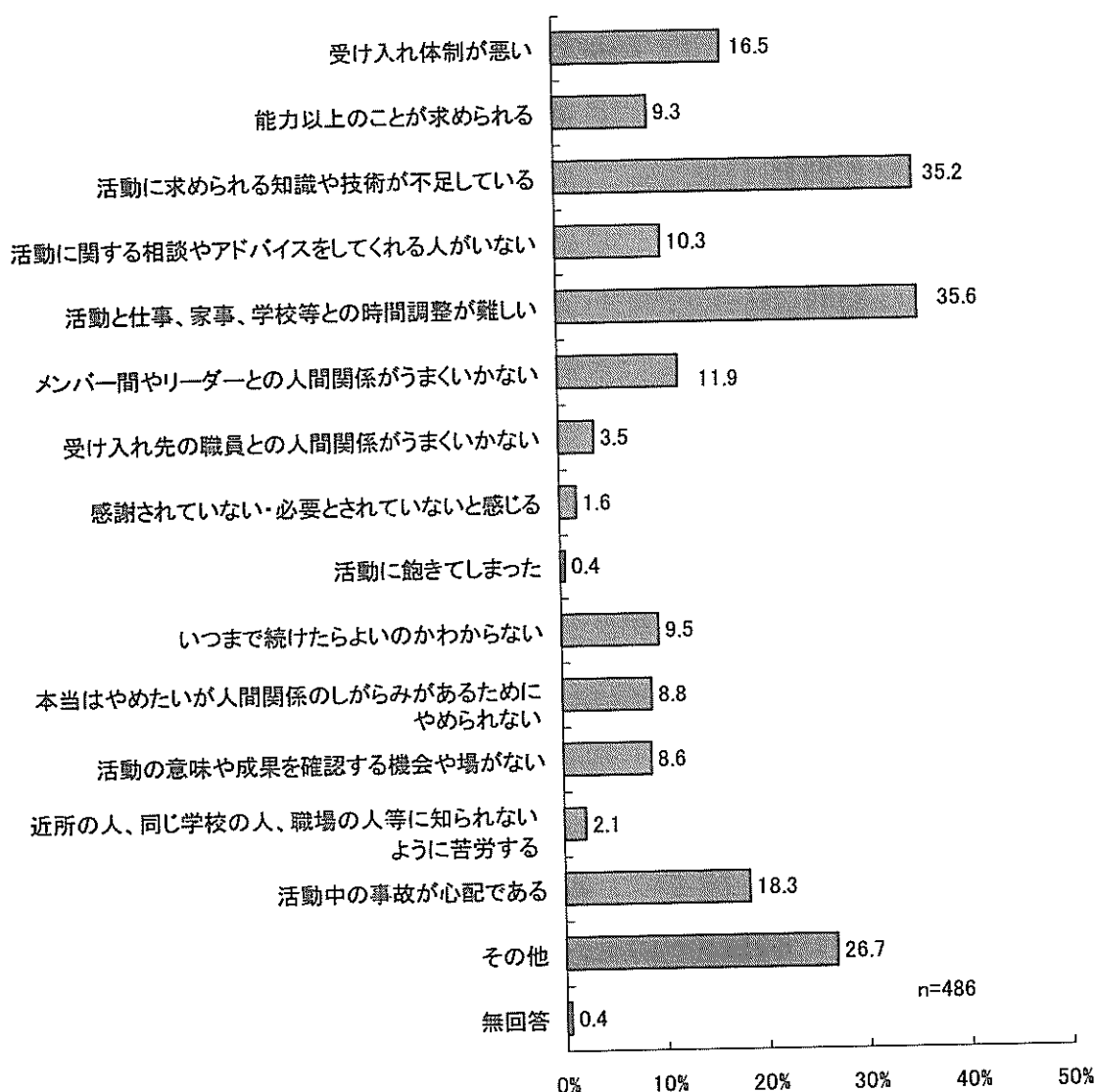
これらのことから、なんらかの仕事をもちながら活動を行っている人のほうが、活動を行ううえで困りごとを抱えている様子がうかがえる。

図表IV-61 <職業別>活動を行ううえで困っていることの有無(問14)



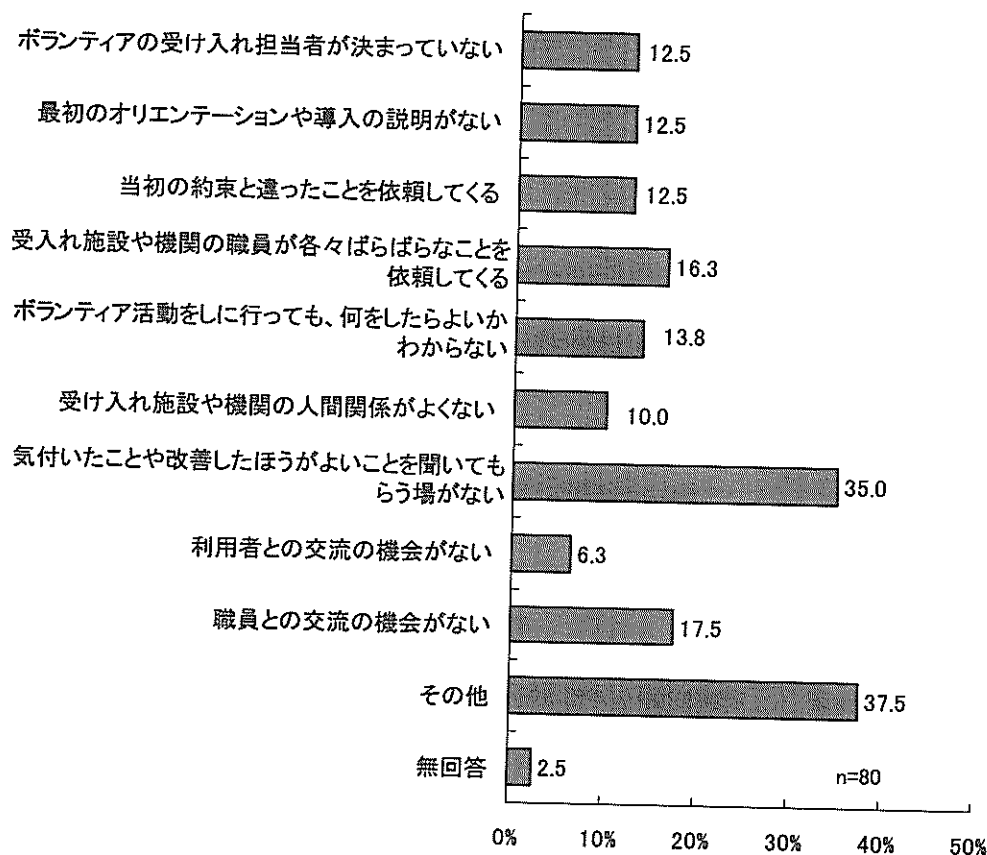
活動を行ううえで困っていることでは、「活動と仕事、家事、学校等との時間調整が難しい」が35.6%、「活動に求められる技術や知識が不足している」が35.2%と多くなっている。「その他」が26.7%となっており、その内容は、「メンバーの不足」「メンバーの高齢化」「メンバーの後継者がいない」「男性のメンバーが少ない」といったメンバーに関することや、「活動資金が不足している」「活動するにあたって交通の便が悪い」などが挙げられている。

図表IV-62 【活動を行ううえで困っていることがある人】 困っていること(問14付問1、複数回答)



活動を行ううえで困っていることなかで、「受け入れ体制が悪い」と答えた人に、具体的にどのような点が悪いのかをきいたところ、「気付いたことや改善したほうがよいことを聞いてもらう場がない」が35.0%と多くなっている。また、「その他」が37.5%となっており、その内容は、「活動に必要な場所がない」「ボランティアの位置づけがはっきりしていない」「活動費用への補助がない」「活動の種類が少ない」「活動要請が少ない」「ボランティアを受入れる気持ちがあると思えない」といったことが挙げられている。

図表IV-63 【活動を行ううえで困っていることがある人で、受け入れ体制が悪いと答えた人】
その具体的な内容(問14付問2、複数回答)



(2) 今後の活動予定

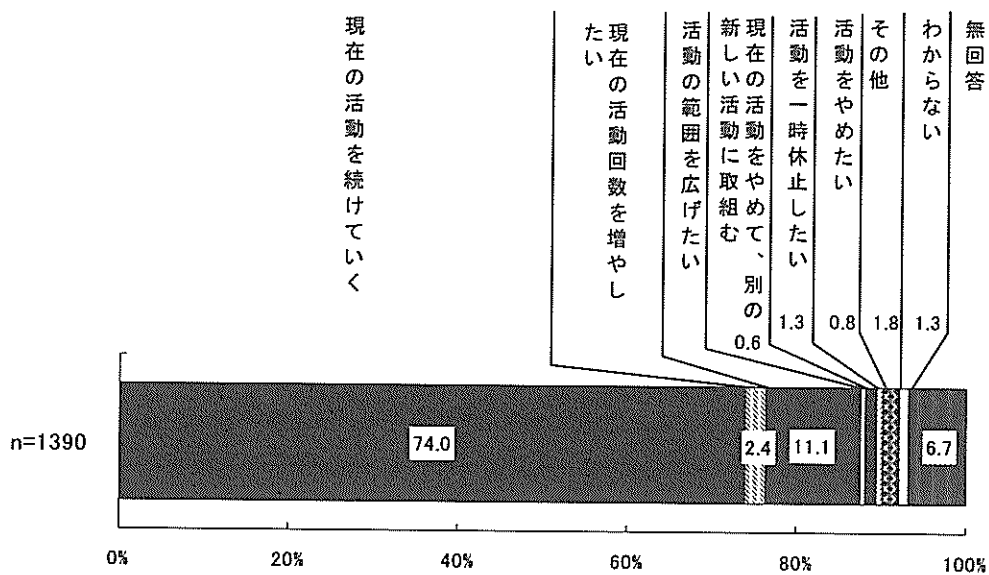
「現在の活動を続けていく」と答えた人が 74.0%と最も多くなっており、大半が現状維持の予定であることがわかる。

「現在の活動の回数を増やした」と答えた人は 2.4%、「活動の範囲を広げたい」が 11.1%となっており、活動を拡充する予定の人は 13.5%になっている。

「活動を一時休止したい」人は 1.3%、「活動をやめたい」人は 0.8%であり、活動を休止・中止する予定の人は低い割合にとどまっている。

前回調査では、「現在の活動を続けたい」人が 63.1%、「現在の活動に加えて、新たな分野の活動にも取組みたい」が 21.8%、「現在の活動の回数を増やしていきたい」が 6.5%であり、今回調査では、現状維持の予定の人の割合が増加し、活動を拡充する予定の人の割合が減少したことがわかる。

図表IV-64 今後の活動予定(問15)

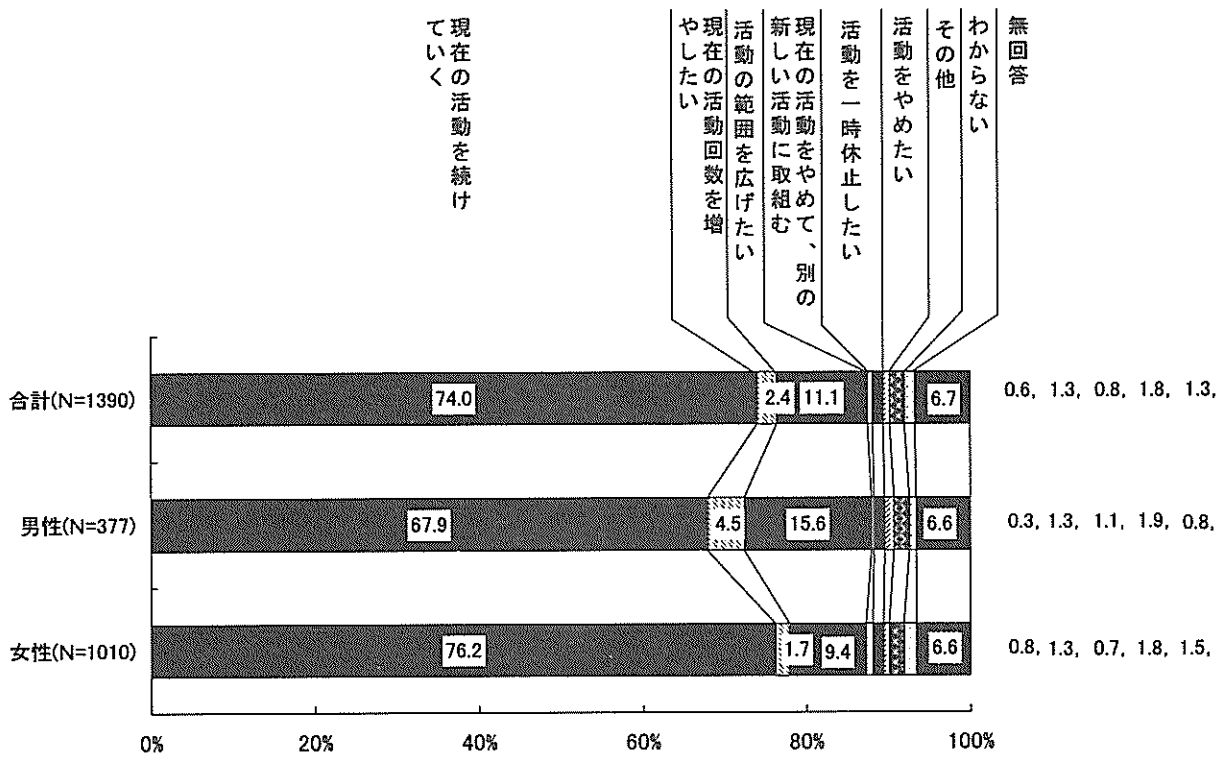


<性別>

「活動の範囲を広げたい」と答えた人の割合が、「男性」で 15.6%、「女性」で 9.4%となっている。また、「現在の活動の回数を増やしたい」と答えた人も、「男性」が 4.5%、「女性」が 1.7%となっている。

これらのことから、今後活動を拡充していきたいと考えている人は、男性のほうに若干多いことがわかる。

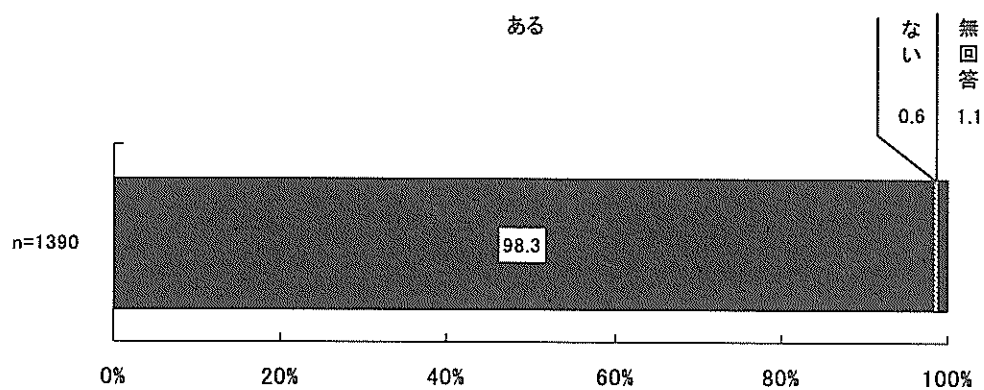
図表IV-65 <性別>今後の活動予定(問15)



5. 活動の効果・よかったこと

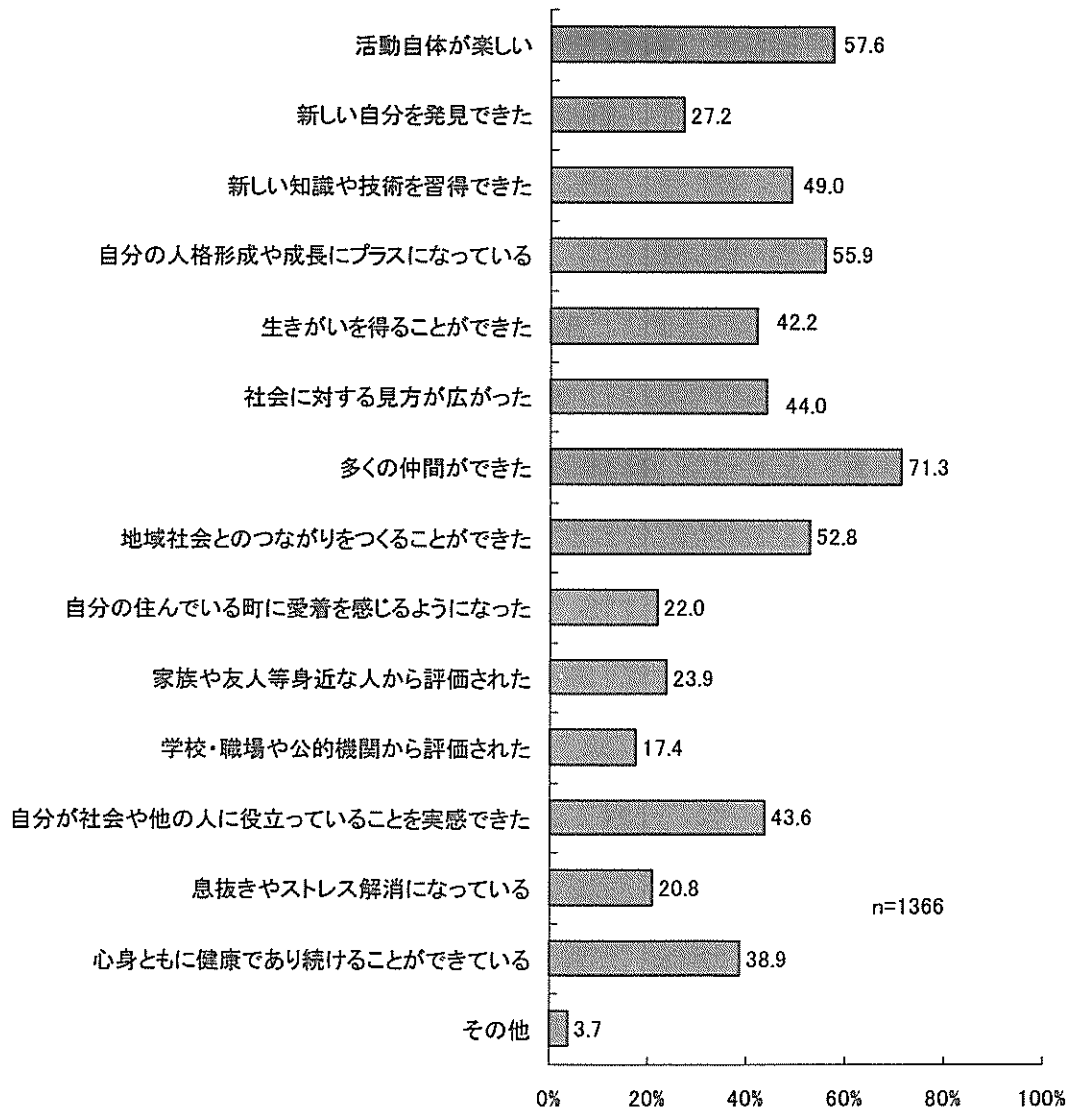
活動を通じて得たことや活動をしてよかったことが「ある」と答えた人が98.3%と大半を占めた。そのようなことは「ない」と答えた人は0.6%にとどまった。

図表IV-66 活動を通じて得たこと・よかったこと(問16)



活動を通じて得たことやよかったこととしては、「多くの仲間ができた」が71.3%、「活動自体が楽しい」が57.6%、「自分の人格形成や成長にプラスになっている」が55.9%、「地域社会とのつながりをつくることができた」が52.8%、「新しい知識や技術を習得できた」が49.0%、「社会に対する見方が広がった」が44.0%、「自分が社会や他の人の役に立っていることを実感できた」が43.6%、「生きがいを得ることができた」が42.2%と多くなっている。ボランティア活動を通じて、多様な面でよかったことを見出していることがわかる。

図表Ⅳ-67 【活動を通じて得たことや活動をしていてよかったことがあると答えた人】
活動を通じて得たことや活動をしていてよかったこと(問16付問1、複数回答)



<年齢別>

年齢別に、活動を通じて得たことや活動をしていてよかったことの上位5項目をみると、「20代」では、「自分の人格形成や成長にプラスになっている」ことが66.7%と最も高くなっているが、30代以上では、「多くの仲間ができた」ことが最も高くなっている。

「社会に対する見方が広がった」ことを挙げている人の割合は、「20代」(50.0%)、「30代」(35.2%)、「40代」(49.6%)と高くなっているが、この選択肢は50代以上では、上位にはみられなくなる。代わって、「地域社会とのつながりをつくることができた」と答えた人の割合が、「50代」で52.4%、「60代以上」で57.1%と高くなっている。

「活動自体が楽しい」と答えた人は、20～40代よりも、「50代」(54.3%)、「60代」(62.8%)で高くなっており、中高年では活動自体を楽しめることを評価している人が多いことがわかる。

「60代以上」では、「生きがいを得ることができた」と答えた人が53.3%となっており、他の世代よりも高い割合となっている。

なお、上位5項目以外では、「自分が社会や他の人に役立っていることを実感できた」と答えた人の割合が、「50代」で42.0%、「60代以上」で51.3%と他の世代よりも高くなっている。同様に、「心身ともに健康であり続けることができていく」ことを評価している人の割合も、「50代」で31.4%、「60代以上」で51.6%と高くなっている。

<活動年数別>

選択肢のほぼ全てにおいて、活動年数が多くなるほど、活動を通じて得たことや活動をしていてよかったことであると答えた人の割合が高くなる傾向にある。このことから、活動を継続していくためには、活動を通して得たことやよかったことが多岐にわたってあることが重要であることがわかる。

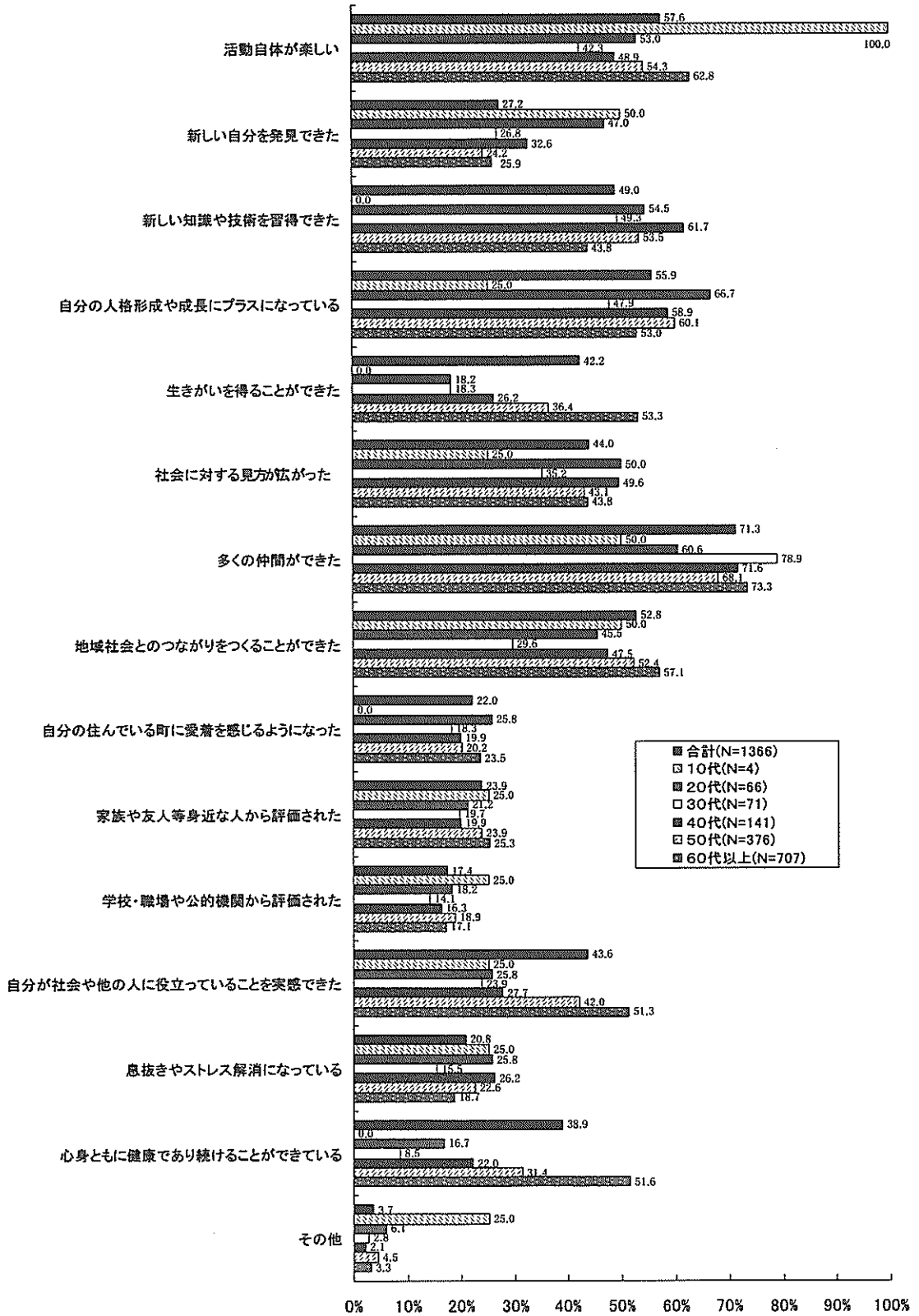
図表IV-68 <年齢別>【活動を通じて得たことや活動をしていてよかったことがあると答えた人】

活動を通じて得たことや活動をしていてよかったことの上位5項目(問16付問1、複数回答)¹⁰

	1位	2位	3位	4位	5位
20代 (n=66)	自分の人格形成や成長にプラスになっている(66.7%)	多くの仲間ができた(60.6%)	新しい知識や技術を習得できた(54.5%)	活動自体が楽しい(53.0%)	社会に対する見方が広がった(50.0%)
30代 (n=71)	多くの仲間ができた(78.9%)	新しい知識や技術を習得できた(49.3%)	自分の人格形成や成長にプラスになっている(47.9%)	活動自体が楽しい(42.3%)	社会に対する見方が広がった(35.2%)
40代 (n=141)	多くの仲間ができた(71.6%)	新しい知識や技術を習得できた(61.7%)	自分の人格形成や成長にプラスになっている(58.9%)	社会に対する見方が広がった(49.6%)	活動自体が楽しい(48.9%)
50代 (n=376)	多くの仲間ができた(68.1%)	自分の人格形成や成長にプラスになっている(60.1%)	活動自体が楽しい(54.3%)	新しい知識や技術を習得できた(53.5%)	地域社会とのつながりをつくることができた(52.4%)
60代以上 (n=707)	多くの仲間ができた(73.3%)	活動自体が楽しい(62.8%)	地域社会とのつながりをつくることができた(57.1%)	生きがいを得ることができた(53.3%)	自分の人格形成や成長にプラスになっている(53.0%)

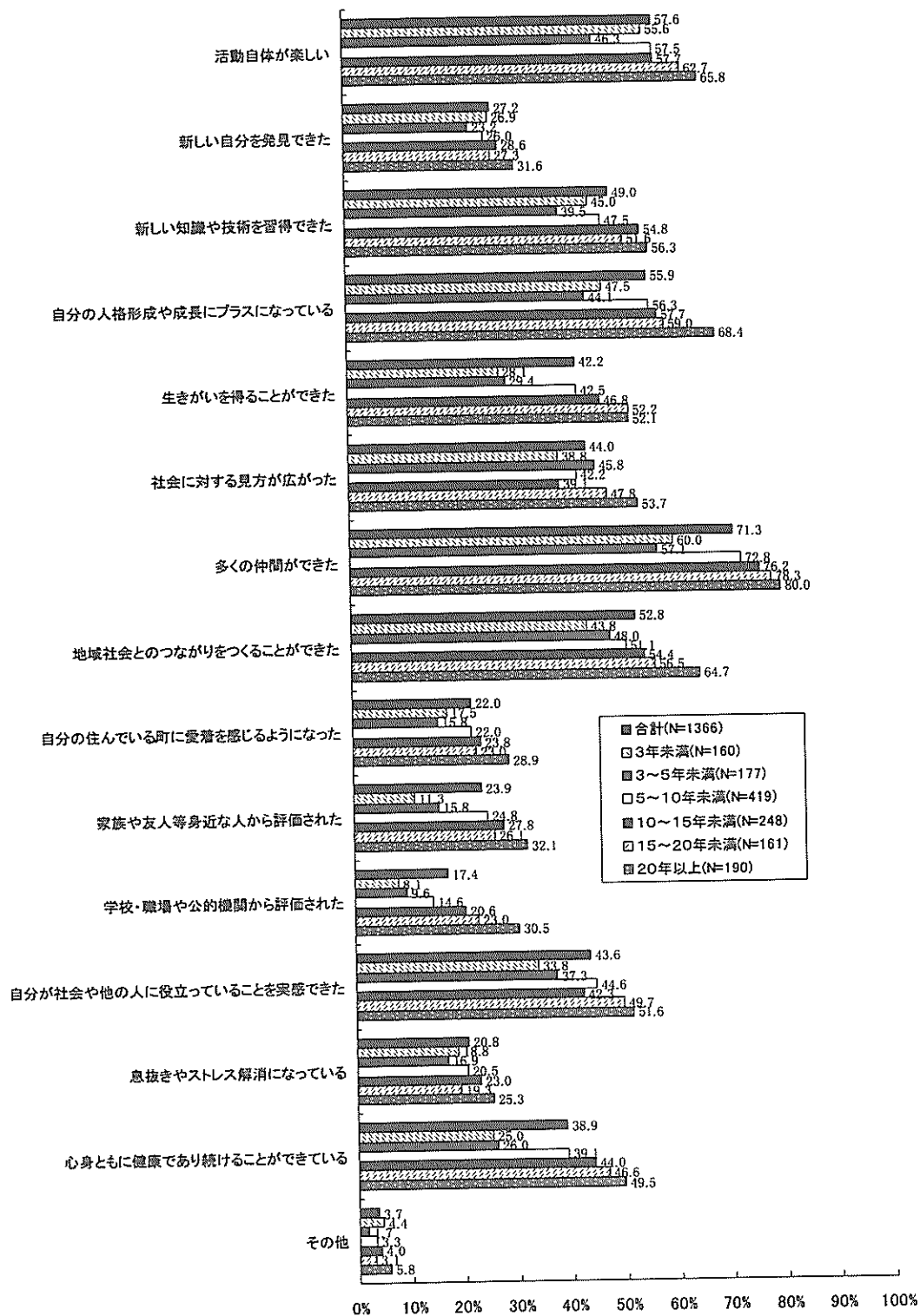
図表IV-69 【活動を通じて得たことや活動をしていてよかったことがあると答えた人】

<年齢別>活動を通じて得たことや活動をしていてよかったこと(問16付問1、複数回答)



¹⁰ 10代はサンプル数が4と少ないため、省略している。

図表Ⅳ-70 【活動を通じて得たことや活動をしていてよかったことがあると答えた人】<活動年数別>
活動を通じて得たことや活動をしていてよかったこと(問16付問1、複数回答)



<現在の活動に参加した理由別>

現在の活動に参加した理由別に、活動を通じて得たことや活動してよかったことをみた。これによって、活動に参加した動機がどのように達成されているかをみるという意図がある。

参加した理由として最も高くなっている「社会やお世話になったことに対する恩返しをしたかった」と答えた人では、「自分が社会や他の人に役立っていることを実感することができた」をよかったこととして挙げている人が54.2%と高くなっている。

同様に、「困っている人を助けたい」という動機で現在の活動に参加した人でも、「自分が社会や他の人に役立っていることを実感することができた」をよかったこととして挙げている人が60.3%と高くなっている。

「自分の人格形成や成長につながることをしたかった」ことが動機であった人では、活動を通じて「自分の人格形成や成長にプラスになっている」と答えた人の割合が81.9%と高くなっている。さらに、「新しい知識や技術を習得できた」が60.5%、「自分が社会や他の人に役立っていることを実感することができた」が51.4%となっており、この動機が達成されている様子がうかがえる。

「地域や社会を知りたかった」ことが動機であった人のなかには、活動を通じて「多くの仲間ができた」と答えた人が77.1%、「地域社会とのつながりをつくることができた」人が74.6%、「社会に対する見方が広がった」人が59.9%となっている。

「生きがいになるものがほしかった」人では、活動を通じて「生きがいを得ることができた」人が74.6%であるほか、「多くの仲間ができた」人が80.7%、「地域社会とのつながりをつくることができた」人が58.4%、「自分が社会や他の人に役立っていることを実感できた」人が55.5%、「心身ともに健康であり続けることができていく」人が57.6%となっている。

このように、現在活動を行っている人の多くは、現在の活動に参加した動機を多方面で達成できしており、それに対して自分自身がよかったこととして評価していることがわかる。

図表IV-71 【活動を通じて得たことや活動をしたい理由】

＜現在の活動に参加した理由別＞活動を通じて得たことや活動をしたい理由(問16付問1、複数回答)

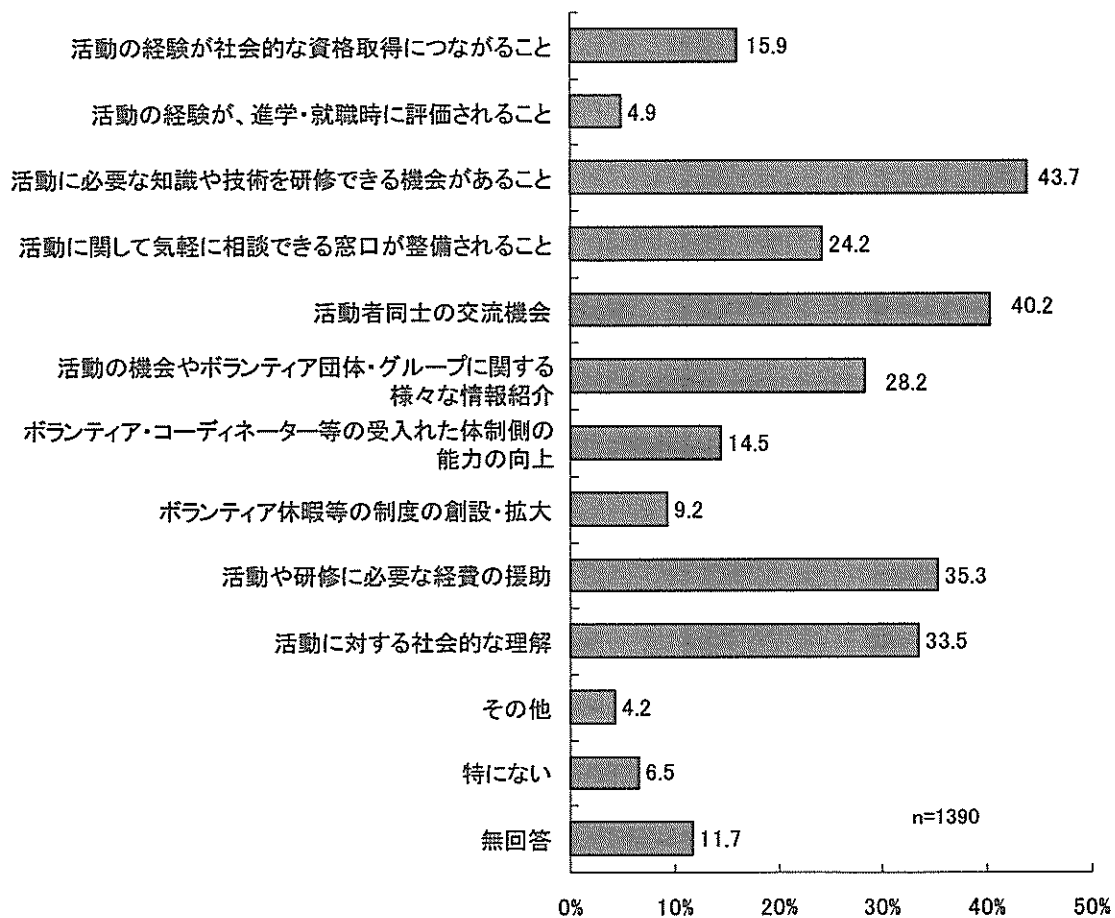
現在の活動に参加した理由	調査数	活動自体が楽しい	新しい自分を見つけた	新しい知識や技術を習得できた	自分のプラスになる成長	生きがいを得ることができた	社会に対する見方が広がった	多くの仲間ができた	地域社会のつながりができた	な愛着を感じるようになった	家族や友人等身近な人から評価された	学校・職場や公的機関から評価された	役立ちたい社会や他の人への感謝	息抜きやストレス解消	心身の健康であり	その他
全体	1366	787	372	669	764	576	601	974	721	300	326	238	595	284	532	50
何か楽しいことをしたかった	100.0	57.6	27.2	49.0	55.9	42.2	44.0	71.3	52.8	22.0	23.9	17.4	43.6	20.8	38.9	3.7
今までの生活とは違うことをしたかった	100.0	85.9	38.7	63.3	63.3	57.8	47.2	83.4	61.3	34.7	34.7	24.6	45.7	39.7	52.3	3.5
暇だったから	100.0	61.5	39.2	54.6	60.8	48.5	53.1	71.5	56.9	25.4	33.8	17.7	50.0	30.0	43.1	4.6
地域や社会を知りたかった	100.0	65.0	26.0	50.0	42.0	51.0	46.0	79.0	57.0	27.0	24.0	16.0	42.0	35.0	42.0	6.0
困っている人を助けたいと思った	474	301	156	273	303	243	251	360	278	127	147	96	286	99	219	17
仲間づくりがしたかった	100.0	63.5	32.9	57.6	63.9	51.3	53.0	75.9	58.6	26.8	31.0	20.3	60.3	20.9	46.2	3.6
友達や仲間と関わった	379	273	199	230	237	213	185	336	258	120	127	94	185	118	200	15
社会やお世話になったことに対する恩返しをしたかった	100.0	72.0	36.7	60.7	62.5	56.2	48.8	88.7	68.1	31.7	33.5	24.8	48.8	31.1	52.8	4.0
現在行っている活動に関係することと、個人的な強い経験があった	272	155	77	139	144	102	110	220	151	73	64	47	112	70	100	8
自分の知識や技術を活かす機会がほしかった	100.0	57.0	28.3	51.1	52.9	37.5	40.4	80.9	55.5	26.8	23.5	17.3	41.2	25.7	36.8	2.9
生きがいになるものがほしかった	557	341	163	265	331	276	263	393	331	131	155	120	302	106	264	24
自分の人格形成や成長につながることをしたかった	100.0	61.2	29.3	47.6	59.4	49.6	47.2	70.6	59.4	23.5	27.8	21.5	54.2	19.0	47.4	4.3
生きがいになるものがほしかった	237	177	73	128	160	125	125	184	134	61	70	67	128	66	114	7
自分の人格形成や成長につながることをしたかった	100.0	74.7	30.8	54.0	67.5	52.7	52.7	77.6	56.5	25.7	29.5	28.3	54.0	27.8	48.1	3.0
生きがいになるものがほしかった	326	206	105	185	197	161	142	242	175	72	100	75	176	86	143	13
生きがいになるものがほしかった	100.0	63.2	32.2	56.7	60.4	49.4	43.6	74.2	53.7	22.1	30.7	23.0	54.0	26.4	43.9	4.0
自分の人格形成や成長につながることをしたかった	389	270	135	223	246	290	184	314	227	106	124	86	216	110	224	14
生きがいになるものがほしかった	100.0	69.4	34.7	57.3	63.2	74.6	47.3	80.7	58.4	27.2	31.9	22.1	55.5	28.3	57.6	3.6
生きがいになるものがほしかった	453	288	182	274	371	221	247	342	274	114	145	104	233	120	213	14
生きがいになるものがほしかった	100.0	63.6	40.2	60.5	81.9	48.8	54.5	75.5	60.5	25.2	32.0	23.0	51.4	26.5	47.0	3.1
生きがいになるものがほしかった	22	11	2	10	10	5	7	12	6	2	1	1	7	3	3	-
生きがいになるものがほしかった	100.0	50.0	9.1	45.5	45.5	22.7	31.8	54.5	27.3	9.1	4.5	4.5	31.8	13.6	13.6	-
生きがいになるものがほしかった	116	64	32	57	68	47	57	90	69	33	40	27	53	23	44	14
その他	100.0	55.2	27.6	49.1	58.6	40.5	49.1	77.6	59.5	28.4	34.5	23.3	45.7	19.8	37.9	12.1

6. 社会的支援への要望

より充実したボランティア活動を行って行くために望む社会的支援や環境整備は、「活動に必要な知識や技術を研修できる機会があること」が43.7%、「活動者同士の交流機会」が40.2%、「活動や研修に必要な経費の援助」が35.3%、「活動に対する社会的な理解」が33.5%と多くなっている。

「活動に必要な知識や技術を研修できる機会があること」は、現在活動を行ううえで困っていることで「活動に求められる技術や知識が不足している」(35.2%)が多く挙げられていることが背景にあり、活動者が社会的支援のもとでなんらかの対応をしていきたいと考えている項目であることがわかる。

図表IV-72 より充実した活動を行うために望む社会的支援や環境整備(問17、複数回答)



<年齢別>

年齢別にみると、「活動の経験が社会的な資格取得につながることを望む人は、「20代」で31.3%、「30代」で29.6%と他の世代よりも高くなっている。同様に、「活動の経験が、進学・就職時に評価されることを望む人も「20代」で16.4%と高くなっている。このことから、若い世代では、ボランティア活動の経験が、今後の自分の進路にとってなんらかの役に立つことを望んでいることがわかる。

このほかに、「20代」で要望が高くなっていることとしては、「活動に関して気軽に相談できる窓口が整備されること」(40.3%)、「活動者同士の交流会」(46.3%)、「ボランティア休暇等の創設・拡大」(29.9%)、「活動に対する社会的な理解」(43.3%)などとなっている。「活動者同士の交流会」については、「60代以上」でも要望が高く48.3%の人が望んでいる。また、「活動に対する社会的な理解」は「30代」の43.7%が要望している。

「活動に必要な知識や技術を研修できる機会があること」への要望は、「40代」で52.8%と高くなっている。

<職業別>

職業別にみると、「活動の経験が社会的な資格取得につながることを望む人は、「企業・官公庁・自治体の管理職・専門職」で22.4%、「企業・官公庁・自治体の事務職・一般職」で23.4%と他の職業の人よりも高くなっている。同様に、「ボランティア休暇等の創設・拡大」も、「企業・官公庁・自治体の管理職・専門職」で31.6%、「企業・官公庁・自治体の事務職・一般職」で21.6%と他の職業の人よりも高くなっており、特に管理職・専門職の人に要望が高いことがわかる。

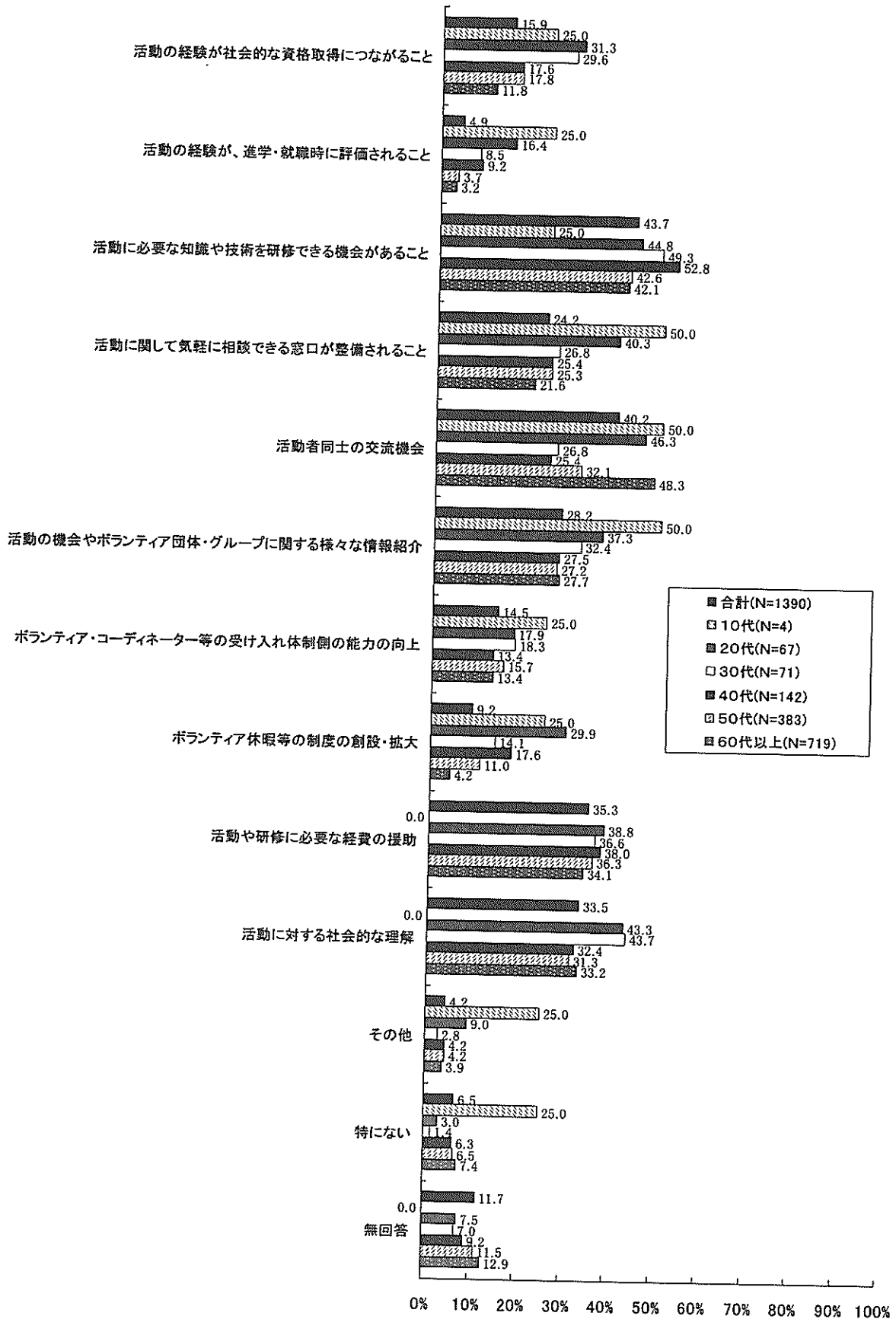
「活動や研修に必要な経費の援助」は、「パート・アルバイト」の人で47.2%と高くなっている。また、「活動者同士の交流会」は、「定年退職後の方」に49.7%と高くなっているという特徴がある。

<活動年数別>

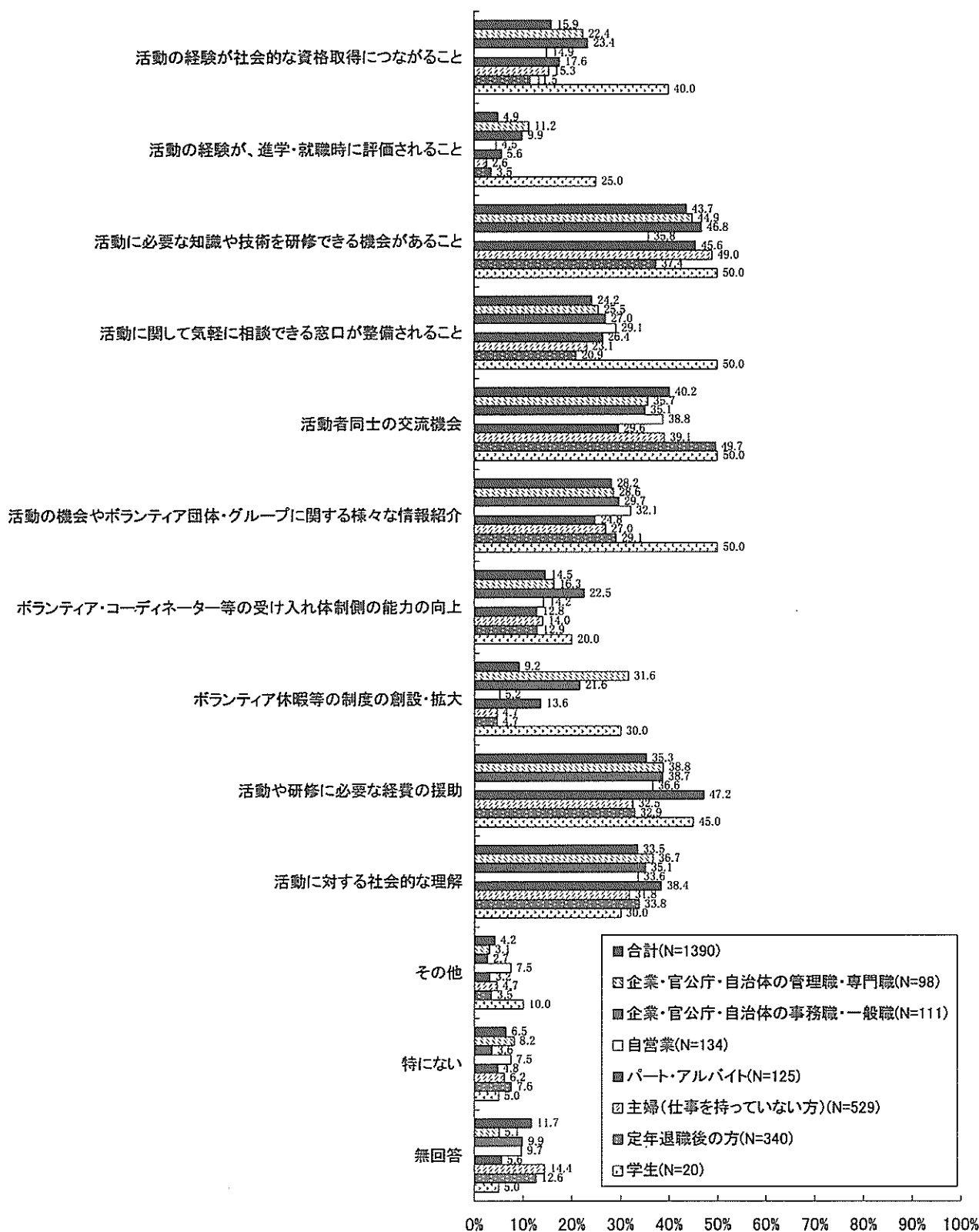
「活動の経験が社会的な資格取得につながることを望む人は、月間の活動時間が「50時間以上」の人で28.5%と多くなっており、活動に費やす時間をなにかの形で結果にしたいという希望の表れであると考えられる。

「活動に必要な知識や技術を研修できる機会があること」や「活動や研修に必要な経費の援助」への要望は、活動時間が多くなるにしたがって高くなっている。多くの時間をかけて活動している人のなかに、より質の高い活動を行いたいという意識があるとともに、活動時間とともに増加する経費へのなんらかの援助への希望があることがうかがえる。

図表IV-73 <年齢別>より充実した活動を行うために望む社会的支援や環境整備(問17、複数回答)

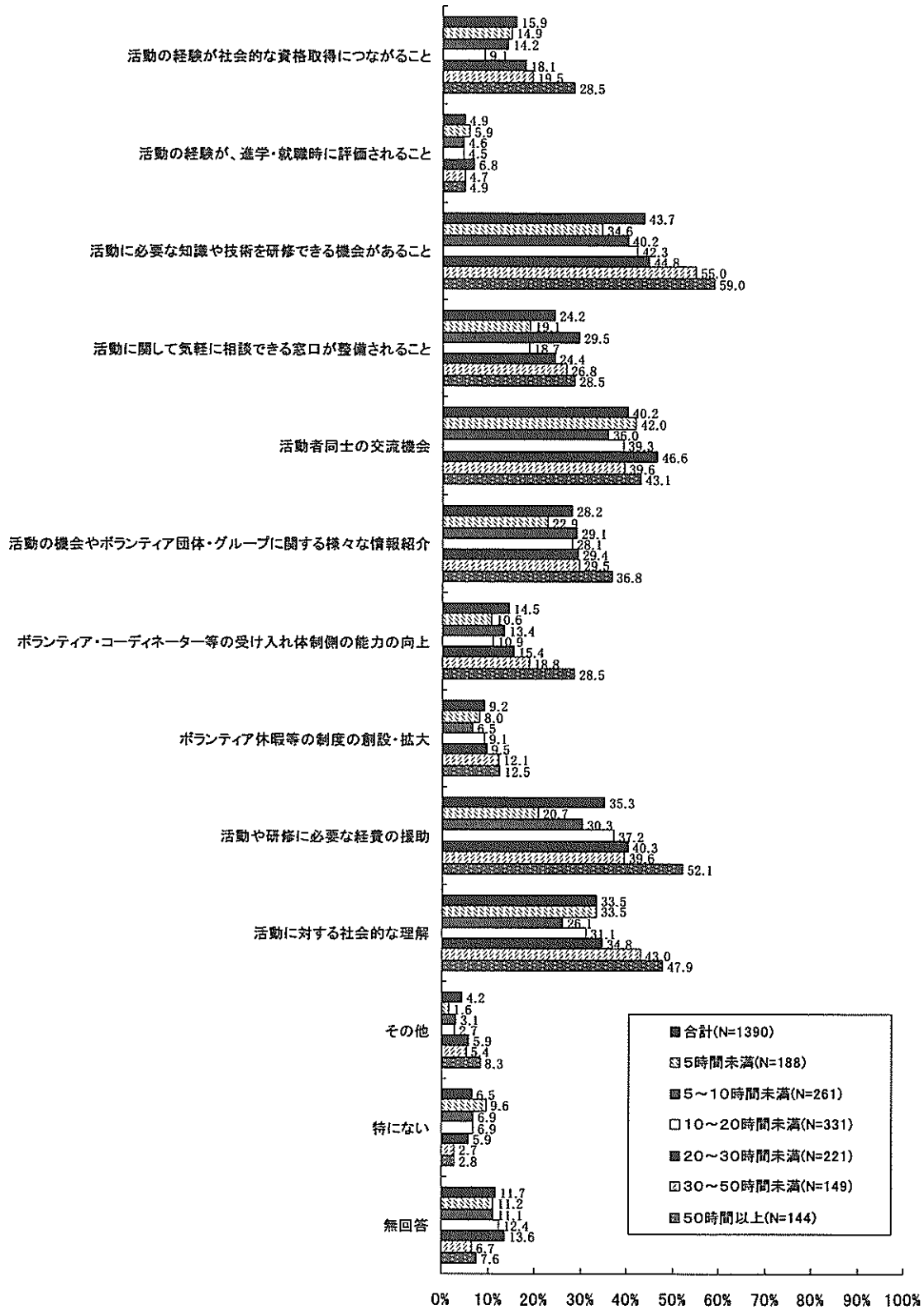


図表IV-74 <職業別>より充実した活動を行うために望む社会的支援や環境整備(問17、複数回答)



図表IV-75 <活動年数別>

より充実した活動を行うために望む社会的支援や環境整備(問17、複数回答)



V. 資料編

V. 資料編

1. 団体・グループ向けアンケート調査票

【調査へのご協力をお願い】

このたび、全国社会福祉協議会では、厚生労働省の委託を受けて、全国のボランティア活動の実態調査を行うこととなりました。お手数をおかけしますが、よろしくご協力くださいますようお願いいたします。

- ◆ 貴団体・グループが登録している社会福祉協議会が機械的にサンプル抽出した結果、回答者の一人として貴団体・グループが選ばれておりますので、ご了承ください。
- ◆ ご回答は、各設問にそってお願いします。なお、「平成13年末現在」とある場合には、平成13年12月31日現在を意味しています。
- ◆ 回答が終わりましたら、同封の返信用封筒にて、4月15日までに投函ください。切手は不要です。
- ◆ この調査結果は統計的に処理・分析いたしますので、貴団体・グループの情報が公表されることは一切ありません。
- ◆ ご不明な点については、お手数ですが、下記までお問い合わせください。

<調査の設問や回答方法等に関するお問い合わせ>

調査委託機関 (株)日本総合研究所 研究事業本部 矢ヶ崎、井上

電話 03-3288-4638 電子メール:yagasaki.noriko@jri.co.jp

<調査の趣旨や実施体制等に関するお問い合わせ>

全国社会福祉協議会 全国ボランティア活動振興センター 諏訪(電話 03-3581-4656)

貴団体・グループが所在する市区町村名をお書きください。

都・道	市・区
府・県	町・村

問1 貴団体・グループは、ボランティア活動を目的とした団体ですか。当てはまる番号に1つだけ○をつけてください。

1. もともとボランティア活動を主目的とした団体・グループである (→問2へ)
2. もともとは別の地域活動をしていたが、ボランティア活動をするための団体・グループに分かれた
3. ボランティア活動を主目的としてはいないが、活動の一環としてボランティア活動を行っている

問1付問1 【活動の一環としてボランティア活動を行っている団体・グループのみ】 貴団体・グループの親団体はどれですか。当てはまる番号に1つだけ○をつけてください。

- | | | |
|---------------------------|--------------|-------------------|
| 1. 自治会・町内会 | 2. 青年会・青年団 | 3. 婦人会・地域婦人団体 |
| 4. 老人クラブ | 5. 生協 | 6. 農協・漁協 |
| 7. 商工団体・ロータリークラブ・ライオンズクラブ | | 8. 子ども会・PTA・父母の会 |
| 9. 趣味の会・グループ | 10. 当事者組織(注) | 11. 企業・労組・OB/OGの会 |
| 12. 政治団体 | 13. 宗教団体 | 14. その他の団体 |

注:当事者組織とは、高齢者・障害者団体、患者団体、介護者の会などをさします。

問1付問2【活動の一環としてボランティア活動を行っている団体・グループのみ】 ボランティア活動を始めた理由はなんですか。当てはまる番号に1つだけ○をつけてください。

1. 親団体として地域に貢献する活動をするため
2. 親団体のメンバーの間にボランティア活動をしたいという要望があったため
3. 親団体のメンバーのなかに支援を必要とする人がいたため、お互いの助け合いとしてボランティア活動を始めた
4. 親団体の活動だけでは飽き足らなくなったため
5. 学んだことの成果を活かすため
6. なんとなくいつのまにかボランティア活動を始めていた
7. その他

問1付問3【活動の一環としてボランティア活動を行っている団体・グループのみ】 貴団体・グループではボランティア活動をどのような仕方で行っていますか。当てはまる番号にすべて○をつけてください。そのなかで主たるものに1つ◎をつけてください。

1. 一斉に行事のような形でボランティア活動を行っている
2. 有志がボランティア活動のためのサブグループをつくって活動している
3. メンバー間でローテーションを組んで活動している
4. その他

以下の設問について、活動の一環としてボランティア活動を行っている団体・グループの方は、ボランティア活動に関する部分についてお答えください。

問2 貴団体・グループの活動年数は、平成13年末日現在で何年になりますか。

年

問3 貴団体・グループのメンバーは何人ですか。

人

問4 貴団体・グループの代表者の年齢・性別・職業についてお答えください。

問4付問1 年齢

1. 10代	2. 20代	3. 30代	4. 40代	5. 50代	6. 60代以上
--------	--------	--------	--------	--------	----------

問4付問2 性別

1. 男性	2. 女性
-------	-------

問4付問3 職業

- | | | |
|----------------------------|----------|---------------------------|
| 1. 学生 | 2. 自営業 | 3. 企業や団体等にほぼ毎日フルタイムで勤めている |
| 4. 毎日のフルタイムではなく、週に何度か働いている | 5. 定年退職後 | |
| 6. 主婦(これまでにフルタイムで働いた経験はない) | | |
| 7. 主婦(これまでにフルタイムで働いた経験がある) | 8. その他 | |

問4付問4 代表になってから通算で何年たっていますか(平成13年末日現在)。

	年
--	---

問5 貴団体のメンバー構成についておたずねします。

問5付問1 主なメンバー層はどのような方ですか。当てはまる番号を3つまで記入ください。最も多いメンバー層の番号を1つだけ記入してください。

(1)主なメンバー層

(2)最も多いメンバー層

- | | | |
|-------------------------|----------------|------------|
| 1. 学生 | 2. 20～30代の社会人 | 3. 子育て中の主婦 |
| 4. 子どもの手が離れた主婦 | 5. 40代の働いている男性 | |
| 6. 50代～定年前後の働いている男性 | | |
| 7. 40～50代のフルタイムで働いている女性 | | |
| 8. 60代以上の男性 | 9. 60代以上の女性 | 10. その他 |

問5付問2 メンバーは、貴団体・グループが活動している地域に暮らしている人が多いですか。当てはまる番号に1つだけ○をつけてください。

- | |
|---|
| 1. 活動している地域に暮らしている人が多い (→ 問5付問3へ) |
| 2. 活動している地域以外に暮らしている人が多い (→ 問5付問4へ) |
| 3. 活動している地域内と地域外に暮らしている人が同じくらいの割合である (→ 問5付問4へ) |

問5付問3 【活動している地域に暮らしているメンバーが多い団体・グループのみ】メンバーの方はその地域に長く暮らしている人が多いですか。当てはまる番号に1つだけ○をつけてください。

- | |
|------------------------------------|
| 1. 活動している地域に代々暮らしている人が多い |
| 2. 他地域から転入してきて、活動している地域に暮らしている人が多い |
| 3. 上記の1と2のタイプの人が同じくらいの割合である |

問5付問4 メンバーは1年前と比べて増えていますか。当てはまる番号に1つだけ○をつけてください。

- | | | |
|----------------|------------------|----------------|
| 1. 増えている(→問6へ) | 2. 減っている(問5付問5へ) | 3. 変わらない(→問6へ) |
|----------------|------------------|----------------|

問5付問5 【メンバーが1年前と比べて減っている団体・グループのみ】メンバーはなぜボランティア活動を離れたのですか。当てはまる番号にすべて○をつけてください。

- | |
|--------------------------------|
| 1. 家計を助けるために仕事をするようになったため |
| 2. ボランティア活動と子育てや介護が両立できなくなったため |
| 3. ボランティア活動と学校や仕事が両立できなくなったため |
| 4. 活動している本人の健康上の理由や体力的な限界のため |
| 5. 転勤・転居のため |
| 6. その他(具体的に: _____) |
| 7. 特に理由はない |

問6 貴団体・グループを立ち上げたメンバーには共通点がありますか。当てはまる番号に1つだけ○をつけてください。

- | | | |
|---|---------------------|------------|
| 1. 子育てを助け合った仲間 | 2. 介護や看病を経験した仲間 | 3. 趣味が同じ仲間 |
| 4. PTA 活動で一緒だった仲間 | 5. 自主的な学習活動の仲間 | |
| 6. 親団体から分かれた仲間 | 7. ある研修や講座で一緒に学んだ仲間 | |
| 8. 起業したいと考えていた仲間 | 9. 同じ学校の仲間 | 10. 職場の同僚 |
| 11. 障害者や難病患者など当事者の助け合いや運動をする仲間 | | |
| 12. ボランティア活動を推進する、あるいは受け入れる機関の呼びかけで集まった人達 | | |
| 13. 同じ活動先で出会った仲間 | 14. 近所に住む者同士 | 15. その他 |

問7 貴団体・グループの活動の内容はどのようなものですか。主な活動内容に1つだけ◎を、それ以外の活動内容にいくつでも○をつけてください。

- | | |
|---|--------------|
| 1. 人に対して直接サービスを提供している (→問7付問1へ) | |
| 2. 人との交流を行っている (→問7付問1へ) | |
| 3. 社会的に不利な立場におかれた人々への支援活動 (→問7付問1へ) | |
| 4. 特定の人を対象とするよりは、テーマにそった活動を行っている
→ そのテーマについて、当てはまる番号に1つだけ○をつけてください。
(→選択肢4だけに○をつけた場合は問8へ) | |
| a. 伝統文化の継承や芸術の普及 | b. 環境保全・自然保護 |
| c. 国際的な支援活動 | d. まちづくり |
| e. 防災・災害・安全 | f. その他 |

問7付問1 【「人に対して直接サービスを提供している」「人との交流を行っている」「社会的に不利な立場におかれた人々への支援活動」と答えた団体・グループのみ】活動の対象はだれですか。主な活動の対象に1つだけ◎を、その他の活動の対象に○をいくつでもつけてください。

- | | | |
|---------------------|-----------------|----------|
| 1. 高齢者や介護者 | 2. 障害児・障害者やその家族 | 3. 子ども |
| 4. 子育て中の人 | 5. 在日外国人・留学生 | 6. ホームレス |
| 7. 難病患者やその家族 | 8. 海外の人々 | 9. その他 |
| 10. 活動の対象は特に限定していない | | |

問7付問2 活動の対象となる人も、貴団体・グループのメンバーに入っていますか。当てはまる番号に1つだけ○をつけてください。

- | | |
|------------|-------------|
| 1. メンバーである | 2. メンバーではない |
|------------|-------------|

問7付問3 貴団体・グループの具体的な活動について当てはまる番号にいくつでも○をつけてください。そのうちの主なものに1つだけ◎をつけてください。

- | | |
|---------------------------|-------------------|
| 1. 配食・会食サービス | 2. 外出のお手伝い、移送サービス |
| 3. 話し相手 | 4. 交流・遊び |
| 5. 手話・点訳・朗読等のコミュニケーションの支援 | |
| 6. 趣味・レクリエーション活動への支援・指導 | 7. スポーツ活動 |
| 8. 人の学習活動への支援・指導 | 9. 簡単な日曜大工や庭仕事など |
| 10. 掃除や作業の手伝い | 11. サロン活動 |
| 12. その他 | |

問8 貴団体・グループの活動の形態は主にどのようなものですか。当てはまる番号に1つだけ○をつけてください。

- | |
|------------------------------------|
| 1. ある拠点(施設、団体、公共機関など)に集まって活動を行っている |
| 2. 対象者宅を訪問して活動を行っている |
| 3. 拠点での活動と訪問による活動の両方を行っている |
| 4. メンバーが各自ばらばらに自宅などで活動している |
| 5. インターネット上での活動を中心に行っている |
| 6. その他 |

問9 貴団体・グループの活動は、ある決まった機関や団体のプログラムや要請にそって行われているものですか。当てはまる番号に1つだけ○をつけてください。

1. ある機関や団体のプログラムや要請にそって活動を行っている

→ その機関や団体とはどこですか。当てはまる番号にすべて○をつけてください。

- | | | |
|-------------------------|-------------------|----------------|
| 1. 病院 | 2. 福祉施設 (→問9付問1へ) | 3. 社会福祉協議会 |
| 4. 福祉団体(作業所、親の会、介護NPO等) | 5. 学校 | 6. 公民館 |
| 7. 図書館・博物館 | 8. スポーツ施設・団体 | 9. その他のNPO・NGO |
| 10. 行政 | 11. その他 | |

(→福祉施設に○をつけなかった場合は問10へ)

2. 1のようなことはなく、自分達で活動を企画している (→問10へ)

問9付問1 【福祉施設のプログラムや要請にそって活動をしていると答えた団体・グループのみ】 その福祉施設はどのような施設ですか。当てはまる番号にすべて○をつけてください。

- | | |
|------------------|------------------|
| 1. 障害者を対象とした福祉施設 | 2. 高齢者を対象とした福祉施設 |
| 3. 児童を対象とした福祉施設 | 4. その他 |

問10 貴団体・グループとしての活動頻度について当てはまる番号に1つだけ○をつけてください。なお、サービス提供や活動のために集まるときや、団体・グループの運営のための定例会や打ち合わせなども含めて、活動頻度を考えてください。

- | |
|------------------------------|
| 1. 団体・グループとしての活動を定期的に行っている |
| 2. 要請がある都度活動を行うなど、定期的な活動ではない |

注)「定期的な活動が基本であるが、不定期な活動が入ることもある」場合には、「1」に○をつけてください。

問10付問1 定期的な活動を行っている団体・グループは、その頻度について当てはまる番号に1つだけ○をつけてください。定期的な活動を行っていない団体・グループは、平成13年1～12月の1年間を平均するとおおよそどのような頻度になったかについて、当てはまる番号に1つだけ○をつけてください。

- | | | |
|-----------|----------|----------|
| 1. 毎日 | 2. 週4～6日 | 3. 週2～3日 |
| 4. 週1日 | 5. 月2～3日 | 6. 月1日 |
| 7. 年6～11日 | 8. 年1～5日 | 9. その他 |

問10付問2 活動はどのような時間帯に行われていますか。当てはまる時間帯にすべて○を、主な時間帯には1つだけ◎をつけてください。

1. 平日に活動している
→ どの時間帯ですか。当てはまる番号にすべて○を、主なものに◎をつけてください。
1. 午前中 2. 日中 3. 夕方 4. 夜間
2. 土日祝日に活動している
→ どの時間帯ですか。当てはまる番号にすべて○を、主なものに◎をつけてください。
1. 午前中 2. 日中 3. 夕方 4. 夜間
3. 平日・土日祝日を特に関係なく日頃活動している
→ どの時間帯ですか。当てはまる番号にすべて○を、主なものに◎をつけてください。
1. 午前中 2. 日中 3. 夕方 4. 夜間
4. まとまった休暇や年に特定の期間に活動している
5. メンバーによって活動の時間帯は自由である

問11 貴団体・グループでは、メンバーの活動のしかたについて決まっていることがありますか。当てはまる番号に1つだけ○をつけてください。

1. なるべくメンバー全員が集まって活動するようにしている
2. メンバー間でローテーションを組んで活動している
3. 団体・グループとしてのルールはなく、いつ活動するかは、メンバーに任せられている
4. その他(具体的に: _____)

問12 貴団体・グループの昨年の予算規模について、当てはまる番号に1つだけ○をつけてください。

- | | | |
|-------------------|----------------|--------------------|
| 1. 5万円未満 | 2. 5～10万円未満 | 3. 10～20万円未満 |
| 4. 20～30万円未満 | 5. 30～40万円未満 | 6. 40～50万円未満 |
| 7. 50～100万円未満 | 8. 100～300万円未満 | 9. 300～500万円未満 |
| 10. 500～1,500万円未満 | 11. 1,500万円以上 | 12. 特に予算規模は把握していない |

問12付問1 貴団体・グループの主な収入源はなんですか。当てはまる番号に1つだけ○をつけてください。

- | | |
|---|----------------|
| 1. 会費 | 2. 事業収入 |
| 3. バザーやリサイクル活動等による収入 | 4. 個人や企業からの寄付金 |
| 5. 毎年決まって交付される助成金・補助金 | |
| → それはどこからの助成金ですか。当てはまる番号にいくつでも○をつけてください。 | |
| a. 社会福祉協議会 b. 共同募金 c. 親団体 d. 国際交流協会 e. 行政 f. その他 | |
| 6. 毎回は助成されない助成金(社協、共募、助成財団等) | |
| 7. 公的補助・委託金 | 8. その他 |

問12付問2 この予算規模は、貴団体・グループの活動や運営にとって十分な額ですか。当てはまる番号に1つだけ○をつけてください。

1. 現在の活動にとって十分な額であり、不足感はない
2. 現在の活動を行うには資金がやや不足している
3. 現在の活動を行うには資金がかなり不足している

問13 ここ3年間のうちで、有償の活動を採り入れましたか。当てはまる番号に1つだけ○をつけてください。なお、ここでいう有償活動とは、団体・グループとして、1回・1時間あたり等の定額を定め、サービスを受ける相手から支払いを受けて行う活動をさします。

1. 以前から有償の活動を行っており、現在でも行っている (→問14へ)
2. 以前は有償の活動を行っていたが、現在では行っていない (→問13付問2へ)
3. 以前は有償の活動を行っていなかったが、ここ3年間のうちに採り入れた (→問13付問1へ)
4. 以前も有償の活動を行っていなかったし、現在でも行っていない (→問13付問2へ)

問13付問1 【ここ3年間に新しく有償の活動を採り入れた団体・グループのみ】 有償の活動を採り入れた理由はなんですか。当てはまる番号にすべて○をつけてください。

1. 活動の頻度が高まり、経費が多くなってきたため、活動の対価をもらうことにした
2. メンバーの意識が変化し、活動の対価をもらってもよい雰囲気になった
3. 謝礼を支払ってもサービスを利用したいという要望が増えたため
4. その他(具体的に:)

(→問14へ)

問13付問2 【現在有償の活動を行っていない団体・グループのみ】 今後有償の活動を採り入れることを考えていますか。当てはまる番号に1つだけ○をつけてください。

1. 今後有償の活動を行なうことを考えている
2. メンバーの間で話題になっているが、まだ具体化する段階ではない
3. 全く考えていない

問14 貴団体・グループでは、団体運営や活動にコンピュータやインターネット等の情報技術を活用していますか。当てはまる番号にすべて○をつけてください。

1. 団体の事務管理に活用している
2. 活動対象者の管理に活用している
3. 会報や活動記録の作成・保存に活用している
4. メンバー間のコミュニケーションにメール等を活用している
5. 団体・グループのホームページを作成してPRしている
6. その他(具体的に:)

問15 貴団体・グループが活動を開始する前後に苦勞したことはありますか。当てはまる番号に1つだけ○をつけてください。

- | | |
|------------------|---------------|
| 1. ある (→問15付問1へ) | 2. ない (→問16へ) |
|------------------|---------------|

問15付問1【苦勞したことがあると答えた団体・グループのみ】それはどのようなことですか。当てはまる番号にすべて○をつけてください。

- | | |
|---|--------------------------|
| 1. ボランティア活動をしたい思いがあったが、具体的になにをしたらよいかわからなかった | |
| 2. やりたい活動はあったが、どのように始められるかわからなかった | |
| 3. 活動のメンバーが集まらなかった | 4. 活動の拠点を探すことが難しかった |
| 5. 立ち上がり資金が不足していた | 6. 役割分担やリーダーがなかなか決まらなかった |
| 7. 自分達で対応できる範囲を超えた依頼を受けて苦勞した | |
| 8. 既存のグループと活動がバッティングした | 9. 活動を始めてみたがニーズがなかった |
| 10. その他(具体的に: |) |

問16 これまでに団体・グループとして、活動をやめよう、あるいは、一時休止しようとしたことはありますか。当てはまる番号に1つだけ○をつけてください。

- | | |
|------------------|---------------|
| 1. ある (→問16付問1へ) | 2. ない (→問17へ) |
|------------------|---------------|

問16付問1【活動をやめよう、あるいは、一時休止しようとしたことがある団体・グループのみ】それはいつぐらいのことでしたか。当てはまる番号にいくつでも○をつけてください。

- | | |
|------------------------|----------------|
| 1. 活動を開始して1～2年の立ち上がり時期 | 2. 活動が軌道にのってから |
| 3. 今現在そのような状況にある | |
| 4. その他(具体的に: |) |

問16付問2【活動をやめよう、あるいは、一時休止しようとしたことがある団体・グループのみ】それはどのような理由からですか。当てはまる番号にいくつでも○をつけてください。

- | | |
|---|---------------------|
| 1. メンバーの世代交代がうまくいかなかった | 2. 新しいメンバーが入ってこなかった |
| 3. 中心的なメンバーが活動できなくなった | 4. メンバー間の関係が悪化した |
| 5. メンバー間で目指す方向の違いがはっきりしてきたため、活動ができなくなった | |
| 6. 活動対象者や受け入れ先を見つけることができずに、活動が伸び悩んだ | |
| 7. 資金不足から活動ができなくなった | |
| 8. 活動拠点を失って活動ができなくなった | |
| 9. 活動を要請されていた機関や団体から必要とされなくなった | |
| 10. 活動についての悪い評判を立てられた | |
| 11. 対外的な事故やトラブルがおきた | |
| 12. その他(具体的に: |) |

問17 貴団体・グループのボランティア活動は社会的にどのような効果を生んでいると考えていますか。当てはまる番号にすべて○をつけてください。

- | |
|--|
| 1. 自分達の活動が対象としている問題について、社会の関心を集めることができた |
| 2. 今まで活動に参加しなかった人の参加を促すことができた |
| 3. 自分達の活動が刺激となって、行政や社協等による新しいサービスが開始された |
| 4. 自分達の活動が刺激となって、行政や社協等によるサービスの内容が改善された |
| 5. 自治会や生協等の他の団体・グループの活動に何らかの刺激となった |
| 6. 活動に関わる人達の間で絆が深まって地域への愛着が生まれた |
| 7. 親団体の活動が活性化したり、活動の幅が広がったりした |
| 8. 親団体の存在が社会的に評価された |
| 9. 親団体のメンバーの間で、組織を超えたコミュニケーションがとれるようになった |
| 10. その他(具体的に: _____) |

問18 貴団体・グループでは、現在活動を行ううえでなにか困っていることはありますか。当てはまる番号に1つだけ○をつけてください。

- | | |
|------------------|---------------|
| 1. ある (→問18付問1へ) | 2. ない (→問19へ) |
|------------------|---------------|

問18付問1 【困っていることがある団体・グループのみ】 現在どのようなことに困っていますか。当てはまる番号にすべて○をつけてください。

- | | |
|---|--------------------------|
| 1. 新しいメンバーが集まらない | 2. 中心となるメンバーが不足している |
| 3. メンバーが高齢化している | 4. メンバー間で活動に対する意見統一ができない |
| 5. メンバーの活動意欲が乏しい | 6. 活動拠点が無い |
| 7. 活動資金が不足している | 8. 研修機会が十分でない |
| 9. 活動の内容がマンネリ化しており今後どのように活動していったらよいか分からない | |
| 10. その他(具体的に: _____) | |

問19 貴団体・グループでは、ボランティア活動を支援する機関を利用していますか。当てはまる番号に1つだけ○をつけてください。

- | | |
|----------------------|--------------------|
| 1. 利用している (→問19付問1へ) | 2. 利用していない (→問20へ) |
|----------------------|--------------------|

問19付問1【ボランティア活動を支援する機関を利用している団体・グループのみ】ボランティア活動を支援する機関のどのようなサービスを利用していますか。当てはまる番号にすべて○をつけてください。そのうち、貴団体・グループの活動に役立っているものについていくつでも◎をつけてください。また、現在の利用の有無に関わらず、最も期待している支援について、1つだけ番号を記入してください。

- | | |
|----------------------|-------------------|
| 1. 活動に関する相談 | 2. 活動に関連する研修機会の提供 |
| 3. ボランティア募集への協力 | 4. 事務所や活動拠点の提供 |
| 5. 活動に必要な備品や機器の貸与・提供 | 6. メールボックス |
| 7. 活動費等の助成を受けている | 8. 助成金に関する情報提供 |
| 9. その他(具体的に: |) |

<最も期待している支援の番号を1つ記入>

問19付問2【ボランティア活動を支援する機関のサービスを利用している団体・グループのみ】貴団体・グループが利用しているボランティア活動の支援サービスは、どのような機関・団体が実施しているものですか。当てはまる番号にいくつでも○をつけてください。

- | | |
|------------------------|-----------------------|
| 1. 社会福祉協議会(ボランティアセンター) | 2. ボランティア協会 |
| 3. 生涯学習関係のセンター | 4. 市民活動やNPO活動を支援するNPO |
| 5. 国際交流協会 | 6. 行政機関のボランティア活動支援部署 |
| 7. その他(具体的に: |) |

問20 貴団体・グループでは、今後の活動をどのようにしていく予定ですか。当てはまる番号に1つだけ○をつけてください。

- | | |
|------------------|---------------------------|
| 1. 現在の活動を続けていく | 2. 現在の活動の頻度を上げていく |
| 3. 活動の範囲を広げていきたい | 4. 現在の活動をやめて、別の新しい活動に取り組む |
| 5. 活動を一時休止する | 6. 活動をやめる |
| 7. その他(具体的に: |) |

問21 特定非営利活動法人制度や介護保険制度の導入、NPOやボランティア団体等への行政からの事業委託の増加といった動向がありますが、貴団体・グループでは、法人格をとるなど、社会的な活動や事業を継続して行なう組織となることを考えていますか。当てはまる番号に1つだけ○をつけてください。なお、親団体についてではなく、貴団体・グループ自身についてお答えください。

- | | | |
|----------|-----------|----------------|
| 1. 考えている | 2. 考えていない | 3. 既に法人格をもっている |
|----------|-----------|----------------|

ご協力ありがとうございました。返信用封筒(切手不要)に入れて、4月15日までに投函ください。

2. 個人向けアンケート調査票

【調査へのご協力をお願い】

このたび、全国社会福祉協議会では、厚生労働省の委託を受けて、全国のボランティア活動の実態調査を行うこととなりました。お手数をおかけしますが、よろしくご協力くださいますようお願いいたします。

- ◆ あなたが登録している社会福祉協議会が機械的にサンプル抽出した結果、回答者の一人としてあなたが選ばれておりますので、ご了承ください。
- ◆ ご回答は、各設問にそってお願いします。なお、「平成13年末現在」とある場合には、平成13年12月31日現在を意味しています。
- ◆ 回答が終わりましたら、同封の返信用封筒にて、4月15日までに投函ください。切手は不要です。
- ◆ この調査結果は統計的に処理・分析いたしますので、あなたの個人情報が公表されることは一切ありません。
- ◆ ご不明な点については、お手数ですが、下記までお問い合わせください。

<調査の設問や回答方法等に関するお問い合わせ>

調査委託機関 ㈱日本総合研究所 研究事業本部 矢ヶ崎、井上

電話 03-3288-4638 電子メール:yagasaki.noriko@jri.co.jp

<調査の趣旨や実施体制等に関するお問い合わせ>

全国社会福祉協議会 全国ボランティア活動振興センター 諏訪(電話 03-3581-4656)

問1 あなたが初めてボランティア活動をしてから、どれくらいになりますか。平成13年末日現在の通算年数を記入ください。

年

問2 ボランティア活動を始めたいと思ったときに、すぐに始めることができましたか。当てはまる番号に1つだけ○をつけてください。

1. 問題なくすぐに始めることができた (→ 問3へ)
2. 始めたいと思っていたが、なかなか始められなかった (→問2付問1へ)

問2付問1【なかなか始められなかった方】その理由はなんですか。当てはまる番号にすべて○をつけてください。

1. どうすれば活動を始められるのかわからなかった
2. 具体的な興味はあったが、活動に関する情報を入手する方法がわからなかった
3. 自分にあつた活動がなにかわからなかった
4. 自分がだれかの役に立つことができるのか不安だった
5. 活動のための時間を確保することが難しかった
6. 活動に必要な知識や技術を習得できなかった
7. きっかけがなかった
8. その他(具体的に:)

問3 あなたは、現在どのようにボランティア活動をしていますか。当てはまる番号に1つだけ○をつけてください。

1. ある特定の分野、あるいは特定の機関・団体で、1つの活動を行っている
2. 属している団体・グループや活動先は1か所だが、そこでいろいろな活動をしている
3. 複数の分野、あるいは複数の機関・団体で活動を行っている

問4 これまでのボランティア活動歴についておたずねします。当てはまる番号に1つだけ○をつけてください。

1. 現在行っている活動をずっと続けてきた (→問4付問1へ)
2. 現在行っている活動以外にもこれまでいろいろな活動をしてきた (→問4付問2へ)

問4付問1 これまでにボランティア活動を中断したり、やめたいと思ったことはありますか。当てはまる番号に1つだけ○をつけてください。

1. ある (→問4付問2へ)
2. ない (→問5へ)

問4付問2 これまでにボランティア活動を中断したり、やめたりした(あるいは、やめたいと思った)理由はなんですか。当てはまる番号にすべて○を、主なものに1つ◎をつけてください。

1. 子育て、介護、子どもの勉強等で忙しくなった
2. 家計のために働かなければならなくなった
3. 学校や仕事が忙しくなった
4. 家族の反対にあった
5. 活動に興味をもてなくなった
6. 他に興味がある趣味などを新しく始めたため、活動に時間を割くことができなくなった
7. 期待や要請が大きくなって負担になった
8. メンバー間がうまくいかなくなった
9. 一緒に活動していた友人がやめてしまった
10. 受け入れ体制が悪かった
11. グループや受け入れ先で必要とされていないと思った
12. 自分の活動への期待と他の仲間の期待が食い違った
13. 健康上の理由や体力的な限界を感じた
14. 転勤・転居
15. その他(具体的に: _____)

ここから先の設問には、あなたが現在行っているボランティア活動全体についてお答えください。
これまでいろいろなボランティア活動を経験してきた方については、現在行っている活動についてのみお答えください。

問5 あなたはだれと活動していますか。当てはまる番号にいくつでも○をつけてください。

1. ボランティア活動を行うグループのメンバーとして活動をしている
2. 社協やボランティアを受け入れる施設等の活動に個人として参加している
3. 社協やボランティアを受け入れる施設等の活動に個人として参加しているが、受け入れ側の事情で自動的にグループに所属していることになっている
4. 全くの個人として自分で活動の機会をみつけて活動している（→この選択肢だけに○をつけた方は問6へ）

問5付問1 あなたはどんなふうに活動していますか。当てはまる番号に1つだけ○をつけてください。

1. ローテーションや役割分担として、順番が回ってきた時に活動している
2. 自分のペースで自由に活動している
3. 受入れ先の施設や団体から要請があった都度、活動している

問5付問2 あなたが参加しているプログラムを実施している施設や機関とはどこですか。当てはまる番号にすべて○をつけてください。

- | | |
|----------------|-------------------------|
| 1. 病院 | 2. 福祉施設（→問5付問3へ） |
| 3. 社会福祉協議会 | 4. 福祉団体（作業所、親の会、介護NPO等） |
| 5. 学校 | 6. 公民館 |
| 7. 図書館・博物館 | 8. スポーツ施設・団体 |
| 9. その他のNPO・NGO | 10. 行政 |
| 11. その他 | |

（→ 選択肢3「福祉施設」に○をつけなかった方は問6へ）

問5付問3 【福祉施設のプログラムに参加している人のみ】 その福祉施設はどのような施設ですか。
当てはまる番号にすべて○をつけてください。

- | | |
|------------------|------------------|
| 1. 障害者を対象とした福祉施設 | 2. 高齢者を対象とした福祉施設 |
| 3. 児童を対象とした福祉施設 | 4. その他 |

問6 あなたが現在行っているボランティア活動の内容について、当てはまる番号にいくつでも○をつけてください。そのなかで主な活動内容には1つだけ◎をつけてください。

1. 人に対して直接サービスを提供している (→問6付問1へ)
 2. 人との交流を行っている (→問6付問1へ)
 3. 社会的に不利な立場におかれた人々への支援活動 (→問6付問1へ)
 4. 特定の人を対象とするよりは、テーマにそった活動を行っている
→ そのテーマについて、当てはまる番号に1つだけ○をつけてください。
(→選択肢4にだけ○をつけた方は問7へ)
- | | |
|------------------|--------------|
| a. 伝統文化の継承や芸術の普及 | b. 環境保全・自然保護 |
| c. 国際的な支援活動 | d. まちづくり |
| e. 防災・災害・安全 | f. その他 |

問6付問1 【「人に対して直接サービスを提供している」「人との交流を行っている」「社会的に不利な立場におかれた人々への支援活動」と答えた方】 活動の対象はだれですか。主な活動の対象に1つだけ◎を、その他の活動の対象に○をいくつでもつけてください。

- | | | |
|---------------------|-----------------|----------|
| 1. 高齢者や介護者 | 2. 障害児・障害者やその家族 | 3. 子ども |
| 4. 子育て中の人 | 5. 在日外国人・留学生 | 6. ホームレス |
| 7. 難病患者やその家族 | 8. 海外の人々 | 9. その他 |
| 10. 活動の対象は特に限定していない | | |

問6付問2 あなたが行っている具体的な活動について当てはまる番号にいくつでも○をつけてください。そのうちの主なものに1つだけ◎をつけてください。

1. 身近や外出介助等の直接ケアをする活動
2. 手話・点訳・朗読等のコミュニケーションの支援
3. 話相手になる、一緒に遊ぶ、劇を見せる等の交流、遊び、レクリエーション活動
4. スポーツ、趣味、学習活動への支援・指導
5. 草むしり、作業、大工、運転等の労力や、調理、買い物代行等の生活技術を提供する活動
6. 団体・グループの運営、イベントや事業等の企画
7. 情報整理・発信や調査等の活動
8. 団体・グループの事務の担当・手伝い
9. 資金調達の担当・手伝い
10. その他(具体的に: _____)

問7 あなたが現在行っているボランティア活動に参加した理由はなんですか。当てはまる番号にすべて○をつけてください。

- | | |
|-----------------------------------|-----------------------|
| 1. 何か楽しいことをしたかった | 2. 今までの生活とは違うことをしたかった |
| 3. 暇だったから | 4. 地域や社会を知りたかった |
| 5. 困っている人を助けたいと思った | 6. 仲間づくりがしたかった |
| 7. 友達や仲間から誘われた | |
| 8. 社会やお世話になったことに対する恩返しをしたかった | |
| 9. 現在行っている活動に関係することで、個人的な強い経験があった | |
| 10. 自分の知識や技術を活かす機会がほしかった | 11. 生きがいになるものがほしかった |
| 12. 自分の人格形成や成長につながることをしたかった | |
| 13. 特に理由はなく、なんとなく始めていた | |
| 14. その他(具体的に: |) |

問8 あなたはいつボランティア活動をしていますか。当てはまる時間帯にすべて○を、主な時間帯には1つだけ◎をつけてください。

- | |
|--|
| 1. 平日に活動している |
| → どの時間帯ですか。当てはまる番号にすべて○を、主なものに◎をつけてください。 |
| 1. 午前中 2. 日中 3. 夕方 4. 夜間 |
| 2. 土日祝日に活動している |
| → どの時間帯ですか。当てはまる番号にすべて○を、主なものに◎をつけてください。 |
| 1. 午前中 2. 日中 3. 夕方 4. 夜間 |
| 3. 平日・土日祝日を特に関係なく日頃活動している |
| → どの時間帯ですか。当てはまる番号にすべて○を、主なものに◎をつけてください。 |
| 1. 午前中 2. 日中 3. 夕方 4. 夜間 |
| 4. まとまった休暇や年に特定の期間に活動している |
| 5. 特に活動の時間帯は決めていない |

問9 あなたのボランティア活動の場所について、当てはまる番号にすべて○をつけてください。

- | |
|-------------------------------------|
| 1. 自宅で活動している |
| 2. 個人宅を訪問して活動している |
| 3. どこか公共的な場所(施設、機関、公園等)に集って活動をしている |
| 4. 個人宅への訪問と、公共的な場所に集まっての活動の両方を行っている |
| 5. インターネット上での活動をしている |
| 6. その他 |

問10 あなたの自宅からボランティア活動の活動場所まではどのくらいの距離にありますか。当てはまる番号にすべて○をつけてください。

1. 自宅の周辺、あるいは、徒歩や自転車で行けるところ
2. 徒歩や自転車で行ける距離であるが、あなたの近所に住んでいる人々の日常生活範囲ではないところ
3. 車やバス、電車に乗っていくところ
4. 通学・通勤途上のところ、あるいは、学校や職場の近く

問11 あなたはボランティアセンターをどのように利用していますか。当てはまる番号に1つだけ○をつけてください。

1. よくボランティア・コーディネーターと話をしたり、相談したりしている
2. 月に1回以上はボランティアセンターに行っている
3. 年に数回程度、ときどきボランティアセンターに行っている
4. 情報誌をみている程度であり、あまりボランティアセンターに行くことはない
5. 自分で行ったことやボランティア・コーディネーターと話をしたことはない

問12 あなたは、1ヶ月に何時間くらいのボランティア活動をしていますか。実際に活動している時間や、団体運営等の定例会や打ち合わせの時間、活動のための研修の時間などのボランティア活動に関するすべての時間を含めておおよその時間をお答えください。

1ヶ月におよそ 時間

問13 あなたはボランティア活動に関して、どれくらいのお金を使っていますか。

(1) 交通費や食費などの日頃の活動に要する支出(1か月間のおおよその支出額)

00円 (百円単位)

(2) 研修、制服や備品の購入などのまとまった大きな支出(1年間のおおよその支出額)

, 000円 (千円単位)

問14 ボランティア活動を行うにあたって、なにか困っていることはありますか。当てはまる番号に1つだけ○をつけてください。

1. 困っていることがある (→問14付問1へ)
2. 困っていることはない (→問15へ)

問14付問1【なにか困っていることがあると答えた方】それはどのようなことですか。当てはまる番号にすべて○をつけてください。(→下記の選択肢1に○をつけなかった方は問15へ)

1. 受け入れ体制が悪い (→この選択肢に○をつけた方は問14付問2へ)
2. 能力以上のことを求められる
3. 活動に求められる知識や技術が不足している
4. 活動に関する相談やアドバイスをしてくれる人がいない
5. 活動と仕事、家事、学校等との時間調整が難しい
6. メンバー間やリーダーとの人間関係がうまくいかない
7. 受け入れ先の職員との人間関係がうまくいかない
8. 感謝されていない・必要とされていないと感じている
9. 活動に飽きてしまった
10. いつまで続けたらよいのかわからない
11. 本当はやめたいが義理や人間関係のしがらみがあるために、やめるにやめられない
12. 活動の意味や成果を確認する機会や場がない
13. 近所の人、同じ学校の人、職場の同僚・上司などにあまり知られないように苦勞する
14. 活動中の事故が心配である
15. その他(具体的に: _____)

問14付問2【受け入れ体制が悪いと答えた人のみ】それは具体的にどのようなことですか。当てはまる番号にすべて○をつけてください。

1. ボランティアの受け入れ担当者が決まっていない
2. 最初のオリエンテーションや導入の説明がない
3. 当初の約束と違ったことを依頼してくる
4. 受け入れ施設や機関の職員が各々ばらばらなことを依頼してくる
5. ボランティア活動をしに行っても、何をしたらよいかわからない
6. 受け入れ施設や機関の人間関係がよくない
7. 気付いたことや改善したほうがよいことを聞いてもらう場がない
8. 利用者との交流の機会がない
9. 職員との交流の機会がない
10. その他(具体的に: _____)

問15 あなたの今後の活動予定について、当てはまる番号に1つだけ○をつけてください。

1. 現在の活動を続けていく
2. 現在の活動回数を増やしてい
3. 活動の範囲を広げていきたい
4. 現在の活動をやめて、別の新しい活動に取り組む
5. 活動を一時休止したい
6. 活動をやめたい
7. その他(具体的に: _____)
8. わからない

問16 ボランティア活動を通じて得たことや、活動をしていてよかったことはありますか。当てはまる番号に1つだけ○をつけてください。

- | | |
|------------------|---------------|
| 1. ある (→問16付問1へ) | 2. ない (→問17へ) |
|------------------|---------------|

問16付問1 【ボランティア活動を通じて得たことやよかったことがある方】 それはなんですか。当てはまる番号にすべて○をつけてください。

- | |
|--|
| <ol style="list-style-type: none">1. 活動自体が楽しい2. 新しい自分を発見できた3. 新しい知識や技術を習得することができた4. 自分の人格形成や成長にプラスになっている5. 生きがいを得ることができた6. 社会に対する見方が広がった7. 多くの仲間ができた8. 地域社会とのつながりをつくることができた9. 自分の住んでいる町に愛着を感じるようになった10. 家族や友人等身近な人から評価された11. 学校・職場や公的機関から評価された12. 自分が社会や他の人に役立っていることを実感できた13. 息抜きやストレス解消になっている14. 心身ともに健康であり続けることができている15. その他(具体的に: |
|--|

問17 あなたがより充実したボランティア活動をしていくために、どのような社会的な支援や環境整備を望みますか。当てはまる番号にすべて○をつけてください。

- | |
|---|
| <ol style="list-style-type: none">1. 活動の経験が社会的な資格取得につながること2. 活動の経験が、進学・就職時に評価されること3. 活動に必要な知識や技術を研修できる機会があること4. 活動に関して気軽に相談できる窓口が整備されていること5. 活動者同士の交流機会6. 活動の機会やボランティア団体・グループに関する様々な情報紹介7. ボランティア・コーディネーター等の受け入れ体制側の能力の向上8. ボランティア休暇等の制度の創設・拡大9. 活動や研修に必要な経費の援助10. 活動に対する社会的な理解11. その他(具体的に:)12. 特にない |
|---|

本調査は、厚生労働省からの委託事業として実施したものです。

全国ボランティア活動者実態調査

平成 14 年8月発行

(発行) 社会福祉法人 全国社会福祉協議会

(編集) 全国ボランティア活動振興センター

〒100-8980 東京都千代田区霞が関 3-3-2 新霞が関ビル

TEL 03-3581-4656 FAX 03-3581-7858

(調査協力) 株式会社日本総合研究所

